

海外果樹農業情報 No.160

2023-2

海外の果樹産業ニュース

2023 年度上期版

2023 年 7 月

公益財団法人 中央果実協会

[JAPAN FRUIT ASSOCIATION]

本書の内容について、ご質問やお気づきの点がありましたら、
下記あてにご連絡下さるようお願いいたします。

公益財団法人 中央果実協会 情報部

〒100-0011 千代田区内幸町 1-2-1 日土地内幸町ビル 2 階

【電 話】 03-6910-2922 (代)

【F A X】 03-6910-2923

序 文

果樹農業を取り巻く国際化の進展に伴い、我が国の果樹産業は外国産果実及びその加工品等との競争が激化しており、一方で果実の輸出促進の努力が行われています。

このような我が国の果樹産業を取り巻く環境の変化に対応した関係機関・団体等からの海外果樹関係の情報ニーズの高まりを踏まえ、当協会では農林水産省補助事業「果樹農業生産力増強総合対策」における調査研究等事業の一環として、海外における果実及びその加工品等の生産・流通事情等に関する情報の収集・提供を行うことにより、我が国果樹産業の振興・活性化並びに果実の需給と価格の安定及び輸出の振興に資することとしています。

具体的には、特定のテーマを対象とした調査報告書及び果樹全般についてのFAO(国連食糧農業機関)の生産貿易統計データ等を元とした報告書を取りまとめて刊行するほか、海外の果樹産業を扱う雑誌、新聞、ウェブサイトから我が国果樹産業に密接に関係する記事や公表資料を翻訳し関係者に提供しています。

この度は2023年3月から6月に翻訳・提供したニュースを取りまとめ刊行することといたしました。また、本書は当協会ウェブサイトにもカラー版を掲載しています。

本書が最近の世界の果樹産業事情を理解する上で少しでもお役に立てば幸いです。

なお、本書の翻訳責任は当協会にあることを申し添えます。

2023年7月

公益財団法人 中央果実協会

理事長 村上 秀徳

目 次

1. カンボジア 増加する日本の農産物輸入に期待	1
2. ペルー チリを抜いて南米でトップのブドウ輸出国に	2
3. ヨーロッパ 果実と野菜の消費量は依然として推奨を下回る	3
4. イスラエル オリマンダリンが好調	4
5. ペルー プラスチックフィルムの利用で豪雨の後でもブドウを収穫	5
6. ペルー 柑橘類の出荷量が2025年から減少する可能性 (関連記事) ペルー 2023年の柑橘類輸出は4%増加	7
7. イラン 輸出業者はUAE等湾岸諸国の支払い条件に不満	8
8. EU 農産物市場短期見通し-2023年春(リンゴ、オレンジ)	9
9. 南アフリカ 港湾の問題で果実輸出が停滞 栽培にも影響	11
10. 台湾 作物の違法輸出に刑罰を科す法案を閣議決定	11
11. 南アフリカ 防雹ネットで果樹園を守る	12
12. 南アフリカ 柑橘類産業は今シーズンに期待	14
13. ペルー 北部の大雨でブドウとマンゴーの生産者が懸念	15
14. 米国 リンゴの統計は減少を示す	16
15. ブラジル オレンジ果汁巨大企業の価格操作で訴訟	16
16. インド 今シーズン初のマンゴーを日米に輸出	17
17. 南アフリカ 今シーズンのアボカド輸出は23%増加へ	17
18. 米国 オレンジの出荷量が86年ぶりの低水準となる見込み (関連記事) 米国 柑橘類予測出荷量	18
19. チリ 果実輸出は近年横ばいだがアジア等にシフト	20
20. 米国 カリフォルニア州のサクランボは出荷開始が遅延	24
21. 南アフリカ産グレープフルーツ 日本市場は品薄だが低調	24
22. 世界的な果実貿易の危機 - 輸出減少の原因を分析	25
23. 世界のオレンジ果汁は供給逼迫を背景に高値が続く	27
24. トルコ 早生のアンズ、モモ等は増収	28
25. 北米から見た柑橘類輸出国の現状	29
26. ニュージーランド 多雨により赤肉系キウイ品種が小玉化	30
27. ペルー スイートグローブが最多の輸出ブドウ品種に	30
28. 南アフリカ 今年の柑橘類は量より価値を最大化	31
29. 世界の海上コンテナ運賃総合指数は4%上昇	31
30. エジプトの柑橘類輸出 (1)エジプトは北半球で最大の東南アジア向けオレンジ輸出国 (2)エジプトの柑橘類の輸出量が200万トンに近づく	32
31. 米国カリフォルニア州 生食用ブドウとサクランボの見通し	35
32. チリ 早生リンゴは価格が良い	36
33. 米国カリフォルニア州 核果類の出荷も遅いスタート	36
34. 米国 柑橘類の世界的リーダーシップの低下を農業団体が警告	37
35. フィリピン RCEP批准書を寄託 6月に発効	39
36. 台湾 輸入冷凍ベリーにA型肝炎ウイルス	39
37. オーストラリアの生食用ブドウ	40
38. 世界のオレンジ市場	43
39. 北米 生食用ブドウ今年春夏の見通し	47
40. 台湾 輸入ブルーベリーもA型肝炎検査で陽性	47
41. 南アフリカ産柑橘類 収穫量が多いが課題も多い	48
42. メキシコ ハリスコ州のアボカド輸出の半分は米国向けに	49

43. 柑橘類の北半球から南半球への移行は順調か.....	50
44. ニュージーランド キウイフルーツの出荷量が急減.....	51
45. トルコ 低温のためサクランボの収穫に遅れ.....	52
46. 米国 生鮮リンゴの輸出と在庫は引き続き低水準.....	52
47. 世界のアボカド産業 成長の10年.....	53
48. ブラジル 2023-24年度のオレンジ出荷量当初予測.....	55
49. 南アフリカの果実輸出 新しい市場で進展.....	56
50. 米国カリフォルニア州 生食用ブドウの出荷開始は遅れる.....	58
51. トルコ 今年のサクランボは有望.....	58
52. オーストラリア 在来種がカンキツグリーンング病の鍵を握る可能性.....	59
53. オーストラリア TR4抵抗性の遺伝子組み換えバナナを承認申請.....	60
54. 米国 業界は日本の冷凍ブルーベリー関税の撤廃を求める.....	61
55. チリの落葉果実事情(生食用ブドウ、リンゴ).....	62
56. 米国カリフォルニア州 サクランボの遅い出荷が開始.....	68
(関連記事)米国カリフォルニア州 メモリアルデーのサクランボがない.....	68
57. カナダ アジア市場で伸びるリンゴ需要.....	69
58. ニュージーランドの落葉果実事情(リンゴ).....	70
59. 米国 北西部のサクランボ生産者は50%増収を期待.....	75
60. 米国カリフォルニア州 核果類は強い需要で価格が上昇か.....	76
61. エジプト ブドウの出荷が早い.....	77
62. 世界のサクランボ市場.....	78
63. インド 生食用ブドウは新しい品種へ移行.....	80
64. 南アフリカの落葉果実事情(リンゴ、生食用ブドウ).....	81
65. 米国北西部 サクランボの出荷が暖かい天候で加速.....	89
66. チリ 日本のリンゴ市場開放が関心事項.....	90
67. ペルー産マンダリン 米国では需要が高まり、欧州では価格が上昇.....	91
68. トルコ サクランボの需要は昨年より好調.....	92
69. オーストラリア 西オーストラリア州の柑橘類の出荷が始まる.....	93
70. 南アフリカ 2023年産柑橘類の詳細見通し.....	94
71. 米国カリフォルニア州 核果類の出荷は遅いが品質は良い.....	95
72. 海運大手2社が太平洋航路から東京を除外.....	95
73. トルコ モモとネクタリンに目を向ける生産者が増加.....	96
74. 研究成果 フラボノールが豊富な果実と野菜は記憶力の低下を防ぐ.....	96
75. 中国 栽培されている青果物の量は驚異的.....	97
76. ベトナム ライチとリュウガンの海外市場拡大を目指す.....	97
77. チリの柑橘類事情(レモン).....	98
78. メキシコ ソノラ州のブドウが不作で米国の小売りが品不足.....	101
79. 米国 ワシントン州産サクランボは量が豊富.....	102
80. カナダ サクランボは堅調な輸出が見込まれる.....	103
81. メキシコ ソノラ州のブドウ出荷は開始が遅れた後に回復.....	104
82. ヨーロッパ 農業者団体は包装・農薬規制の根本的な変更を要求.....	105
83. ニュージーランド 2022/23年度はキウイ生産者に厳しい結果.....	106
84. 米国 セントラルバレーで核果類の収穫が本格化.....	106
85. チリ 最初の種なしマンダリン品種は米国市場を目指す.....	107
86. 世界のオレンジ果汁価格 ブラジルの収穫期が始まり下落.....	107
87. 米国 北西部のサクランボは遅いが待つに値する.....	108
88. エジプト 今シーズンの柑橘類の価格は持ちこたえた.....	109
89. トルコ 核果類の生産量の増加と堅調な需要.....	109

90. 米国 フロリダ州の柑橘類は減収でシーズン終了へ.....	110
(関連記事) 米国 柑橘類予測出荷量.....	111
91. 世界の落葉果実事情と市場動向(リンゴ、ブドウ、ナシ).....	112
92. ニュージーランド ルビーレッド・キウイの輸出が3倍に増加.....	119
93. トルコ サクランボは悪天候の影響を受けていないが高値.....	119
94. EUの柑橘類事情(オレンジ、オレンジ果汁).....	120
95. 世界のモモ・ネクタリン市場.....	127
96. モロッコの柑橘類事情(タンジェリン/マンダリン、オレンジほか).....	129
97. ペルーの柑橘類事情(マンダリン/タンジェリン).....	133
98. トルコの柑橘類事情(オレンジ、タンジェリン/マンダリン、オレンジ果汁).....	139
99. ニュージーランド 2023年のキウイフルーツは生産者の失望で終了.....	147
100. 中国 世界のリンゴ輸出国首位の座を失う.....	148
101. ベトナム オーストラリア産タンジェリンが中国産との競争で半値に.....	148
102. 米国 北西部のサクランボの収穫が始まる.....	149
103. エジプト 法的な混乱に巻き込まれたブドウ生産者.....	149
104. 海運会社が太平洋のコンテナ路線から撤退.....	150
105. チリ 雨の被害はこの30年で最悪.....	151
106. ベトナム産ライチ 米国と日本に輸出され高値で販売.....	152
107. オーストラリア 雨が柑橘類の収穫を妨げる.....	153
108. オーストラリア ブドウのシーズンは良い結果で終了.....	153
109. 南半球の生食用ブドウが引き続き輸出をリード.....	154
110. トルコ サクランボ価格の下落傾向が予想される.....	154
111. 南アフリカの柑橘類事情(オレンジ、グレープフルーツほか).....	155
(令和4年度3月分).....	166
219. オーストラリア 園芸作物輸出は出荷額の増加に伴い回復.....	166
220. 世界の洋ナシ市場.....	167
221. NZホークスベイ地方 リンゴ園のサイクロン被害は約4千ヘクタール.....	171
222. オーストラリア 国内外の堅調なブドウ市場に期待.....	171
223. 米国 オレンジ果汁価格は需給関係から強気筋に有利.....	172
(参考記事)米国 フロリダ州の柑橘類予測(抜粋).....	172
224. 世界の海上コンテナ輸送費は正常化の方向.....	173
(1)ドリュエリー社の世界コンテナ総合指数は前週比3%、前年比80%低下.....	173
(2)ゼネタ社のコンテナ運賃アラートのデータは正常化へ.....	173
225. ペルー ブルーベリーがまた新記録.....	174
226. 南アフリカ ブドウの出荷が終了間近.....	174
227. FAO 世界の2022年の熱帯果実輸出量は5%減少.....	175
228. OECD/FAO 2030年までにアボカドが出荷量最多の果実に.....	175
229. 南部アフリカ諸国の2023年の柑橘類輸出は大幅に減少か.....	176
230. 南アフリカ アジアのバイヤーに人気のグラニースミス.....	177
231. ペルー 大雨と洪水で果実の輸出に遅れ.....	179
232. 中国 現代的なマンダリン産業で農家の生計向上を推進.....	180
233. ニュージーランド サイクロン後のリンゴ作柄見通し.....	181
234. エジプト 柑橘類の大きな課題.....	181
235. 南アフリカ 政府が柑橘類セクターを支援.....	182
236. NZ産キウイフルーツ 今年最初のチャーター船が日本に向け出港.....	183
237. 中国 無人機防除技術で果樹園の運営が大幅に改善.....	184
238. カナダ B.C.州産リンゴは収穫量が少なく価格がやや上昇.....	185

239. ペルー 日本へのブドウ輸出が始まる.....	185
240. 米国 カリフォルニア州はアジア向けブドウ輸出を再開できるか.....	186
241. チリ リンゴの出荷シーズンが順調 ふじの新クローンが商品化へ.....	187
242. 世界のアボカド市場.....	188
243. 中国 重慶からシンガポール向けネーブルオレンジを初空輸.....	193
244. 南アフリカ ブドウの出荷が終わりに近づく.....	194
245. インド ブドウの欧州向け出荷量が予想を下回る.....	194
246. 南半球のリンゴと洋ナシの収穫予測は悪天候を受けて下方修正.....	195
247. ペルー アジア向け生食用ブドウ輸出が減少.....	196
248. ニューージーランド 国際市場に向かう今シーズンのリンゴ.....	197
249. トルコ サクランボの収穫は少し早く始まる予想.....	197
250. 米国 カリフォルニア州のサクランボ収穫の開始に遅れ.....	198
251. 南アフリカ 降雹がリンゴと洋ナシに打撃.....	199
252. 米国カリフォルニア州 ブドウ輸出プロモーションは小売重視.....	201
253. 米国ワシントン州 リンゴ輸出減少で戦略委員会を設置.....	201

(ご利用上の留意事項)

- 記事の出典はすべて各媒体の電子版です。
- 文中の「フォントの小さいカッコ書き」及び「フォントの小さいですます体」は訳者による注記です。
- pdf版のリンクは、原文記事掲載時のものです。

1. カンボジア 増加する日本の農産物輸入に期待

プノンペンポスト 2023年4月2日

著名な食品加工企業であるリリ(Ly Ly)食品産業のケオ・モム会長によると、日本の農産物輸入の急増とカンボジア産果実への関心の高まりは、カンボジア国内の関係者に対し、その良好な生育条件を活用して多様な作物を生産し、日本市場の一部を獲得する大きな機会を提供する。

米国農務省の報告書は、日本が昨年702億ドルの農産物を輸入し、そのうち21%近くに当たる146億ドルが米国からの輸入であり、2019年に比べて16.4%増加し、さらに「2011年と2012年の記録的な農産物輸入の水準を上回った」としている。

同会長は4月2日日本紙に対し、カンボジア産の果実と野菜は一般的に品質、味、香りが良いため、加工能力の増強は、特に高品質の加工品の需要が活況を呈している日本の大市場への輸出を可能にするだろうと語り、候補としてリュウガンを示唆するとともに、「今後、カンボジアから日本にドライフルーツを輸出する機会が増えると予想している」と述べた。

リュウガンは、学名の *Dimocarpus longan* でも知られているが、アジア原産の熱帯常緑樹で、ライチやランブータンと同じムクロジ科に属し、果肉の白い食用の実をつける。

ベトナムの国営報道機関ベトナムプラスは今年、ベトナム産リュウガンはその値札が13.50ドル/kgという高額であっても、日本市場ではかなり売れ足が速く、ベトナムの生産者に大きな機会を提供していると指摘し、ベトナム果実野菜協会(VinaFruit)のダン・プク・グエン事務局長の発言を引用して、ドラゴンフルーツ、マンゴー、ライチ、リュウガンの4つのベトナム産生鮮果実が、公式チャンネルを通じて日本に輸出できると伝えた。

一方、カンボジア商務省は3月31日、日本アセアンセンター(AJC)と共同で、カンボジア産のドライフルーツやその他の日本市場向け農産物に関するワークショップを対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。同省の発表によると、このイベントには商務省、日本貿易振興機構(JETRO)及び農産物加工部門の業者の代表が参加し、ワークショップの開会式で、商務省のカオ・コサル貿易促進総局長は、同省がカンボジア産のドライフルーツと農産物の日本向け輸出を促進するために取り組んでいると述べた。

同局長は、両国の政府と民間セクターの良好な協力に支えられて、自動車部品、農業関連機器、食品加工、ホテルと観光、病院、小売などの分野で、日本の多数の投資プロジェクトがカンボジアで現在進行中であるとして、「このワークショップは、パンデミック後の経済回復の一環として、知識と経験を共有し、カンボジア産のドライフルーツと農産物の日本への輸出を促進することを目的としている」と述べたと報じられている。

閉会式で、AJCの平林国彦事務総長は、カンボジアの農村景観の豊かさを振り返り、特にマンゴー、カシューナッツ、コショウの「優れた味と独特の香り」に大きな可能性を感じると述べた。商務省の発表によると、同事務総長は、カンボジアは繊維、建設、観光の分野で急速に発展しており、特に農業については持続可能性、繁栄、健康、安全、品質に重点を置いていると述べた。

税関(GDCE)統計の暫定値によると、日本は2022年にカンボジアの6番目に大きな貿易相手国であり、双方向の商品貿易は19億4,800万ドルで、2021年に比べて12.33%増加したが、過去最高であった2019年の20億1,900万ドルからは3.51%減少した。

カンボジアの対日輸出は前年比7.26%増の11億7,300万ドル、対日輸入は21.0%増の7億7,498万9千ドルで、カンボジアの対日貿易黒字は2021年の4億5,311万6千ドルから12.15%縮小して3億9,804万1千ドルとなった。

日本はカンボジアにとって、米国、ベトナム、中国本土に次ぐ第4位の輸出先であり、中国本土、ベトナム、タイ、シンガポール、スイス、台湾、インドネシアに次ぐ第8位の輸入先であった。

執筆者: ヒン・ピセイ

2. ペルー チリを抜いて南米でトップのブドウ輸出国に

FreshPlaza 2023年4月3日

ペルー産のブドウのシーズンが終わりに近づいている。ヴァンガードインターナショナル (Vanguard International) 社のディルク・ウィンケルマン氏は、「イカ県にある弊社の農場では約3週間前に収穫を完了した」と言う。収穫期間が終了しても、販売シーズンはさらに数か月間続く。同氏は「今後数週間にわたって引き続き北米とアジアに弊社の荷が到着する」と付け加えた。(以下「」は同氏の発言)

今シーズンの総出荷量は7千万箱強であった。「7,300万箱の収穫が予想されていたので、それをわずかに下回っている。」しかし、昨年と比較するとペルーの出荷量は9～10%増加した。当初の予測からの減少は、主に悪天候とストライキによる果実の損失によるものである。繰り返しのストライキはペルーのアグリビジネス部門に悪影響を及ぼした。「それは業界のあらゆる分野—資材から労働、農作業、物流、積み込みのスケジュール、市場への輸送時間まで—でドミノ効果を生み出した。ペルーでストライキが起こった時、北部のピウラ県は基本的に収穫を完了しており、イカ県が最も大きな影響を受けることとなった。」

ペルー対チリ

ヴァンガード・ペルー社の自社農場の出荷量は、全国的な増加と一致している。「昨年に比べて出荷量が12～13%増加しており、これは弊社の予想と一致している。弊社が近年植えた木が成木化し、その結果増産に結び付いた。」2022-23年度は、南米でトップのブドウ輸出国としての地位をペルーが初めてチリから奪い取ったため、ペルーの生食用ブドウ産業にとって大きな節目となる。「ペルーは積極的に新しい品種を植えており、それがペルーの主な差別化要因となっている。ペルーの新植園地は成園化し始めているが、チリでは従来からの品種が量を減らしており、同国はさまざまな理由で新しい品種への切り替えが遅れている。チリでは、すべての新品種は強制的な検疫プログラムに登録する必要がある。このため、ペルーの産地と比較して、知的所有権のある新しい品種の増加により長い時間がかかる。」

大多数が新品種

ペルーのブドウ品種の構成を詳しく見ると、新しい品種が総出荷量の約68%を占めている。この国は新品種を植え、他のほとんどの国より早く生産段階に達する能力を常に持っており、また新品種の導入に積極的に取り組んできた。「全体的にペルーは新品種の総生産量で主導権を握っている。」ウィンケルマン氏はまずは緑色ブドウにおける力強い動きを見ており、次に赤ブドウ、そして黒ブドウが続く。主な緑色品種は、アイボリー™、スイートグローブ™、オータムクリスプ®等で、赤ブドウ品種ではアリソン™、スウィートセレブレーション™、ジャックスサルート™が最も多い。黒ブドウについては、主な品種はスウィートフェイバーズ™とミッドナイトビューティー®である。

世界への輸出

ヴァンガード・ペルー社の生食用ブドウは世界中に出荷されている。「弊社のブドウの大部分が米国、カナダ、メキシコに出荷され、北米で確固たる地位を確立している。またアジア、中でも中国、韓国、台湾、タイ、ベトナムに出荷している。」さらに、同社は中南米諸国や英国でも同様の快適で安定した顧客向けサービスを提供している。「弊社はヨーロッパ市場にも進出しており、この収穫期が終わったら、ヨーロッパ大陸での販売プログラムの拡大に力を入れる。また、新しい検疫手続きにより来シーズンの日本への出荷が可能になることにも期待している。弊社の新品種への取組みと新品種による成功は、業界のリーダーとしての競争上の優位性に大いに貢献している。」

執筆者: マリーケ・ヘムズ

3. ヨーロッパ 果実と野菜の消費量は依然として推奨を下回る

FreshFruitProtal 2023年4月4日

世界保健機関(WHO)は、果実と野菜を一人1日当たり400グラム以上消費することを推奨している。フレッシュフェル・ヨーロッパ(欧州の青果物団体 Freshfel Europe)が発表した最新の消費モニターレポートは、EUにおける果実と野菜の平均消費量が2021年には一人1日当たり364.6グラムに増加したものの、ウクライナでの戦争によって引き起こされた経済危機によりすでにその数字が抑制されていることを明らかにした。

このレポートは、EU統計局(EUROSTAT)とFAO統計(FAOSTAT)の公式統計に基づいて、EU27か国全体と各加盟国の消費動向の比較を示している。

過去20年間、同団体の消費モニターは、ヨーロッパにおける生鮮果実・野菜の生産、販売、消費の傾向を評価してきた。今年、20周年を機に外観と構成が刷新されたこのレポートは、ヨーロッパの業界の動向と青果物にかかる毎日の食事の変化の両方を扱っている。

今年の最新版は、EUにおける果実と野菜の平均消費量が2021年に364.58グラム/日/人となり、前年比で2.19%増、過去5年間の平均と比べて1.27%増となったことを示している。しかし、これはまだWHOが推奨する最低400グラム/日/人をほぼ10%下回っている。

2021年には、EU27か国の青果物市場の規模は7,400万トンに達した。この伸びは、コロナ禍で2020年に始まった前向きな傾向と一致する。多くのヨーロッパ人が果実や野菜の健康上の利点を考慮して、食生活を変えた。

しかし、2022年にウクライナでの戦争が勃発した後の経済危機が、消費者の購買力に深刻な影響を与え食料支出を制限していることから、ヨーロッパでは果実と野菜の消費が圧迫されている。

フレッシュフェル・ヨーロッパのフリリップ・ビナール総代表は、「消費者は危機の時、エネルギー面で満足できると思われ、果実や野菜よりも安価な食品を選択肢し、健康的でない食事に移行する傾向がある。2022年から2023年初頭にかけての傾向は、多くの場合で消費が10%以上減少したため、パンデミック後の消費の伸びが失われたことを示している。今年の消費モニターレポートにまだ組み込まれていないこれら最新の状況の変化は、今後のレポートで取り上げる」と述べた。

同団体は、果実・野菜セクターは、地球、気候、及び消費者自身の健康に対する生鮮果実・野菜の利点に基づいて、消費増加の勢いを維持するべきだと考えている。

フレッシュフェルは将来を見据え、2019年のEU統計局の調査によると、EUの消費者の33%が毎日の果実と野菜の消費がゼロであり、さらに55%が推奨されている1日当たり5単位の摂取量に達していないことも懸念している。

さらに、最も消費量が少ないのは若年層と低所得世帯である。ビナール氏は、これは憂慮すべき事態であるとし、「若い世代は将来の消費者であり、生鮮果実・野菜の多様性と品質を若者に教育し、紹介するためにより多くの努力を払わなければならない」と述べた。

同団体のサルボ・ラウダニ会長は、「果実と野菜は高価だという誤解に対抗する必要がある。このセクターが、手頃な価格で栄養価の高い健康的な青果物を提供し、消費者を植物性主体の食生活に向かわせるため、持続可能な食料システムの枠組みで運営されていることを訴えるメッセージを強化する必要がある」と述べた。

ヨーロッパの消費者の毎日の食事に果実や野菜を1品追加することで、消費量を増やし、推奨される400グラム/日/人を達成すると、ヨーロッパの市場規模はほぼ20%または1,500万トン押し上げられる。消費者にとっては、最低限の推奨値に達する健康的な食事は依然として手頃な価格であり、1日2ユーロ未満で達成できる。

4. イスラエル オリマンダリンが好調

FreshPlaza 2023年4月4日

オリマンダリンはグレープフルーツやオレンジに比べて好調

プラネット・イスラエル(Planet Israel)社のベツァレル・オハナ輸出部長は、今シーズンはオリマンダリン(Ori Mandarin)がかなり好調だと言い、「当初は傾向が様々であったため、不確実な状態でシーズンが始まった。世界中の干ばつと熱波により世界的な柑橘類の不足が予想された一方、経済的な問題により市場が望ましい需要を獲得できるかどうかについて懸念があった。今までのところ、オリマンダリンは、グレープフルーツやオレンジなどの他の果実と異なり大変良好で満足している」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

イスラエルからの柑橘類輸出(2月末まで)

%	2020/21	2021/22	2022/2023	
15%	361	271	312	Orange - Shamuti
545%	60	31	200	Orange - Taburi
960%	8	10	106	Kara Kara
-46%	3,513	3,959	2,141	White Grapefruit
-30%	29,121	30,487	21,288	Sunrise (S/R) Grapefruits
-22%	12,898	13,516	10,603	Sweetie
17%	234	262	306	RedSun
467%	28	3	17	Lemon
0%	1			Limquat
-85%	195	175	27	Qumquat
-100%	12	5		Lime
-25%	1,809	3,154	2,353	Mineola
39%	188	946	1,318	Santina
13%	253	411	464	Michal
%-8	117	264	243	Ora Mandarin
8%	46,693	33,379	36,051	Ori Mandarin
13%	293	313	355	Meirav
50%	740	556	832	Odem
-100%	60	47		Easy Peelers (Other)
-67%	720	1,277	427	White Pomelo
-43%	509	556	319	Red Pomelo
-14%	97,813	89,622	77,362	Total

* Source: Et Hadar - Plants.org.il

同社が有利であった点の1つは、今年は米ドルとユーロに対して現地通貨で受け取った金額が増えたことだとオハナ氏は説明する。「オリの需要は旺盛であったし、シーズン序盤を初めとして価格が大変良かった。為替の観点から「追い風」があった。強い米ドルとユーロに対する国内通貨(新イスラエルシェケル)の安値により、外貨収入に対する国内通貨の金額は多くなった。2月末までのイスラエルからの輸出量は前年比約8%増の約36,000トンであった。まだ十分な需要があり、4月末までオリマンダリンを輸出する。」

同氏は一方、ヨーロッパと米国への輸送費は非常に多くかかると言う。「弊社の主要な市場はフランス、イタリア、オランダ、カナダ、米国である。一般的に、ヨーロッパの卸売価格は2.00ユーロ/kgを超え、北米では2.80米ドルを超えていた。北米への販売は、輸送費が非常に高いため困難であった。カナダのハリファックス港まで海路で送り、ハリファックスからトロントまで列車で陸送した場合、約15,000米ドルかかった。米国のニューヨークに発送するには約12,000米ドルかかった。」

しかし、どんなに費用がかかっても、北米のオリマンダリンの取引先は喜んで支払った。オハナ氏は、それは需要の強さを証明していると言う。「米国への輸出では輸送中に冷却処理を施す必要があり、これはより高い水準の規制とより高い輸送コストを意味する。それでも、市場での堅調な需要のおかげで、市場と取引先はこれらのコストを支払うことをいとわなかった。弊社は1月と2月に、はるかに高い費用をかけてオリマンダリンを空輸でカナダに送った。それは需要の強さを示した。今シーズンは全般的に物流の問題はなかったが、出荷の最盛期には、フランス行きの船に荷を積む隙間を見つけるのに苦労した。ヨーロッパへの輸送コストは、従来よりも約10~20%高く、40フィートの冷蔵コンテナで約3千ユーロであった。」(一部省略しました。)

著者: ニック・ピーターズ

5. ペルー プラスチックフィルムの利用で豪雨の後でもブドウを収穫

ASIAFRUIT 2023年4月5日

230mmの降雨もペルーの生食用ブドウの二期作を止められない

「雲が見えたら裂果する」というのは、古い世代の生食用ブドウ品種に関する格言であった。現在ペルーでは、230mm以上の降雨にもかかわらず、特別に設計されたプラスチックフィルムを使用することで、良好な二期作(二回目の収穫)が可能である。セロプラスト(SerroPlast)社が設計施工したオーダーメイドのプラスチックフィルムはチリでも使われており、ブドウだけでなくブルーベリーやサクランボなど他の主要な輸出作物でも、雨、風、過剰な日射といった最も困難な気象要因を制御するために使用されている。



ペルーとチリを担当する南米セロプラスト社のセバスチャン・エスカローナ製品部長によると、それは単に古いプラスチックフィルムを張って果実を覆うだけではない。(以下「」は同部長の発言)

「ピウラ県の2023年のケースでは、230mm以上の降雨の後、211ヘクタールで輸出用の4,500トンの収穫が始まっている。果実はうまく育っており、裂果や房腐れに関する問題は最小限である。果実の生育を比較するために、一部の限られた面積が被覆なしで残されているが、ここでは損失が85%以上となっている。まずは、この雨の背後にある状況を理解することだ。それは今年の2月に始まったので、晩生のブドウ(イカ県の場合)と二期作(ペルー北部のピウラ県の場合)の場合でのみ問題を引き起こした。どちらも3月から4月にかけて各農場で少量だけ収穫されるものである(収穫の大部分は10月から1月に集中している)。弊社のプラスチックフィルムはペルーで合計1,576ヘクタールをカバーし、そのうち211ヘクタールが晩生品種と二期作に使用され、イカ県の16ヘクタールとピウラ県の195ヘクタールで使用されている。」

ペルーで使用されるプラスチックフィルムは、品質、植物の活力、生産量の向上、収穫の早期化、節水、農薬の削減など、さまざまな目的で使用されているが、降雨からの保護は最も重要な目的の一つである。「12月から4月にかけては、雨のリスクが劇的に高まり、果実の損傷と病害(房腐れやべと病)の可能性が高いために、何らかの保護システムなしにブドウを生産出荷することは非常に困難である。さらに、一部の生産者は「二期作」(10月と4月)を始めており、量と品質を確保するためにプラスチックフィルムの使用は必須である。」



過去数年間、ペルーとチリの生食用ブドウの収穫期に雨が多いというパターンは、生産出荷業者に多くの課題を生み出した。「気候の変動は無視できない現実であり、ビジネスの競争が激化しているため、生産者は毎年の生産を安定させ長期にわたって果実の品質を維持できることが不可欠である。プラスチックフィルムは雨による被害を制御するのに効果的なツールであると確信している。ただし、この技術の使用に着手する前に、品種、システム的设计、地理的立地、及び各場所に特有の気象条件を常に考慮する必要がある。弊社の強みは、様々な気候条件の下での長年の経験と、様々なブドウ産地における品種の特性に関する知識である。」

イタリアにルーツを持つセトプラスト社は、プラスチックフィルムは1シーズン使った後で再利用できるとしている。「何年も使用してみた結果、3シーズン利用することが費用対効果の点でバランスがよいことがわかった。それよりも短い期間でシートを更新すると、費用が生産者にとって高くなりすぎる可能性がある。フィルムを年に数か月(2～3か月)だけ使用して保管するのであれば、4～5年使用できる可能性がある。そのため、格納式のシステム設計は、シートの操作とコストの削減に大いに役立つ。」

「主な問題は、このような平均180mmの雨が降るシナリオでは、問題を解決できる選択肢は多くないことである。これは、プラスチックフィルムが決定的な方法でビジネスを救える分野だ。」

執筆者: クレイトン・スワート

※ この翻訳は技術や産地の状況を紹介するためのものであり、特定の企業や製品を推奨するものではありません。

6. ペルー 柑橘類の出荷量が2025年から減少する可能性

FreshFruitProtal 2023年4月6日

生産コストに直接影響を与えた2020年12月の農業振興法の廃止により、2025年からペルーの柑橘類の出荷量が減少する可能性があるという情報サイトの[アグラリア](#)が報じている。

ペルー柑橘類生産者協会(ProCitrus)のセルジオ・デル・カステージョ事務局長は、柑橘類業界は2023年に約27万トンを出荷する見込みだと言う。この数量は、マンダリン、オレンジ、タンジェロ、グレープフルーツ、レモン等の合計であり、同事務局長は「2022年に出荷された26万4,140トンと比較して2.2%の微増である」と述べた。

同事務局長は一方、業界では早生のマンダリン、オレンジ、タンジェロの減少が見られると述べ、「物流コストや生産コストの増加などの近年の危機により、事業者らは拡大計画を保留している。なぜなら、2020年以前と比べ、もはや同じ作物に同じ期待を持ってないからだ」と語った。

法律の廃止についてカステージョ事務局長は、柑橘類が「間違いなく、ゲームのルール変更によって成長を予測できないほど大きな影響を受けた作物である」と説明した。同事務局長によると、柑橘類セクターへの投資は2021年に停止され、現在、柑橘類の新植は事実上行われていない。

同事務局長はさらに、現在出荷が停止しており、一部の生産者は、とりわけウンシュウミカン、ミネオラ、ダンシー、マルバセア、マーコット等の古い果樹園を伐根することを決定したと述べた。

カステージョ事務局長は、「伐根された柑橘類の園地が今後改植されないのであれば、ペルーの柑橘類の供給は減少する。2023年から2025年までは現在の慣性力が維持されるだろうが、3年後にはこれがペルーの柑橘類にどのように影響したかを目にすることになる」と述べた。

(関連記事) ペルー 2023年の柑橘類輸出は4%増加

FreshFruitProtal 2023年3月9日

ペルー柑橘類生産者協会(ProCitrus)の報告によると、ペルーは2023年中に最大27万トンの柑橘類(オレンジ、マンダリン、ライム、レモン、グレープフルーツ)を輸出する。今シーズンの収穫の開始が遅れたにもかかわらず、これは25万9千トンを出した2022年と比較して4%の増加となる。(原文のまま)

同協会のセルジオ・デル・カステージョ事務局長は、「早生品種の出荷は少し遅れており、出荷シーズンの最初のピークは4月末から5月と予想される。サビダニなどの害虫の存在は通常のことなので、園地ではクラドスポリウム(黒カビ)菌のは場中及び果実中の存在量を減らすための防除が行なわれている」と述べた。

輸出は8月まで続くが、1回目の開花による果実の出荷は急激な減少で始まったため、2回目と3回目の開花による出荷量が今シーズンの実績を決定することとなる。

昨シーズン、輸出は高い輸送コストとウクライナでの戦争の影響を受けた。多くの柑橘類生産者は他の果実への切り替えを余儀なくされ、柑橘類の出荷量は平均8%減少し、特にマンダリンとオレンジで顕著であった。

市場と経済の安定が遅れているが、今シーズンの予測は楽観的である。出荷シーズン序盤の遅れにもかかわらず、デル・カステージョ氏は「ペルーでは柑橘類輸出シーズンの出だしは通常どおり進んでいる」と述べた。

7. イラン 輸出業者はUAE等湾岸諸国の支払い条件に不満

FreshPlaza 2023年4月6日

「これが続いたら、他所で商売する」

イランの輸出業者は湾岸諸国の危険な支払い条件に不満を抱いている

湾岸諸国からのイラン産青果物の需要はここ数週間で大幅に増加しているが、イランの輸出業者が望む形ではない。イランの輸出企業であるダリヤ・ヌシュ・パヤブ貿易(Darya Noosh Payab Trading)のハディ・ミルザエイCEOは、「特定の果実や野菜に対する強い需要があるが、ビジネスのやり方にはまだ改善の余地がある」と言う。(以下「」は同CEOの発言)

需要が増加すると見られる青果物については、「それらは主にトマト、キュウリ、ズッキーニである。これらの野菜の需要の増加はラマダン月*によるものだ。また、スイカ、ネクタリン、モモ、サクランボ、イチゴの需要は、輸出先の国が暖かくなるとすぐに増えてくると予想している。」

(*：2023年は3月22日頃～4月21日頃(地域によって若干異なる)。健康的で節制的な食事が求められる)

同氏によると、最も活発な市場は「主にアラブ首長国連邦(UAE)とカタールである。UAEは輸入量が最も多く、カタール市場は大いに成長している。オマーンからの需要は予想ほどではない。ロシア市場も力強い成長を見せており、弊社はそれに向けて動き始めている。」

しかし、イランの輸出業者が受けている誘いは、必ずしも取引につながるとは限らない、とミルザエイ氏は付け加える。「関心はかなりあるものの、リスクの高い支払い条件と不十分な価格の提示が次第に増えている。バイヤーらはまた、低い価格を得るために生産者から直接購入し、前払いを避ける傾向があるが、これは必ず裏目に出る。多くの輸入業者は、信用販売と納品後の支払いを標準にしたいと考えているが、これは我々にとってリスクが高すぎる。」

「1月以降はまた、多くのバイヤーがイラン通貨(リアル)の下落を利用して市場を支配し、日々提示価格を切り下げている。それは大きな価格変動と我々の利益の低下につながる。」

これらの危険な状況は、輸出業者の忍耐力を試している、とミルザエイ氏は言う。「これが続けば、将来、間違いなく市場に大きな変化が起こる。我々は商品を販売する別の地域を探す。この点で、ロシア市場は成長しており有望である。また、将来重要な輸出先となるサウジアラビアとの貿易開始にも期待している。」

湾岸諸国、主にアラブ首長国連邦、カタール、オマーン及びイラクは、レモン、スイカ、メロン、トマト、キュウリ、ナス、リンゴ、キウイフルーツ、ピーマン、唐辛子、ブロッコリー、カリフラワー、白キャベツ等についてイランに依存している。

執筆者: ユーネス・ベンサイド

8. EU 農産物市場短期見通し-2023年春(リンゴ、オレンジ)

FreshPlaza 2023年4月7日

リンゴは高い貯蔵コストのため加工仕向量が増加

2022/23年度のEUのリンゴ出荷量は、約1,220万トンと予想される(昨販売年度と同様の量であり、過去5年間の平均を2.6%上回る)。ポーランドの史上最高の収穫量(420万トン、前年比+5%)とイタリアの豊作(+7%)が、フランスの減収(-10%)を補った。ハンガリー、ルーマニア、スペイン、ポルトガルをはじめとして、他のEU諸国でも出荷量の減少が見られた。

EUのリンゴ栽培面積と出荷量

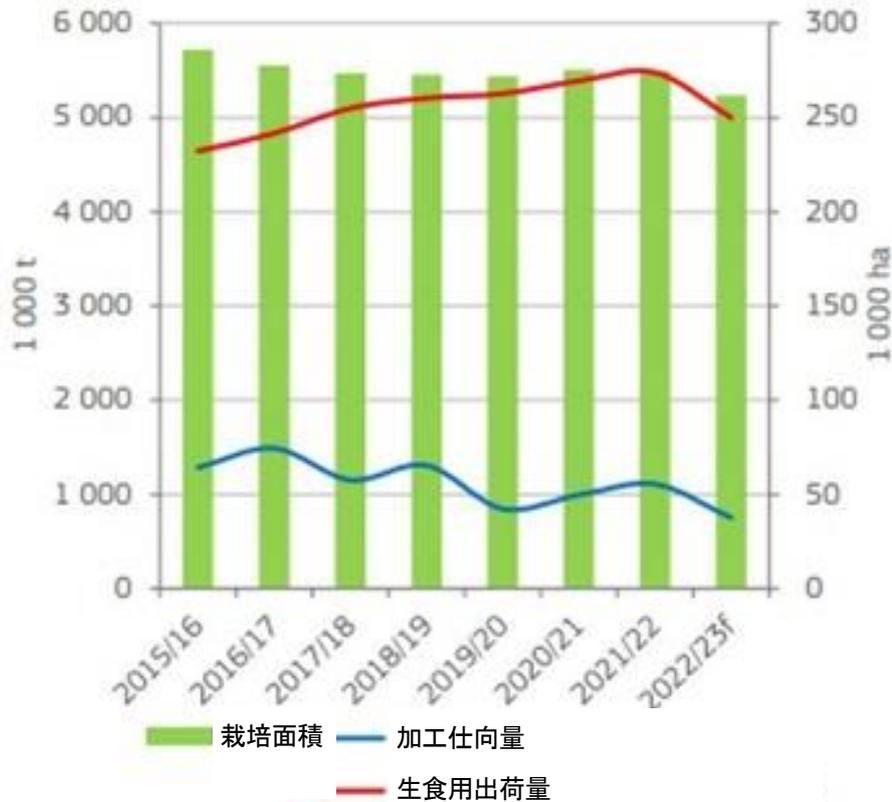


出荷量のほぼ半分は、貯蔵されずに加工用に仕向けられると予想される。これは、生鮮消費に適さない品質の低いリンゴが多いこと、それらの価格が低く、また輸出機会が少ないこと、貯蔵に要するエネルギーコストが高いことの結果である。さらに、一部のEU加盟国では季節労働者の確保に関する問題のため収穫が遅れ、果実の品質に影響を与えた。合計で約580万トン(前年比-9%)のリンゴが生鮮消費用に、570万トン(+8%)が加工用に販売されると予想される。

EUのオレンジ出荷量は10年ぶりの少なさ

EUの主要生産国(特にスペインとイタリア)の雨が少なく暑い気象条件の結果として、2022/23年度のEUのオレンジ出荷量は13%減の約570万トンと予想される。同程度に少ない出荷量が最後に記録されたのは2012/13年度である。スペイン(EUの生産量の50%以上を占める)の場合、16%の減少は収量の低下に起因しており、栽培面積は概ね横ばいである。イタリアでは、面積の減少と収量の低下が相まって、出荷量は前年より20%少ない。EU全体では、面積の減少(-5%)は収量の減少(-8%)よりもわずかに小さかった。

EUのオレンジ栽培面積と出荷量



オレンジの収量が低いことに加えて、果実の品質も低いと報告されている。通常、低品質のオレンジは加工用に仕向けられるが、供給量が少ないため、これらの一部も生鮮消費用となる可能性がある。全体として、出荷量の減少は、生鮮消費量(-9%)よりも加工仕向量(-32%)に大きな影響を与えると予想される。

加工仕向量は長期的に見ても少ないと言えるかもしれないが、一方、生鮮消費用の出荷量は依然として低い水準であるものの、過去数年間に見られたのと同程度の水準である。出荷量が少ない結果、出荷価格は上昇した(ポルトガルを除く)が、エネルギー、肥料などをはじめとする投入資材費の上昇を補うためには十分でない可能性がある。

出典: agriculture.ec.europa.eu

9. 南アフリカ 港湾の問題で果実輸出が停滞 栽培にも影響

FreshPlaza 2023年4月7日

ケープタウン港の問題のために、生産者らは新しい果樹園への植栽を遅らせており、それは新たな仕事の創出を妨げている。

最近の港湾における冷蔵スペースと電源コンセントの不足により、核果類(ネクタリン、アンズ、モモ等)の果実の貯蔵施設は梱包を停止せざるを得なくなった。農業貿易団体のホルトグロ(Hortgro)は、ケープタウン港の状況の改善に向けて引き続き取り組んでいるとしている。

同団体によると、核果類の生産者と輸出業者は依然としてケープタウン港の問題に不満を抱いており、一部の事業者は廃業することさえ考えている。

出荷上の課題、機器の破損及び物流上の懸念により、引き続き遅延が発生している。最近の例では、港の冷蔵スペースと電源コンセントが不足しているため、複数の核果類貯蔵施設で梱包作業の停止を余儀なくされた。

ホルトグロの最新のニュースレターによると、このセクターの主要関係者らは、港湾における果実団体のための私営の積み込みエリアの設置を可能にするために、港湾運営の部分的な民営化を提唱している。港の運営上の問題を支援するために専門家を手配するようという要請も出されている。

ステレンボッシュ町(西ケープ州)のアンドレ・ル・グランジという名の核果類生産者は、この種の果実は繊細で日持ちが悪い、そのためケープタウン港での遅延は、ヨーロッパに到着した後の日持ちと果実の品質に直接影響すると主張している。

これらの困難のために、生産者らは新しい果樹園の植栽を遅らせており、それは新たな仕事の創出を妨げている。最悪のシナリオでは、農業者は自分の財産を売却することを余儀なくされる。

たとえば、ル・グランジ氏は、スモモの新植を取りやめて、近隣市場向けのバターナツカボチャやアボカドなどに力を入れることとした。同氏はケープタウンの港に腐った果実を投げて抗議すると脅すほどである。

出典: [News24](#)

10. 台湾 作物の違法輸出に刑罰を科す法案を閣議決定

FreshPlaza 2023年4月7日

台湾農業委員会の副主任委員(農業省の副大臣に相当)は、台湾のマンゴーパインがどのようにして中国本土に渡ったかを解明するのは難しいだろうと認めている。それでも、将来のこの種の窃盗に対抗するため、内閣は、特定の在来植物、果樹の苗木、種子またはそれらの派生物を違法に輸出した罪で有罪となった者に、最大3年間の刑務所への収監を規定する法案を承認した。

農業部の陳駿季副主任委員は、台湾の台農23号マンゴーパイン品種が盗まれ、中国で栽培されているという報告について問われ、このように発表した。陳氏は、3月16日に内閣が承認した植物品種及び種苗法の改正は、台湾の高品質な作物を台湾から出さないことを目的としていると述べた。

改正案が法律になるには立法院の承認が必要であるが、特定の苗木、その派生物、または関連する物品を取引した者は、3年以下の禁固または60万～300万台湾ドルの罰金、あるいはその両方を課される可能性があるとして規定している。[1台湾ドル = 約4.4円]

出典: taipeitimes.com

(2023年10月24日に品種名の表記を修正しました。)

11. 南アフリカ 防雹ネットで見守る果樹園

FreshPlaza 2023年4月7日

「すべての果樹園は防雹ネットの下にあり、何年もの間に経験した雹を伴うすべての嵐が我々に貴重な教訓を残してくれた。」

悪天候は世界中の生産者にとって最大の頭痛の種の1つであり、雹を伴う嵐はほんの数分で生産者の作物を破壊する可能性があるため、作物を保護するために防雹ネットに投資する生産者が増えている。

南アフリカの果樹農業コンサルタントであるハンス・メイリング氏は、今シーズンのセレス地域とラングクルーフ地域での大きな降雹被害は、もっと多くの果樹園が防雹ネットで保護されていれば防げたかもしれないと述べた。(以下「」は同氏の発言)

「過去25年間、私は国の北部のフリーステート州とムプマランガ州でリンゴ栽培に関わり、リンポポ州では低温要求量の少ない新しいリンゴ品種の生産に取り組んできた。すべての果樹園は防雹ネットの下にあり、何年もの間に経験した雹を伴うすべての嵐が我々に貴重な教訓を残してくれた。それによって、ネット業界に不慣れな生産者にとって大きな価値があるかも知れない革新的な解決策がいくつか生まれた。5年前、フリーステート州でよく見られるネットシステムがクーバレー地域のピエール・バーガー氏の農場に設置された。ネットが彼の果樹と果実の品質に大きな影響を与えることは、初日からわかった。今年の結果はさらに素晴らしかったので、彼は晩生のアンズの一部もネットで被覆することにした。」



メイリング氏によると、南アフリカでは果樹園をネットで覆う大きな動きがあったものの、それは大きな投資であり、特にすべてのコストが増加し、市場が不安定なこのような時期には負担となる。

「生産者はそれをするべきだとわかっているが、それは金がかかるものだ。深刻な降雹被害を一度防げれば投資コストを回収でき、作物を守る以外にも多くの利点がある。南アフリカの天候は過酷で、果実は日焼けすることがあるが、これはネットを使用することで回避できる。また、保護された生態系を作り出し、灌漑に使用される水を約30%節約し、風から守ってくれる。」

メイリング氏は30年間防雹ネットに取り組んでおり、あらゆる種類のネットが使用され、さまざまな結果が得られるのを見てきた。

15年ほど前、生産者らが集まって結果を交換し、さまざまなシステムについて検討したところ、非常に効果的なものもあれば、それほど効果的でないものもあった。ネットの品質には大きな違いがあり、編み込みネットが最も効果的で長持ちすることがわった。生産者は多額の投資をする場合、ネットを数年かそれ以上長持ちさせたいと考えるが、編み込みネットを使用すると、約10年、場合によってはそれよりはるかに長く効果があることがわかった。」

南アフリカでは良いネットを見つけるのは難しいかもしれない。編み込みネットを生産する工場は1つだけあるが、その製造能力は限られている。十分な数のネットを得るために、メイリング氏は低価格で品質の良いものを生産できる中国の工場と協力しており、そこでは南アフリカの過酷な条件に耐えることができるよう南アフリカ向けに特化した仕様で製造が行なわれている。

執筆者: ニコラ・マクレガー



新しいネットシステムの下のカレンゴールド(バーガースフォート地区)



ネットから降ろされた霜。作物は保護された。(フライデンバーグ地区ゲードフープ農場)

※ この翻訳は技術や産地の状況を紹介するためのものであり、特定の企業や製品を推奨するものではありません。

12. 南アフリカ 柑橘類産業は今シーズンに期待

FreshPlaza 2023年4月11日

南部アフリカ柑橘類生産者協会のジャスティン・チャドウィックCEOによると、昨年「災害急にひどい年」を経験した南アフリカの柑橘類産業は、今年はより前向きなシーズンを望んでいる。(以下「」は同CEOの話)

「昨年は運賃が通常2倍で、これは生産者のコストの30~40%を占めていたため、収益に大きな打撃を与えた。またEUは、我々が果実を海上輸送している最中に、フォールスコドリグモス(蛾の一種)に関する規則を変更したため、生産者はそれに従うことができなかった。このため輸出業者は、EUで通関するために3億ランド(当時のレートで約25億円)の余分な費用を支払った。市場価格はどうか大丈夫であったが、これらの追加費用をすべて賄うには十分ではなかった。さらに、港湾の運営効率は相変わらず良いとは言えない。」

チャドウィック氏は、EUが導入したそれらの新しい規制には科学的根拠がなく、2022年に暫定措置が導入されて以来1回も害虫が検出されていないことから、EUに対しこれを再検討するよう求めていると述べた。要件を満たすためには、14億ランド(約100億円)の投資を行う必要があるが、出荷シーズンは数週間後に始まるため、これは不可能である。この影響で2023年のEU向けオレンジ輸出が20%減少する可能性がある。

「スペイン産柑橘が南アフリカ産に脅かされることはない。我々が彼らと同時期に市場に出荷することすらない。南アフリカ産を輸入することは、一年中売場に柑橘類があることを保証するものであり、そしてそれは誰にとっても良いことである。」

柑橘類の生産・出荷

最初のレモンは1月に収穫され、国の最北部では降雨により梱包数量が短期間落ち込んだが、今シーズンの出荷量全体には影響しなかった。若い果樹園からの出荷が始まるため、出荷量は昨年よりわずかに増加すると見られる。

グレープフルーツについては、生産者の収益が減少しており、加工仕向用の果実を国内でさばくことを検討しているため、輸出量は昨年よりも減少すると見込まれる。

オレンジについては、ネーブルはわずかに減少するが、バレンシアは増加すると見られる。ソフト柑橘類の推定値はおって4月に発表されるが、当初の推定値はウンシュウミカンの減少を反映している。

電力負荷低減策

電力負荷低減策(計画停電)は生産者にとって災難であり、灌漑から梱包まですべてが影響を受けている。

「生産者は灌漑のために電気を必要としており、代替手段はない。彼らはまた、梱包作業を電気に依存しており、一貫したコールドチェーンの維持も必要である。生産者らは安定した電力供給なしには立ち行かないため、発電機を購入し、太陽光発電システムに投資している。しかし、果実が一度コールドチェーンに入り、倉庫や港に運ばれた時に起こることを生産者はコントロールできない。」

輸出市場

中国への柑橘類の輸出は毎年増加している。ロシアも南アフリカ産柑橘類の良い市場であるが、ロシア向けの貨物運賃は依然として非常に高い。インドは大きな可能性があり、日本*やベトナムなどの他の市場へのアクセスが期待されている。

執筆者: ニコラ・マクレガー

*: 農林水産省植物防疫所の「輸入条件に関するデータベース」(<http://www.pps.go.jp/eximlist/Pages/exp/condition.xhtml>)によると、南アフリカ産オレンジやグレープフルーツは植物検疫上の条件付きで日本に輸入できますが、マンダリンやレモンは輸入できません。

13. ペルー 北部の大雨でブドウとマンゴーの生産者が懸念

FreshFruitProtal 2023年4月12日

ペルー北部、特にトゥンバス県とピウラ県では、生産者とアドバイザーが2月下旬以降に繰り返し降った雨を懸念している。彼らは、真菌類 (fungi) と害虫が、2023-24年度の生食用ブドウとマンゴーに、特に果実の収量と品質に関して深刻な結果をもたらす可能性があるかと警告している。

生食用ブドウの生産者らはカビ (mildew) の激しい蔓延に対処しようと取り組んでいるが、白星病 (white scab) に対する防除計画は無視されている。

マンゴーについては、炭疽病 (anthracnose) が懸念されている。

ペルー・マンゴー輸出業者協会 (APEM) のセサル・モロチョ会長は、影響を受けた地域はカスマ地域 (アンカシュ県) であると言い、これらの雨が次のシーズンに影響を与えるだろうと述べた。

モロチョ会長は、植物の自然な生育が影響を受けたため、収穫に2~3週間の遅れが生じるだろうと指摘している。

2つ目の問題は、大量の降雨により、さまざまな真菌の胞子が多数発生し、植物に付着していることである。

同会長は、「昨シーズンは価格の下落のために生産者にとって良い年でなかったというのに、今年はこれが起こっている。これによって、一部の生産者は果実の管理が一層難しくなり、品質に影響が出る可能性がある」と言う。

モロチョ会長は特に炭疽病菌について懸念しており、「健全な果実は摂氏10度未満のコンテナで輸送されるが、これは、炭疽病が発現するのに適した条件である。そのため、きれいな状態のマンゴーを送送することはできるが、目的地に到着した時には果皮に黒い斑点がたくさん出ている」と述べた。

生食用ブドウ

生食用ブドウの植物検疫アドバイザーであるホセ・レイス・フアレス氏は、ピウラ県と国の北部の他の一部地域で不安定な天候によりブドウの木にべと病 (downy mildew) が大量に発生しており、出荷シーズンを通して問題を引き起こすだろうと述べている。

そのため、生産者らはこの状況に対処するために農薬を用いることとなった。しかし、フアレス氏は、この1つの火を消すことによって、生産者らが将来の別の火を点けることになるかもしれないという懸念を述べた。

同氏は、「すべての防除機器は真菌類の防除に特化しているため、ヨコバイ (害虫 white leafhopper) は効率的に防除されず、後で被害を引き起こすことが予想される」と指摘した。

同氏はさらに、ヨコバイの防除は通常、房の形成期であるこの時期に実施されるとして、その後は残留の問題があるため農薬はあまり使えない、より進んだ段階で使用する代替成分が必要な場合、それらは十分な有効性を持たないだろうと述べ、「もし房の形成期にうまく防除できず、ヨコバイが多くいる状態で出荷シーズンが始まると、房の被害が増えて出荷量が減少する」と警告する。

14. 米国 リンゴの統計は減少を示す

FreshFruitProtal 2023年4月12日

すべての統計項目が、2022-23年度が米国の生鮮リンゴ産業にとって下落の年であることを示している。

米国リンゴ協会(USApple)が4月10日に発表した追跡レポート(USApple Tracker report)は、今季の収穫物と貯蔵ものの在庫の合計が5年間の平均及び近年の水準より少ないことを示している。米国の生鮮リンゴの輸出も大幅に減少している。米国の生鮮リンゴの輸入は常に比較的小さな要素だが、これも減少している。

2023年4月の時点で、米国の生鮮リンゴの貯蔵量は5,020万ブッシェル(1ブッシェル=42ポンド(約19kg))であった。これは、2022年4月の5,330万ブッシェルより少なく、4月の5年平均である5,440万ブッシェルよりも少ない。貯蔵リンゴの4月より前の合計在庫量の5年平均は6,730万ブッシェルであるが、2022-23年度の同期間には5,230万ブッシェルが出荷された。

今シーズンの加工用リンゴの貯蔵量はわずかに減少している。2023年4月の時点で、2,110万ブッシェルが貯蔵されているが、その時点での5年平均は2,250万ブッシェルである。

米国の生鮮リンゴの月別輸出量は、すべて5年平均を大幅に下回っている。2022年12月の輸出量が前年と同程度の300万ブッシェルであったことを除くと、2022-23年度の輸出量は、前年度 - この年度も輸出が少なかった - をわずかに下回っている。

2022年7月以降、米国の生鮮リンゴの月別輸出量は約180万ブッシェルから12月の300万ブッシェルの範囲であった。

2022年7月に米国は約100万ブッシェルの生鮮リンゴを輸入した。月別輸入量は急速に減少し、11月から2月にかけてはリンゴの輸入はほとんど見られない。

今シーズン現在までの生鮮リンゴの総輸出量は約1,400万ブッシェルであり、総輸入量は約200万ブッシェルである。これらの数字はどちらも直近5年間で最低である。

2023年4月の時点で、CA貯蔵が貯蔵方式の大部分を占めており、全米のCA貯蔵量は4,030万ブッシェルであった。そのうちワシントン州のCA貯蔵のリンゴは3,420万ブッシェルであった。4月の(CAでない)冷蔵貯蔵は合計でわずか990万ブッシェルであった。

15. ブラジル オレンジ果汁巨大企業の価格操作で訴訟

FreshFruitProtal 2023年4月12日

ロイター通信によると、ブラジルの検察当局は、1999年から2006年の間に共謀して価格を固定したとされる国内最大級のオレンジ果汁製造業者らに対する集団訴訟で、25億米ドルの損害賠償を求めている。訴訟の被告は、世界のオレンジ果汁のほとんどを供給しているクトラーレ(Cutrale)社、シトロスーコ(Citrosuco)社、ルイス・ドレイフス(Louis Dreyfus)社等の企業である。

「この訴訟は、サンパウロ州だけでも同分野の中小企業の約75%を排除し、ブラジル国内のオレンジ果汁製造のほぼ80%を支配していると検察当局が指摘する企業からの賠償を求めている」とロイターは伝えている。柑橘類の生産者らは、これらの企業が果実の価格の下落を意図してカルテルを形成し、生産者と消費者に損害を与えたとしている。

ブラジルの反トラスト規制当局である経済競争行政委員会(CADE)が調査を行い、この監視機関と企業は2016年に、この事案を解決するために約6千万米ドルを支払うことで合意した。

集団訴訟は、最初の告発から20年以上経った3月に検察によって提起された。検察は127億リアル(25億1千万米ドル)の損害賠償を求めており、この金額は2021-22年度のオレンジ果汁の輸出額である16億2千万米ドルを超えている。(ブラジルの法体系は日本と異なるため、法律用語の翻訳は暫定的なものです。)

16. インド 今シーズン初のマンゴーを日米に輸出

mypunepulse.com 2023年4月13日

マハラシュトラ州農産物市場委員会の事務局長であるディーパク・シンデ氏は、今シーズン最初のマンゴーの荷が4月8日に日本に向けて出荷され、別の荷が4月11日に米国向けに出荷されたと述べた。ナビムンバイ市のヴァシ地区にある蒸熱処理施設から4月8日、サフラン(ケサール)品種とバイガンバリ(バイガナバリ)品種のマンゴー合計1.1トンが日本に輸出された。(以下、米国向け輸出の記述は省略しました。)

輸出されるマンゴーの品質と安全性を確保するため、農産物市場委員会は、国際基準に則り、野菜加工センターを備えた近代的な輸出用施設と蒸熱処理施設をナビムンバイ市のヴァシ地区に設置した。これらの施設は、日本、ニュージーランド、韓国、ヨーロッパ諸国、ロシア、米国、オーストラリア、マレーシア、アルゼンチン等の輸入要件に準拠している。

日本に輸出されるマンゴーの場合、ミバエの蔓延を防止するための蒸熱処理が義務付けられている。農産物市場委員会の最先端の蒸熱処理施設はその要件に適合しており、日本は2022年のマンゴーシーズン以降、日本から検査官を派遣せずにマンゴーの輸入を許可している。果実の処理と処理結果の確認は、中央政府の植物防疫所(NPPO)の検査官の指導の下で行われる。

農産物市場委員会のすべてのマンゴー関連施設は、マゴネット(Magonet)と呼ばれるコンピューターシステムを介して登録生産者や梱包施設と接続されており、輸入業者に対してマンゴーの品質を保証するとともに、輸出の増加を支援している。農産物市場委員会の事務局長次であり、この荷に関するNPPOの担当者であるバスカー・パティル博士は、他の職員らとともに、これらの先進国へのマンゴーの輸出を促進するために尽力してきた。

執筆者: ムルナル・ジャダブ

17. 南アフリカ 今シーズンのアボカド輸出は23%増加へ

FreshPlaza 2023年4月14日

南アフリカ産の今シーズン最初のアボカドが第10週(3月上旬)にヨーロッパ市場に到着した。総輸出量は前年比23%増の8万トンと予想されている。南アフリカ・アボカド生産者協会(SAAGA)のデレク・ドンキンCEOは、「南アフリカでは新植園地からの出荷量が商業的な規模に達するため、今年の輸出量は増加すると見られる。この成長は今後しばらく続くだろう」と述べた。(以下「」は同CEOの発言)

EUと英国の市場は安定しているようで、輸出業者らは第17週(4月下旬)にペルーからの大量の入荷が始まる前に、これらの市場に出荷しようとしている。「過去3年間、価格はそれ以前のような上昇を見せていない。これは、人々の購買力が落ちているためかもしれないが、市場への果実の入荷量が多いことも原因である。輸出量が増加するので、新しい市場の開拓を推進しなければならない。近いうちに中国、インド、日本へのアクセスが獲得できることを期待している。」

南アフリカはまた、ケニア、タンザニア、ジンバブエ、モザンビークなどのアフリカ諸国との競争が激化している。一部のアボカドは南アフリカの輸出業者を通じて輸出されているものの大部分はそうではなく、ケニアはすでに中国へのアクセスを獲得している。「南アフリカは、引き続き高品質のアボカドを生産し、これらの国々と競争できるよう信頼性を維持する必要がある。」

南アフリカは、港湾での遅延や実施中の計画停電など、多くの課題に直面している。多くの生産者や梱包業者は、電気を確保するための代替手段に投資する必要がある。「これは生産者にとって大きな課題であり、困難な時期に大きな投資であるが、1つの利点は、我々がより持続可能な生産者になれることである。過去には電気は比較的安価であったが、最近の大幅な価格上昇により、ソーラーパネルなどの代替品への投資がかなり魅力的になっている。」

執筆者: ニコラ・マクレガー

18. 米国 オレンジの出荷量が86年ぶりの低水準となる見込み

farmer's weekly 2023年4月14日

米国農務省(USDA)によると、米国の2022/23年度のオレンジの出荷量は1937年以来の最少になると予想されている。

出荷量は6,225万箱すなわち257万トンと予測され、これは前年比23%減で、86年ぶりの低水準となる。USDAは、これは1997/98年度に達成された過去最高の出荷量の20%に満たないとしている。

ロイター通信の市場アナリストであるカレン・ブラウン氏によると、出荷量は25年前のピーク以来減少傾向にあったが、(通常年には)米国最大のオレンジ生産州であるフロリダ州での減収が今年は非常に大きかった。

同氏は、「これにより、オレンジとオレンジ果汁の両方の輸入が増加したが、米国は依然として生鮮オレンジの純輸出国である。出荷量の減少は、かつて朝食の定番であったオレンジジュースの国内需要の減速と一致している一方、世界市場での米国のランキングを著しく低下させた」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

フロリダ州は、以前は米国の年間オレンジ出荷量の80%以上を占めていたが、今シーズンは前年比61%減の1,610万箱の出荷量が見込まれる。

「これにより、カリフォルニア州のシェアは72%に押し上げられるが、その出荷量は4,510万箱で、前年比では15%増となるものの5年平均を5%下回る。」

フロリダ州の出荷量の減少は、10年以上にわたって州全体で広範囲に蔓延しているカンキツグリーンング病に起因する可能性がある。しかし、今シーズンの同州のオレンジ出荷量の急激な減少は、主に昨年秋にハリケーンイアンとニコルによって引き起こされた深刻な被害によるものであると同氏は説明した。

ブラジルは1981年に米国を抜いて世界一のオレンジ生産国となり、現在では世界第2位の中国の2倍のオレンジを生産している。

米国は、20年前には世界のオレンジ出荷量の23%を占めていたが、これと比較して、今シーズンはわずかに6%を占めると予想されている。

米国への生鮮オレンジの輸入は近年増加したが、オレンジの需要の減少により、この増加は出荷量の減少と同程度ではない。しかし、米国は2022年には、チリ、メキシコ、南アフリカから23万700トン弱の生鮮オレンジを輸入し、これは最高記録を更新した。

ブラジルは生鮮オレンジを輸出していないが、世界一のオレンジ果汁の製造・供給国であり、米国は世界一のオレンジ果汁消費国である。

執筆者: エリザベス・シュローダー

(関連記事) 米国 柑橘類予測出荷量

米国農務省農業統計局(2023年4月11日)

フロリダ州農業消費者サービス局との共同発表

フロリダ州の全オレンジの予測出荷量は3月の予測から変更なし
 フロリダ州の非バレンシアオレンジの予測出荷量は変更なし
 フロリダ州のバレンシアオレンジの予測出荷量は変更なし
 フロリダ州の全グレープフルーツの予測出荷量は6%増加
 フロリダ州のタンジェリン及びタンジェロの予測出荷量は変更なし

※訳注 今回はフロリダ州だけでなく対象となっているすべての州の予測値が更新されました。

柑橘類の種類別出荷量及び予測出荷量 - 州別及び米国計

種類及び州	出荷量 ¹		2022-23年度の予測出荷量 ¹	
	2020-2021 (1,000 箱)	2021-2022 (1,000 箱)	3月 予測値 (1,000 箱)	4月 予測値 (1,000 箱)
バレンシア以外のオレンジ²				
フロリダ州	22,700	18,250	6,100	6,100
カリフォルニア州	41,300	31,500	38,000	37,000
テキサス州	1,000	170	900	700
米国計	65,000	49,920	45,000	43,800
バレンシアオレンジ				
フロリダ州	30,250	22,950	10,000	10,000
カリフォルニア州	7,700	7.6	8,100	8,100
テキサス州	50	30	250	350
米国計	38,000	30,580	18,350	18,450
オレンジ合計				
フロリダ州	52,950	41,200	16,100	16,100
カリフォルニア州	49,000	39,100	46,100	45,100
テキサス州	1,050	200	1,150	1,050
米国計	103,000	80,500	63,350	62,250
グレープフルーツ				
フロリダ州合計	4,100	3,330	1,600	1,700
赤肉系	3,480	2,830	1,440	1,520
白肉系	620	500	160	180
カリフォルニア州	4,200	4,100	4,300	4,200
テキサス州	2,400	1,700	2,200	2,400
米国計	10,700	9,130	8,100	8,300
レモン				
アリゾナ州	750	1,250	1,500	1,700
カリフォルニア州	20,100	25,200	22,000	23,000
米国計	20,850	26,450	23,500	24,700
タンジェリン及びタンジェロ				
フロリダ州	890	750	500	500
カリフォルニア州 ³	28,800	17,500	22,000	21,000
米国計	29,690	18,250	22,500	21,500

1. 一箱当たり正味重量(ポンド数 1ポンド=約 453.6 グラム)

オレンジ: カリフォルニア州-80、フロリダ州-90、テキサス州-85

グレープフルーツ: カリフォルニア州及びテキサス州-80、フロリダ州-85

レモン: 80

タンジェリン及びマンダリン: カリフォルニア州-80、フロリダ州-95

2. カリフォルニア州ではネーブル及びその他の品種。フロリダ州及びテキサス州では早生種(ネーブルを含む)及び中生品種

3. タンゴールを含む。

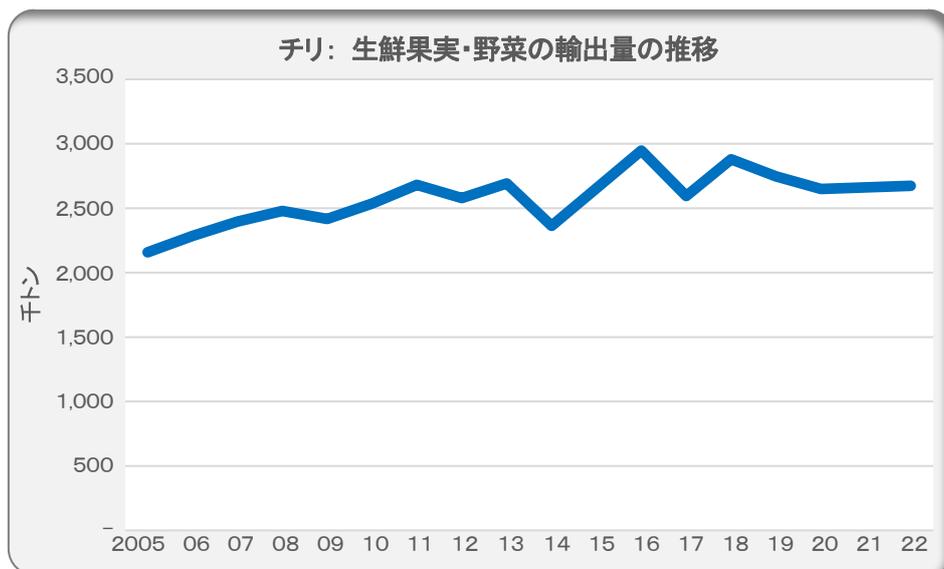
19. チリ 果実輸出は近年横ばいだがアジア等にシフト

Fruit & Vegetable Facts 2023年4月

北米、EUからアジア、南米にシフト

チリは2022年に、過去2年間とほぼ同じ267万トンの生鮮果実・野菜を輸出した。過去10年間、これらの輸出は236万～295万トンの範囲であった。しかし、近年、輸出先に関して明確な変化があった。

北米は依然として最も重要な輸出先であるが、その量は以前ほど多くない。また、EU向けのチリ産果実・野菜も次第に少なくなっている。中国をはじめとするアジア及び南米諸国がチリ産青果物の新興市場である。



国別では米国が2022年の最大の輸出先であり、76万トンを輸出した。中国は60万トンで第2位である。オランダが18万3千トンでこれに続く。さらに、ブラジルとコロンビアがそれぞれ14万7千トン及び11万6千トンで、英国が8万5千トンであった。(訳注：オランダはEUへの輸入窓口となっています。)

ブドウがリンゴを抜いて最大の輸出品に

昨年、ブドウはチリの最も重要な輸出品となった。それまではリンゴが最大の輸出品であった。ブドウの輸出は、2021年に落ち込んだ後、急激に回復した。2022年には60万トン以上のブドウが輸出された。しかし、それは2021年以前の年よりも少なかった。米国はチリ産のブドウに関して群を抜いて最も重要な市場であり、2022年にチリは31万トンものブドウを米国に輸出した。中国が7万8千トンで2位であり、オランダが4万5千トンでこれに続いた。

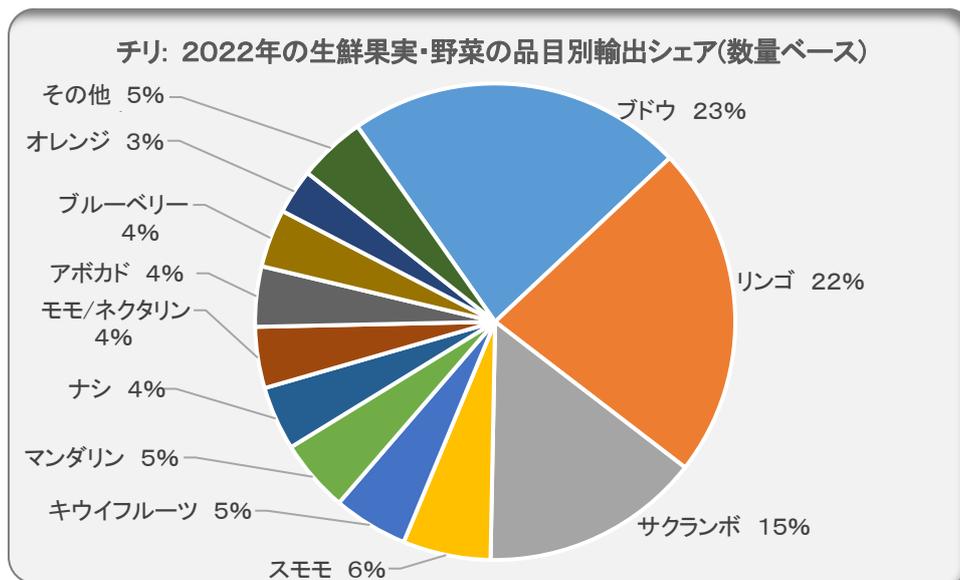
ほとんどのリンゴは地域内の国に輸出

リンゴはチリにとって2番目の主要輸出青果物である。下降傾向は2022年も止まらず、輸出量は60万トンに過ぎなかった。2021年には64万3千トンを輸出し、それ以前はもっと多かった。

コロンビアとブラジルが主な輸出先であり、米国、エクアドル、ペルーがこれに続く。チリのリンゴ輸出量は年によって大きく変動するが、傾向は減少の方向である。2022年のオランダ向け輸出量は以前に比べてかなり少ない3万4千トンであった。

中国向けを中心に増え続けるサクランボ輸出

サクランボもチリにとって重要な輸出品である。昨年、チリは約40万トンを輸出し、これは2021年に比べて20%の増加となった。過去数年間の成長はさらに大きかった。チリのサクランボ輸出は、ほぼ完全に中国市場での販売に依存している。



スモモは4番目に輸出量の多い品目であるが、輸出量は16万トンで、上位3品目には遠く及ばない。ここでも、中国が重要な市場であり、昨年は約10万トンのチリ産スモモを輸入した。これは以前よりもかなり多い。米国とブラジルがその他の主要な輸出先である。チリ産スモモのヨーロッパへの輸出量は限られている。

チリ産キウイフルーツの輸出も減少している。2018年にはまだ18万トンが輸出されたが、2022年には13万5千トンとなった。米国が主要市場であり、ブラジル、インド、オランダがそれに続く。

ナシもさらに減少

2022年のチリ産マンダリンの輸出量は再び減少し、以前は15万~20万トンであったのに対して13万1千トンとなった。ほとんどすべてが米国向けであった。オレンジの輸出も同様の状況で、毎年減少しており、ほとんどすべてが米国向けである。

チリ産のナシの輸出も近年減少しており、2022年には合計11万6千トンで、コロンビア、オランダ(1万5千トン)、イタリア、エクアドルが主な輸出先であった。チリのモモの輸出量はよく持ちこたえており、2022年には11万1千トンであった。中国と米国が合わせてその3分の2近くを占めている。ヨーロッパへはある程度の量が輸出されており、たとえば、オランダには昨年6千トンが輸出された。

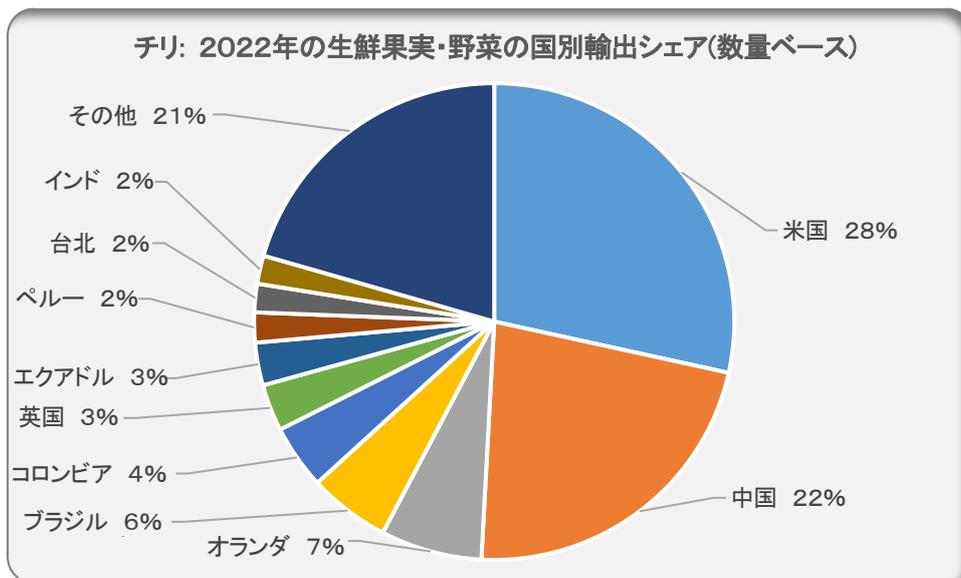
チリは成長するブルーベリー市場から利益を得られていない

チリのアボカド輸出は、2019年の14万5千トンから2020年と2021年の10万トン未満まで、かなり変動している。昨年は11万トンで、そのうち最大の輸出先であるオランダ向けが4万1,500トンであり、アルゼンチン(1万7千トン)と英国(1万4千トン)がそれに続いた。

チリは、世界的に増加するブルーベリー需要の恩恵を受けることができていない。輸出量は近年減少傾向にあり、昨年は10万5千トンであった。チリのブルーベリー輸出の多く - 5万トン以上 - は米国向けである。2022年にはオランダが2万4千トンで第2位の輸出先であり、同国への輸出は増加している。オランダにやや引き離されて英国、中国、ドイツ、韓国が続く。

オランダ向け輸出はますます減少

オランダは、長年にわたり、米国と中国に続くチリ産果実・野菜の3番目に大きな輸出先であった。しかし、オランダ向けの輸出は減少している。2010年から2015年の間は年間約25万トンであったが、2020年には20万トン弱となり、昨年は18万3千トンであった。



現在、ブドウとアボカドがオランダ向けの最上位品目であり、2022年にはそれぞれ4万5千トンと4万1,500トンであった。リンゴについては、ほんの数年前までチリは約6万トンをオランダに輸出していたが、昨年は3万4千トンであった。

オランダへのブルーベリーの出荷は増加しており、2022年には2万3,600トンに達した。オランダへのナシの出荷は多少変動しており、2020年と2021年に1万2,500トンに落ち込んだ後、昨年は1万5千トンに回復した。オランダ向けのキウイフルーツの出荷は少なくなっており、2022年には1万トンに減少した。

チリはまたある程度の量のモモ(6千トン)とスモモ(3千トン)をオランダに輸出している。オランダへのサクランボの出荷量は2022年に急増したが、数量は1,600トンと控えめであった。レモンの出荷量は5千トンから1千トン未満に減少した。それ以外のオランダ向けのまとまった出荷量は、タマネギの800トンのみである。

表(抜粋)

チリのサクランボ輸出量(トン)

輸出先国	2018	2019	2020	2021	2022	増減率
世界計	184,735	220,194	232,150	335,546	396,536	18%
中国	159,770	195,084	211,928	302,910	350,919	16%
米国	5,905	5,277	4,741	7,693	13,810	80%
韓国	3,048	4,514	3,138	5,818	6,516	12%
台北	3,126	2,693	2,094	4,684	6,440	37%
ブラジル	2,379	2,796	2,218	2,141	3,058	43%
エクアドル	2,330	2,188	1,613	2,165	2,668	23%
英国	1,652	2,277	1,875	3,209	2,585	-19%
香港	2,481	877	539	868	1,737	100%
オランダ	423	509	380	780	1,582	103%
タイ	838	1,089	995	913	1,150	26%
その他	2,785	2,889	2,629	4,365	6,071	39%

出典: チリ税関

チリのスモモ輸出量(トン)

輸出先国	2018	2019	2020	2021	2022	増減率
世界計	121,053	155,708	125,748	120,104	158,122	32%
中国	39,578	76,381	59,473	57,319	97,311	70%
米国	22,882	24,544	19,513	20,151	20,387	1%
ブラジル	14,566	12,315	11,609	12,766	17,106	34%
メキシコ	2,859	3,421	2,758	3,343	3,938	18%
オランダ	9,599	10,179	7,611	5,206	3,193	-39%
台北	1,753	1,336	1,347	1,694	2,484	47%
カナダ	2,064	1,688	2,084	2,691	2,127	-21%
英国	4,929	4,962	4,676	2,991	1,611	-46%
イタリア	1,706	2,160	1,994	1,966	1,459	-26%
ペルー	3,036	2,662	886	956	1,292	35%
ロシア	3,687	4,365	4,165	3,183	1,050	-67%
その他	14,395	11,695	9,634	7,839	6,164	-21%

出典: チリ税関

チリのブドウ輸出量(トン)

輸出先国	2018	2019	2020	2021	2022	増減率
世界計	735,100	656,465	611,922	525,215	605,994	15%
米国	329,820	298,636	280,742	255,325	309,502	21%
中国	119,523	106,367	112,765	78,173	77,552	-1%
オランダ	44,042	29,947	35,662	28,030	45,196	61%
英国	33,007	24,641	26,799	18,175	23,789	31%
韓国	32,218	41,056	24,670	23,175	17,952	-23%
日本	9,298	13,363	12,815	11,609	13,907	20%
メキシコ	16,543	15,793	13,834	9,145	11,206	23%
スペイン	10,253	9,073	7,941	9,508	10,517	11%
カナダ	17,546	15,673	16,733	10,733	9,600	-11%
エクアドル	7,908	8,086	9,833	9,037	9,514	5%
インドネシア	6,947	8,004	2,098	9,392	7,431	-21%
ブラジル	16,178	9,133	4,943	3,873	6,551	69%
台北	4,513	3,790	5,088	2,842	5,741	102%
ドイツ	9,340	8,635	4,871	3,202	5,641	76%
ポルトガル	4,023	4,774	3,860	3,905	4,677	20%
コロンビア	4,346	4,313	3,151	2,618	4,426	69%
ロシア	16,678	11,286	11,002	14,038	4,274	-70%
サウジアラビア	5,736	6,650	7,052	4,302	3,625	-16%
グアテマラ	1,685	1,601	1,541	2,162	2,718	26%
ベトナム	2,014	2,084	824	1,281	2,591	102%
ドミニカ共和国	1,896	1,749	1,295	1,501	2,186	46%
パナマ	1,980	1,497	1,391	1,557	2,021	30%
エルサルバドル	1,564	1,563	1,442	1,415	1,943	37%
ポーランド	2,136	2,532	1,666	1,268	1,915	51%
マレーシア	2,255	2,858	1,556	2,122	1,751	-18%
アルゼンチン	602	23	345	485	1,726	256%
フランス	2,531	1,889	1,458	1,401	1,690	21%
タイ	4,532	1,215	1,741	1,791	1,578	-12%
UAE*	2,413	2,750	2,396	1,214	1,549	28%
その他	23,573	17,483	12,408	11,935	13,226	11%

出典: チリ税関 * UAEはアラブ首長国連邦

チリのリンゴ輸出量(トン)

輸出先国	2018	2019	2020	2021	2022	増減率
世界計	778,972	673,864	660,011	643,736	602,478	-6%
コロンビア	84,491	74,332	74,158	74,348	85,899	16%
ブラジル	37,623	19,897	47,885	12,722	65,193	412%
米国	63,690	80,274	54,242	61,751	53,963	-13%
エクアドル	53,220	48,179	52,718	52,586	47,066	-10%
ペルー	43,145	40,584	41,880	35,330	39,013	10%
インド	56,119	42,478	20,643	56,297	35,003	-38%
オランダ	59,293	35,709	41,452	49,013	33,819	-31%
台北	50,321	42,015	38,964	34,093	29,432	-14%
サウジアラビア	42,472	38,073	51,875	35,913	23,848	-34%
ドイツ	29,907	18,880	21,505	26,662	19,903	-25%
英国	41,074	27,199	29,810	30,080	18,770	-38%
グアテマラ	7,834	9,619	7,451	14,255	16,427	15%
ボリビア	25,183	19,569	20,869	16,514	15,992	-3%
フランス	19,894	15,316	15,784	17,797	12,695	-29%
中国	11,618	39,656	15,544	7,645	11,497	50%
カナダ	22,691	18,133	9,293	11,199	10,015	-11%
エルサルバドル	5,934	6,858	8,930	10,028	9,752	-3%
コスタリカ	8,011	7,819	8,502	10,064	9,473	-6%
ベネズエラ	246	932	1,475	4,256	7,908	86%
スウェーデン	7,175	5,138	6,243	6,808	6,443	-5%
メキシコ	2,495	4,978	2,397	3,420	5,173	51%
パナマ	5,095	5,501	2,764	5,059	4,706	-7%
スペイン	11,046	6,565	7,205	6,848	4,380	-36%
イタリア	6,023	2,635	5,573	5,734	4,361	-24%
アイルランド	3,740	3,450	4,313	5,134	3,874	-25%
ロシア	29,428	17,979	26,121	10,223	3,603	-65%
ホンジュラス	2,420	2,361	1,169	2,837	3,071	8%
ノルウェー	4,804	4,263	2,915	4,071	3,046	-25%
UAE*	10,020	8,723	9,640	6,025	2,523	-58%
ベルギー	4,117	3,861	3,412	4,029	2,309	-43%
アルゼンチン	2,268	102	1,242	1,950	2,257	16%
その他	27,574	22,784	24,038	21,043	11,064	-47%

出典: チリ税関 * UAEはアラブ首長国連邦

出典: [Fruit & Vegetable Facts](#) (本文はオランダ語、図表は英語)

※ この記事及びリンク先の記事、データの転載には Fruit & Vegetable Facts の許可が必要です。

20. 米国 カリフォルニア州のサクランボは出荷開始が遅延

FreshPlaza 2023年4月17日

カリフォルニア州の3月の不安定な天候は、同州のサクランボの出荷シーズンに関して何を意味するのだろうか? デルタ・パッキング社のニック・ルーシッチ氏は「見通しは良好で、作柄は平均を上回ると楽観視している」と述べ、サクランボ出荷量の10年平均は620万箱だと指摘する。(以下「」は同氏の発言)

3月の降雨などにより、生産者らはサクランボ園の開花について思い悩んだ: 花は受粉したのだろうか? ミツバチは働くことができたのだろうか? 十分に暖かかったのだろうか? 「現状では着果しているので、天候は受粉するのに適しており、十分な受粉の機会があったようだ。」

同氏は、一部の園地では開花時期が良くなかったかも知れず、一方あまり離れていない別の園地では良好なようなので、こうしたムラを考えると記録的な出荷量にはならない可能性が高いと述べている。「着果するかどうか少し心配していたが、今の状況を見て喜んでいる。」ストックトン、リンデン、ロディなど州の北部での着果はまだどうなるかわからないが、当初の兆候としては良好なようである。

タイミングに関しては、冬の長さやゆっくりとした冬の終わり方が作物の成長を遅らせている。「それは悪いことではない。この遅れのために収量が減るわけではない。開花期が長くなっているかもしれない - 通常はもっと短い。そのため、受粉が進んでいることはわかっているが、どれくらい受粉できたかはわからない。」

メモリアルデーの販売促進

ここ数年、カリフォルニア州のサクランボの大部分は5月に収穫・梱包され、6月になると最後の3分の1が梱包された。「今年は逆で、5月に3分の1が梱包され、残りが6月に梱包される可能性がある。これは大きな変化だ。」つまり、メモリアルデー(戦没将兵記念日。5月の最終月曜日)の販促に利用できる果実があり、その後にも販促の機会があることになる。「6月になる頃には小売業者らはよそ(ワシントン州)に目を向け始めるかもしれないが、今年は我が州としては6月1日にピークを迎え、サクランボの販売に絶好の機会となるはずだ。」

ワシントン州も気温が低いいため、収穫が遅れる傾向にあるようだ。カリフォルニア州産といつも競合するが、通常は約1週間以内である。今年は6月中旬頃に重複する可能性がある。

需要に関しては、天候も今年のサクランボ需要の増加を後押しするかも知れない。ルーシッチ氏は、サクランボと小売店の売り場のスペースを奪い合う初夏の果実の多くは量が少ないか品質が良くない - 核果類(スモモ等)は少なく、イチゴとブルーベリーは難しい状況にあり、スイカは遅くなるかもしれない - と述べている。それに加えて、おそらくワシントン州産の出荷が遅くなるということは、カリフォルニア州産のサクランボの需要が増える可能性があることを意味する。(以下省略)

21. 南アフリカ産グレープフルーツ 日本市場は品薄だが低調

FreshPlaza 2023年4月18日

南アフリカ産グレープフルーツを日本に運ぶ最初の船は、先週末、通常より1~2週間早くダーバン港で積み込みを行った。ある輸出業者は、「通常、南アフリカ産のグレープフルーツは6月の初めに到着するが、この荷はやや早く到着する」と言う。

フードスプロイト地区ではグレープフルーツの収穫を通常より早く始めた。通常は復活祭(今年は4月9日)の後で始まるが、今年は4月の初めに梱包が始まった。第14週(4月上旬)までに、130万箱が梱包され、61%がEUに、17%(前年同期は32%)がアジアに、15%(同3%)がロシアに出荷された。

ある輸出業者は、「日本では市場が空っぽだ。通常はフロリダ州産とカリフォルニア州産のグレープフルーツがあるが、今年はかなり少ない」と言い、他国の経済と同様に、日本の経済も圧迫されているとして、「品薄にもかかわらず、市況はよくない」と述べた。

これまでにヨーロッパと中国に向けて出荷されたグレープフルーツは、まだ海上輸送中である。

執筆者: キャロライズ・ヤンセン

22. 世界的な果実貿易の危機 - 輸出減少の原因を分析

EASTFRUIT 2023年4月18日

EastFruit*の分析グループによると、2022年には、長年にわたり毎年着実に成長してきた世界の果実とナッツ類の貿易量が初めて減少した。この異例の出来事の原因と、東欧・中央アジア諸国への及ぼす影響を調べた。(*: 東欧と中央アジアの野菜、果実、ベリー類、ナッツ類の市場に関する情報サイト)

世界の全輸出の約80%を占める世界の果実輸出国上位25か国の貿易を分析すると、2022年のこれらの国からの輸出は前年と比較して40億5千万ドル、すなわち3.5%減少した。以前は、世界の貿易は力強く成長し、2018年～2021年の平均年間成長率は6.3%、すなわち毎年66億ドルの増加を示していた。

興味深いことに、上位25か国のうち2022年に輸出の増加を示したのは6か国のみで、4分の1に満たなかった。このことは、この業界または消費における重大な問題について語っている。

どの国が輸出を増やし、どの国が減らしたかを詳しく見ると、果実貿易危機の原因に関する質問の答えはより明白になる。果実とナッツ類の輸出が増えたのは、チリ、ペルー、コスタリカ、エジプト、モロッコ、グアテマラで、これらの国々は(北半球の)オフシーズンに出荷できるという優位性を活かし、園芸ビジネスで安価な労働力が利用できるという重要な要素もある。一方、すべてのEU諸国は例外なく、また米国も、すなわち所得が最高水準で人件費が高い国々は、果実とナッツ類の輸出を大幅に減らしている。

2022年に果実とナッツ類の世界貿易が急落したのはなぜか?

国連食糧農業機関(FAO)投資センターのエコノミストであるアンドリイ・ヤルマーク氏は、「果実やナッツ類は、多くの場合必須の食品ではない。2022年に世界は、ロシアのウクライナに対する軍事進攻によって引き起こされた経済ショックとエネルギーショックを経験した。これにより、物流コストと生産者のエネルギーコストが急激に上昇し、基礎食料のコストが増加し、一方、ヨーロッパと米国では消費者の所得がほとんどまたはまったく増加しなかった。その結果、果実やナッツ類の需要は著しく弱まった。もう1つの理由は、気候変動や様々な異常気象によって引き起こされた問題であり、果実の出荷量の減少につながった」と述べた。

同氏は、「脱グローバルゼーション」の要素、すなわちモノの輸出入に対する様々な国の開放性の低下も大きな影響を及ぼしたと付け加えた。

さらに、貿易の減少は米ドルの値で推計されるが、2022年のドルベースのインフレ(ドルで表示した金額が膨らむ)は近年では記録破りの8%を超えており、これは世界の果実とナッツ類の輸出量は実際にはもっと急激に減少したことを示していることを考慮に入れる必要がある。

主要国の果実輸出はどのように変化したか?

米国は、約150億ドルの輸出額を誇る世界最大のナッツ類と果実の輸出国であり、輸出額の大部分をアーモンド、ピスタチオ、クルミ、生鮮リンゴ、生食用ブドウが占めている。クルミを除くこれらすべてについて、輸出額が顕著に減少した。

スペインは、柑橘類、ベリー類、核果類、カボチャ類、ナッツ類の5つの主要な輸出品目すべてで輸出量を大幅に減らした。ナツメヤシの実と生食用ブドウでは輸出額も減少した。

メキシコは輸出を減らしたものの、輸出国の世界ランキング第3位にとどまった。同時に、主要な輸出品目であるアボカドは力強い成長を続けた。しかし、2022年のメキシコからのベリー類の輸出はほぼ半分に減少した。ナッツ類の輸出も減少したが、柑橘類とメロン類の輸出は引き続き増加した。

オランダは世界最大の果実再輸出国であり、業界の状況の指標となる。オランダでは、熱帯果実、アボカド、ベリー類、柑橘類、リンゴ、ナッツ類及びブドウの輸出額は減少したが、バナナの再輸出額は増加した。

チリは、トップ5の中で輸出を増加させた唯一の国で、生食用ブドウの輸出額が増加し、サクランボを追い

越して同国で輸出額が最大の品目となった。総輸出額はほぼ3倍に急増した。なお、チリのサクランボの輸出額も2022年に大幅に増加し、これまでで最大の21億ドルに達した。キウイフルーツの輸出額は2倍以上になったが、チリ産ブルーベリーと生鮮リンゴの輸出額は減少した。

我々の地域(東欧・中央アジア)の国々からの果実輸出はどのように変化したか?

トルコはこの地域最大の果実とナッツ類の輸出国であるが、輸出国の世界ランキングでは8位であった。しかし、2022年のトルコからの輸出額は8%、すなわち4億2,400万ドル減少した。トルコからの輸出は、ほぼすべてのEU諸国とウクライナ向けで減少した。米国とロシアへの輸出は増加した。

トルコの輸出額は、主要な輸出品目であるヘーゼルナッツの輸出の縮小等により減少した。リンゴ、イチジク、レモン、サクランボ、ブドウも輸出が少なくなった。生鮮マンダリン、アンズ、モモ、ピスタチオ、アーモンドの輸出額は増加した。

ポーランドの輸出額は主に冷凍ラズベリーの輸出によるものである。この品目は、冷凍果実全般と同様に、2022年に記録的な水準に成長した。一方、ポーランドからの冷凍イチゴの輸出は減少した。ポーランドのリンゴとブルーベリーの輸出額も減少した。

ウズベキスタンの2022年の果実とナッツ類の輸出額は21%、すなわち1億700万ドル増加した。この中で、生食用ブドウ、干しブドウ、モモ、カキの4つの主要な輸出品目の輸出額が力強い成長を見せた。一方、ウズベキスタンのサクランボの輸出額は、異常気象によってほぼ3分の1減少し、近年の最低記録となった。なお、ウズベキスタンのプルーン、生鮮スモモ、ザクロ、メロン、スイカ、冷凍果実の輸出額の伸びも注目される。

ウクライナは、2022年にロシア軍によって不法に侵略され、国内のさまざまな地域で果樹園が破壊されまたは損傷し、果実とナッツ類の輸出額は15%、すなわち5,500万ドル減少した。この減少は、冷凍ラズベリー、その他の冷凍果実、クルミの3つの主要品目で目立った。一方、ウクライナの生鮮リンゴ、ブルーベリー、冷凍イチゴの輸出額は増加した。

モルドバは近年、果実とナッツ類の輸出国の中でウクライナの下にランク付けされていたが、ロシアのウクライナ侵攻から生じる様々な困難にもかかわらず、2022年には輸出額を6%、すなわち1,500万ドル増加させた。主要な輸出品目であるリンゴとクルミの輸出額は、2021年と比較してほとんど変化していないが、生鮮ブドウ、サクランボ、アンズ、プルーン、冷凍ラズベリーに関しては、輸出額が著しく増加した。一方、モルドバの生鮮スモモの輸出額は急激に減少した。

ジョージアは輸出額を6%、すなわち1,300万ドル減らした。主に減少したのは、ジョージアの主要な輸出品目であるヘーゼルナッツであった。ジョージアのマンダリン、リンゴ、カキの輸出額も減少した。一方、ブルーベリー、モモ、ザクロ、スモモ、ドライフルーツ、レモン、アーモンド、さらには生食用ブドウなどの輸出品目では、輸出量を増やすことができた。

残念ながら、現時点ではタジキスタンからの果実・ナッツ類の輸出に関する新しいデータはない。

世界的な果実・ナッツ類の貿易危機はこの地域の国々にどのように影響し、危機はどのくらい続くのか?

需要の減少は、どの市場にも起こりうる最悪の事態である。果実やナッツ類も例外ではない。需要が減少すると、通常、価格は下がる。生産コストが引き続き過去最高に近い水準にあるという事実を考えると、これは生産者から加工業者、卸売業者、小売業者まで、果実・野菜セクターのすべての事業者の経済に悪影響を及ぼす。

これが現在世界の青果物市場で起こっていることである。

(以下省略)

23. 世界のオレンジ果汁は供給逼迫を背景に高値が続く

FreshPlaza2023年4月18日

ラボリサーチ 世界のオレンジ果汁の見通し2023/24

今のところ、供給側についてブラジルの2023/24年度のオレンジ収穫量に驚くほどの変化があるか、または2023年後半に世界の需要がかなり急激に縮小しない限り、オレンジ果汁市場は少なくとももう1シーズンは逼迫すると見られる。

ラボバンク(オランダの金融機関)の最近の報告書によると、2023年のオレンジ果汁の記録的な高値は、オレンジの生産量が予想より少なく、果汁の在庫量も少ないという非常に逼迫した市場の結果である。しかし、オレンジ果汁の高価格と消費者需要の減退により、今年は需要の減少が加速すると見られ、このこともあって市場が高水準で均衡する可能性もある。少なくとも2023/24年産のブラジルの収穫予測が供給不足の緩和をより明確に示すまで、価格はおそらく高止まりするであろう。

ラボバンクのシニアアナリストであるアンドレス・パディージャ氏は、「2020/21年度と2021/22年度の2年連続の不作により在庫水準は非常に低く、さらに現在の2022/23年度の悪いニュースとして、この在庫不足により、オレンジ果汁価格が今年大幅に上昇し、2017年に最後に見られた水準を上回り、史上最高の高値に向かって上昇するのに最適な環境が生じている」と述べた。

米国の輸入が増加

世界のオレンジ果汁市場は供給不足にさらされており、在庫がいつ補充されるかが不透明であることが、価格の上昇圧力を高めている。さらに、フロリダ州の出荷量の減少が続いていることにより、米国の輸入量が過去4年間増加しており、ブラジルからの輸出に対する需要に上乘せされている。ここでの基本的な前提は、現在の状況下でフロリダ州の持続的な回復の明確な道筋がないため、米国は今後数年間主に輸入に依存し続けるということである。生産量を増やすには多額の追加投資が必要になるが、生産コストの上昇により、オレンジ果樹園への新規投資の魅力が低下している。

ブラジルの2023/24年産は供給不足を緩和するか？

需要が弱まっているにもかかわらず、世界の需給バランスは、過去2年よりは程度が小さいものの、今シーズンも再び供給が不足する傾向にある。世界の供給量の目安としてブラジルの2023/24年度の最初の収穫予測に注目が集まっている。一部の初期の兆候は、この段階での雨の降り方、開花及び果樹の状態を踏まえると、2022/23年度と同様の出荷量となる可能性があることを示唆している。しかし、果実の品質と収穫量の両方が良好であったとしても、そのような作柄が在庫の問題を軽減するのに十分かどうかは不明である。

米国の輸入依存度の高まり、メキシコで生産性の低下に関係して生じている課題、及び他の輸出国の不在は、ブラジルからの供給がおそらく2023/24年度まで引き続き逼迫することを意味している。価格が高いために世界の需要が予想よりもかなり速く低下する - これはオレンジ果汁に関して現実のリスクである - のでない限り、市場をより中立的に再び均衡させるためには、かなりの収穫量が何年か必要であろう。

世界の見通し

世界のオレンジ果汁市場では、現在の供給逼迫からの緩和は、短期的には限られたものしか見込まれない。在庫はしばらくの間抑制された状態が続き、ブラジルからの前向きなニュースがあつたとしても、市場の基本的な状態は2023/24年度の高価格を支持している。ただし、需要サイドのリスクを過小評価してはならない。すでにインフレの影響を受けているヨーロッパと北米の「弱くなった」消費者が、2023年後半にオレンジ果汁の消費を減らすペースを速め、その結果現在の予想よりも早く市場が均衡する可能性がある。これにより価格は、2023年第1四半期に見られた記録的な価格と比べれば穏やかだが、依然として高い水準になる可能性がある。今のところ、基本となる予測は高値が長引くことであるが、今年の出荷の最盛期には、高価格による需要崩壊のリスクが高まっている。

24. トルコ 早生のアンズ、モモ等は増収

FreshPlaza 2023年4月18日

トルコの核果類シーズンが進行中

量はまだ少ないが、トルコの核果類はゆっくと市場に出回っている。次の数週間で、核果類の季節が完全に始まる。

トルコの青果物輸出業者であるエレン社のコスクン・エレン販売部長は、「今年の生育期間は非常に良好であった。我々はすでに温室ものの果実から出荷を始めている。現在、アンズ、モモ、ネクタリンを提供できる。出荷量が不足しているため、価格はまだ高いが、10日後にはトラックを一杯にするだけの量になると思う。露地のネクタリンの出荷は4月27～29日に始まり、5月の第1週にはモモとアンズの出荷が始まると予想している。露地ものの出荷が始まると、出荷量が増加し、価格が下がる。我々は通常、9月まで核果類の出荷を続ける」と語った。(以下「」は同部長の発言)

エレン部長は、今年は量的には堅調な収穫を期待しており、そのため果実のサイズは自然と小さくなるだろうと言う。「昨年に比べて量は多い。昨年は本当に災難で、我々が経験した中で最悪の年の1つであった。今年は天候に全く問題がなかったため、メルシンやアダナなどの早生地帯では、昨年に比べて20～40%増収すると思う。これは大きな違いであり、果実の価格とサイズの両方に反映されるはずである。つまり、昨年よりも価格が良く、果実のサイズは全体的に少し小さくなる。晩生の地域、つまりブルサ地域について何かを語るのはまだ少し早い。しかし、地中海地方のほぼどこでも天気が良かったと聞いているので、この地域からも良い結果が期待される。」

昨年の核果類の出荷シーズンは非常に不安定な状況にあった。同部長は、今年は、需要と価格の両方がもう少し安定するはずだと述べている。「現在の需要は通常の範囲内にあり、高くも低くもない。昨年は需要が非常に高く、不安定であったが、価格も非常に高く、致命的な組み合わせであった。ある日商品を取引し、翌日には価格が30%増減する非常に危険な状況であった。今年は、需要と供給がより正常だ。私は個人的には爆発的な需要よりも着実な需要を好む。露地ものの出荷シーズンが始まれば需要は上向くと思うし、出荷シーズンを通じて安定した需要がある良い年になると期待している。」

新しい核果類の出荷シーズンとなり、同部長は新しい品種を追加し、北欧地域での市場シェアを拡大したいと考えている。「昨年、ヨーロッパでの取引は予想よりも少なく、何を売るのもほとんど不可能であった。今年これが変わり、EUで通常どおり安定した量売れることを願っている。ロシアは核果類の主要輸出先であるが、北米や極東地域へも航空貨物で出荷している。核果類の販売先を、特にデンマーク、スウェーデン、ノルウェーなど北欧諸国でさらに拡大したいと考えている。今年は、数年前に追加した扁平なモモ(蟠桃)に加えて、扁平なネクタリンを品揃えに追加するので、そこでもある程度の注目を集めることを期待している。」

「素晴らしいシーズンとなることを期待している。出荷量が多く、品質が良い場合、物事が悪い方に進むことはめったない。今年は多くの商品の選択肢があり、そういった場合は通常、手頃な価格で品質のかなり良いものを手に入れることができる。」

25. 北米から見た柑橘類輸出国の現状

FreshPlaza 2023年4月20日

輸入柑橘類の様子はどうか？

北半球産柑橘類の出荷シーズンが終わりつつあり、南半球の出荷シーズンが始まる中、柑橘類は着実に入荷している。

レモン: サリックスフルーツ (Salix Fruits) 社のアレハンドロ・モラレホCEOは、「南アフリカは4月の第1週に、同国にとって最も重要な市場である中東に向けて、またカナダ向けにもレモンの出荷を始めた」と述べ、南半球の主要な柑橘類輸出国である南アフリカはすべての柑橘類の品目で輸出量が増えていると付け加えた。(以下「」は同CEOの発言)

現在、米国はメキシコ産レモンの最後の荷を調達している。一方、今年雨が遅れて干ばつの影響を受けたアルゼンチンは、ロシア向けや他のヨーロッパ諸国向けとともにカナダへの出荷を開始している。「アルゼンチンは夏の干ばつに苦しんだが、レモンの出荷量はすべての市場向けで保証されている。輸出先の関係者らはアルゼンチンからの貨物が5月中旬に到着し始めるのを待っている。」

マンダリン: マンダリン市場は、供給がまだ北半球産でカバーされている唯一の市場である。

米国はモロッコ産マンダリンの最後の荷を調達している。

一方、チリとペルーはどちらも出荷の準備が整うのを待っている。「ペルーでは今後数週間のうちに早生マンダリンの出荷シーズンが始まる。北半球市場から見るとペルーはシーズン後半のマンダリン供給国となる。ペルーからの最初の果実は、北半球市場への出荷のタイミングを見計らっている。」

チリ産に関しては、クレメンタインが5月中旬に米国の港に到着すると見られる。同CEOは、チリの出荷量は2022年の激しい霜害から回復したと付け加えた。

季節的なタイミング

全体的に見て、同CEOは、後半の柑橘類はメキシコ、スペイン、トルコ、エジプト、モロッコからの出荷が続くものの、スペイン、モロッコ、トルコからの出荷量が不足しているため、南半球産の柑橘類の出荷時期が早まると述べている。「米国では、冬の雨が貯水池の水量を回復する恵みとなった一方で、一部の果実に品質上の問題をもたらしているが、出荷量は多い。」

需要については、米国とカナダでは、輸入柑橘類の需要が強い。「海上輸送運賃の下落により最も遠い地域の生産者の期待が高まるのであれば、販売価格はそれほど変わらないだろう。」

同CEOはまた、サリックス社はアルゼンチン、南アフリカ、チリ、ペルー、ウルグアイなどの調達先からの柑橘類の提供を続けると述べた。「エジプト事務所からの供給に非常に満足している。これにより、北半球の来シーズンに向けて大量の供給が得られる。これは、弊社が過去2年間現地で取り扱ったスペイン産とモロッコ産の優れた品質の果実に上乗せされるものだ。」

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

26. ニュージーランド 多雨により赤肉系キウイ品種が小玉化

FreshPlaza 2023年4月20日

新品種のルビーレッド(RubyRed)キウイフルーツは、異常に雨の多い天候により小玉化しており、輸出するには小さすぎる果実もあるため、ニュージーランドの生産者は経済的打撃を受ける可能性がある。ゼスプリは声明の中で、この赤肉系キウイフルーツ品種は自然の性質として他のキウイフルーツの品種よりも小さいとしている。しかし、異常に雨の多い気象条件と、最近果実を付け始めた若い果樹園が多いことから、今シーズンはさらに小さかった。果実のサイズが小さいということは、今年は輸出品質の果実が少ないことを意味する。

この赤肉のキウイフルーツ品種は2019年に初めて導入された。ルビーレッドの農場渡し価格は、輸出品質の果実で昨シーズンは21.99NZドルであったが、今シーズンは18NZドル、2026年には14NZドル強になると予想されている。(1NZドル(ニュージーランドドル)=約82円)

グリーンキウイフルーツなどの確立された品種が100年以上にわたって栽培されてきたのに対して、レッドルビーは、商業生産の2シーズン目に過ぎない。ニュージーランドでは約780ヘクタールのレッドルビーがライセンス供与されており、今年後半にはさらに150ヘクタールが追加される見込みである。

出典: stuff.co.nz

27. ペルー スイートグローブが最多の輸出ブドウ品種に

FreshFruitProtal 2023年4月21日

2022-23年度のペルーの生食用ブドウの出荷シーズンは、引き続き品種の再転換の兆候を示しており、スイートグローブが今シーズン最も輸出された品種としての王冠を手にしたと情報サイト Agraria.pe が伝えている。

スイートグローブは、今シーズンこれまでに18ポンド(約8.2kg)箱で1,600万箱以上が出荷され、2021-22年度の1,150万箱から40%近く増加し、市場の定番品種であるレッドグローブを200万箱以上上回った。

他の品種ではオータムクリスプとアリソンがこれに続き、2022-23年度にはそれぞれ680万箱及び590万箱が輸出された。

農産物輸出会社サフコペルー社の社長であるベンジャミン・シロニス氏によると、現在の市場動向は種なし白(緑)ブドウ品種の増加を示しており、レッドグローブが首位の座を失うのは20年ぶりである。

また、2022年後半から2023年初頭にかけての天候、物流、政治の問題により、収穫が遅いブドウの一部が失われた。

シロニス氏は、「1月のイカ県での道路封鎖により約70万箱が失われ、ピウラ県では1か月以上にわたって大雨が降っているため、晩生の収穫量のかかなりの部分(推定が一層難しい)が失われたと推計している」と述べた。

同氏はまた、従来からの品種は減少傾向が続くと予想しているが、ライセンス制の緑色品種は「オータムクリスプ品種の大幅な伸びに後押しされて」増加を続けると予測されると述べた。

ペルー生食用ブドウ生産者輸出業者協会(Provid)の2022-23年度の2回目の収穫予測では、輸出は前年比13%増の7,300万箱と予想されている。

28. 南アフリカ 今年の柑橘類は量より価値を最大化

FreshPlaza 2023年4月21日

南部アフリカの柑橘類の出荷量は増加傾向が続いており、2019年の1億2,720万箱(15kg/箱)に対し、今年は今時点で1億6,600万箱以上と推定されている。柑橘類生産者らは持続可能であることを迫られており、今シーズンの主な焦点は、適切な品物を適切な市場に確実に出荷し、大幅に高騰した投入コストを補えるだけの価格を取り戻すことである。業界のある専門家は、「価値を最大化するために、サイズ、入数、色、品質によって市場に投入するものを選ぶことになる」と言う。

南アフリカの柑橘類の半分近くは、国の北部の複数の州で栽培されている。センウェス農協管内(リンポポ州のグローブラスダル町及びマーブルホール町)では降雹と高温の結果としてネーブルの出荷量が減少するが、バレンシアは増加が見込まれている。昨年、この地域は3,700万箱弱のバレンシアを出荷した。

ソフト柑橘類の輸出予測はまだ確定していないが、センウェス農協管内からのソフト柑橘類の大幅な増加が見込まれ、2019年の450万箱から2022年には1,170万箱に増加したが、今年はさらに500万箱も増加する可能性がある。西ケープ州のソフト柑橘類、特にボーランド地域の晩生マンダリンも昨年の約1,200万箱からおよそ150万箱増加すると見られる。東ケープ州の出荷量は、昨年大幅に増加して4,860万箱に達し、今年もおおむね同様のようだが、ガムトスバレー地域の水不足は続いている。

ダーバン港の冷蔵倉庫はEUの要件に準拠するよう求められる

オレンジに関するEUの冷却要件の影響は、陸地側すなわち(船積み前の)冷蔵倉庫での対応が容易でないことが広く知られている。特にシステムの大規模なボトルネックとなることを回避するために、冷蔵倉庫でできるだけ早くオレンジを2℃に冷やす必要があるダーバン港では対応が難しい。約5千コンテナが(隣国モザンビークの)マプート港から出荷されると推定されており(ただし、冷却要件に従っていない)、ダーバン港への圧力が軽減されることが期待されている。ケープタウン港及び東ケープ州のポートエリザベス港とングクラ港では、ダーバン港と比較して処理する柑橘類の量が大幅に少ないため、冷蔵倉庫の容量に余裕がある。

執筆者: キャロライズ・ヤンセン

29. 世界の海上コンテナ運賃総合指数は4%上昇

FreshPlaza 2023年4月21日

ドリュエリー(Drewry)社の世界コンテナ運賃指数(WCI)の総合指数は今週4%増加して40フィートコンテナ(FEU)当たり1,773.58ドルとなり、15週間ぶりの上昇となった。2023年4月20日木曜日のドリュエリー社の詳細な分析によると、複合指数は今週4%上昇したが、昨年と同じ週と比較すると77%低下した。

FEU当たり1,774ドルとなる最新のWCI複合指数は、ピークであった2021年9月の10,377ドルを83%下回っている。10年平均の2,688ドルより34%低く、より通常の価格に戻っていることを示しているが、依然として2019年(パンデミック前)の平均である1,420ドルよりも25%高い。

総合指数は4%増加してFEU当たり1,773.58ドルとなったが、2022年の同じ週より77%低い。太平洋横断の東行き運賃は、複数の海運会社実施した4月中旬からの運賃の一斉値上げを反映して上昇した。上海 - ニューヨークの運賃は、12%(297ドル)上昇し、同2,849ドルとなった。上海 - ロサンゼルスへの運賃は11%(182ドル)上昇し、同1,856ドルとなった。上海 - ジェノバは1%微増の同2,268ドルとなった。

ニューヨーク - ロッテルダムへの運賃は5%下落し、FEU当たり969ドルとなった。ロッテルダム - 上海とロサンゼルス - 上海の運賃は、それぞれ4%下落して同618ドル及び1,009ドルとなった。ロッテルダム - ニューヨークの運賃は19週連続で下落し、直近1週間では1%低下して同4,881ドルとなった。上海 - ロッテルダムへの運賃は前週の水準付近で推移した。ドリュエリー社は、大西洋横断以外の東西航路のスポット運賃が今後数週間で上昇すると予想している。

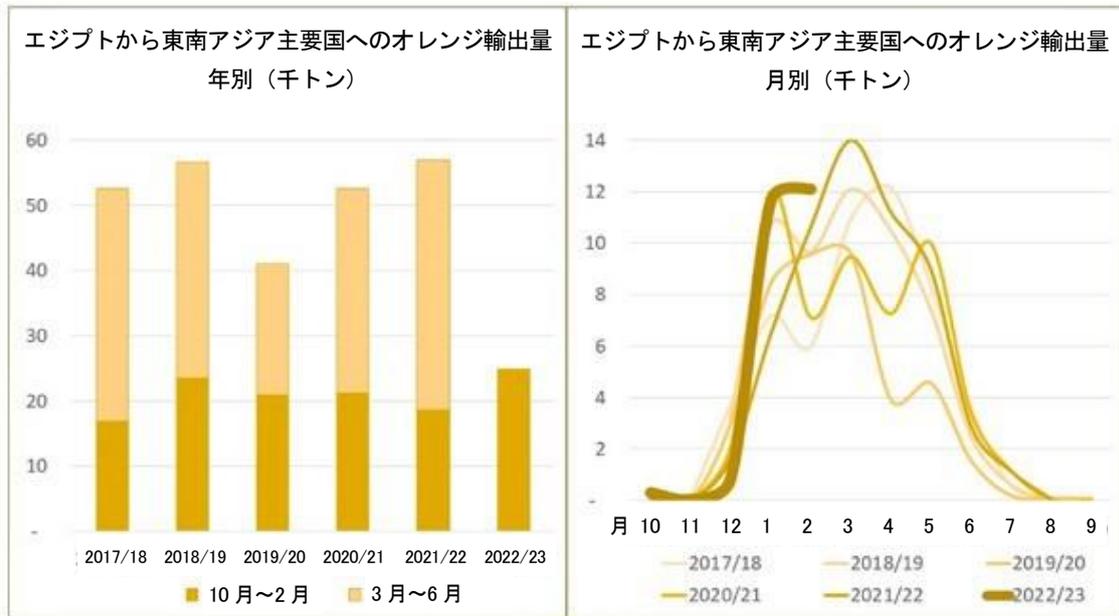
出典: [drewry.co.uk](https://www.drewry.co.uk)

30. エジプトの柑橘類輸出

(1) エジプトは北半球で最大の東南アジア向けオレンジ輸出国

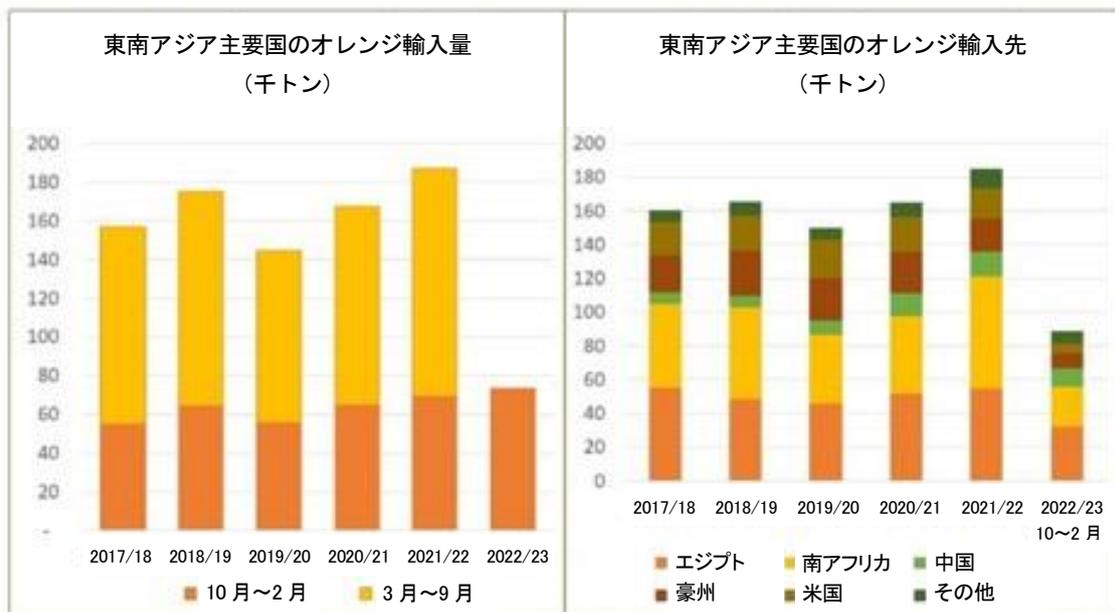
FreshPlaza 2023年4月24日

情報サイトEastFruitは、エジプトが東南アジア地域へのオレンジの輸出を積極的に増やしていると伝えている。さらに、エジプトは引き続き同地域への北半球最大のオレンジ供給国となっている。



今シーズンの最初の5か月(2022年10月～2023年2月)に、エジプトは約2万5千トンのオレンジを東南アジアの主要国(マレーシア、インドネシア、シンガポール、タイ、カンボジア)に輸出し、この時期の輸出量としては少なくとも過去5年間で最多となった。

エジプトはまた、引き続きこの地域への北半球最大のオレンジ供給国であり、輸出量に関して(南半球の)南アフリカに次いで第2位である。なお、南アフリカの輸出のピークは7月～10月であり、エジプトは1月～5月にオレンジの大部分を輸出するため、エジプトの輸出業者が南アフリカと直接競争することはほとんどない。



東

或の

市場への供給は、依然として少数の輸出国に非常に集中している。2つの主要輸出国(南アフリカとエジプト)は、この地域でのすべてのオレンジ供給量のほぼ3分の2を提供し、供給国トップ5(南アフリカ、エジプト、中国、オーストラリア及び米国)の合計シェアは年によっては96%に達することもある。

中国が東南アジア諸国のオレンジ市場におけるエジプトの主な競争相手であることに留意すべきである。ただし、中国からのオレンジの供給は主にベトナムに集中しており、よりプレミアムな市場(マレーシア、シンガポール等)での存在感は依然として限られている。それにもかかわらず、中国からこの方面への輸出も伸びており、5シーズンで2倍以上の1万5千トンになった。

東南アジア諸国では、エジプトは米国の輸出業者とも競合しているが、米国からの輸入は近年減少している。5シーズン前、米国はこれらの国への総供給量の13%を占めていたが、2021/22年度にはそのシェアは9%に減少し、エジプトからの輸入量約5万5千トンに対して、米国からの輸入量はわずか1万7,300トンであった。

スペインの輸出業者は、東南アジアの市場では一層影が薄い。スペインからこの地域へのオレンジの輸出量は昨シーズンわずか2,700トンで、エジプトの輸出量の20分の1であった。

出典: east-fruit.com

(2) エジプトの柑橘類の輸出量が200万トンに近づく

FreshPlaza 2023年4月25日

エジプトでは柑橘類の輸出シーズンが活況を呈しており、輸出量は昨年を上回っている。毎年の輸出額は10億米ドルに近づいており、これは外貨獲得の面で同国に大きな経済的利益をもたらしている。アルマンシ社(AlMansi Fruit: エジプトの柑橘類生産・輸出企業)のムハンマド・シャカー販売部長が、今シーズンの状況について語った。(以下「」は同部長の話)

同部長が提供した業界統計によると、エジプトは出荷シーズン終了の3~4か月前に当たる現在までに150万トンのさまざまな柑橘類を輸出しており、これは昨年の同時期と比較して10~15%多い。「我が国の柑橘類の輸出量は今シーズンの終わりまでに200万トンを超えると予想される。」同部長によるとこれは史上最高記録であり、その外貨獲得が毎年10億米ドルの大台に近づいている柑橘類産業は、重要な外貨獲得源となっている。

この輸出業者によると、今年の需要は強く、多様である。「エジプトの柑橘類にはいくつかの輸出先があり、シーズンの初めにはサウジアラビア、ヨルダン、アラブ首長国連邦から始まり、その後今年世界一となったオレンジの季節が到来し、バングラデシュ、インド、サウジアラビア、ヨルダン、ウルグアイ、さらにラマダン期間直前のイスラム諸国から非常に大きな需要があった。これに続いて、ブラジルとヨーロッパ諸国からの需要が集中し、今年は特にスペインの出荷量が少なく、同国に輸出するほどであった。スウェーデン、スペイン、イタリア、ギリシャなどのヨーロッパ諸国からはまだ強い需要がある。」

ほとんどの支払いは米ドルで行われ、次にユーロで行われた。同部長によると、輸出業者らはほとんどの場合支払いの問題に直面しなかったが、シーズンの初めには有害な行為が見られた。「一部の企業は手数料を払って委託販売で輸出することに熱心であった。これでは商品がしかるべき価格で扱われないため、これは重大な誤りであった。我々は最終的にどうにか状況を立て直し、相互尊重と相互信頼の精神ですべての関係者にいくつかの支払い方法を課し、また常連の顧客にはそれらがより容易になるようにした。弊社は今シーズン、適切な顧客に信頼を置いた結果、請求書の未払いが全くなかったと報告できることを嬉しく思う。」

エジプトポンドの切り下げも、年初には混乱を引き起こしたものの、輸出業者にわずかながら経済的利益をもたらしたと同部長は言う。「通貨の切り下げにより、価格設定の方針が曖昧になった。特に多くの輸出業者が闇市場での外貨交換に頼った際には輸出業者間の不自然な価格差を引き起こした。切り下げ後に均衡し

明らかになった価格は、我々にとってわずかに有利であった。しかし、反対に、輸入される資材やサービスのコストは現地通貨で増加した。我々は、包装、コーティング、消毒用の最高級の資材を大手国際企業からかなりの価格で輸入している。」

エジプトの柑橘類産業は、管理者、労働者、技術者、事務職員など多くの労働力を雇用している。これは現地通貨で支払われる巨額の人件費を意味し、エジプトポンドの切り下げの影響を輸出業者に有利にしている。

「エジプトには、輸出業者専用の柑橘類梱包施設が2,500以上あり、生産者や柑橘類に間接的に依存しているその他の産業を除いて、1社あたりの平均労働者は500人である。このセクターは労働力の大きな部分を吸収しており、その失業率低下への影響は外貨流出(の防止)と同じくらい重要である。実際、100万人以上の従業員の人件費は現地通貨で支払われており、これは業界の競争力を高めているが、通貨の切り下げは購買力とインフレの点で我々の社会に不利になることを忘れてはならない。政府は、この激しい経済危機の中で、インフレを抑制し、経済の車輪を回すために可能な限りのことをしている。」

同部長は、柑橘類産業の成長を最大限に活用するには、その国内経済への一層の統合が必要であると言う。「投入資材、包装、コーティング、消毒用品などの費用は生産費の最大75～80%に達し、これらの資材の50～60%が輸入されている。為替レートを最大限に活用するために、これらの産業をエジプト経済に統合する必要がある。柑橘類産業の(国内経済への)さらなる統合は、柑橘類だけでなく他の農業部門にも利益をもたらす関連産業の発展を可能にし、国内の資源を最大限に取り込んだ価値循環を達成するだろう。」

同部長によると、エジプトではこうした産業がすでにいくつか確立されているが、現在の国際競争の状況はそれらに有利ではない。「品質要件はコストを増加させ、価格が輸入品よりも高くなる。これらの企業が競争力を高めれば — それが早いことを望むが — 我々は彼らと協力することに躊躇しない。我々はすでにバリューチェーンの一部について限られた数のエジプトの製造業者と協力しており、彼らが提供するものの品質に大変満足している。」

「我々は、それぞれの立場から、このプロセスの重要性を認識している。政府はすでにこの方向性のプロジェクトを実施しており、物流の基幹部分の強化から着手して、業務の流動性、輸出業者への支援、輸出プロセスの改善に関して今年は多くのことが見られる。こうした取り組みが中期的に実を結ぶことを期待している。これにより、柑橘類関係者の効率が良くなり、生産量を最大化し、輸出を迅速化できるようになる。これは柑橘類セクターが、より魅力的で、より強く、(国内経済に)より統合されたものとなる第一歩である。」

執筆者: ユーネス・ベンサイド

31. 米国カリフォルニア州 生食用ブドウとサクランボの見通し

The Packer 2023年4月24日

カリフォルニア州の生食用ブドウ、イチゴ、サクランボ産業はすべて、雨、雪及び異常に寒い冬を特徴とする厳しい生育期間を経て、有望な年に向かっていているようである。(以下、イチゴについては省略)

生食用ブドウ

フレズノ郡に本拠を置くカリフォルニア州生食用ブドウ委員会のキャスリーン・ネイブ会長は、カリフォルニア州の生食用ブドウの出荷シーズンはコアアチェラバレー地域から始まり、そこでの収穫の開始は5月中旬から下旬になるだろうと述べた。

サンホアキンバレー地域での収穫は6月下旬または7月上旬に開始されると見られる。執筆時点では最初の作柄予測は入手できなかったが、早い時期の期待としては、2023年の収穫量は昨シーズンの9,510万箱(19ポンド(約8.6kg)/箱)に匹敵するか、それよりわずかに多くなると見られている。

品種別では、2022年にはオータムキング、スカーレットロイヤル、シーズン20(商標名アリソン)、フレーム(シードレス)、シーズン21(商標名アイボリー)が総出荷量の47%を占めた。昨シーズンの輸出量は出荷量の30%を占め、上位3つの輸出市場はカナダ、メキシコ、台湾であった。

ネイブ氏は、「国内市場と輸出市場の両方でカリフォルニア州産の生食用ブドウの需要を増やすために、2023年には積極的な販売キャンペーンが計画されている。それによって、小売業者がシーズンを通して大きな量を扱うように、また消費者がカリフォルニア州産のブドウを選択するように動機付ける」と述べた。

サクランボ

生産出荷業者らは、カリフォルニア州のサクランボの収穫は平年より7~10日遅れ、4月下旬または5月上旬に開始されるだろうと言う。

執筆時点で2023年の公式な作柄予測は発表されていないが、生産者らは今年の出荷量は、主に異常な暖冬のために前年の約1千万箱から減少した昨年の520万箱(18ポンド(約8.2kg)/箱)よりわずかに多いと予想している。

カリフォルニア州ディヌーバにあるキングフレッシュ青果会社のオーナーであるキース・ウィルソン氏は、「今年は低温時間が十分にあった」と言う。一方、一部の生産者らは雨と寒さのために減収すると報告した。

ウィルソン氏は、「弊社がここで栽培している品種については、着果がどうなるか、天候がどうなるかわからない」としつつ、5月20日までに販売促進できる量の収穫量となると見ており、「間違いなく販促が必要になる」と述べた。

カリフォルニア州ハンフォードにあるフレーバーーツリーフルーツ社のモーリス・キャメロン社長は、有機栽培のサクランボも量が多くなるだろうと述べた。同社長がカリフォルニア州でおそらく最大の有機サクランボ生産者であろうと言う同社は今年、有機栽培の面積を「大幅に」増やした。

カリフォルニア州は毎年サクランボを最初に出荷する州であり、出荷は6月の第3週頃まで続く。

執筆者: トム・バーフィールド

32. チリ 早生リンゴは価格が良い

FreshPlaza 2023年4月25日

チリのリンゴ輸出業者らは輸送コストの低下を目にしており、これは生産者が必要とする利益をもたらす助けになるであろうが、投入コストの上昇をカバーするにはまだ足りない。チリの生産・輸出業者プライズ(Prize)社の副社長であるクリストバル・ロドリゲス氏は、「海上運賃の低下にもかかわらず、他の投入コストの増加をすべてカバーするには、さらに高い価格設定が必要である。果実の品質と状態は良さそうだ。品種別ではガラは色も味も良い。クリップスピンク/ピンクレディー(商標名)がこれを追っている。グラニースミスは果肉が固く(同品種の特徴)、状態は良好である」と語る。

チリ全体では1月にガラ品種でリンゴの収穫が始まったが、プライズ社では2月にガラの収穫が始まり、4月中旬にクリップスピンク/ピンクレディーの収穫が始まった。同社は、チリのオイギンス州からニュブレ州までの地域に果樹園を有している。同社の目標は、この2023年シーズンに、ガラ、グラニースミス、クリップスピンク/ピンクレディーで5千トン達成することである。

同氏は、「弊社はガラとグラニースミスを主に南米、中米、中東に輸出している。早い時期の需要は強く、チリでの出荷価格(FOB)は22~18ドルであり、誰もが新シーズンの生鮮リンゴを手に入れたいと考えている。クリップスピンク/ピンクレディーは主にヨーロッパ、英国及び米国に輸出されており、そこでの価格はより不透明である。価格はヨーロッパの在庫量に依存しているが、これまでのところあまり需要がない(ため在庫が積み上がっている)。彼らにはすぐに貯蔵リンゴの在庫を一掃して欲しいものだ」と説明する。

同氏はまた、成長できる市場と新しい市場は毎年変化していると言い、「毎年状況が異なるので語るのは難しいが、我々が見るところ消費量は横ばいか、むしろ減少している。周年供給を可能にする新しい貯蔵技術があり、地産地消の傾向も強い。弊社にとって中南米は早生品種の良い市場であり、シーズン中のその他の時期の出荷はさまざまな産地や貯蔵リンゴの状況に左右される。新しい市場に関しては、出荷の機会があり価格設定に競争力がある限り、弊社はそれに取組む」と述べた。

執筆者: クレイトン・スワート

33. 米国カリフォルニア州 核果類の出荷も遅いスタート

FreshPlaza 2023年4月27日

この春にカリフォルニア州から出荷される多くの農作物と同様に、核果類の出荷も遅れており、スタートは来月になる。HMC農場のジョン・マクラーティ氏は、「収穫は本当に遅れており、昨年よりも確実に2週間遅い。フレズノ郡の核果類地帯の中心部ですべて栽培しており、出荷の開始は5月中旬から下旬になる」と言う。

また、その結果、出荷シーズンの終了は1日か2日遅れるかもしれない。同氏は、「出荷シーズンが進むにつれて遅れは圧縮される」と言う。同氏はまた、業界の一部のモモは核果類シーズン遅くの10月後半まで出荷され、一部の生産者のスモモの出荷はそれよりさらに遅いと指摘する。

収穫量に関しては、昨年と同程度になりそうである。同氏は、「出始めは霜のためにやや少ないかも知れないが、それほど悪くはない。その後の作柄はかなり良さそうだ。果樹園はあの雨の後、とても素晴らしく見える。それはほとんど土を浄化するようなものだったので、果実の品質は非常に良いと思う」と話す。

販促は可能か

同氏は需要について、昨年業界が経験した需要の増加に今年はさらに上乗せされると見込まれるので良好だろうと予想し、「また核果類の出荷期間の一部では、もう少し販促に力を入れるだろう」と言う。

一方、昨年の強気の価格設定は必要であった。同氏は「我々は何年もの間、作物を栽培するのに必要な水準と一致しない価格設定を行ってきた。果樹は永年性作物であり、育てるには時間がかかる」と述べた。

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

34. 米国 柑橘類の世界的リーダーシップの低下を農業団体が警告

The Packer 2023年4月26日

図 オレンジの国内生産量(州別)

2000年～2023年予測値 単位:百万箱



フロリダ州のカンキツグリーニング病が同州のオレンジ出荷量に打撃を与えた(米国ファームビューロー連盟)

米国ファームビューロー連盟 (AFBF) の新しい報告書によると、米国の柑橘類生産の減少は、同国が長年保ってきた柑橘類市場シェアの世界的リーダーとしての地位を低下させた。

エコノミストのダニエル・ムンク氏が執筆した市場情報報告書によると、米国は1970年には世界のオレンジの50%近くを生産していたが、2023年にはわずか5%であった。同氏は報告書の中で、「かつて柑橘類生産のリーダーであった米国、特にフロリダ州の柑橘類生産者は、国内供給を不運な減少に導いた多くの課題に直面してきた」と述べた。(以下「」は報告書における同氏の記述)

同報告書によると、米国の柑橘類の供給量が減少した一方、輸入は大幅に増加している。

「米国は、2000年には900万箱弱の生鮮柑橘類を輸入したが、2022年にはその数は320%以上増えて3,700万箱を超えた。」これらの柑橘類の輸入量の約半分はメキシコ産であり、チリ産(15%)とペルー産(10%)がそれに続く。報告書によると柑橘類の輸入は4倍に急増したが、米国の輸出量は2000年の2,600万箱から2022年にはわずか1,200万箱に減少した。

「米国の柑橘類の生産量は、米国の柑橘類生産者がもはや内需を支えることも、市場シェアで世界をリードすることもできないほどの非常に低い水準にまで低下した。」

同氏は報告書で、世界的な柑橘類のシェアにおける米国の減少分は、ブラジル(35%)、中国(16%)及びEU(12%)が獲得したと述べている。

報告書にはフロリダ州の柑橘類に関する課題が記載されている。それによると、気象現象が一定の役割を果たしているものの、気象現象による極端な生産リスクは、継続的に発生しているカンキツグリーニング病の存在によって「影が薄く」なっている。報告書はまた、その不治の病は、アジアから西半球に侵入してきた樹液を吸う小さな昆虫であるミカンキジラミによって運ばれるとしている。

2005年にフロリダ州で最初に検出されたこの病気は、成熟前の落果を引き起こし、果実は成熟しても小さくなり変形すると報告書は記している。

「2005年以来、フロリダ州のオレンジ生産量は90%減少し、1億5千万箱から2023年にはわずか1,600万箱に減少すると見られる。」さらに、報告書によると2002年から2017年の間に、フロリダ州の柑橘類生産者の数は7,389から2,775に減少(62%減)し、果汁加工施設の数も2003年の41から2017年には14に減少(66%減)した。

報告書は、オレンジと同様に、グレープフルーツもフロリダ州に影響を与える天候要因と病気に大きく関連して国内生産量が継続的に減少してきたとしている。「2000年以降、国内のグレープフルーツ生産量は6,700万箱から800万箱に減少(88%減)した。」フロリダ州で栽培されているグレープフルーツの国内産に占める割合は、2000年の80%から2023年にはわずか20%に減少した。

対照的に、カリフォルニア州のグレープフルーツのシェアは2000年の11%から2023年には51%に上昇したと報告書は記している。

なお、報告書は、カリフォルニア州とアリゾナ州に限定される米国のレモン生産は、1980年代以来、2千万箱から3千万箱の範囲にとどまっていると指摘している。

「生産量が明らかな増加を示している唯一の柑橘類は、従来からのタンジェリンのほかタンジェロ、マンダリン、クレメンティン等を含めたタンジェリン類である。小さな手のひらサイズで簡単に皮がむける種無しの選択肢を紹介する販促キャンペーンの成功により、生鮮オレンジ/タンジェリン市場におけるタンジェリン類の消費量シェアは、2000年の20%未満から40%以上に増加した。」

報告書は、カリフォルニア州は2023年に米国のタンジェリン類の97%以上を出荷し、残りはフロリダ州が出荷すると予測している。報告書はまた、カリフォルニア州は2016年に柑橘類の総出荷量でフロリダ州を上回ったが、これはカリフォルニア州の出荷量の増加よりも、フロリダ州の出荷量の減少のためだとしている。

必要な支援

報告書は、生産者が柑橘類の病害虫の蔓延を管理・制御するのに役立つ「新たな革新と研究への支援の欠如」が、国内の柑橘類市場の長期的な見通しを悪化させているとしている。

報告書の著者であるムンク氏は、カンキツグリーンング病と戦うための研究への継続的な投資を促した。

「これらの病気と闘う生産者のための効果的で経済的に持続可能な解決策を見出すためには、柑橘類病研究開発緊急信託基金等の事業の定期的な承認が不可欠である。さらに、自然災害に直面している営農を維持するためには、リスクから守る作物保険などの事業により、柑橘類などの価値の高い特産農作物を手頃な負担で適切に保護できるようにすることが重要である。」

ムンク氏は結論として、作物の種類に関係なく、農業が米国においてこれからも経済的な選択肢の1つであることが「不可欠」であると述べた。

同氏は報告書の中で、生産者が国内で生産する意欲を損わせる土地利用の変動、高コスト及び絡み合った規制の網は、国の食料安全保障を危険にさらし、農業生産を海外に移転させると述べている。

執筆者：トム・カースト

35. フィリピン RCEP批准書を寄託 6月に発効

フィリピン国営通信社(PNA) 2023年4月28日

マニラ発 外務省(DFA)は、フィリピンが地域的な包括的経済連携協定(RCEP)の批准書をインドネシアに本部を置く東南アジア諸国連合(ASEAN)に寄託したと金曜日(28日)に発表した。

フィリピンのジェイセリン・キンタナASEAN常駐代表は、協定発効の最終段階として、4月27日にASEANのカオ・キム・ホルン事務総長に批准書を手渡した。

フィリピン政府のASEAN代表部は、協定は同国で6月2日に発効するとしている。

キンタナ常駐代表は批准書を寄託するに当たり、「フィリピンのRCEPへの参加は、産業の競争力を高めるとともに、貿易を開放するための政府の既存の支援対策を同協定で定められた措置で補完できることから、特に重要である」と述べた。

RCEPは、ASEANとその6つのFTA(自由貿易協定)パートナー(オーストラリア、中国、インド、日本、韓国、ニュージーランド)によって2012年11月にカンボジアで正式に交渉が開始され、2020年に署名された。

フィリピン上院は2023年2月に協定を批准し、合意手続きの完了は署名国の中でミャンマーを除いて最後となった。

貿易産業省は以前、RCEPの下に集積されたより広範な地域において、多くのフィリピン製品が関税と原産地規則の面で市場アクセスの強化を獲得すると発表した。主な該当品目は、マグロ缶詰、ココナッツウォーター*1、コーヒー、フルーツカクテル*2、生鮮パイナップル及びドリアン*1、点火用配線セット、革製品、自転車等である。

執筆者: ジョイス・アン・L・ロカモラ

訳注: フィリピン産に対する日本の輸入関税率は*1: 元々無税、*2: 形状等により元々無税またはRCEPより低率

36. 台湾 輸入冷凍ベリーにA型肝炎ウイルス

Taiwan News 2023年4月28日

台北発(台湾ニュース) - 複数の報道は金曜日(4月28日)、チリから輸入され、コストコのスーパーマーケットで販売されていた袋入り冷凍ベリーから食品医薬品局(FDA)がA型肝炎ウイルスを検出したと伝えている。

17,000kg以上の商品が、それぞれ1.81kg入りの袋ですでに一般に販売された。スーパーマーケット業者は製品を棚から撤去し、203袋、合計367.43kgのベリーを処分した。

ラジオ台湾インターナショナル(RTI)は、FDAがカークランドシグネチャ社製のベリー3種ブレンド(ラズベリー、ブルーベリー、ブラックベリー)を5袋検査し、そのうちの1袋がウイルスに陽性であったと報じた。

消費者は、もし60日以内に症状が現れた場合はすぐに医療機関を受診するよう警告されており、突然の発熱、疲労感や体調不良、食欲不振、または嘔吐がないか自身で監視する必要がある。CNA(中央通訊社)によると、感染した場合、黄疸や目と皮膚の黄変が現れることもある。

医療関係者によると、水、貝類や甲殻類、生野菜、ベリー類等の果物にはウイルスが付着している可能性がある。

今年4月27日までに、台湾の中での30人のA型肝炎の症例と2人の渡航者の感染が記録されている。衛生福利部(保健福祉省)によると、昨年86人の感染が報告されたが、その前の年の同時期の感染者数は今年と同程度であった。

執筆者: マシュー・ストロング

37. オーストラリアの生食用ブドウ

米国農務省海外農業局 2023年4月28日

要約

オーストラリアの生食用ブドウ部門は過去10年間で大きな進歩を遂げ、出荷量は30%以上増加し、輸出量は50%増加した。コロナ禍による制約のため2年間にわたり生産と輸出が減少したが、コロナ禍前及びコロナ禍の最中のブドウ園への投資により、業界は上昇傾向を継続する道歩んでいる。輸出はエジプトや欧州連合と肩を並べ、アジアでは他の南半球の輸出国と効果的に競争しており、オーストラリアは世界的に重要なプレーヤーとなった。

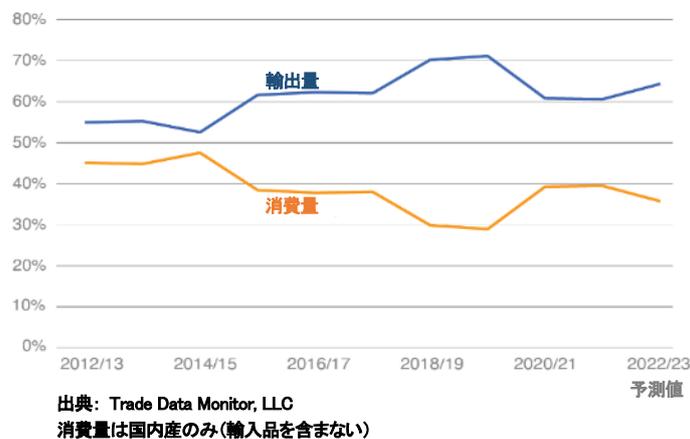
輸出が出荷量の伸びを主導



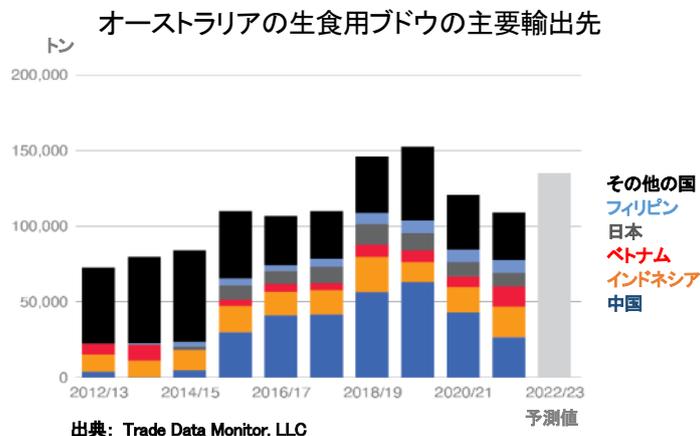
輸出主導の生産

オーストラリアの生食用ブドウは、8つの州と準州のうち6つで栽培されており、生産はビクトリア州とニューサウスウェールズ州に集中している。ビクトリア州のサンレイシア地域とマレーバレー地域は生産の70%以上を占め、ニューサウスウェールズ州の2つのリベリーナ地域(同名の別地域)は合わせて10%を占めている。いずれの地域も温帯性の気候が特徴で、冬は穏やかだが、成長を刺激し発芽を促進するのに十分なだけの低温時間がある。年間降水量は少なく、ほとんどの雨が収穫期間以外に降り、水はけの良い砂壤土であるため、ブドウ園は灌漑水に大きく依存している。オーストラリアの収穫期はノーザンテリトリーで10月に始まるが、出荷の大部分は南部のビクトリア州とニューサウスウェールズ州で行われ、そこでの出荷は5月に終了する。

出荷量に占める輸出量と消費量の割合



オーストラリアは過去5年間に平均約20万トンを出荷して世界の生産国の中で13位にランクされており、南半球の生産国の中では5位である(2021/22年度の推定に基づく)。世界の生産量に占めるオーストラリアのシェアは1%で横ばいだが、南半球では6%を占める。また、世界の輸出量に占めるオーストラリアのシェアは3%でほぼ横ばいであるが、南半球諸国の中では7%であり、2019/20年度には10%に達した。



南半球の他の主要な生食用ブドウ生産国と同様に、オーストラリアのブドウ生産は極めて輸出主導である。国産品の国内消費量は、2012/13年度以降平均7万トン未満であり、これは出荷量の45%から2022/23年度には36%に縮小すると予測されている。出荷量に占める国内消費量のシェアが減少した一方、輸出のシェアは2022/23年度の予測では55%から64%に上昇した。過去5年間の輸出量は平均約13万トンで、エジプト及び欧州連合の水準に近い。オーストラリアの輸出の伸びは主に中国によって牽引されており、中国向けの輸出量は2015/16年度に3万トンで単一国への輸出量の新記録を樹立し、中国はトップ市場となった。中国オーストラリア自由貿易協定の一環として、オーストラリア産生食用ブドウに対する中国の関税は2019年にゼロになり、中国への輸出量は6万3千トンのピークに達した。オーストラリアの総輸出量も過去最高の15万3千トンに達し、10年足らずで2倍以上になった。

しかし、2019/20年度のピークの後、天候やコロナ禍の影響を受けたため、収量は低下し、輸出量は30%近く減少した。平均以上の降雨量は作物の品質に影響を与えた。コロナ禍はまた労働力不足につながり、迅速な収穫を妨げ、それによって生産者が雨の影響を軽減する対応力が低下した。その結果として量が減少した荷は、運賃の上昇とコンテナ不足の影響を受けた。これらの課題にもかかわらず、輸出量は10万トン超を維持しており、ほとんどの主要市場で成長を示した。中国への輸出量は2019/20年度以降60%近く減少したが、2021/22年度には2万7千トンで引き続きオーストラリアの最大の輸出先であり、インドネシア(2017/18年度から26%増の2万トン)、ベトナム(2017/18年度のほぼ3倍の1万4千トン)がそれに続いた。中国は特にベトナムとタイへの生食用ブドウの主要輸出国であるが、オーストラリアの出荷は中国とは季節が反対で、南半球の輸出大国であるチリ及びペルーと競合している。生産量が大幅に減少したにもかかわらず、オーストラリアのアジア市場向け出荷量は、しばしばチリやペルーの出荷量を上回る。これはオーストラリアがアジア市場に近いことに支えられており、輸送時間の短さや果実の品質低下リスクの低さなどの利点がある。

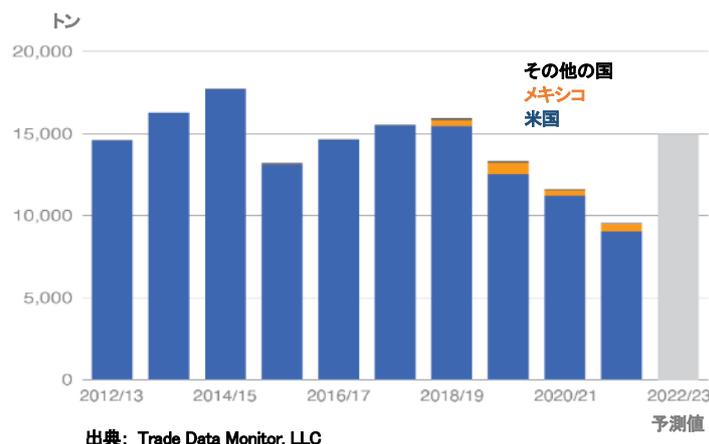
前進する産業

強い輸出需要を支えるため、ワイン用のブドウ園を生食用ブドウに転換するなどして、生食用ブドウの栽培面積が拡大している。出荷量は現在、緑色品種のメニンディー及びトンプソンと赤ブドウ品種のクリムゾン²が大部分を占めているが、新植面積の大部分は権利関係のある新しい種なし品種が占めている³。アジア市場は2021/22年度のオーストラリアの輸出量の95%近くを占めており、消費者の好みはオーストラリアの生産者の品種選択に大きな影響を与えている。種のあるレッドグローブは中国に輸出される主要なブドウ品種であったが、アジア全体として消費者は次第に種なし品種に目を向けている。種なし品種には、黒ブドウを含む様々な食味の選択肢があり、世界的に幅広い関心を集めている。業界の推定によると、コロナ禍以前は生食用ブドウの栽培面積は年20%の割合で増加していた。コロナ禍が続いている間、収穫労働力の不足によ

り、栽培面積の増加率は鈍化した。

オーストラリアの生食用ブドウ産業は、コミュニケーションと情報共有のための協調的な取り組みを通じて生産者を支援し、生産を改善するための強力な普及事業を構築した。この事業を通じた研究開発活動、最良の管理手法と技術に関するワークショップや農場見学会の開催、生産者の問い合わせへの対応などのサービスを提供することにより、生産者は新しい栽培手法を採用することができる⁴。この事業は、オーストラリア政府が集めた生食用ブドウ賦課金基金から資金提供され、その資金は、業界と協議して研究開発プロジェクトに資金を投入するホートイノベーション(Hort Innovation)^{*}に渡される。

オーストラリアの生食用ブドウ輸入はコロナ禍前の水準に回復する予測



他の南半球の生産国とは異なり、オーストラリアはかなりの量の生食用ブドウを輸入している。国内供給量は輸入により1万~2万トン増強され、これらはほぼ全量がオーストラリアのオフシーズンとなる数か月の間に米国から輸入される。一方、ホートイノベーションは、国内の購入量を増やすため、小売店内やソーシャルメディアからラジオ広告に至るまでの販売促進活動により、全国的な国内キャンペーンも実施している。米国产ブドウの輸入は、オーストラリアの店舗に国産品が並ぶ前に消費者の需要を高める働きがある一方、この販促キャンペーンは結果的に輸入を増やし、消費者の需要を高め、オフシーズン中の購入を増やしている可能性がある。オーストラリアは2021/22年度に3,400万ドル(1万トン)の価値がある米国にとって6番目に大きな輸出市場であった。

今後の見通し

収穫労働力の不足は、2022/23年度にも出荷量と輸出量に影響を与えると予想される。しかし、輸送の体制が改善し、新植された園地からの出荷開始が続くため、出荷量は21万トン、輸出量は13万5千トンに達し、コロナ禍以前の水準に回復するものと米国農務省(USDA)は現段階で予想している。ビクトリア州では2022年12月に洪水の被害があったが、これが2022/23年度の作柄と長期的な生産にどのように影響するかは様子を見る必要があり、米国農務省の予測は2023年6月13日に更新される。しかし、新植園地からの出荷が始まり成園化が進むにつれて、今後数年間で生産量と輸出量をさらに高い水準に押し上げることが予想される。

1 オーストラリアの販売年度は、10月から9月である。

2 ホートイノベーション 「オーストラリア園芸統計ハンドブック2020/21」

3 FAS/キャンベラ事務所、GAINレポートAS2022-0022 「生鮮落葉果実年次報告書」、2022年9月21日

4 ホートイノベーション 生食用ブドウ基金年次報告書2021/22

* ホートイノベーションは、「オーストラリアの園芸産業のための生産者所有の非営利研究開発法人」である。
(<https://www.horticulture.com.au/hort-innovation/the-company/>)

市場シェアと世界の貿易情報は、特に明記されていない限り Trade Data Monitor, LLC からのものである。

38. 世界のオレンジ市場

FreshPlaza 2023年4月28日

世界のオレンジ貿易は現在、様々な市場で様々な課題に直面している。オランダの輸入業者らは北ヨーロッパの寒さが柑橘類の販売に有利かもしれないと考えている。しかし、ベルギーでのオレンジ需要の低迷もまた、寒い天候のためだとされている。一方、シチリアのオレンジ栽培は悪天候の影響を大きく受けており、スペインのオレンジの輸出は3シーズン連続で減少した。

取引業者らは、エジプト産が市場からなくなり、南アフリカ産の早生のオレンジが入荷する5月中旬になると、オレンジの販売見通しが改善すると予想している。中国では、穏やかな冬のおかげで柑橘類の量と品質が良好だが、晩生オレンジ品種の収穫は1か月遅れている。他方、中国国内の柑橘類の価格は昨年と比べて大幅に下落し、期待外れであった。

北米のオレンジ産業はインフレと需要の減少に苦戦しており、フロリダ州の生産量はカンキツグリーンング病とハリケーンイアンの影響を大きく受けている。オーストラリアでは、オレンジの出荷量は前年比6%回復して50万1,072トンに達したが、出荷額は4%減の4億2,070万豪ドルとなった。一方、一部のオーストラリアの柑橘類輸出業者らは、2022年後半にインドの関税が半分に引き下げられたのを受けて、新たなチャンスを利用しようとしている。



オランダ：寒さが売り上げを押し上げる

オランダのある輸入業者は、「スペインとモロッコの柑橘類の出荷シーズンが早く終了したため、海外産のシーズンの順調なスタートが期待される。その結果、(途中で積み替えをしない輸出国から輸入国への)直送も増えている」と報告している。最新の予測によると、南アフリカではバレンシア種5,070万箱とネーブル種2,520万箱の出荷が見込まれている。この業者は、「果実のサイズは、ほとんどが小玉だった昨年よりも全体としてよいようだ。また、北西ヨーロッパの寒さは柑橘類の販売に有利かもしれない。一方で、人々がカフェテラスにオレンジジュースを飲みに行くような天候も必要だ」と述べた。

ベルギー：供給は良好だが需要はやや不足

柑橘類の出荷シーズンは南ヨーロッパから海外産地への移行期にある。ベルギーのある取引業者は、「今のところ、供給はまだ比較的良好だ。スペイン産のオレンジは変わりやすい天候のために苦戦しているが、南アフリカ産は有望なようだ。現時点で、価格はこの時期としては素晴らしい水準にある。需要については改善の余地があるが、それは主に寒い天候のためだ。復活祭(今年は4月9日)の前後は常に大きな需要があるが、今は少し落ち着いており、夏に向かえば人々は再びオレンジジュースのグラスに手を伸ばすだろう」と語った。

ドイツ：順調なシーズンを予想

ドイツ市場へのオレンジの供給はいまだ順調である。スペイン産のネーブル種は生食用オレンジの中で最も多く、少量のトルコ産とエジプト産のネーブル種がところどころでこれを補完している。果汁用では、スペイン産のサルスティアーナ種とエジプト産のバレンシアレイト種が特に多く、前者の価格は昨年水準を大幅に上回っている。

ブラッドオレンジ(果肉が赤い)では、まだイタリア産のモロ種とタロッコ種がある。タロッコ種の価格はわずかに上昇しているが、モロ種の価格はわずかに下がっている。スペイン産のサングイネッコ種もあり、価格の面ではイタリアの品種よりも安い。

エジプト産の輸入品はまだ5月末まで入手できると輸入業者らは予想している。彼らは2月中旬に始まってこれまでのところうまくいっているシーズンを振り返り、「終わりに近づいても、品質は満足のいくものだ」と言う。価格だけが非常に不安定であるが、全体的には昨年水準を上回っている。ある輸入業者は、「エジプト産のバレンシア種はまだドイツで取引が拡大していることがわかる。対照的に、エジプト産の生食用オレンジは限定的だ」と述べた。

イタリア：悪天候がシチリアでの栽培に深刻な影響

イタリアのオレンジ生産の重要な担い手であるシチリア島は、昨年の非常に暑い春、長くて厳しい夏、秋と初冬の特別な暖かさ、さらに年が明けた2023年2月のハリケーンなど、多くの困難に直面してきた。皮肉なことについて最近終わった復活祭(今年は4月9日)は、クリスマスよりもはるかに寒かった。

シチリア産オレンジの出荷シーズンは、今後数日で終了すると見なせるが、晩生品種のブロンドオレンジ(果肉の黄色いバレンシア種等)はまだ一定の量があり、島のあちこちに点在する産地から出荷され、5月中旬に終了する。

ブラッドオレンジ(果肉の赤いタロッコ種等)に関しては、今年の出荷シーズンは、果実の着色に必要な低温時間が不足したため収穫の開始が1か月以上大幅に遅れるなど、まったく満足のいくものではなかった。最後にはさらに悪化し、2月初旬の悪天候と同時に早期に終了した。2月8日から9日に襲ったハリケーンにより、完全には破壊されなかったオレンジの木も大きな被害を被った。夏から秋にかけての高温のためにサイズが標準以下になりすでに減収していた作柄は、最後の一撃を受けた。生産者価格が非常に高かったため、海外の一部のバイヤーはこの品目を価格表から削除した。

スペイン：スペイン産の輸出が3シーズン連続で減少

スペイン産柑橘類の出荷シーズンはすでに最終段階に入っている。出荷量は2021-22年度と比べて32%減少(-60万8千トン)した。生産者に支払われる価格は、多くの場合過去10年間で最高である。ネーブルオレンジの産地価格は現在0.40ユーロ/kgに近く、シーズンの初めから2倍になり、前年より164%、平均より47%高くなっている。梱包施設では、価格は1.00ユーロ/kgに近く(ネーブルレイトなどの一部の品種はそれを超えている)、2022年のこの時期より94%高く、平均より54%高くなっている。

産地でのそのような高い価格では、取引業者が他の産地、特にエジプト、ギリシャ、モロッコのオレンジと競争しなければならない場合、適切な販売価格を維持しつつ、利益を上げることは困難である。

アンダルシア州では今年、干ばつのためにオレンジの収穫量が非常に少なく、昨年は7月末まで出荷していた同州のセビリア県とコルドバ県ではすでに収穫を終えている。バレンシア州とムルシア州では最初のバレンシア種のオレンジが収穫されている。取引業者は、エジプト産が市場から無くなる5月中旬から、オレンジの販売見通しが改善すると予想している。南アフリカ産早生オレンジの最初のコンテナは6月上旬に入る見込みだが、6月下旬まではこの産地からの安定した供給は見込めない。

2022年9月から2023年1月31日までの合計数値を見ると、スペイン産オレンジの輸出は量的には3シーズン連続で減少しているが、金額では減少せず平均を上回って(+2%)いる。輸出量は、2023年1月末までの9月を除くすべての月で各月の平均値を下回った。一方、単位重量当たりの輸出単価は、昨シーズンと比

較して12%、過去5シーズンの平均と比較して16.5%上昇した。これは近年で最高の単価である。輸出量の減少は、様々な輸出先で見られるものの、過去の平均と比較してEU諸国(-12%)がその他の国(-10%)よりも減少率がわずかに高い。一方、スペインによるオレンジの輸入は、昨シーズンと比較して5.6%、過去5シーズンの平均に対して10.5%減少した。

エジプト：輸出が増加

エジプトでは、柑橘類の出荷シーズンが終わりに向かっているが、晩生のバレンシア種は8月末まで出荷される。量は豊富で、昨年より30~40%多い。エジプトの出荷業者は現地通貨の切り下げにより有利な為替レートの恩恵を受けており、価格は昨シーズンよりも低くなっている。

オレンジは、エジプトの柑橘類シーズンの成功に貢献した。同国は、ネーブルオレンジ等の様々な柑橘類品種を(今シーズン既に)150万トン輸出しており、これは昨年と同時期より10~15%多い。業界筋によると、晩生のバレンシアオレンジを含めると今年の輸出量は200万トンを超えると予測される。

エジプト産バレンシアオレンジの需要は、ロシアをはじめとする東ヨーロッパ諸国や西ヨーロッパ、南ヨーロッパ諸国、特にスウェーデン、スペイン、イタリア、ギリシャ等で大きくなっている。今シーズン早い時期のネーブルオレンジの需要は主にバングラデシュ、インド、サウジアラビア、ヨルダン、ウルクアイ、及びラマダン期間直前のイスラム諸国からであった。それに続いて、ブラジルと、特にスペインの出荷量が少ないためにヨーロッパ諸国からの強い需要があった。

南アフリカ：高コストへの懸念から輸出が減少か

2023年の予測輸出量は、ネーブル種が2,500万箱弱(15kg/箱)であり、バレンシア種は5,400万箱(同)を少し下回っている。

南アフリカのオレンジの輸出は、主にロシア連邦へのネーブル種の出荷が始まっており、中東にはまだほとんど出ておらず、米国には全く出ていない(昨年はこの時点で米国へのオレンジの輸出が始まっていた)。

上記の数字には、(南アフリカ経由で輸出される)ジンバブエ産、エスワティニ産、モザンビーク産、及び出荷が増えているボツワナ産のオレンジが含まれている。バレンシア種の輸出は第18週(5月初旬)頃に始まり、その後第22週(5月末)からすぐにピークに達する。最後のバレンシア種はおそらく第42~43週(10月後半)までに出荷されると見られる。西ケープ州の複数の生産者は、年間を通じてバレンシア種を収穫し、国内市場及び少量をインド洋の島々やアフリカ諸国へ出荷している。

南アフリカの大統領は、オレンジに対するEUの新しい低温処理について言及する頻度が高まっている。同大統領は数週間前のベルギー国王の訪問時と同様に、今週南アフリカを訪問したフィンランド大統領との会談の中でそれを取り上げ、さらに「我々は南アフリカの農産物、直近では我々の柑橘類、に対するEUの保護主義的な行為に失望している。我が国は現在、世界第2位の柑橘類輸出国であり、EUによる最近の決定は不公平である」とツイートした。

国内市場では、ネーブル種の入荷量がやや少なく、オレンジの価格はわずかに上昇して4.51ランド(約33円)/kgとなった。市場関係者らは、高いコストのために生産者らが輸出を減らすと、国内市場のオレンジの入荷量が圧倒的な水準に達する可能性があるという懸念を表明している。

中国：晩生柑橘類の遅れ

今年、中国の晩生オレンジ品種賓川^{ベンチアンフーワン}蝸柑(賓川蝸柑)の収穫は1か月遅れている。冬が比較的穏やかだったので、柑橘類の量と品質は良好である。しかし、柑橘類の国内価格は期待外れで、昨年よりもかなり低い。4月の中国の清明節の前は、市場価格が高かったが、それ以降下がりは始めた。

今年3月にイラン産の柑橘類が初めて空路で上海に到着した。一方、ベトナムでは柑橘類にまつわる事件があった。そこでは、その品質と手頃な価格で知られる中国温州産の柑橘類が、オーストラリア産柑橘類としてかなり高い価格で販売されていた。ベトナムの消費者は、果実の品質を高く評価していたため、この原産地偽装に気づいていなかった。中国からベトナムへの柑橘類の輸出は年々増加している。

南アフリカから中国への今シーズンの柑橘類輸出は困難であり、輸出量が大幅に減少すると予想される。課題は、高い投入資材価格、輸送コスト、及び積み出し港におけるストライキ等である。南アフリカは中国向けオレンジの大輸出国の1つであり、輸出シーズンは4月に始まる。最後に、エジプトは中国への輸出に関して総じて良好なシーズンを経験し、過去2シーズンと比較して大幅に改善した。エジプト産オレンジは果汁用に使われることが多く、昨年末から中国の外食産業が完全に再開されたため、需要は強く安定している。

北米：インフレが需要を鈍化させる

北米では、カリフォルニア州とフロリダ州がオレンジの主要産地である。フロリダ州では、カンキツグリーンング病(HLB)により、引き続き大きな損失を被っている。さらに、オレンジの果樹園は昨年秋のハリケーンイアンにより大きな被害を受けた。米国農務省の最新の数字によると、同州の2022-23年度のオレンジ出荷量は、昨シーズンの4,120万箱から1,610万箱に減少すると予想されている。

カリフォルニア州のオレンジ出荷量は、昨年の4,040万箱から4,610万箱に増加すると予測されているが、需要の減少が出荷量の増加に影を落としている。オレンジの需要はインフレの影響を大きく受け、供給が需要を上回る状況である。消費者はより価格に敏感になり、購入する品物についてより選択的になっている。

国産オレンジはあと数か月間出荷される。需要が鈍化しているため、米国産の供給は通常よりも長く続き、一方輸入シーズンは5月下旬に始まる。米国は主に南アフリカ、チリ、ペルー、ウルグアイ、アルゼンチンから柑橘類を輸入している。南半球の出荷シーズンは通常、5月から11月中旬頃までである。

オーストラリア：出荷量は6%回復するも出荷額は減少

最新のデータによると、2022年6月までの1年間のオレンジの出荷量は、不作であった前年から6%回復し、50万1,072トンに達した。出荷量の増加にもかかわらず、出荷額は4%減の4億2,070万豪ドルとなったが、オレンジは果実の中で4番目に出荷額の多い品目となった。過去5年間で、オレンジの出荷額は8,700万豪ドル増加した。輸出に関しては、金額、数量とも減少し、輸出額は9%減の2億6,020万豪ドル、輸出量は7%減の16万1,052トンであった。(1豪ドル=約90円)

オーストラリア産オレンジの国別で最大の市場は日本であり、他のほとんどの市場の輸入は2021年に比べて減少したが、日本はわずかに増加した。品種に関しては、ネーブル種が出荷量の85%を占め、バレンシア種が12%、その他が3%を占めている。

同会計年度には、1万1,394トンのオレンジが輸入され、その大部分は米国産であった。消費面では、オーストラリアの全世帯の62%がオレンジを購入し、買い物1回当たりの平均購入量は1.40kgであった。オーストラリアはまた、643キロリットルの非濃縮オレンジ果汁を輸入し、5,101キロリットルを輸出した。

一方、インドに関心のあるオーストラリアの一部の柑橘類輸出業者は、2022年後半にインドへの関税が半分に引き下げられたのを受けて、2023年シーズンに新たな機会を利用しようとしている。この協定により、オーストラリアの柑橘類の輸出業者は、関税割当制度の下でオレンジ(及びマンダリン)をインドに輸出できるようになる。この制度では、現在の30%の関税は15%に引き下げられ、この低い税率は毎年最初の1万3,700トンに適用される。

39. 北米 生食用ブドウ今年春夏の見通し

FreshFruitProtal 2023年5月2日

アリゾナ州ノガレス市に拠点を置くディバインフレーバー社の販売担当副社長であるカルロス・ボン氏は本サイトに対し、2023年夏のブドウの供給と市場の見通しについて、「我々は明確な考えを持っていると思う。第一に、技術的には、春と夏が重要だ。5月は間違いなく、ブドウの供給についてこれまでに経験した中で最も難しいものになるだろう。チリの出荷は早く始まった。ブラジルでは雨が降った(収穫が遅れた)。ペルーの2回目の収穫も雨が降り、ソノラ州(メキシコ)の収穫はかなり遅く始まる。ハリスコ州(メキシコ)は、4月と5月に出荷するすべての産地の中で、非常にうまくいっている唯一の地域である。ハリスコ州はまだ出荷期間の途中で、市場を充足するのに必要な量を十分に供給できないため、5月はブドウを確保するのが難しい月になるだろう」と語った。(以下「」は同氏の発言)

ボン氏は、緑色ブドウと赤ブドウの両方で価格が通常よりも高くなると言う。赤ブドウの方が、間違いなく厳しくなるだろう。ソノラ州では、緑色ブドウの出荷は赤ブドウよりもかなり早く始まる。5月の末から6月の初めになると、ソノラ州の出荷量は増え始める。6月は出荷量が勢いを取り戻し、良い月になるはずである。

「甘みの強い品種や地域特産の品種、通常の赤、緑、黒のブドウなどあらゆる種類の品種について、有機栽培も慣行栽培も販売促進の機会がこれから多くある。生産者としても小売業者としても5月に失った売上を取り戻すため、取引先と連絡を密にして協力することが重要になる。利益を取り戻すためには、適切な時期(週)と適切な価格帯をピンポイントで特定することが重要になる。」

「7月の第1週も供給が不足する可能性があるため、少し難しくなるだろう。弊社はまた、メキシコ産の後半で最大の生産者であり、弊社のメキシコの農場にはかなりの量がある。カリフォルニア州の早生産地であるサンホアキンバレー地域では、涼しく、雨が多いため出荷が遅れているようだ。弊社の晩生のブドウは常に最高の品質なので、(カリフォルニア州が遅れている分)いつもより多くのブドウを販売するチャンスがある。しかし、全体として、今年のメキシコ産からカリフォルニア州産への移行は簡単ではないと思う。」

40. 台湾 輸入ブルーベリーもA型肝炎検査で陽性

Taiwan News 2023年5月4日

台北(台湾ニュース) - コストコ台湾が17,000kgの汚染された冷凍ベリーミックスを消費者に販売したという先週のニュースに続いて、同社が輸入した15,000kg以上の冷凍ブルーベリーがA型肝炎の検査で陽性となった。(先週のニュース関連については省略しました。No36を参照してください。)

SETニュースによると、食品薬物管理署(FDA)は記者会見で、カーランドシグネチャ社が製造し、コストコ台湾が輸入した15,236kgのブルーベリーから採取したサンプルもA型肝炎の検査で陽性となり、コストコ台湾に対し6月2日まで冷凍ベリー類の輸入を禁じたと発表した。

コストコは、問題の製品と同じ賞味期限の冷凍ベリーを購入した会員に通知を送ると発表した。同社はまた、製品をリコールし、監督機関の要請に協力する。

同社は、賞味期限が2024年2月24日と2024年2月25日の冷凍ブルーベリーを購入した会員に対し、消費を中止し、最寄りのコストコ店舗に返品するよう通知した。

コストコは、各店舗に返品カウンターを設け、引き続き返品を受け付けると発表した。発熱、倦怠感、嘔吐、腹痛、黄疸などA型肝炎の症状が疑われる場合は、治療を受け、最近の食事の履歴を医師に知らせる必要がある。汚染されたベリー類について質問がある消費者は、コストコのカスタマーサービスセンターに連絡するよう奨励されている。

執筆者: ケオニ・エベリントン

41. 南アフリカ産柑橘類 収穫量が多いが課題も多い

FreshPlaza 2023年5月3日

オランダのオリジンフルーツダイレクト社では、南アフリカ産の最初のグレープフルーツとマンダリンの入荷が、南アフリカ産柑橘類のシーズンの始まりを告げている。最初のレモンも今週末までの入荷が期待されている。最近南アフリカの産地を訪れた同社のランドルフ・アルダイク氏は、「シーズン前はいつものように誰もが楽観的だが、南アフリカには克服すべき課題もある」と話し始めた。(以下「」は同氏の発言)

最大の課題は何かと尋ねると、同氏は笑いながら「結構な数があるが、時間はあるか」と答えた。電力負荷削減(電力網の負担を減らすために一定の時間行なわれる計画停電)は、特に幅広く影響する問題である。「時には、1日10時間から12時間電力が供給されないことさえある。それは一般の人々だけでなく、梱包施設や灌漑などにも大きな影響を及ぼしている。」

「包装、ディーゼル燃料、肥料、最低賃金などのすべてのコストも急騰している。これによって、果実一箱当たりの輸出コストが大幅に増加する。近年、海上輸送コストが非常に高い。少し下がっているが、まだ本来あるべき水準ではない。多くの柑橘農場が売りに出されており、今年はまだ一年生き残りを賭けることになる。」

「また、ヨーロッパの規制を満たすために、カンキツ黒星病(Citrus Black Spot)を駆除するのに莫大な費用がかかっている。残念ながら、今年は天候が好ましくなく、この真菌は一部の地域でかなり蔓延している。そのため、一部の生産者はヨーロッパに輸出するリスクを冒そうとさえしない。一方、ランド(南アフリカの通貨)が弱いため、現在の為替レートは南アフリカに有利であり、ユーロ/ドルの為替レートも完全に失望させるものではない。」

「グレープフルーツの出荷シーズンは、例年よりも良いスタートを切った。トルコ産が減っており、スペインとイスラエルにもグレープフルーツはあまりないので、市場には非常に荷が少ない。そのため南アフリカ産の最初のグレープフルーツの価格は良い。彼らはとにかくグレープフルーツの出荷期間を通常より短く、出荷量を通常より少なくしようとしている。また、必要な価格を得るために、大玉、小玉や2級品を輸出していない。」

「マンダリン類の価格も良い。ウンシュウミカンにつく値段の高さに驚いている。私の南アフリカ訪問中、ウンシュウミカンの収穫は終わっており、ノヴァやクレメヌーレなどの品種の収穫が始まった。作柄は良いようで、品質も良いようであったが、どのように市場に出してくるかは常に見極める必要がある。」

「南アフリカから最初のレモンが到着したら、次は最初のオレンジを待つ番だ。収穫は全般的に良さそうだ。ほとんどの地域、特に北部で十分な降雨量があり、果実のサイズは良好である。大玉については誰もがエジプトから買い付けているため、ほとんど出回っていない。したがって、エジプト産オレンジの出荷は当初の予想よりも早く終了するはずだ。」

「小玉はダブについて価格が低迷していたが、現在はわずかに上昇している。スペイン産はもうあまり供給がない。ギリシャ産はいつもどおり主にバルカン半島と東ヨーロッパに焦点を当てており、モロッコ産もほとんどない。この状況によって、(南アフリカ等)海外産のシーズンの良好なスタートへの道が開かれる。」

42. メキシコ ハリスコ州のアボカド輸出の半分は米国向けに

FreshFruitProtal 2023年5月8日

北米自由貿易協定(NAFTA)が世界最大のアボカド生産国であるメキシコから米国へのアボカドの輸入に扉を開いてから29年後、2022年6月28日にハリスコ州産のアボカドが初めて米国市場に参入した。

ハリスコ州アボカド輸出生産者協会(APEAJAL)の事務局長であるアルマンド・ガルシア・アングロ氏は、先週イタリアで開催されたマックフルーツ見本市での本サイトとの会話の中で、「2021年12月に米国とメキシコの間でハスアボカドの輸入に関する実施計画が改定されてハリスコ州が米国市場に参入するようになったが、その前は、同州は3つの主要市場に輸出していた」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

「ヨーロッパが我々のアボカドの約30%、日本が31%、カナダが33%を占め、合計で約11万5千トンのアボカドが3か国・地域に分けられていた。」同氏は、しかし、米国市場の開放により、総輸出量の50%が米国向けになり、カナダと日本のシェアは約19%に、ヨーロッパへの輸出は約8%と大幅に減少したと述べた。

「コロナ禍に伴う輸送時間とコストの両方についての物流上の問題のために、ヨーロッパ向けの輸出は減少した。この問題が到着時の果実の品質や価格に影響を与えることもあったため、ハリスコ州の輸出業者らは、リスクが少ない米国市場により多くの果実を割り当てることを決定した。」米国市場向けでは、果実の輸送時間は24時間未満であるが、ヨーロッパ市場向けの輸送には最大25日かかる場合がある。米国の一人当たりのアボカド消費量はヨーロッパの2倍である。

マックフルーツ2023に参加することの重要性

「我々は2つの目的でこの農業見本市に来ている。まず、イタリアのアボカドの市場がどうであるか、輸出業者は誰か、どのくらいのアボカドが消費されているか、そして価格はどうかを知りたい。ハリスコ州産アボカドの潜在的な顧客も探している。」ヨーロッパ市場ではペルー産が支配的であるが、その量は10月から1月の間にはそれほど多くないため、ガルシア氏は年末の時期にメキシコ産アボカドのチャンスを見出している。ヨーロッパへの輸入に関する他の大きな課題は、当局が要求する制限や許認可が多いことである。したがって、米国市場は輸出業者にとってより扱いやすい。

米国におけるハリスコ州産アボカド

ガルシア氏によると、米国にはまだメキシコ産アボカドの潜在的な巨大市場がある。ミチョアカン州(メキシコの主要産地)の出荷の開始は7月で、通常5月から7月の間は米国市場に供給するのに十分なメキシコ産アボカドの量がないため、ハリスコ州産のアボカドはこれの補完になる。したがって、新しい輸出産地は、メキシコ産アボカドが米国で一年中消費されるよう、端境期を埋めることを意図している。

米国市場の重要性にもかかわらず、メキシコの生産者らはインド、韓国、中国、さらにはチリなどに新しい市場を拡大できるよう、作物生産の効率性を改善することに注力している。

社会的責任

持続可能性は今年の見本市で最も話題になったトピックの1つであり、ガルシア氏は気候変動の影響を緩和し、適応することの重要性を強調した。「近い将来、アボカドの産地は生産に適した気候条件にない可能性があり、それが世界中のアボカド産地の再編につながるだろう。我々はすでに、荒天から果樹と果実を保護するための技術に取り組んでいる。」

APEAJALは、産地の森林保全にも取り組んでいる。

それとは別に、同団体は責任ある雇用について生産者を評価しており、現場に児童労働や強制労働がないこと、また労働条件がすべての労働者にとって良好であることを確保している。

43. 柑橘類の北半球から南半球への移行は順調か

ASIAFRUIT 2023年5月9日

北半球の出荷量が少ないため、南アフリカ等南半球の輸出国は順調なスタート

南アフリカの柑橘類セクターは、北半球から南半球への出荷シーズンのスムーズな移行が期待できると聞かされている。

南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)のジャスティン・チャドウィック代表は、世界柑橘類機関(WCO)の年次総会のデータを参照しつつ、地中海地域の出荷量が過去10年間で最少であることから、北半球から南半球への産地の切り替えは円滑なものになるはずだと述べた。(以下「」は同氏の発言)

「スペイン産の晩生のオレンジは4年間の平均を27%下回っており、スペインのヴェルナレモンは平均に対して32%少ない。」

WCOに提供されたデータによると、輸入価格は20~38%の大幅な上昇を示しており、レモンが最も値上がりした品目である。

WCOの報告書は、「ヨーロッパでは、南半球産の輸入柑橘類は他の果実、つまり過去2シーズンよりも量が多いと予想される核果類やバナナとの競争がある」としている。

チャドウィック氏は、世界の柑橘類の新植と栽培面積の伸びを指摘する。

「柑橘類の栽培面積は、2013年以降南半球で拡大している。オレンジの栽培面積13万2千ヘクタールから13万6千ヘクタールに緩やかな増加を見せたが、マンダリンの栽培面積は6万7千ヘクタールから8万8千ヘクタールに大幅に増加し、レモンについても同様に6万5千ヘクタールから8万7千ヘクタールに増加した。」

チャドウィック氏によると、オレンジの推定輸出量は157万トンで、依然として南半球の柑橘類輸出をリードしており、これは2022年に比べて2%増加し、5年平均よりも1%多い。

マンダリンは約100万トンで、2022年に比べて3%増加し、5年平均に比べて16%多い。ただし、マンダリンの最終的な数値は、暫定的な推定値よりも低いため、WCOの年次総会で提供された情報とは異なる。

レモンは92万8千トンで2022年より10%少なく、5年間の平均程度の水準である。

最後に、グレープフルーツは22万トンで、2022年に比べて13%、長期の平均より13%少ない。

チャドウィック氏は、南アフリカの生産者向けの報告の中で、今シーズンこれまでの輸出量は980万箱で、前年の650万箱を上回ることも明らかにした。

「2023年の推定を行う過程は、世界的な要因に関する不確実性と2022年の経験を踏まえ、非常に困難であった。検討を重ねた結果、マンダリン担当グループは、昨シーズンから7%増の3,410万箱に落ち着いた。ウンシュウミカンが予想出荷量155万7千箱のうち、すでに141万3千箱(91%)が梱包されており、ほぼ完了している。」

南アフリカの予想総出荷量は、昨年の1億6,480万箱に対し、依然として1億6,560万箱で変わらない。

執筆者: フレッド・メインチェス

44. ニュージーランド キウイフルーツの出荷量が急減

EUROFRUIT 2023年5月10日

ゼスプリは2023年産キウイフルーツに高い品質を期待しているが、出荷量は昨年より大幅に減少する

ゼスプリは、2023年産の生育期間を通しての悪天候のため、今シーズンのニュージーランド産キウイフルーツの収穫量は予想を下回ることを確認した。

販売事業者である同社は、現在の予定では、グリーン、サンゴールド、ルビーレッドのキウイフルーツ約1億3,600万箱を50か国以上に輸出するとしている。これは、2022年の1億7,100万箱より少なく、4月のテプケ地域での雹害に関する被害調査が完了したので、今シーズンの収穫量はさらに減少する可能性がある。

ダン・マシソンCEOは、ニュージーランドの生育期間は極めて困難であり、生産者は複数の悪天候の影響を受けたと述べた。同氏は、「世界中の第一次産業の多くの生産者と同様に、多くの天候関連の問題など、キウイフルーツ生産者はこの生育期間に特に困難に直面した。その結果、今シーズンの取引先へのキウイフルーツの供給は限られる。特にグリーンキウイフルーツは、過去20年間で最低の水準が予想され、出荷量は2022年の約6,100万箱から約4,200万箱に減少する」と語った。(以下「」は同CEOの発言)

「課題はあるが、世界中のゼスプリチームは、今シーズン可能な限り良い結果を得るために、世界中の取引先と共に懸命に取り組んでいる。」

同CEOは、生産量の減少は残念であるが、業界が今シーズンの果実の品質の向上に注力し、2024年の出荷量の増加に備えるチャンスになると述べた。

「今シーズン、収穫物の品質を確実に向上させるなど、可能な限りのことを行って品質を高めるため、キウイフルーツ業界とサプライチェーン全体で多大な努力が払われてきた。それは、業界の品質行動計画の一部として確立された取組みによってサポートされている。」

同CEOは、出荷初期の果実はかなり優れた品質を示しており、このフィードバックは主要市場で一貫していると述べた。「我々はすでにアジア市場でそれを見てきたが、現地の消費者からの強い需要を満たすため先週末に最初の荷が販売されたヨーロッパでも同様だ。」

今シーズンの果実は半分以上が収穫されており、2024年に予想されるはるかに多くの果実を管理するため来シーズンの計画をすでに策定中である。

「供給の観点からは、生産者らが今シーズンの天候関連の収穫量の減少から回復し、サンゴールドキウイフルーツの承認園地の成園化が進むため、2024年には出荷量が大幅に増加すると予想している。」

「この増加は今後何年も続くと予想されており、ニュージーランドだけでも2027/28年度には約2億3千万箱に達すると予測されている。北半球からの供給も、2027/28年度までに今年の2,500万箱の2倍以上になると予測されている。」

「こうした出荷量の増加が成熟段階に入ることにより、取引先とともに持続可能な成長をし、生産者にとっては持続可能な収益を得られる時代に戻るための絶好のチャンスとなる。」

「我々の業界は、ブランドに多額の投資を行い、新しい市場を開拓するほか、悪天候を克服し、今後取引先と消費者に常に高品質のキウイフルーツをもっと大量に提供し、生産者と産地により多くの利益を還元できるよう、サプライチェーンのさらなる強靱化に懸命に取り組んでいる。」

執筆者： マウラ・マクスウェル

45. トルコ 低温のためサクランボの収穫に遅れ

FreshPlaza 2023年5月10日

トルコの青果実輸出業者アララ・タリム社の副社長であるベリット・バルジ氏は、「トルコのサクランボの生育期間の天候は良好であった。低温時間は十分あり、晩生地帯の満開期に夜の降霜が数回あったほかは、開花期の気温は温暖であった。この降霜は潜在的な生産量に大きな影響を与えなかった。早生地帯の果実は傷などが無く品質が良いようだ。晩生地帯の状況については1週間から10日で明らかになる。現在の5月の気温は過去の月平均よりも低く、早生地帯では収穫の開始が5月25日ないしは29日まで遅れる。サクランボの出荷シーズンは8～9週間で終了すると予想される」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

バルチ氏は、サクランボの輸出シーズンの準備はほぼ完了しているが、世界経済の現状では課題はすでに明らかだと説明する。「需要は良好で、EUや英国、その他海外の小売業者との販売計画はほぼ出来上がっている。世界経済のインフレ環境のため、生産コストが過去のデータと比べて高くなっているが、ターゲット市場の消費者は、この金のかかる環境下で節約するためにより安価な商品を求めており、それがジレンマを生み出している。弊社はこの状況を綿密に観察し、市場と生産者のバランスをとるように努めるが、それは簡単なことではない。」

需要が強いため、価格が高くなる可能性はある。同氏は、しかし、輸出が実際に始まると市場がどのようになるかは分からないと言う。「EUと英国が弊社の主要市場になる。その他海外からの需要もあり、それらの市場の小売業者との商談を開始する。価格は需要と供給のバランスの結果である。したがって、我が国と競合国の季節的な動向の全体像が把握できれば、予想される市場価格が分かる。」

競争は熾烈だが、同氏は取組みを進めるだけの十分な果実を確保できると考えている。「出荷期間が我々と同じ5月末から7月末までの国が競争相手だ。品質とサービスで他との差別化を図り、持続可能な方法で市場の期待に応えることが肝心であり、自社の220ヘクタールでトルコの在来品種とは異なる世界的に受け入れられている品種を生産していることが助けとなる。ユニテック社製の最新型の洗練されたサクランボ選果ラインが弊社の高い出荷能力をサポートしており、世界の果実売り場に最高品質のサクランボを提供することができる。市場と生産者のバランスをとることが持続可能性の鍵である。」

執筆者: ニック・ピーターズ

46. 米国 生鮮リンゴの輸出と在庫は引き続き低水準

FreshFruitProtal 2023年5月11日

2022年の収穫量の減少により、米国産生鮮リンゴの出荷量は減少した。したがって、統計上の出回り量が依然として低い水準にあることは驚くに値しない。米国リンゴ協会が5月10日に発表した最新の報告書によると、2023年5月1日現在の米国の生鮮リンゴの貯蔵量は合計4,020万ブッシェルで、昨年5月に報告された在庫量(4,120万ブッシェル)より2.3%少なく、5月の5年平均(4,170万ブッシェル)より3.5%少ない。

それに伴って、米国のリンゴの輸出量は、在庫以上に減少している。米国リンゴ協会の図表によると、2023年3月の生鮮リンゴの輸出量は300万ブッシェル未満であった。2022年3月の数値は約400万ブッシェルで、3月の輸出量の5年平均は約500万ブッシェルである。

2023年3月の生鮮リンゴの輸入は、国内の貯蔵品の供給量が多いためほとんどなく、これは従来と同様である。通常、米国市場には4月から輸入リンゴが入り始め、7月にはピークの約200万ブッシェルに達する。夏の終わりに国内の収穫が始まると、輸入量は急速に減少する。

州別の5月の生鮮リンゴの貯蔵量は、ワシントン州が約3,500万ブッシェルで、うち2,750万ブッシェルがCA貯蔵庫にある。ミシガン州が大きく離れた第2位で、230万ブッシェル全量がCA貯蔵庫にある。次いでニューヨーク州が第3位で、CA貯蔵庫に160万ブッシェル、通常の冷蔵倉庫に30万6千ブッシェルある。(過去の貯蔵量等を一部省略しました。米国リンゴ協会の報告書では1ブッシェル=42ポンド(約19kg))

47. 世界のアボカド産業 成長の10年

FreshFruitProtal 2023年5月11日

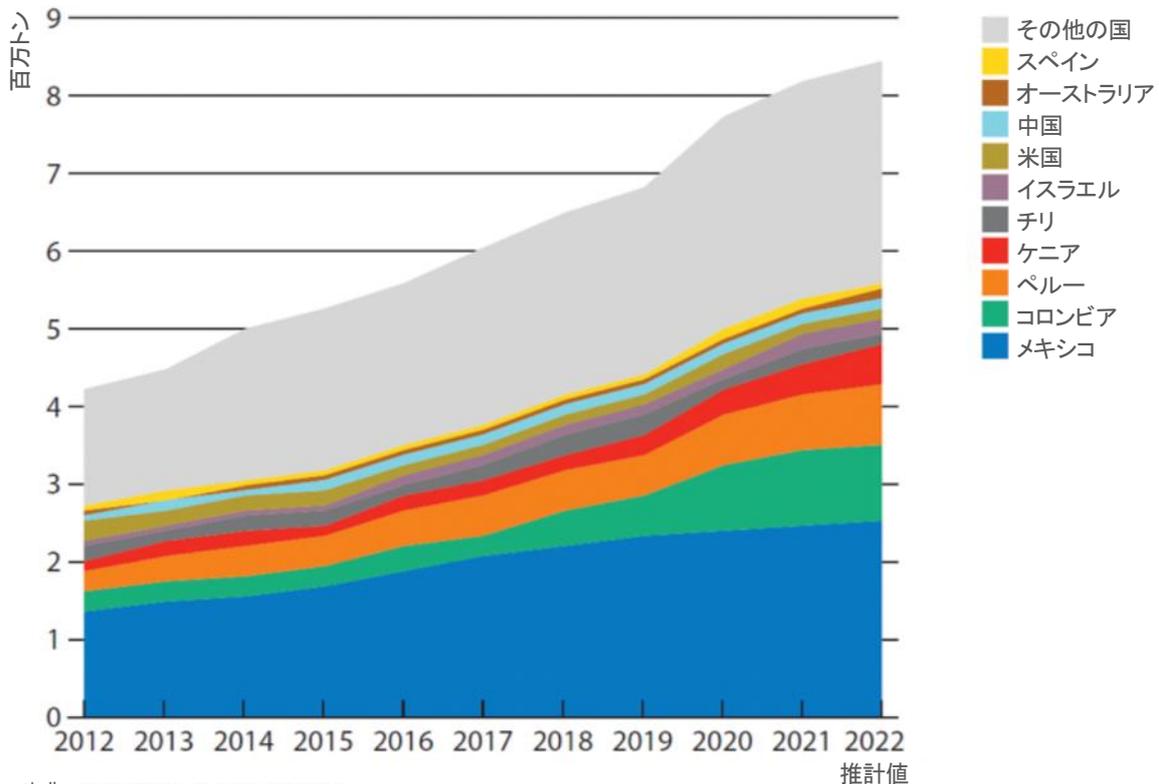
過去10年間でアボカドの消費量が急増し、生産量と貿易量と同じ方向に導いていることが広く報告されている。いわゆる「緑色のゴールド」の需要の増加により、果実の価格が上昇して青果物の中でのプレミアム商品となり、消費者のほか、その収益性のために特に生産者から強く望まれている。

ラボバンク(オランダの金融機関)による2012年から2022年までのデータを分析した新しい報告書によると、世界のアボカド市場は現在約180億米ドルの価値がある。報告書は、「今後数年間、アボカドの取引は成長を続けるであろうが、市場はより競争が激しくなり、市場の運営者は効率を高めるだけでなく、ますます持続可能になる必要がある。出回り量は安定していると予想されるため、消費者は主要市場で比較的手頃な価格の恩恵を受け、このスーパーフルーツの人気が高まるだろう」と記述している。

世界のアボカド出荷量はわずか10年で急速に増加し、2022年には合計840万トンとなり、成長率は年7%であった。報告書は、現在世界のアボカド出荷量の30%を占め、過去10年間で6%増加したメキシコをはじめとする世界の主要産地をカバーしている。

メキシコのほか、世界のトップ10の生産国には、チリ、コロンビア、ペルーの3つの中南米諸国が含まれる。コロンビアとペルーの出荷量はそれぞれ15%及び12%増加し、現在、世界の出荷量の12%及び9%を担っている。

図1 世界のアボカド生産量は急速に増加



一方、米国は2012年には輸出国トップ10(下図)に登場していたが、その後、スペイン、オーストラリア、イスラエル、ケニアなどの国々が出荷量を増やしたことにより順位を落としている。

上位生産国のこの地理的な多様性により、収穫期が補完的であるため、アボカドの世界的な周年供給が保証されている。

主要輸出国及び輸入国

輸出量が年平均8%で増加しているとは言え、2022年には「ペルー、ケニア、南アフリカ及びモロッコからの輸出量の増加が、メキシコ、スペイン、チリ、イスラエルの生産量と輸出量の減少を補い切れなかったため」、5%の減少となった。

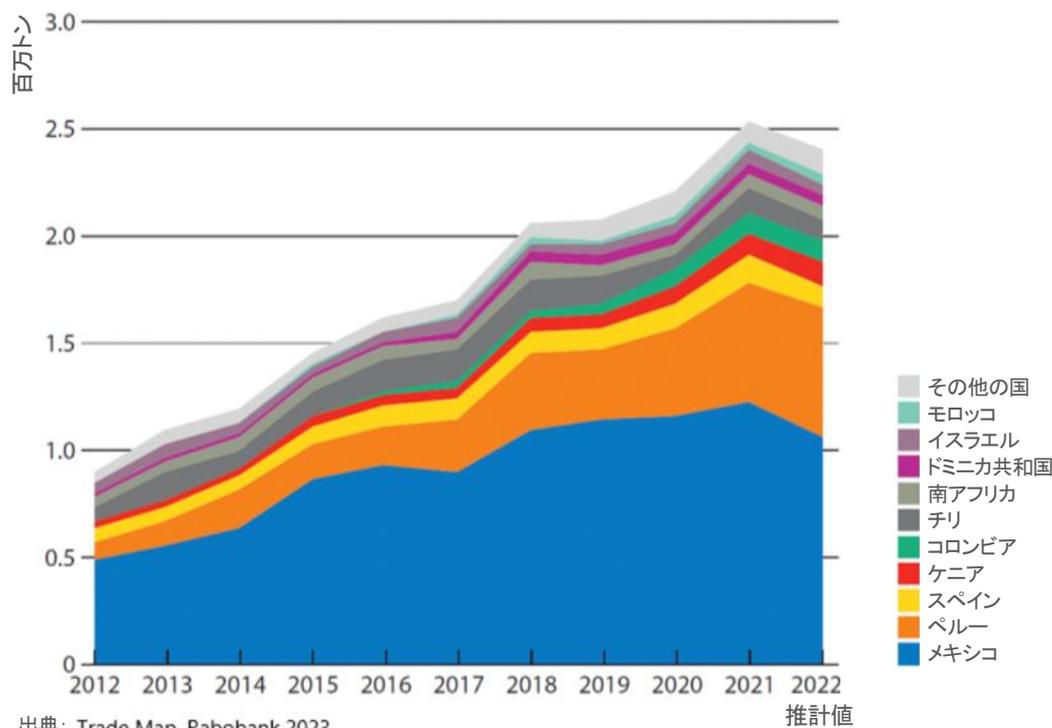
メキシコは依然として最大の輸出国であり、2022年にも100万トンを超えている。チリ、コロンビア、ケニア、ペルー、スペインからの輸出も増加しており、ペルーが年平均成長率22%で牽引している。

トップ10のリストに載っている唯一のアフリカの国であるケニアは、2012年から2022年の間に輸出量を15%増加させ、現在、年間200万トン近いアボカドを輸出している。

2012年にはアボカドを全く輸出していなかったコロンビアは、近年輸出市場に参入し、2022年の輸出量は9万9千トンに達した。

輸入に関しては、米国が依然として世界最大のアボカド輸入国であり、10年間で8%増加し、メキシコが主要な供給国となっている。チリは、輸入国上位10か国の中で輸入量の増加を主導しており、2012年の1千トンから2022年には5万9千トンとなった。

図3 世界のアボカド輸出量は過去10年で力強い成長



持続可能性

アボカド産業は、持続可能性の問題に言及せずに論じることはできない。これは、特に水の使用に関して、業界がどれほど持続可能であるかを懸念している生産者、輸出業者、輸入業者及び消費者にとって重要な事柄になっている。

報告書はこの問題を取り上げており、業界が「アボカドの栄養上の利点と持続可能性の問題について消費者教育を行う努力を強化している」ことを示している。

気温の上昇とアボカドの生産に伴う高い水需要により、世界中のアボカド生産者は水の使用を最適化するために、新しく高度な灌漑システムを取り入れることを余儀なくされている。報告書によると、コロンビアやドミニカ共和国などの熱帯諸国では、生産は主に天水に頼っている。一方、イスラエル、チリ、南アフリカなどの国では、降雨が特定の月に限定されるため、生産者は灌漑で補完することを必要としている。

48. ブラジル 2023-24年度のオレンジ出荷量当初予測

FreshPlaza 2023年5月11日

ブラジル柑橘類ベルト地帯の2023-24年度の最初のオレンジ出荷予測は3億934万箱である。この予測は5月10日に発表された。予測出荷量は、前年の出荷量の3億1,421万箱より1.55%少ない。

柑橘類保護財団(Fundecitrus)は、降雨量が過去の平均を50%上回っており、こうした気象条件が2023-24年度の作柄に良い影響を与えていると報告していると、業界情報サイト Citrusindustry.net は伝えている。一方、ブラジルでは、ミカンキジラミの個体数とカンキツグリーンング病の発生数は増え続けている。

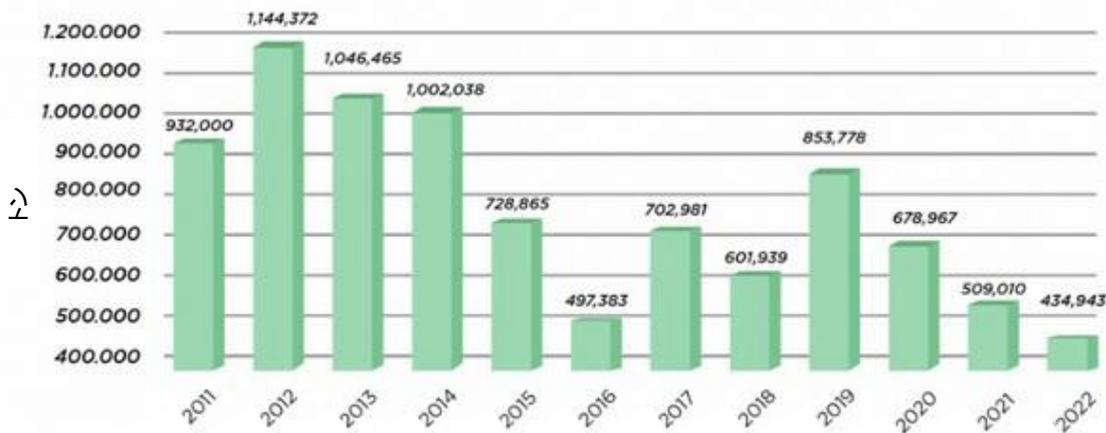
品種別の予測

2023-24年度のオレンジ出荷量予測の内訳は以下のとおり:

- ・ ハムリン(Hamlin)、ウェスティン(Westin)、ルビ(Rubi) 5,611万箱
- ・ その他の早生品種の1,822万箱
- ・ ペラリオ(Pera Rio) 9,895万箱
- ・ バレンシア(Valencia)及びバレンシア・フォリャ・ムルチャ(Valencia Folha Murcha) 1億523万箱
- ・ ナターレ(Natal) 3,083万箱

複数の独立監査法人がブラジル柑橘輸出業者協会(CitrusBR)の各会員を対象に調査を実施し、ある外部監査機関が内部資料としてとりまとめた結果によると、2022年12月31日現在の同協会の会員が世界中に保有するブラジル産オレンジ果汁の在庫量は43万4,943トン(冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)換算)で、前のシーズンの50万9,010トンと比較して14.5%少なかった。果実の最終加工データと歩留まりは、現在のシーズンが終了した後で開示される。

CitrusBR 加盟企業が世界に保有するブラジル産オレンジ果汁の推移(各年の12月末時点)
66ブリックス冷凍濃縮オレンジ果汁換算のトン数(冷凍濃縮果汁と非濃縮果汁の合計)



出典: citrusbr.com

49. 南アフリカの果実輸出 新しい市場で進展

FreshPlaza 2023年5月11日

全体として見ると、農業は南アフリカのGDPの2.5%を占めるに過ぎないが、輸出額では11%を占めている。農業部門は全体的に輸出志向であり、出荷額の約半分を輸出している。南アフリカの果実産業は圧倒的に輸出に焦点を当てた産業であり、生鮮果実は南アフリカの農産物輸出の約35%を占めている。研究開発や生産者・業界団体の能力開発の何十年にもわたる取組みが、世界的に競争力のある高品質の果実の生産に結び付いた。例えば、南アフリカは世界第2位の柑橘類輸出国であり、第6位のナシ生産国、第7位のブドウ輸出国、第8位のリンゴ輸出国、第9位のアボカド輸出国である。

輸出市場に関して果実産業は、従来からあるEU、英国、米国の市場を維持・最大化するとともに、東アジアと中東の新しい市場へのアクセスを獲得しようとしている。柑橘類は最大の輸出作物でほぼ3分の2を占め、仁果類(ナシ、リンゴ等)、生食用ブドウ、核果類(スモモ、モモ等)、亜熱帯果実がそれに続く。南アフリカの輸出業者は、インド、中国、日本からマレーシア、フィリピン、タイ、韓国、ベトナムに至るまで、幅広い東アジア市場への参入に熱心である。ほとんどの品目は新植により生産を拡大しており、近い将来輸用量が増加することから、成長する果実部門には新しい市場が必要である。

果実の種類	2022年に対する2027年の予想成長率
ベリー類	110%
ブドウ	3%
柑橘類	39%
亜熱帯果実	6%
落葉果実	15%

農業ビジネス協会(Agbiz)のウルフ・ブラウデ氏は、「日本や中国など一部の市場では、各(柑橘類)品種を別々に提供する必要があるため手間がかかり、非常に遅いプロセスになる可能性があるが、これらの市場である程度の進歩を遂げている。中国では南アフリカ産柑橘類に対する大きな需要がある」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

現在、米国では黒星病の非汚染地域の柑橘類のみを輸入できるが、ウルフ氏はこれが早期に変わることを期待している。さまざまな港からのアクセスが開放されたため、米国への輸出が増加している。

アフリカ諸国も、南アフリカ産のあらゆる種類の果実の潜在的に大きな輸出市場である。現在、リンゴとナシは西アフリカと東アフリカで好調である。アフリカ市場の問題は、新しくできたアフリカ大陸自由貿易圏でさえ、多くの国々が必要なインフラを欠いているため、完全なコールドチェーンを確保できないことである。国境通過の過度の遅延と統一されていない植物検疫体制がリスクを増大させている。

「プロトコル(手順や規則)を正し、国境手続きを合理化するためにアフリカ市場に多くのエネルギーが投入されてきたが、冷蔵貯蔵施設がなければ、生産者にとって大きなリスクであり、国境での遅れも果実に影響を与える。アフリカ市場から得るべき利益はあるが、他の地域の市場の方がはるかにリスクが少ない。」

ヨーロッパはこれまで常に南アフリカ産果実の最大の輸出先の1つであり、今後もそうあり続けるであろうが、柑橘類の輸出に関するプロトコルの最近の変更により、それは非常に困難になり、また果実の輸出にある程度の不確実性をもたらした。

「柑橘類の規則がそのように突然変更されるのであれば、他の果実にもリスクがあるのか? 現在の措置は正当化されないが、公正な解決の余地もあるはずだ。それは双方に受け入れられる暫定措置であり、このことが南アフリカ政府がWTOに訴えることを業界が支持した理由である。それは微妙な状況であり、慎重に交渉する必要がある。結局、年間52週間柑橘類を売り場に置くことが、すべての人の最大の関心である。南アフリ

カは、EU向けの果実の病害虫管理システムに年間約17億ランド(約120億円)を費やしている。」

南アフリカは現在、貿易協定についてはインドとのみ交渉を行っており、業界と政府は、複数の地域市場との植物検疫プロトコルの確立と合意に主に力を入れている。そのため、南アフリカの出荷業者は、他国の同業者の多くが享受している優遇されたアクセスを利用できないが、業界は、製品の品質と一貫性により、それらの市場の消費者が南アフリカ産果実を賞味してくれると自信を持っている。これらの市場では、柑橘類、核果類、仁果類、ライチ、アボカド、マンゴー、ブルーベリー、カキ、生食用ブドウなど、さまざまな果実について交渉が進行中である。業界はまた、国の財政への農業部門の貢献を最大化するため、優遇された貿易をどのように利用するのが最善かについて政府と話し合っている。農業部門は過去10年間、一貫して貿易黒字を維持してきた。

「最近の植物防疫交渉の成果としては、インド向けのナシと中国向けのレモンがある。今後のBRICS閣僚会議と関連会合がインド及び中国との交渉に勢いを付けることが期待されている。BRICSは貿易だけのためのプラットフォームや協定ではないが、BRICS内の貿易フローを増やすというメンバー国間のコミットメントがある。」(BRICS: ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカの新興5か国)

東アジアとのプロトコルをより多く成立させる動きは続いており、南アフリカ産果実の品質はその意義を証明している - リンゴの輸出の約29%、ナシの23%、生食用ブドウの9%、柑橘類の21%、グレープフルーツの45%、ソフト柑橘類の17%、ブルーベリーの9%が、2021年にすでにこの地域に出荷された。南アフリカのこの産業の拡大と、柑橘類に代表されるEU市場にまつわる規制の不確実性の増大を考えると、これらの品目に関し、またはこの成長市場にまだほとんど参入していない人々に関係する成長は、莫大な余地があり、非常に必要とされている。

執筆者: ニコラ・マクレガー

50. 米国カリフォルニア州 生食用ブドウの出荷開始は遅れる

FreshPlaza 2023年5月12日

カリフォルニア州産ブドウの出荷シーズン前の兆候は、ブドウの生育が通常よりも遅れていることを示している。パンドルブラザーズ社のスコット・リード氏は、「弊社は通常、7月の第1週にフレームシードレス品種の梱包を始めるが、現在のところ、栽培作業は約2〜3週間遅れている。天候が暖かくなれば、もっと早まるはずだが、それでも今年は例年どおりや、例年より早くなるとは思わない」と言う。(以下「」は同氏の発言)

カリフォルニア州では今年の生育期間の気温が低かったため、ブドウの出荷シーズンは遅く始まるようだ。しかし、量的な作柄は昨年と同様になると予想されている。「今から7月に収穫を開始するまでの間には当然様々な天候があり、それによって収量が減ることも、そうでないこともある。」同社では、3つの新しい品種 - 種無し緑色ブドウのシュガークランチとスイートグローブ、及び晩生の種無し赤ブドウのアリソン - の数量が増加している。「これらの品種は粒がより大きく、より硬く、より甘く、それらは弊社が新しいブドウ品種に求める主要な3要素なので、これらの品種が増えることを喜んでいる。」

メキシコからの移行 カリフォルニア州産の出荷シーズンは、現在出荷開始の準備中であるメキシコ産の出荷シーズンに続くが、メキシコ産も約10日遅れている。「メキシコ産からカリフォルニア州産へ移行に関しては、両方の地域が遅れているため、6月下旬の天候がどうなるかが重要だ。今シーズンの出荷は12月まで続くだろう。メキシコでは天候が順当で、雨や高温がなければ、7月に入るまでブドウの収穫を続けることができる。6月末にかけて悪天候があった場合、その影響で遅れる可能性がある。メキシコ産からの移行がどうなるかを知るためには、メキシコ産シーズンの終わり頃の天候がどうなるかを見る必要がある。」

ブドウの需要は、引き続き良いようだ。「ブドウは産地にとっての重要品目の1つであり、小売業者は高品質で状態の良いブドウを求めている。弊社はその要望に応えたいと思う。我々のコストが上昇したので、今年は小売業者に価格設定で協力してもらおう。我々は業界としてある程度の持続可能な価格を獲得する必要があり、今後数年間でそこに到達できることを願っている。」

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

51. トルコ 今年のサクランボは有望

FreshPlaza 2023年5月12日

トルコの青果物輸出業者アニ・タリム社の営業販売部長であるメフメット・チャクマク氏は、同社はトルコ産サクランボの出荷シーズンが始まる前に、リンゴの出荷シーズンを終了するところだと言い、「リンゴの出荷は第20週(5月中旬)までに成功裏に終了するだろう。今シーズンは総出荷量を1万1,200トンに増やし、前のシーズンと比べて57%増加した。このうち約6,400トンのリンゴが輸出用で、残りはトルコの国内市場に出荷された。合計310個のコンテナに積み込み、インド、マレーシア、アラブ首長国連邦をはじめとする、さまざまな輸出先の港に向けて出荷した」と語った。(以下「」は同氏の発言)

同氏は、今シーズンのサクランボの作柄について、さまざまな面で有望なようだと言明する。「(リンゴの後)10日ほど間を空けて、弊社の最強の商品であるサクランボの新シーズンの梱包に取り掛かる。現在の園地の状況を見ると、今シーズンは、トルコ全土の産地における果実の品質、量の多さ、出荷期間の長さの点で、かなり有望である。開花期は良好で、霜や雨による大きな被害もなく、園地での着果量は多いようだ。第21週(5月下旬)にはヨーロッパ向けの陸上輸送用と、湾岸諸国や東アジア諸国などに向けた空輸用の梱包を開始する予定である。出荷シーズンは第32週(8月上旬)まで続くと思われる。」

サクランボの出荷シーズンには困難がないわけではないが、同氏はそれらの課題がサクランボの出荷に大きな影響を与えることはないと考えている。「梱包資材のコストと人件費の増大の二つが、今シーズン弊社にとって最も大きな課題となりそうだ。これは、過去数年間国内でインフレが抑制できていない結果だが、これらの課題が弊社の事業に与える影響はごくわずかであると考えている。我々は出荷シーズンの開始を楽しみにしており、すべての生産者と輸出業者にとって昨年よりも順調なシーズンとなることを心から願っている。」

執筆者: ニック・ピーターズ

52. オーストラリア 在来種がカンキツグリーニング病の鍵を握る可能性

PRODUCE PLUS 2023年5月12日

在来ライムのゲノムマップが耐病性柑橘類品種開発への道を開く可能性

オーストラリアの研究者らは、在来種のライムのゲノムをマッピングすることで、カンキツグリーニング病の解決策を探る上で重要な節目に到達した。

クイーンズランド大学の研究者らは、ジンピーライム(Gympie lime)としても知られるオーストラリア固有のラウンドライム(*Citrus australis*)のゲノム配列を決定し、現在、フィンガーライム等他の5つの在来柑橘類を調べている。

博士課程の大学院生であるウプリ・ナカンダラ氏は、この研究の目的は、商業栽培される柑橘類品種に組み込むことができるカンキツグリーニング病(HLB)耐性遺伝子を特定することだと述べた。

同氏は、「ラウンドライムはHLB耐性であると考えられているため、研究リストの最初に置いた。HLBは、米国のカリフォルニア州やフロリダ州、アフリカなど多くの産地の柑橘類生産者にとって大きな問題だが、現在のところオーストラリアにはHLBは存在しない」と言う。

ナカンダラ氏によると、業界では農薬やその他の方法を使ってこの病気を防除しようとしているが、これまでのところ恒久的な解決策は見つかっていない。

同氏は、「1つの選択肢は耐性品種を開発することであり、そのための最初の段階は、オーストラリアの柑橘類でこれらの重要な耐性遺伝子を特定することである」と説明する。

クイーンズランド大学のロバート・ヘンリー教授は、オーストラリア固有のラウンドライムのゲノムをマッピングすることでその目的を達成したと言う。

同教授は、「植物、特にこれらの果樹のゲノム配列を決定することは、遺伝的改良と将来におけるより良い生産管理のための新しいプラットフォームを提供するものであり、我々の研究チームは時宜を得た適切な技術を有している。我々はその技術の最先端に身を置いており、当地の気候と作物のおかげで、我々はこの深刻な病気の問題を解決するための国際的な取り組みに重要な貢献を行う有利な立場にある」と述べた。

同教授は、チームは他の果樹のゲノムにも取り組んでいると言い、「我々は、マカダミア、アーモンド、マンゴーなど多くの園芸作物を幅広く調べている。これらはオーストラリアで重要な種であり、これらの作物の生産を進歩させるのに必要な科学的背景を提供するものだ」と述べた。

この研究は、ホートイノベーション(Hort Innovation)とクイーンズランド州農業水産局によって資金提供された。

53. オーストラリア TR4抵抗性の遺伝子組み換えバナナを承認申請

PRODUCE PLUS 2023年5月15日

オーストラリアで開発された遺伝子組み換えキャベンディッシュバナナの承認申請を規制当局に提出

クイーンズランド工科大学が開発した、パナマ病TR4に高い抵抗性を示す遺伝子組み換え(GM)キャベンディッシュバナナが、規制当局の承認を得るためオーストラリア政府に提出された。

このQCAV-4バナナは、オーストラリアのGM果実として評価のために提出された最初のもので、承認されればこの病気との闘いの大きな後押しとなる可能性がある。

政府と業界の協力により開発されたQCAV-4バナナは、ノーザンテリトリーでのほ場試験で6年以上栽培されており、パナマ病TR4に対して高い抵抗性を示すことが証明されている。

QCAV-4はキャベンディッシュ・グランドナインバナナ(チキータバナナとして知られている)で、東南アジアの野生のバナナ(*Musa acuminata* ssp. *malaccensis*)から得られた単一の遺伝子RGA2を用いて遺伝子工学的に処理されている。キャベンディッシュバナナは元々RGA2遺伝子を持っているが、休眠状態になっている。

クイーンズランド工科大学のジェームズ・デール特別教授とそのチームは、20年以上にわたって遺伝子組み換えキャベンディッシュバナナの開発と栽培に取り組んできた。

同教授は、「壊滅的な被害を与えるパナマ病TR4を引き起こす土壌伝染性の真菌は、50年以上にわたって地中にとどまり、バナナを一掃し、何世代にもわたって農場を破壊する。それは大きな問題である。世界の多くの地域でキャベンディッシュのプランテーションを荒廃させており、世界中のキャベンディッシュバナナ輸出産業が身動きが取れなくなる可能性がある。QCAV-4は、世界の輸出産業にパナマ病TR4に対する有効な保護を提供するほか、クイーンズランド州でバナナ生産に関わる1万8千人の人々の雇用の確保等、13億豪ドル(約1,200億円)の価値がある国内産業のセーフティネットとなる」と語った。

オーストラリアの植物防疫規則は、これまでのところ、オーストラリアのバナナ業界の大部分においてはパナマ病TR4の影響を抑制しているが、この病気はクイーンズランド州北部の複数の地域で発見されているほか、ノーザンテリトリーの商業的バナナ栽培に大きな損害を与えた。

遺伝子技術規制当局及びオーストラリア・ニュージーランド食品基準局による承認を得れば、QCAV-4の環境的な安全性及び食品としての安全性を支持するものとなるが、現時点ではQCAV-4バナナをオーストラリアで栽培し、または消費者に販売する予定はない。

執筆者: リアム・オキャラハン

54. 米国 業界は日本の冷凍ブルーベリー関税の撤廃を求める

FreshPlaza 2023年5月17日

2020年に締結された日米貿易協定により、生鮮ブルーベリーと乾燥ブルーベリーに対する日本の関税は撤廃されたが、冷凍ブルーベリーの関税は残っており、米国のブルーベリー業界はこの問題に熱を上げている。北米ブルーベリー協議会の政府問題担当幹部であるアリッサ・ハウトビー氏は、「現在、議会がこのような有意義なことに取り組んでおり、通商代表部(USTR)がこの問題を解決するために行動を起こすことを願っている」と言う。

先週遅く、超党派の議員グループがUSTRと米国農務省(USDA)に対し、日本側と協力して米国産冷凍ブルーベリーに対する日本の関税を撤廃するよう求めた。同氏は「正直なところ、これは見落としであって、技術的な修正によって対処できるものであり、二国間の協議を開く必要はないと考えている」と述べた。

米国産ブルーベリーは冷凍のみ課税

2020年当時の合意により、生鮮ブルーベリーと乾燥ブルーベリーのほか冷凍のブラックベリー、ラズベリー、イチゴの関税が撤廃された。しかし、冷凍の米国産ブルーベリーには6.0%の関税が残っている。ハウトビー氏は、「米国の産業は、冷凍ブルーベリーが無税の他国に対して競争上不利である」と言う。

ワシントン州ブルーベリー委員会のアラン・シュライバー事務局長は、日本は従来から米国の最大の輸出市場の1つであると指摘し、「冷凍ブルーベリーの大部分はワシントン州産だがオレゴン州からも出荷されており、日本は米国北西部にとって重要な市場である。我々の製品に対する関心に基づき日本と良好な関係を築いてきたので、これは非常に歯がゆい状況である。世界中の国がブルーベリーの輸出市場を開拓しようとしているようで、我々はこの市場を競合国に奪われている」と述べた。

また、米ドル高がこの問題を悪化させている。サクマ・ブラザーズ農産・加工会社のブライアン・サクマ販売営業担当副社長は、日本向けの冷凍ブルーベリーとその市場は同社にとってニッチなものだと指摘しつつ、「長年の取引がある一部の企業は取引を維持しようとしてくれたが、関税とドル高等の現在の経済状況のため彼らは他の選択肢を検討しなければならない。これら(関税と経済状況)はともに重要であり、我々を不利にしている」と述べた。

国内への影響

米国のブルーベリー業界全体にもこの関税に対する反響がある。ハウトビー氏は、「米国産冷凍ブルーベリーの市場シェアの損失は波及効果を生み、それは太平洋岸北西部だけでなく、北東部のブルーベリー産地の生鮮ブルーベリー市場にも影響を与える。業界の一角が市場を失うと、供給過剰のシナリオにつながる可能性があり、価格に下押し圧力がかかる。これは、どこで栽培するかに関係なく、どの生産者にとっても良くない」と述べた。

シュライバー事務局長は、「この関税は、国内市場に流入するブルーベリーが増えていることを意味する」と言う。一方、業界は他の輸出市場を積極的に開拓しようとしている。同事務局長は昨年、輸出市場開拓のためのシンガポールとマレーシアへの視察旅行に参加した。今年、ワシントン州ブルーベリー委員会は、これらの国々のほか韓国、ベトナム、フィリピンでも冷凍ブルーベリーの販売促進活動を行っており、来年はインドネシアとタイを加えることとしている。「輸出市場の開拓は、このような(日本の)状況とは別に行いたかったものだが、日本での減少を補うために輸出市場開拓の努力を増やすよう求める加工・輸出企業も複数ある」と語った。

今週の手紙は、来月行なわれる米国から日本への貿易使節団の派遣に先立つものであり、ブライアン・サクマ氏などの参加者はこの問題が取り上げられることを期待している。

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

55. チリの落葉果実事情(生食用ブドウ、リンゴ)

米国農務省GAINレポート 2023年5月17日

これは米国農務省海外農業局サンチャゴ事務所(チリ)が作成した「生鮮落葉果実半期報告書」の要点及び生食用ブドウとリンゴの項を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

報告書の要点

海外農業局サンチャゴ事務所は、2022/23販売年度(以下「年度」)の生食用ブドウの生産量を前年比8.6%減の72万トン、輸出量を8.7%減の55万5千トンと推定する。同事務所はまた、2022/23年度のリンゴの生産量を栽培面積の減少により2.9%減の100万トンと推定する。リンゴの輸出量は3.2%減の58万3千トンと推定される。洋ナシについては栽培面積の減少傾向を考慮し、同事務所はチリの2022/23年度の洋ナシの生産量を4.8%減の21万トン、輸出量を4.9%減の11万トンと推定する。(以下、洋ナシについては省略)

<生食用ブドウ>

表1 チリの生食用ブドウ生産需給統計

生食用ブドウ(生鮮) 販売年度 チリ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～2021年9月		2021年10月～2022年9月		2022年10月～2023年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	45,489	45,489	43,104	43,104	42,500	42,500
収穫面積	44,000	44,000	43,000	43,000	42,000	42,000
商業的生産量	660,000	660,000	788,110	788,110	732,000	720,000
非商業的生産量	4,700	4,700	5,000	5,000	4,800	4,800
生産量合計	664,700	664,700	793,110	793,110	736,800	724,800
輸入量	700	700	900	900	700	700
総供給量	665,400	665,400	794,010	794,010	737,500	725,500
生鮮国内消費量	139,900	139,900	185,810	185,810	182,500	170,500
輸出量	525,500	525,500	608,200	608,200	555,000	555,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	665,400	665,400	794,010	794,010	737,500	725,500

単位: ヘクタール、トン

出典: サンチャゴ事務所推計

生産

当事務所は、2022/23年度の生食用ブドウの生産量を8.6%減の72万トンと推定する。生産量の減少は、栽培面積の減少と、国の中央部における悪天候に起因する収量の低下によるものである(図1)。生食用ブドウの栽培面積は、収益性の低さと輸出市場におけるペルー産との競争により減少傾向にある。栽培面積は、2011/12年度の5万3,851ヘクタールから2022/23年度には4万3,025ヘクタールに減少した。

農業研究政策局(ODEPA)のデータによると、すべての生食用ブドウ産地で栽培面積が減少している(表2)。米国市場におけるペルーとの競争、高い生産コスト(人件費、輸送費、農薬・化学肥料)及び生食用ブドウの品種更新の必要性が、生食用ブドウ輸出業者に下向きの圧力をかけている。栽培面積の減少は、生食用ブドウ生産に代わるものがほとんどないアタカマ州で特に顕著である。コキンボ州とバルパライソ州では、生食用ブドウの栽培面積の減少は、柑橘類の栽培面積の増加によって相殺されている。

首都州とオイギンス州の生食用ブドウ栽培面積は、過去3販売年度の間にそれぞれ14.1%及び52%減少した。これらの州では、生食用ブドウの園地は、クルミ、サクランボ、柑橘類などのより収益性の高い作物に置き換えられるか、都市の拡大に飲み込まれた。

図1 生食用ブドウの栽培面積(ヘクタール)

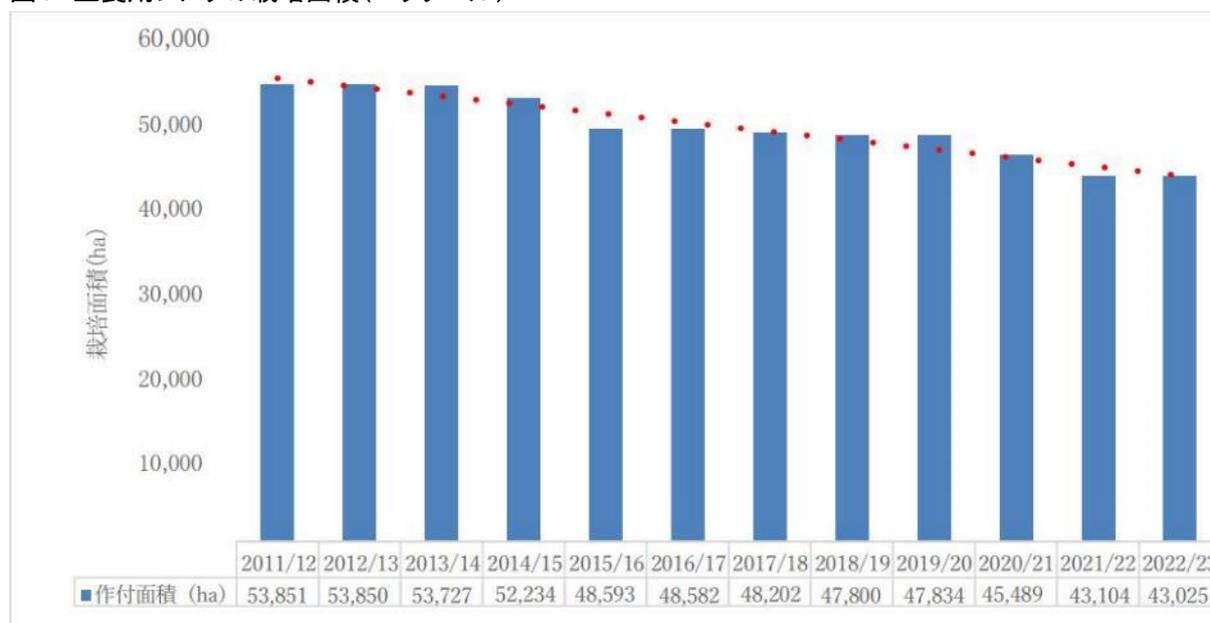


表2 生食用ブドウの州別栽培面積 2022/23 年度 単位: ヘクタール

地域	栽培面積 (ha)	増減率*	シェア
アタカマ州	5,987	-12.4%	13.9%
コキンボ州	7,321	-10.3%	17.0%
バルパライソ州	9,970	-10.9%	23.2%
首都州	6,848	-14.1%	15.9%
オイギンス州	12,736	-5.2%	29.6%
マウレ州	163	-32.3%	0.4%
その他	1		
合計	43,025	-10.7%	100.0%

*増減率は、3年ごとに計測される。上記のデータは入手可能な直近のものである。

出典：農業省農業研究政策局(ODEPA)の2023年のデータに基づく

消費

当事務所は、2022/23年度の生食用ブドウの生鮮国内消費量を、商業的生産量の23.6%に当たる17万500トンと推定する。この消費水準は、2021/22年度に比べて8.2%少なく、生産量の減少とそれに起因する価格の上昇によって説明される。

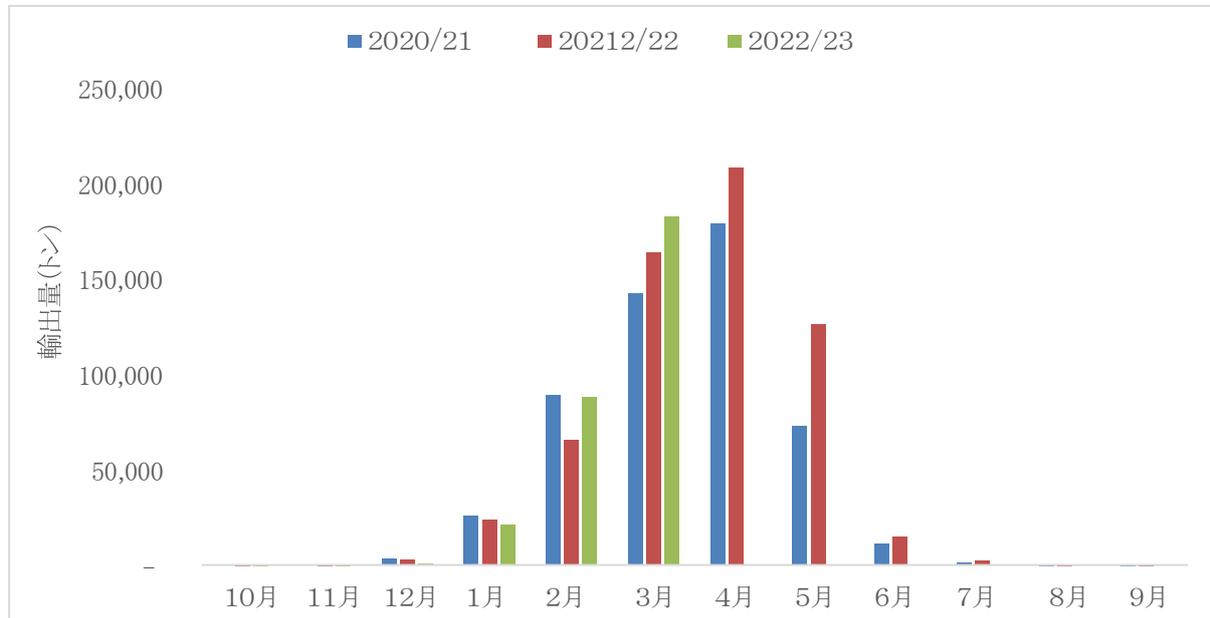
貿易

当事務所は、2022/23年度の生食用ブドウの輸出量を、生産量の減少に伴い8.7%減の55万5千トンと推定する。2022/23年度の3月までのデータによると、生食用ブドウのこの期間の輸出量は2021/22年度よりも14.2%多い。しかし、2021/22年度には、物流全般の問題と港湾における遅延のため(輸出の立ち上がりが遅く)、ピークが4月にずれ込んだ(図2)。通常、チリの生食用ブドウの輸出は3月にピークに達するため、当事務所は、2022/23年度の4月と5月の輸出量は、2021/22年度の同じ月と比較して減少すると予想する。

2021/22年度の生食用ブドウの輸出量は、前年比15.7%増の60万8,200トンであった(表3)。米国はチリ産生食用ブドウの主要な輸出市場である。米国向け輸出量は31万333トンで、これはチリの生食用ブドウ輸出量の51%に相当する。2022/23年度の3月までのデータによると、米国向けの生食用ブドウの輸出量は7.4%増の19万3,409トンとなっている(表3)。

中国はチリの生食用ブドウの2番目に大きな市場であり、2021/22年度には7万7,627トンとチリのブドウの総輸出量の12.8%を占めた。2022/23年度(3月までのデータ)は、チリの中国向けの輸出は32.3%増の2万3,582トンとなっている。

図2 月別ブドウ輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

表3 チリの生食用ブドウ輸出量(トン)

輸出先国	販売年度			年度初めから3月まで		
	2020/21	2021/22	変動率	2021年10月 ~2022年3月	2022年10月 ~2023年3月	変動率
世界合計	525,457	608,194	15.7%	256,524	292,905	14.2%
米国	254,825	310,058	21.7%	180,124	193,409	7.4%
中国	78,117	77,627	-0.6%	17,823	23,582	32.3%
オランダ	28,030	45,196	61.2%	5,042	8,806	74.7%
英国	18,175	23,789	30.9%	4,497	5,848	30.0%
韓国	23,222	17,952	-22.7%	9,130	11,037	20.9%
日本	11,535	14,118	22.4%	9,775	10,730	9.8%
メキシコ	9,112	11,239	23.3%	6,445	6,543	1.5%
スペイン	9,489	10,536	11.0%	1,987	4,458	124.4%
エクアドル	9,011	9,654	7.1%	2,870	3,014	5.0%
カナダ	10,892	9,600	-11.9%	4,060	5,001	23.2%
インドネシア	9,392	7,431	-20.9%	447	369	-17.4%
ブラジル	3,873	6,551	69.1%	1,145	2,499	118.3%
台湾	2,842	5,721	101.3%	1,166	1,619	38.9%
ドイツ	3,202	5,641	76.2%	840	1,482	76.4%
ポルトガル	3,888	4,694	20.7%	812	946	16.5%
その他	49,852	48,387	-2.9%	10,361	13,562	30.9%

出典: Trade Data Monitor, LLC.

政策

チリは3つの産地(アタカマ州、コキンボ州、バルパライソ州)から米国への市場アクセスを改善するためシステムアプローチの採用を求めている。システムアプローチは、ヨーロッパドウドウ蛾(仮称、ハマキガ科の *Lobesia botrana*)に対する臭化メチル燻蒸の使用を回避することにより、これら3つの地域に利益をもたらす。燻蒸は果実の品質と貯蔵寿命を低下させ、その結果、小売業者への販売価格の低下につながる。さらに、燻蒸した果実は米国農務省の有機認定を受けることができない。

米国農務省の動植物検疫局は、2022年10月17日に連邦官報に規則案を公表し、コメント期間は2023年1月17日に終了した。現在、チリ当局と輸出業者らは最終的な規則の公表を待っている。

<リンゴ(生鮮)>

表4 チリのリンゴ生産需給統計

リンゴ(生鮮) 販売年度 チリ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年1月～2021年12月		2022年1月～2022年12月		2023年1月～2023年12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	32,314	32,314	30,967	30,967	30,500	29,035
収穫面積	31,300	31,300	30,000	30,000	29,500	28,500
結果樹本数	34,430	34,430	33,000	33,000	32,500	32,500
未結果樹本数	2,400	2,400	2,300	2,300	2,250	2,250
果樹総本数	36,830	36,830	35,300	35,300	34,750	34,750
商業的生産量	1,088,700	1,088,700	1,036,000	1,030,000	1,030,000	1,000,000
非商業的生産量	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
生産量合計	1,098,700	1,098,700	1,046,000	1,040,000	1,040,000	1,010,000
輸入量	3,300	3,300	3,000	3,000	3,000	3,000
総供給量	1,102,000	1,102,000	1,049,000	1,043,000	1,043,000	1,013,000
国内消費量	458,300	458,300	439,000	440,419	438,000	430,000
輸出量	643,700	643,700	610,000	602,581	605,000	583,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	1,102,000	1,102,000	1,049,000	1,043,000	1,043,000	1,013,000

単位: ヘクタール、千本、トン

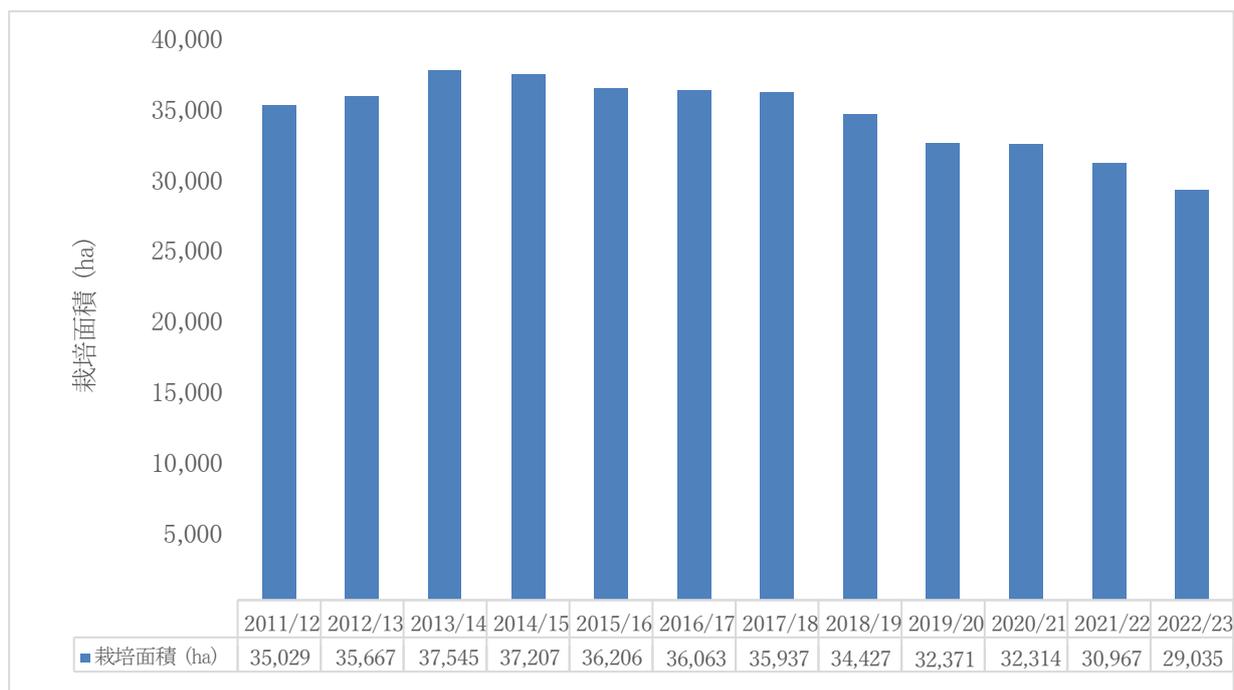
出典: サンチャゴ事務所推計

生産

当事務所は、2022/23年度のリンゴの生産量を、2021/22年度に比べ2.9%減の100万トンと推定する(表4)。2022/23年度のリンゴの栽培面積は6.2%減少し、2万9,035ヘクタールとなった。良好な気象条件によって収量が増加したため、生産量の減少率は栽培面積の減少率より小さい。雨の多い冬、長い低温期間及び春の穏やかな気温がリンゴの収量に有利に働いた。

ODEPAの最新データによると、チリのすべてのリンゴ産地で栽培面積が減少した(表5)。リンゴの栽培面積の減少は、この品目が輸出市場で直面している競争の激しさと利益の低さによって説明される。国の中南部のマウレ州とオイギンス州は、それぞれ栽培面積の62.4%と22.0%を占め、併せて総栽培面積の84.4%を占めている。しかし、多くの生産者が所有する果樹園では、新しい品種やサクランボ、クルミなどの他の品目と比較して収益性の低い古い品種を栽培しているため、両州で栽培面積が減少した。

図3 リンゴの栽培面積(ヘクタール)



出典: ODEPA, 2023

表5 リンゴの州別栽培面積 2022/23 年度 単位: ヘクタール

地域	栽培面積 (ha)	増減率*	シェア
バルパライソ州	144	-4.1%	0.5%
メトロポリタン州	83	-38.0%	0.3%
オイギンス州	6,388	-17.4%	22.0%
マウレ州	18,110	-4.2%	62.4%
ニューブレ州	860	-14.3%	3.0%
ビオビオ州	584	-6.3%	2.0%
アラウカニア州	2,834	-7.4%	9.8%
その他	31		0.1%
合計	29,035	-10.3%	100.0%

*増減率は、3年ごとに計測される。上記のデータは入手可能な直近のものである。

出典: 農業省農業研究政策局(ODEPA)の2023年のデータに基づく

消費

当事務所は、2022/23年度のリンゴ(生鮮消費用及び加工用)の国内消費量を合計43万トンと推定しており、これは商業的リンゴ生産量全体の43%に相当する。リンゴの国内消費量は、生産量の減少に伴い2021/22年度に比べて2.4%減少すると見られる。チリの高水準のインフレによって消費が押し下げられ、消費量が減少した。業界関係者は、価格が上昇する中、チリの消費者は消費者支出を最小限に抑えるため、小玉のリンゴを購入したが、全体的な購入量も減少したと指摘している。

政策

報告すべき新しい政策の進展はない。

貿易

当事務所は2022/23年度のチリのリンゴ輸出量を、2021/22年度に比べて3.2%減の58万3千トンと推定する。2022/23年度は収量が増え、栽培面積の減少の一部を相殺するはずであり、したがって輸出量の減少は栽培面積の減少よりも小さいと見られる。

2021/22年度のチリのリンゴ輸出量は、2021/22年度から6.4%減の60万2,581トンであった。チリのリンゴ輸出業者にとっての2021/22年度の主な困難は運賃の上昇であり、輸出業者は赤字での運営を強いられた。2022/23年度には運賃が下がり、輸出業者はコストの低下により輸出量を増やすものと見込まれる。

コロンビアはチリ産リンゴの最大の市場である。チリは2021/22年度に8万5,899トンのリンゴをコロンビアに輸出し、これはチリのリンゴ輸出量の14.3%に相当する(表6)。ブラジルはチリ産リンゴの2番目に大きい市場である。2021/22年度には、海上輸送よりも陸上輸送のコストが低かったため、ブラジルへの輸出は412%増加した。2021/22年度には、リンゴ輸出業者は米国に出荷するための高い運賃に直面していたが、2022/23年度にはチリ産リンゴの米国への輸出量は6.9%増加し、これは運賃の正常化によって説明される。

図4 月別リンゴ輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

表6 リンゴの輸出先別輸出量(トン)

輸出先国	販売年度			年度初めから3月まで		
	2020/21	2021/22	変動率	2022年1月 ~2022年3月	2023年1月 ~2023年3月	変動率
世界合計	643,736	602,581	-6.4%	45,552	55,590	22.0%
コロンビア	74,348	85,899	15.5%	14,504	16,671	14.9%
ブラジル	12,722	65,193	412.4%	2,011	3,758	86.9%
米国	60,496	52,669	-12.9%	1,324	1,415	6.9%
エクアドル	52,586	47,169	-10.3%	7,883	8,267	4.9%
ペルー	35,330	39,013	10.4%	4,879	4,162	-14.7%
インド	56,297	35,003	-37.8%	1,241	520	-58.1%
オランダ	49,013	33,819	-31.0%	981	1,778	81.2%
台湾	34,093	29,432	-13.7%	0	0	0.0%
サウジアラビア	35,913	23,848	-33.6%	2,154	4,053	88.2%
ドイツ	26,662	19,903	-25.4%	41	635	1448.8%
英国	30,080	18,770	-37.6%	246	242	-1.6%
グアテマラ	14,255	16,427	15.2%	1,381	1,637	18.5%
ボリビア	16,514	15,992	-3.2%	2,165	2,305	6.5%
フランス	17,556	12,693	-27.7%	402	48	-88.1%
中国	7,645	11,497	50.4%	419	463	10.5%
その他	120,226	95,254	-20.8%	5,921	9,636	62.7%

出典: Trade Data Monitor, LLC.

56. 米国カリフォルニア州 サクランボの遅い出荷が開始

FreshFruitProtal 2023年5月18日

サクランボの収穫が2週間以上遅れていたカリフォルニア州では、ついに2023年シーズンに向けた出荷の準備が整った。寒さと雨により出荷シーズンの開始が遅れ、同州はメモリアルデー(5月29日の戦没将兵追悼記念日)の祝日に向けた果実の需要を満たすことができない。大量の入荷は6月の最初の週に予想されるため、小売業者は祝日に必要な在庫を持っていない。

遅いスタートにもかかわらず、800万箱以上の大量の高品質果実があり、残りの出荷シーズンは有望なようだ。カリフォルニア州の今年のサクランボシーズンは、前年比で50%以上減収した2022年よりもかなり良いと予想されている。カリフォルニア州の出荷の終わりころに始まるワシントン州の出荷も今年は遅れており、両州の間のスムーズな移行が可能になる。サクランボの小売価格は現在、一箱あたり約60ドルである。

(関連記事)米国カリフォルニア州 メモリアルデーのサクランボがない

FreshPlaza 2023年5月15日

カリフォルニア州のサクランボの収穫はほとんど始まっていない。早生品種が始まったばかりで、通常より2週間半～3週間遅れている。ダイレクトソース・マーケティング社(果実輸入販売業者)のアイラ・グリーンスタイン氏は「とても寒かった」と言い、「過去6～8週間は寒く雨が降っていた。先週でさえフレズノ郡の気温は50度台半ば～60度台前半(約12～17℃)であった」と付け加えた。今週はついに気温がうまく上がり、80度代半ば(約29℃)に達した。(以下「」は同氏の発言)

来たるメモリアルデー(5月29日)の祝日にサクランボの需要が高まるため、この遅いスタートは生産者と出荷業者に大きなプレッシャーとなっている。「小売業者らは、通常は祝日の1週間前に始める販促活動を計画してきたが、残念ながら必要な量を確保できない。」その結果、生産者には収穫を始めるよう大きなプレッシャーがかかるが、5月の最終週/6月の第1週までは大量の出荷はない。

スポット価格 品物の不足により、スポット市場での価格は非常に高くなっている。「スポット市場での10.5列(直径1インチ=25.4mm)のサクランボの価格は、現在95～100ドル/箱となっている。」入荷量が増えるにつれてスポット価格は下がるが、来週はまだ70ドル/箱を超えると予想されている。「小売りで設定された価格は約60～65ドル/箱であり、小売業者は販売計画に対応することを求めているため、これは生産者にとって困難な状況である。」グリーンスタイン氏は5月29日までには事態が落ち着くと予想しているが、それまでは厳しい状況だろう。

明るい面では、8百万箱以上の高品質果実の収穫が予想され、カリフォルニア州はかなりの豊作を期待している。同州では先週雨が降ったが、果実はまだ影響を受けるほど成熟していなかった。この先の天気予報は良さそうで、誰もが収穫の開始を待っており、6～7週間の内にかかなりの量を出荷することを期待している。「6月中は、すべてが販促プロモーションに合わせて調整される。」

ワシントン州への移行 カリフォルニア州と同様に、ワシントン州の収穫も遅れると見られる。これは、カリフォルニア州の生産者にとっては作物を販売する期間が延びるため有利である。通常、ワシントン州は7月4日の祝日(独立記念日)のサクランボを供給する産地だが、今年は両方の州の産物が市場に出回ると予想される。カリフォルニア州の収穫は6月の最終週まで行われるが、かなりの量が7月4日まで出回ると予想されており、ワシントン州ではその時点でちょうど出荷が始まる。

スポット市場では5月15日から6月5日の間に一箱当たり80ドルから55ドルに25ドル以上値が下がると予想されている。グリーンスタイン氏によれば、これは非常に珍しい。「通常、市場への果実の入荷はもっと安定しているが、短期間に非常に多くの量が入荷するため、価格の急激な低下が予想される。」

執筆者: マリーケ・ヘムズ

57. カナダ アジア市場で伸びるリンゴ需要

FreshPlaza 2023年5月18日

カナダのスコティアンゴールド協同組合によると、東南アジア市場でリンゴの需要が高まっている。同組合のサマンサ・アレン販売部長は、「我々は、主に店内プロモーションと小売業者と直接連携してターゲットを絞った販促用デジタル素材の制作を通じて、アジア市場でスコティアンゴールドのブランドイメージを築き上げた。我々は、世界で、特にアジアの複数の市場でプレゼンスを拡大した」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

同協同組合はアジア、特にベトナムとシンガポールに進出している。国内のリンゴ市場は国内産のリンゴの需要を高めるために利用しており、同協同組合は米国市場でも好調である。

「我々はカナダ全土のすべての主要小売ブランドに出荷しており、国内のリンゴ市場では、新しい品種に投資し、品質への取り組みを維持することにより、地元のカナダ東海岸産のリンゴの需要を引き続き拡大するチャンスがあると見ている。さらに、当協同組合のプレミアムハニークリスポは、米国市場で大変人気がある。当組合は、広範な販売網と市場の専門知識を持つニューヨークアップルセールス社との戦略的連携関係を通じて、この重要な市場で存在感を増してきた。米国でのハニークリスポの需要は、品質及び保管技術への投資と業界で最高の生産者の組合せにより、引き続き高まっている。東南アジア市場では、カナダ産をはじめとする多くのリンゴ品種の需要が増加を続けている。現在の市場の状況は、消費者がインフレに伴う予算の制約に直面する中でも、リンゴが依然として価値の高い選択肢であることを証明している。」

同協同組合は、カナダの大西洋岸で出荷されるリンゴの65%を保管・梱包している。これは、カナダ東部で最大のリンゴの梱包・保管事業である。同組合の果実は、3千エーカー(1,200ヘクタール)以上をカバーする州全域の50以上の家族経営のリンゴ園から集まる。同協同組合は、ノバスコシア州のコールドブルック、ブルックリン、トゥルロの3地区に産地販売所を展開している。そこでは、ペットや馬関連の製品も販売されている。同協同組合のリンゴ事業の本部及び梱包・出荷施設は、ノバスコシア州のコールドブルック町にある。

アレン部長は、ハニークリスポが果実の半分以上を占めていると言う。「また、アンブロシア、スウィータンゴ、ガラのほか、少量だがマッキントッシュ、コートランド、ジョナゴールドなどの古い品種もある。価値の高い品種は量が増えている。リンゴの収穫期は8月中旬に始まり、11月中旬まで続く。この夏、2023年の販売シーズンに運用できるよう新しい選果システムを導入する。また、2023年の収穫までに稼働するよう貯蔵施設の拡張も行っている最中だ。春の状況に変わったことはなく、今年は平年並みの収穫を期待している。」

「当協同組合は、独特の微気候により優れた栽培条件を持つ地域に立地している。組合員の家族経営農場はすべて、ファンディ湾からわずか数マイル以内の場所にあり、アナポリスバレーの両側の2つの山脈によって守られている。昼間の暑さと夜の涼しさは、世界に通用する果実の色と食体験を生み出す。梱包、貯蔵、収穫技術への我々の戦略的投資は際立っている。若い家族から第5世代の生産者まで、世界最高の生産者がいる。当協同組合は、拡張を続けるハリファックス港からわずか1時間のところにある。」

課題 同協同組合は、世界中の青果物事業が直面しているのと同じ課題、すなわち、貨物運賃、労働力、他の主要産地での生産の増加、栽培や包装のコストの増加に直面している。「我々が自分たちに課した最大の課題の1つは、持続可能な包装のリーダーになることである。」

リンゴ品種の増殖 「我々が行う最もエキサイティングなことの1つは、次の素晴らしいリンゴを世界中から探し出すことだ。我々の栽培条件は独特であるため、植栽を検討する前に品種をテストする必要がある。このテストにより、少量だが世界中の多くの育種プログラムによる果実を調べることができる。これは我々の生産者にとってリスクが低く、協同組合にとっては大きな利点である。形、色、風味、収穫期、さらに栽培上の課題は多様であり、この取組みを絶えず興味深いものにしていく。」

「売り場の棚にあるリンゴの品種が増えているということは、リンゴが過渡期にあることを示している。我々の生産者によるすべての革新と取組みは、売り場のリンゴを増やすのではなく、むしろ高いレベルの食体験を提供する新しい革新的な品種への移行につながるものである。リンゴが進化するにつれて、一部の遺物的な品種の量が減り、消費者は革新的で新しいリンゴの選択肢を堪能できるようになる。」

執筆者: クレイトン・スワート

58. ニュージーランドの落葉果実事情(リンゴ)

米国農務省GAINレポート2023年5月18日

これは米国農務省海外農業局ウェリントン事務所(ニュージーランド)が作成した「生鮮落葉果実半期報告書」の要約、背景及びリンゴの項を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

2022/23販売年度(以下「年度」)のニュージーランドのリンゴ生産量は、2月に国内最大のリンゴ産地であり輸出産地であるホークスベイ/ギズボーン地方を襲ったサイクロンガブリエルによる被害のため、大幅に減少した。このサイクロンは収穫の開始時期に襲来し、何千ヘクタールもの園地が洪水で完全に流されるか、土砂で覆われた。被災地では、果樹やインフラを復旧しようとする取り組みがすでに進行中であるが、果樹産業への影響は数年にわたるものと予想されている。当事務所の2022/23年度のリンゴ生産量予測は45万3千トンに下方修正され、そのとおりとなった場合は2009/10年度以来の最低水準となる。

サイクロンが襲う前は、特にコロナ禍により果樹産業の労働力が厳しく制限された2回の困難なシーズンの後に見られた労働力確保の改善により、業界には楽観的な見方があった。過去2シーズンには労働力不足のため収穫されない果樹もあり、出荷量に大きな影響を与えた。

主産地であるホークスベイ/ギズボーン地方はサイクロンの影響を大きく受けたが、南島のネルソン地方などの他の産地では、2023年はほぼ最適な条件を享受している。それは前述のコロナ禍による制限後の海外労働力の復帰、収穫前の理想的な天候、及び過去数シーズンにわたって実施された多数の梱包施設を自動化するための投資等である。

ホークスベイ地方の果樹園へのより広範な影響の結果として、当事務所は、ニュージーランド産リンゴの世界市場への輸出の大幅な減少を予想しており、輸出量は2021/22年度よりも約21%少ない27万トンと見込んでいる。

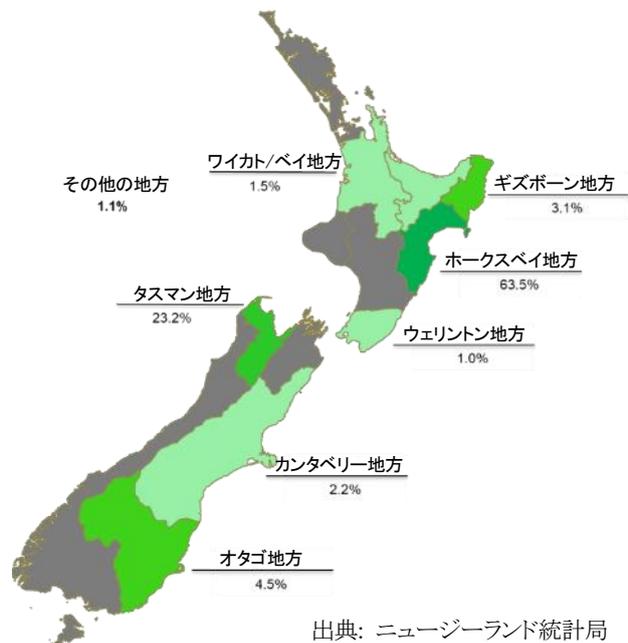
注: 販売年度は、1月1日から12月31日までの暦年と同じである(訳注: 2022/23販売年度は2023暦年と同じ)。このレポートの目的上、特記された場合を除き常に販売年度を参照されたい。栽培年度は7月1日から翌年6月30日までである。

このレポートで使用されるニュージーランドドル(NZドル)と米ドルの為替レートは1.00NZドル=0.62米ドルである。

背景

ニュージーランドは気候と土壌がリンゴやナシの栽培に適しており、世界最大のリンゴ輸出国の1つである。ホークスベイ地方、ネルソン地方、オタゴ地方中部などの主要産地では、十分な冬の寒さ、暖かい春、夏の長い日照時間、乾いた園地など、リンゴの栽培に必要な条件が整っている。これらの地域には果樹園を灌漑するための信頼できる水源もあり、その結果、ほとんどすべての商業的果樹園は灌漑に依存している。ニュージーランドには、リンゴとナシの産地の近くによく整備された港もある。収穫期は1月に始まり6月に終わり、リンゴの収穫の最盛期は3月から5月である。リンゴとナシの産地の分布を図1に示す。産地の大部分(果樹本数のほぼ3分の2)がホークスベイ地方にある。

図1 ニュージーランドのリンゴとナシの産地



<リンゴ>

栽培面積及び収穫面積

2022/23年度のニュージーランドのリンゴ栽培面積は横ばいと予想されるが、2月初旬のサイクロンガブリエルの影響を受けて、収穫面積の予測は昨年の10,300ヘクタールから今年は8,900ヘクタールと大幅に減少した。これはすでに1968年以来同国を襲った最も致命的な気象災害と見なされており、ホークスベイ地方とギズボーン地方が最も打撃を受けた。強烈な風と雨は大規模な地滑りと洪水を引き起こし、特にリンゴ産業では、広大な面積への土砂の流入に加えて、果樹園とインフラの広範な破壊をもたらした。(天気図、写真省略)

リンゴは、2023年に最も打撃を受けた輸出作物になるだろうと業界は予測している。前述のとおり、ホークスベイ地方とギズボーン地方の生産者はニュージーランドの生産量の約3分の2を担っており、昨年のリンゴ輸出量の58%はネーピア港から出航した。嵐の後の数週間に取りまとめられた報告書は、この地域の落葉果樹への被害として、4千ヘクタール近く(地域の総栽培面積の約半分)が影響を受けたと推定している。影響を受けたこれらの地域について、リンゴ業界の全国団体はそれらを3つのカテゴリーに分類し、被害の程度をランク付けした(表1)。カテゴリー1と2では、被害が非常に深刻であり、完全に破壊され、または土砂の流入により枯死が避けがたいため、これらの地域からの出荷は予想されない。カテゴリー3の地域はまだ収穫可能であるが、嵐の影響により生産量の減少や品質の問題が生じる。

業界のこれらの推定によると、地域の果樹の約4分の1が破壊され、別の約4分の1で今年の収量が深刻な影響を受けると見られる。しかし、嵐による被害を受けていない果樹園やインフラも多く、これらの地域では計画通りに収穫が続けられている。

表1 サイクロンガブリエルの影響を受けたホークスベイ地方の園地

ホークスベイ地方の被害評価	説明	推定面積 (ヘクタール)
カテゴリー1	完全に破壊され、果樹とインフラが失われ、全面的な再建が必要である。	840
カテゴリー2	完全に水没し、土砂が大量に堆積し、広範に果樹の枯死をもたらす。	1,260
カテゴリー3	果樹園は収穫率が低下する。浸水し、果樹は水浸しになっているが、果実の一部は回収可能である。	1,800

出典: ニュージーランド・リンゴ・ナシ協会(ラジオニュージーランドに対するリチャード・パンター会長の説明)

サイクロンガブリエルの影響を大きく受けた地域の生産者のために、ニュージーランド政府は合計7,400万NZドル(4,600万米ドル)を用意した。この資金は、果樹やブドウの木を救うための土砂の排除や柵の設置など、緊急の復旧作業に利用できると発表された。

政府のグラント・ロバートソン財務大臣は、サイクロンの被害額は100億NZドル(62億米ドル)以上と推定されると発表した。ニュージーランド保険協会(ICNZ)によると、サイクロンに関連する損害については、これまですでに、8億9千万NZドル(5億5,200万米ドル)に上る4万件以上の保険金請求がなされている。果樹やその他のインフラの大規模な破壊により、長年にわたってリンゴの生産に大きな影響が出ることは間違いない。

生産

当事務所は、2022/23年度の予測生産量を45万3千トンに引き下げる。これは、2021/22年度と比較して12%少なく、2009/10年度以来の最低水準である。サイクロンの前には、コロナ禍後に果樹園や梱包施設に労働力が戻ったため、今シーズンは前のシーズンと比較して非常に有望だと思われた。さらに、近年改植された果樹園が成園化していることから、総生産量がコロナ禍以前の水準に戻るとの期待もあった。

2022/23年度の国内生産に影響を与えている主な要因は次のとおりである。

- サイクロンガブリエル

前項で述べたとおり、ホークスベイ地方及びギズボーン地方のニュージーランド産リンゴ生産にとって、この嵐の影響は甚大である。推定2,100ヘクタールの果樹園が流されるか、完全に土砂に埋まり、土砂で埋まった園地では土砂が撤去されない限り最終的に果樹が枯死することが予想される。さらに1,800ヘクタールが被害を受け、修復可能ではあるものの大幅な減収に直面していると業界は推定している。

- 季節労働力

労働力確保の可能性は、常にこの国の園芸生産に大きな影響を与えてきた。2023年の収穫期には、認定季節雇用主(RSE)制度の下で労働力が完全に復帰した。これらの労働者は主に太平洋島嶼国から来ており、この労働力は、過去数年間はコロナ禍における国境制限のため非常に制約されてきた。2022年9月に2022/23年度の制限が、以前の1万6千人から1万9千人に緩和された。前述のとおり、サイクロンが襲う前には、収穫労働力の増加は今年のリンゴ作に関して大いに楽観主義を生み出していた。

- 技術革新

過去数年間、多くの果樹園や梱包施設が、労働力をより効果的に管理する目的で自動化に多額の投資を行ってきた。意思決定と果実の品質管理を改善することを目的とする別の技術革新もある。梱包施設では、等級分けのためのカメラ技術と、梱包、積み上げ、パレット積みのためのロボット工学に投資している。生産者は近年、果樹園の作業をより簡単かつ効率的にするための基盤となるプラットフォーム技術に多額の投資を行っている。

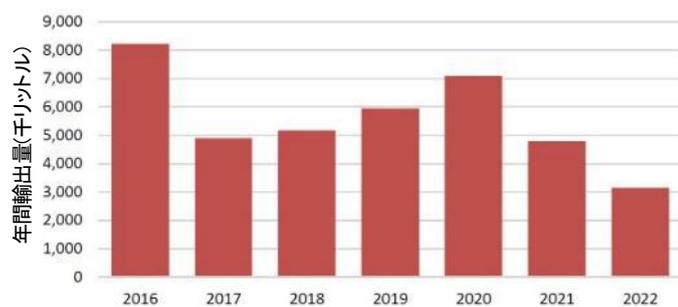
- ラニーニャ現象の気象パターン

国立水大気研究所(NIWA)の予報によると、典型的なラニーニャ現象下の生育期間となった。これは、ニュージーランド各地で起こる対照的な異常気象によって特徴付けられた。すなわち、北島のオークランド、ノースランド、ベイオブプレントゥ及びホークスベイの各地方では、それぞれ記録上最も雨の多い夏となった。一方、南島では、オタゴ、カンタベリー(南部)、タスマンの各地方で非常に、または極度に乾燥した状態が発生したが、リンゴ生産者にとっては、ほとんどの果樹園が灌漑を利用するため、雨が少なく日照時間が長い理想的な栽培条件となっている。その結果、リンゴの総生産量に占める割合は(ホークスベイ地方と比べて)比較的少ないものの、ネルソン地方など南島の生産量は今年大幅に増加するものと予想される。

消費

当事務所は、予想生産量が大幅に減少したため2022/23年度の国内消費量を18万3,300トンとわずかに下方修正した。しかし、収穫労働力の増加により、リンゴの加工向け出荷量(国内消費量の内数)は依然として昨年よりも多いと予想される。昨年は収穫労働力が不足していたため、輸出品質の果実の収穫に重点が置かれ、加工に仕向けられたはずの多くのリンゴが樹上に残された。この加工用果実の大幅な減少は、ニュージーランド産リンゴ果汁の輸出量が数十年で最低の量に急減したことに現れている(図3)。

図3 ニュージーランドのリンゴ果汁輸出



出典: Trade Data Monitor LLC

今年は、十分な収穫労働力とサイクロン被害による収穫面積の減少により、加工用果実の収穫が増えるものと予想される。

果汁用のリンゴの加工はすべて北島で行われ、輸出は主にネーピア港(70%)から積み出され、タウランガ港(27%)とオークランド港がそれに続く。通常、国内の生鮮リンゴの消費量は7万4千トンで、残りは加工に仕向けられる。ホークスベイ地方とギズボーン地方でのサイクロンの影響によって今年はリンゴの出荷量が減少するため、スーパーマーケットでの価格上昇が見込まれ、生鮮消費量がわずかに減少すると予想される。

貿易

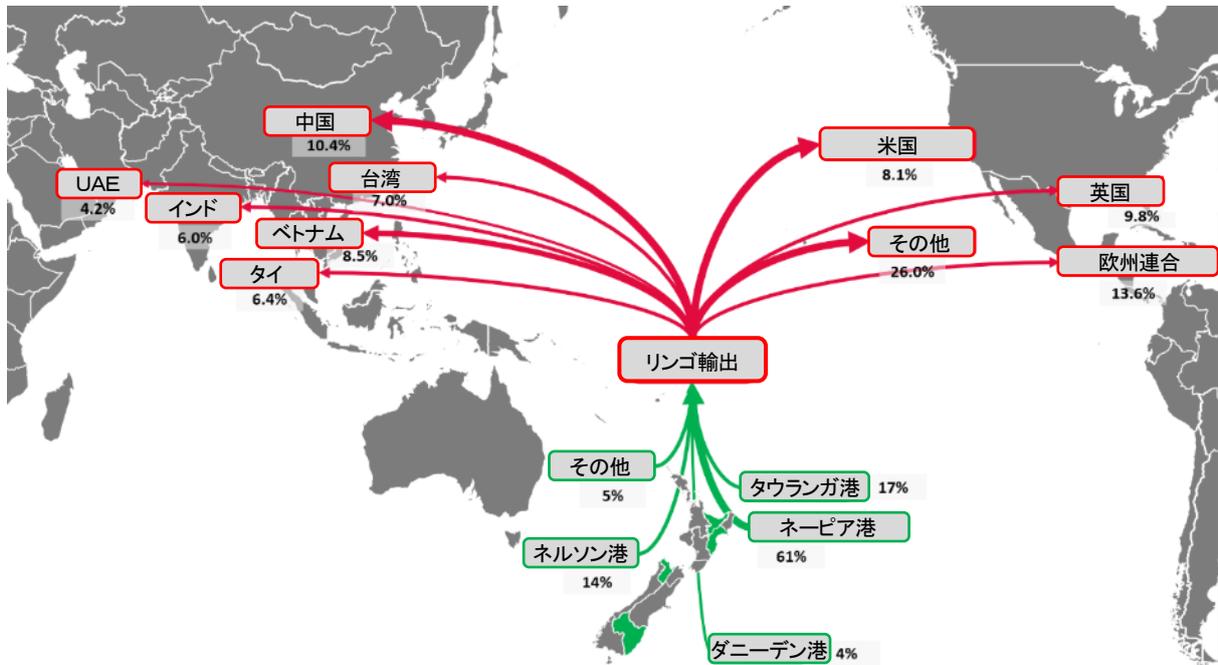
輸出

当事務所は、2022/23年度の予想輸出量を27万トンに下方修正し、これは2021/22年度より21%少なく、この10年以上で最低の水準となった。

2022/23年度第1四半期の輸出量は、昨年の同時期より10%少ないが、従来から第1四半期のリンゴの輸出量は総輸出量の15%を占めるに過ぎない。ニュージーランドのリンゴ輸出の最盛期は、4月～6月(63%を占める)である。

ホークスベイ地方での被害にもかかわらず、ネーピア港は操業し、世界市場への出荷を継続することができた。サイクロン発生後の最初の月である3月の輸出量は、前年の3月と比べて17%減となった。ネーピア港は通常、ニュージーランド産リンゴの総輸出量の61%を海外市場に出荷しており、タウランガ港が17%でこれに続く。南島のネルソン港とダニーデン港は、通常それぞれ年間輸出量の14%及び4%を占める(図4)。しかし、今年はこれらの地域のリンゴの収穫が好調であり、北島からの予想出荷量の減少と相まって、南島が2022/23年度の総輸出量に占める割合が高くなる可能性がある。

図4 ニュージーランドのリンゴ輸出(数量ベース5年平均)



出典:トレードデータモニターLLC

ニュージーランドのリンゴ輸出量の減少が見込まれるため、プレミアム市場が優先されると予想される。これは、最大の輸出収入を確保し、今シーズン発生した生産量の減少を補うためである。中国、ベトナム、台湾、タイなどのアジア市場では、通常、ニュージーランドから最も値段の高いリンゴを輸入し、ヨーロッパとインドは最も値段の安いリンゴを輸入している。(図5)

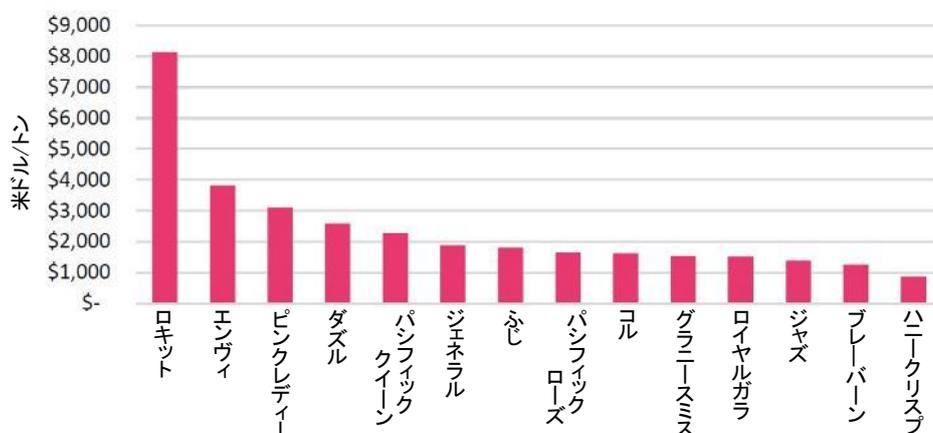
近年、プレーバーンなどの古くて価格の低いリンゴ品種を、特にアジア市場で求められている多収性リンゴ品種に置き換える戦略がある。この移行は、生産者がホークスベイ地方の破壊された園地を改植するのに伴って加速すると予想される。特に業界が今シーズンの問題と以前のコロナ禍による労働力不足の影響からまだ回復中であるため、改植で植えられる品種は、単位重量当たりの価格が高いもの(図6参照)になると予想される。したがって、全国の栽培面積では、ロイヤルガラやプレーバーンなどの古い品種が大幅に減少し、ロッキット、エンヴィイ、ダズル、ピンクレディーなどの価格の高い品種が増加する可能性がある。

図5 ニュージーランド産リンゴの5年平均輸出単価(輸出先別)



出典: Trade Data Monitor LLC

図6 ニュージーランド産リンゴの2022年輸出単価(品種別)



出典: Trade Data Monitor LLC

輸入

ニュージーランドのリンゴ輸入量は非常に少なく、輸入先は主に米国である。この輸入は、国内供給が減少する収穫前の数か月間(11月～12月)にも常に消費者にリンゴを供給することを目的としている。当事務所は、国内生産量の減少に伴い、ニュージーランドの消費者向けにより多くのリンゴが調達されるため、輸入は300トンに増加すると予測する。2022年の輸入はわずか46トンに減少した。

表2 ニュージーランドの生鮮リンゴの生産、需要、供給

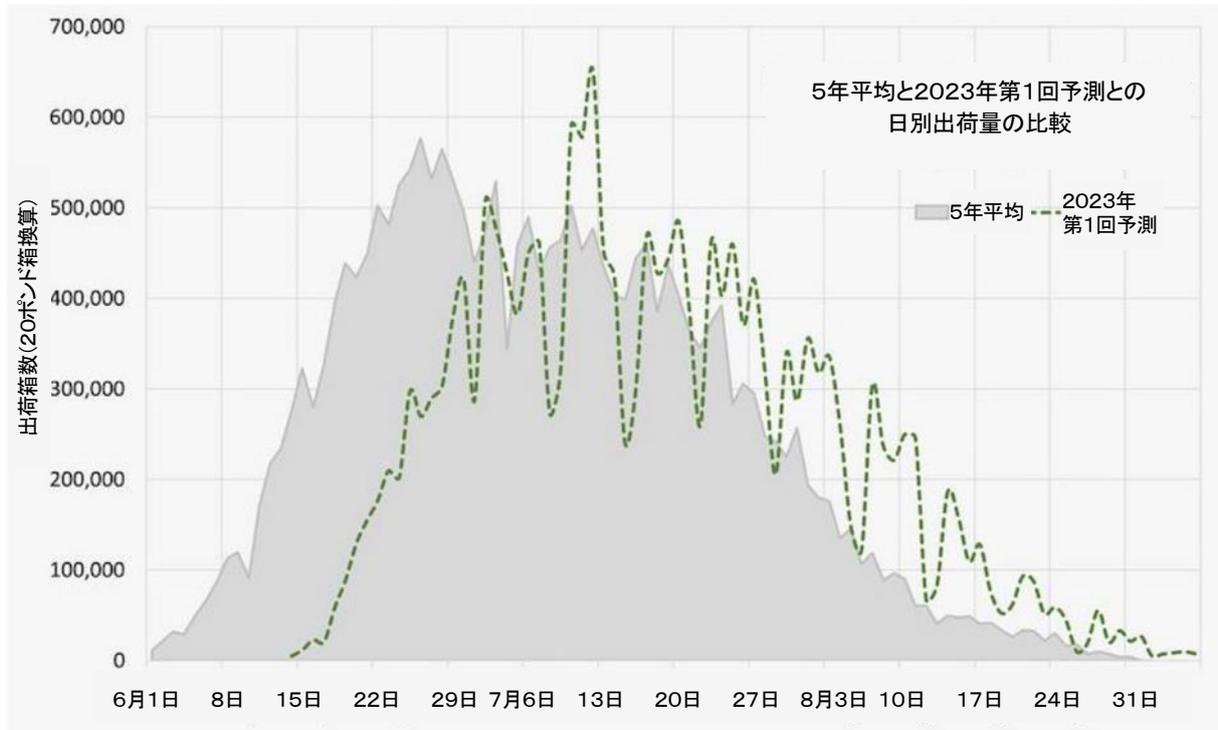
リンゴ(生鮮) 販売年度 ニュージーランド	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年1月～2021年12月 農務省公式	今回推計値	2022年1月～2022年12月 農務省公式	今回推計値	2023年1月～2023年12月 農務省公式	今回推計値
栽培面積	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
収穫面積	10,200	10,200	10,300	10,300	10,300	8,900
商業的生産量	535,000	535,000	510,000	510,000	570,000	450,000
非商業的生産量	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
生産量合計	538,000	538,000	513,000	513,000	573,000	453,000
輸入量	400	351	300	46	300	300
総供給量	538,400	538,351	513,300	513,046	573,300	453,300
国内消費量	180,600	182,551	173,300	172,246	188,300	183,300
輸出量	357,800	355,800	340,000	340,800	385,000	270,000
総仕向量	538,400	538,351	513,300	513,046	573,300	453,300

単位: ヘクタール、トン

59. 米国 北西部のサクランボ生産者は50%増収を期待

FreshPlaza 2023年5月19日

米国北西部サクランボ生産者協会は、出荷量が1,990万箱(20ポンド(約9kg)/箱)に達する可能性があると考えている。これは、2022年の1,330万箱と比較して、50%の増加となる。



この1回目の推計は、積算温度、開花のタイミング、及び樹上の着果状況の確認に基づいて行われた。最も早い収穫は6月15日ころに開始されると見られる。

暖かい天気が続けば、10列サイズ(直径67/64インチ=26.6mm)のサクランボが最も多くなることが予想される。ワシントン、オレゴン、アイダホ、ユタ、モンタナ各州の代表者は、2023年の作柄は果実の量と果実のサイズの点で大いに有望であると判断した。過去2週間、この地域の気温は全般的に華氏80度台(約27~32℃)であるため、果実の肥大のための細胞分裂と糖の蓄積に最適なことは明らかである。今年は4月8日に最も早い果樹園で開花が始まり、4月15日に満開となった。サクランボ(甘果オウトウ)の通常の生育サイクルは、受粉から収穫まで60~65日である。

早生と中生の地域のサクランボは、うまく着果したようである。これは期待されていたことであり、2023年5月18日の時点で、果実は順調に肥大している。晩生地域の生産者もまた、2023年にやや控えめから平年並みの作柄になると予想している。7月4日以降に収穫される果樹園では「フラッシュブルーム(一斉開花)」が起り、受粉に問題が生じた。生産者らは「予想よりも着果が少ない果樹園が一部で見られ、そこでの収穫量は場所により1エーカー当たり5~10トンとなりそうだ。晩生の産地で大きな果実と高い糖度が期待されることは朗報だ」と述べている。

北西部の早生の出荷量は、カリフォルニア州産から移行するサクランボを重視する小売業者にとって、大いに役に立つはずである。カリフォルニア州産のサクランボから収穫開始の遅れた北西部産への移行期に、小売業者が7月4日の祝日(独立記念日)用のサクランボを調達する機会は十分にあるはずである。

60. 米国カリフォルニア州 核果類は強い需要で価格が上昇か

FreshPlaza 2023年5月19日

カリフォルニア州の核果類の出荷シーズンが始まるに当たり、生産者や出荷業者は同州の果実の供給に圧力がかかることを承知している。プリマワオナ社(同州の核果類生産・販売業者)の営業課長であるマウリシオ・ヒメネスカストロ氏は、「需要はかなり強く、特にすべての出荷が遅れている。小売業者らは売り場を商品で埋めたがっている。今年カリフォルニア州にも影響を与えているのが、ジョージア州などの南部の州が悪天候のために大規模な不作となったことだ。そのため、カリフォルニア州産で売上げの多くをカバーすることになる。全体を通してかなり良い需要があるシーズンを期待している」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

とはいえ、カリフォルニア州産核果類の出荷シーズンも、寒さと雨が重なって、今年は従来と比較して約3週間遅く始まる。「今年の初めに記録的な雨が降り、気温が低い日が多かったため、果実の成熟が遅れた。」

プリマワオナ社は先週の金曜日に果肉の黄色いモモとネクタリンの収穫を開始し、今週は果肉の白いモモとネクタリンの収穫を始めている。約3週間後にはアンズとスモモの収穫が始まる。出荷シーズン全体としては、10月中旬まで続く。「8月末か9月の第2週までに終了する業者が多い。弊社では、10月の第2週まで収穫を行うプリマガッティと呼ばれる晩生のモモ品種があり、出荷期間が長い。」

早い時期の供給が逼迫

出荷量は昨年と同程度である。「一部の業者は出荷シーズン序盤に、特にネクタリンとスモモで影響を受けた。一部の果樹の着果量が少ないため、シーズンの前半は全般的に逼迫する。しかし、6月中旬から6月下旬には、もっと通常の出荷量になるはずだ。」

同氏はまた、今年の果実には品質的な強みが多くあると付け加える。「果実の食味は良くなりそうだ。適切な時期に低温時間が長かったことが、風味の良さに貢献している。サイズも良いものになるだろう。早生の果実では、昨年よりもほぼ1サイズ大きくなっている。したがって、今年はサイズ、食味、風味の点で良い年である。」

価格に関しては、需要が強いため、記録的な高値であった昨年よりも強気の設定になりそうだ。「他の品目の不足により、強力な価格設定のチャンスとなっており、これはシーズンを通して維持されると思う。シーズン序盤からかなり力強く始まり、その後少し落ち着くだろう。価格が安定しても、需要の増加と他州の不作をカバーする必要性から、昨年の実績に上乘せした価格となることを望んでいる。」

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

61. エジプト ブドウの出荷が早い

FreshPlaza 2023年5月19日

エジプトでは、昨年より1か月早く、約10日前に生食用ブドウの出荷シーズンが始まった。これはエジプトの輸出業者らにとっての商業的機会となるが、出荷量も直接的な影響を受ける。エジプトでブドウ生産のコンサルタントを務めるサーレム・ゴーニム氏がこの状況について述べる。(以下「」は同氏の発言)

「エジプトは他のすべての国と同様に気候の変動に直面している。今年は暑かったため、ブドウの出荷シーズンが早くなったが、栽培面積当たり及び果樹本数あたりの収穫量は減少した。この減少は約20～30%である。1フェダン(0.42ヘクタール)当たりの収量は通常約10トンだが、今年は約7トンである。」

「しかし、品質の面では変わらない。エジプト産は大変素晴らしい味と外観の点で優れており、今シーズンも例外ではない。」

ゴーニム氏によると、早期の市場出荷は絶好のビジネスチャンスを意味している。「これは主要な競争相手の1つであるスペインより1か月早く市場に出荷するためだ。それによってヨーロッパ市場での立場が良くなり、北アフリカなど、通常はスペインから調達している他の市場にも出荷することができる。」

同氏によると、エジプトの生産者は主にヨーロッパをターゲットにしているが、東アジアや一部のアフリカ市場及びアラブ市場、さらにロシアにも出荷している。「スペイン以外の我々の主な競争相手は、米国への輸出がうまくいかない場合にヨーロッパに出荷するチリと、白ブドウで我々と競合するインドである。」

ゴーニム氏は、ロシア市場も今年大きな需要があると言う。「ロシアの需要はすべての品種と色をカバーしており、非常に堅調で、成長している。この傾向が続けば、ロシアはヨーロッパさえ追い越して我々の最大の市場になる可能性がある。」

収穫量は減少したが、輸出業者は需要を満たすことができるだろうとゴーニム氏は保証する。「エジプトの生食用ブドウ出荷量の10～15%しか輸出されていないことに留意する必要がある。これはいかなる需要にも対応する余地と能力が十分にあるということだ。また、今年の収穫はまだ終わっていない。」

最後に、価格について、ゴーニム氏は次のように述べている。「今年は価格がかなり良い。しかし、生産者はこれについてあまり発言権がない。価格を設定するのは輸出業者であり、時として輸出価格が上がっても農場出荷価格が変わらない場合もある。」

執筆者: ユーネス・ベンサイド

62. 世界のサクランボ市場

FreshPlaza 2023年5月19日

北半球のサクランボのシーズンは、国によっては順調なスタートを切っているが、他の市場(南半球)ではちょうど終わったところだ。オランダのサクランボシーズンは高品質のスペイン産で始まり、需要と供給のバランスが取れている。ドイツ市場はスペインの産地からの供給不足を恐れているが、スペインからの報告によると、最近の温暖な天候は出荷を加速させるはずである。イタリアでは雨が降り続き、裂果が発生し、早生のサクランボの供給が限られて価格が上昇している。北イタリア、特にエミリア・ロマーニャ州では、悪天候が出荷の開始に影響を与えている。ギリシャでは今年は昨年の生産量を上回るサクランボの豊作を見込んでいるが、ヨーロッパ市場での厳しい競争にさらされている。南アフリカは実り多い出荷シーズンを終了した一方、北米のサクランボ産地は次のシーズンに向けて準備を進めている。(以下、一部省略しました。)

ドイツ：大玉は希少

スペイン産のサクランボの収穫は今年、1〜2週間遅れて始まる。スペインの核果類全体で、出荷量が少なく、特に大玉が不足している。トルコ産とギリシャ産が近年増加しており、スペイン産は主に価格差のために市場シェアを失っている。全体として、寒い天候は核果類の需要を鈍化させた。現在、春らしい天候が近づいており、需要の増加が見込まれる。

スペイン産のサクランボは通常5月から8月末まで出荷できるが、6月ないしは7月からのドイツ国内産の販売により、スペイン産の需要はシーズンの後半に著しく減少するのが常である。

イタリア：大雨が早生品種に被害を与え価格が上昇

早生のサクランボは長引く降雨の影響を受け、著しい裂果が発生した。しかし、この生産上の問題は、商業的には有利な状況を生み出した。実際、損傷したサクランボの廃棄と悪天候による成熟の遅れにより供給量が制約されているため、早生のサクランボの出始めの価格はまだ高い。

イタリア北部の大部分、主にエミリア・ロマーニャ州では、過去2週間で大雨、雹を伴う嵐、洪水などの悪天候に襲われた。生産者は早生のサクランボの収穫を開始し、約5ユーロ/kgの順当な価格を獲得した。その後、過度の降雨により裂果を生じ、多くの果実が廃棄された。雨よけ栽培のサクランボでさえ、かなりの被害を受けた。イタリア北部の出荷シーズンの始まりは順調ではない。

プーリア州(南東部)では、2023年の第20週(5月中旬)に生産者に支払われた価格は4.50〜6.50ユーロ/kgで、昨年よりも高い。全体として、2023年のサクランボ出荷シーズンは、昨年と比較して量がわずかに(約15%)少ないが、一方で果実のサイズは非常に良い。

カンパニア州(南西部)では、ここ数週間の悪天候により、裂果や腐敗が発生し果実の品質が損なわれたため、サクランボの出荷開始はうまくいっていない。その結果、小売業者らは少量の品質の良い果実のみを入手しており、価格は明らかに高い。

スペイン：高温が遅れている早生品種を助ける

当初の予測では、開花が遅かったことからサクランボの収穫が遅れることが指摘されていたが、春の高温により、ほとんどの産地でようやく収穫が進んだ。これに最も該当する地域の1つはヘルテバレー地域(エストレマドゥーラ州)で、今年はお荷量が多い。これまでは例年のシーズン初めと同じく、供給は全般的に早生品種に限られていたが、今週からは、硬く、輸出に適した品種の収穫が始まった。さらに、気温が高いため収穫は通常より早く進んでいる。

暖かく雨が降らないためサクランボの品質は高いが、成熟が急速に進んだため、早生品種は直径がやや小さい。中生及び晩生の品種については、生産者らは通常サイズを期待している。市場は出始めのサクランボを大いに歓迎している。いつものように、供給が増え始めるまで価格は非常に高い。サクランボ市場がどのように進展するかを業界関係者が本当にわかるのは、スペインや他国の産地の大部分から入荷し、価格がかなり調整される6月になってからである。地中海沿岸のほとんどの国では、今年は豊作のようである。

ある種苗業者によると、極早生及び早生品種では、従来品種の大部分が、果実がより硬く、より均質な品種に急速に置き換えられている。

ギリシャ：新しい市場に照準を合わせる

今年、ギリシャはサクランボの豊作が見込まれる。これは、特に中早生品種よりも後に当てはまる。全体として、今年は霜の問題がなかったため、昨年よりも出荷量が多い。

ギリシャのあるサクランボ輸出業者は、「ギリシャ産のサクランボはヨーロッパ市場で評価を得ている。残念ながら、ここギリシャでは、国内でサクランボの梱包・出荷ができないため、ほとんどの輸出業者は、農場から直接イタリアとルーマニアに大量に販売している。その結果、ギリシャ産サクランボはヨーロッパ市場でイタリア産またはルーマニア産として出回る」と述べた。

ギリシャのサクランボ輸出業者はドイツ市場に参入したいと考えているが、ほとんどすべてのヨーロッパ産とトルコ産のサクランボがそこに集まるため、競争は非常に激しく、ギリシャ産のサクランボはセルビア等、単に生産コストが安いだけの他の輸出国と価格で競争することができない。ギリシャの誰もが参入したい他の市場はフランスとイギリスであり、どちらも大きな市場で、多くの可能性がある。

トルコ：小玉の需要が増加

現在の園地の状況を見ると、今シーズンは、トルコ全土の産地における果実の品質、量の多さ、出荷期間の長さの点で、かなり有望である。開花期は良好で、霜や雨による大きな被害もなく、園地での着果量は多いようだ。

第21週(5月下旬)にはヨーロッパ向けの陸上輸送用と、湾岸諸国や東アジア諸国などに向けた空輸用の梱包を開始する予定である。出荷シーズンは第32週(8月上旬)まで続くと思われる。トルコのある輸出業者は、「梱包資材のコストと人件費の増大の二つが、今シーズン弊社にとって最も大きな課題となりそうだ。これは、過去数年間国内でインフレが抑制できていない結果だが、これらの課題が弊社の事業に与える影響はごくわずかであると考えている」と説明した。需要と価格を見ると、現在の市場は大玉よりも小玉を求めているようだ。小型サクランボの需要は常にあったが、ここ数年でこの需要の増加傾向が見られた。

北米：出荷が遅いスタート

カリフォルニア州では8百万箱以上の出荷が予想されているが、早生品種の出荷は寒さのために2週間半～3週間遅れて始まった。これは、メモリアルデーの祝日に向けて生産者と梱包出荷業者に圧力をかけ、ある出荷業者は、小売業者は祝日に向けた販促活動に必要な量を手に入れられないと言う。出荷の最盛期は、5月の最終週/6月の第1週から7月4日までである。これは、10.5列サイズ(直径1インチ)のサクランボで一箱95～100ドルと非常に高いスポット市場価格を意味する。5月15日から6月5日にかけて、スポット市場の価格は一箱25ドル以上下がると予想されている。

太平洋岸北西部の生産者と出荷業者は、2022年の1,240万箱をはるかに上回る推定2,000万～2,100万箱のサクランボを見込んでいる。ダークスイーツ品種の出荷は6月12～15日に始まり、レーニア品種は6月22～23日に始まると見られる。出荷シーズンは7月中旬ないし下旬まで続く。ある出荷業者は、「販促に取り組めるだけの出荷量が得られる。2,000万～2,100万箱の果実を収穫すれば、サクランボは夏の間ずっと競争力のある価格になるだろう。」(20ポンド(約9kg)/箱)

ブリティッシュコロンビア州(カナダ)のサクランボ園の大部分は開花を終えた。そこでも出荷シーズンの開始は遅くなっている。ある出荷業者は、「開花の開始は約2週間遅れたが、現在は気温が高くなっており、生育がほぼ確実に進むだろう」と言う。初期の兆候は、平年並みから良好な作柄を示しているが、兆候がより良く現れるのはこれからになる。

63. インド 生食用ブドウは新しい品種へ移行

FreshPlaza 2023年5月22日

インドの生産者は伝統的なトンプソン品種からクリムゾン品種へ移行

インドのブドウの季節は終わりに近づいている。インドの青果物出荷輸出業者であるチョプデ農産・輸出会社のCEOであるアミット・チョプデ氏によると、出荷シーズンは非常にうまく行っており、さらに延長された。

同氏は、「弊社のブドウの出荷シーズンは全体的に非常にうまくいった。収穫されたブドウの量と品質の両方に満足している。収穫は1月上旬から4月末までと長くなり、5月下旬まで果実を市場に供給する機会を得た。この出荷期間の延長により、需要を満たし、安定した供給を維持することができた。数量は増加したが、市場はシーズンを通して安定していた。これは、市場が大きな変動や問題を引き起こすことなく、増加した供給量を吸収したことを示している。今シーズン、ヨーロッパに100コンテナ以上を輸出し、初の3桁となったことをうれしく思う」と語った。(以下「」は同氏の発言)

チョプデ農産は、ブドウのほとんどをヨーロッパ諸国に輸出している。チョプデ氏は、紛争が続いているにもかかわらず、今年はロシアへの輸出がより円滑になったと述べている。「欧州市場は、インドのブドウ輸出にとって非常に重要である。弊社チョプデ農産は今シーズン、2種類のブドウのミックスパックに対する英国とヨーロッパ諸国のスーパーマーケットからの強い需要を目の当たりにしている。また、ロシアや東南アジア諸国からの需要も増加している。ウクライナとロシアの紛争が続いているため、ロシアとの取引には懐疑的だったが、今シーズンは昨年よりも円滑に運営されている。」

可能性のある新しい市場に関し、チョプデ氏にとって突出した国が1つある。「カナダ市場がインド産ブドウの潜在的な輸出機会として浮上しており、弊社はこの市場に参入する可能性を積極的に模索している。全体として見ると、ヨーロッパは引き続き弊社のブドウ輸出にとって最も重要な市場となっているが、カナダ向けなど成長のための新しい道を模索し、出荷先を拡大している。インドのブドウ輸出量は、前のシーズンに比べて大幅に増加している。今年、インドは前年より約6%多くの量を輸出した。有利な為替レートと運賃の低下が、こうした成長を推進する上で重要な役割を果たした。」

同氏は、インドは大量の降雨と降雪に対処しなければならなかったが、天候はブドウの品質にあまり影響を与えなかったと言う。「今年は季節外れの雨が頻繁に降り、弊社のブドウの出荷シーズンにいくらかの影響を及ぼした。顕著な影響の1つは一定の期間に梱包作業が遅れたことだ。しかし、これらの雨にもかかわらず、ブドウの品質は大きな影響を受けなかったことに留意することが重要だ。チョプデ農産の利点の1つは、広い地域に広がる生産者の広範なネットワークである。これによって、複数の地域からブドウを調達することができ、一定の安定した供給を実現している。季節外れの雨により生じた課題にもかかわらず、しっかりした生産体制のおかげで供給の約束を果たすことができた。季節外れの雨は一時的な混乱を引き起こしたが、弊社は安定した供給を維持することができ、これらの課題を乗り越えて取引先への義務を果たすことができた。」

インドの生産者は今日、トンプソン品種よりも多くのクリムゾン品種を栽培していると同氏は言う。「さまざまなブドウ品種に対する取組みに加えて、インドの生産者の間では伝統的なトンプソン品種からクリムゾン品種への顕著な変化がある。この変化は、特にヨーロッパ市場での色の濃い品種に対する需要の増加によって推進されている。クリムゾン品種は色合いが魅力的であり、生産者と消費者の両方で人気を得ている。より多くの生産者がクリムゾンの栽培に移行するので、インドはヨーロッパ市場の需要を満たすために、かなりの量の色の濃い品種を供給できると期待される。」

「この色の濃いブドウ品種への移行は、業界の適応性と新しい市場機会を模索する意欲を反映している。また、インドが今後数年間で色の濃いブドウの信頼できる輸出国としての地位を確立する可能性も浮き彫りにしている。」

執筆者: ニック・ピーターズ

64. 南アフリカの落葉果実事情(リンゴ、生食用ブドウ)

米国農務省GAINレポート 2023年5月22日

これは米国農務省海外農業局プレトリア事務所(南アフリカ)が作成した「生鮮落葉果実半期報告書」の要点とリンゴ及び生食用ブドウの項(一部省略)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

レポートの要点

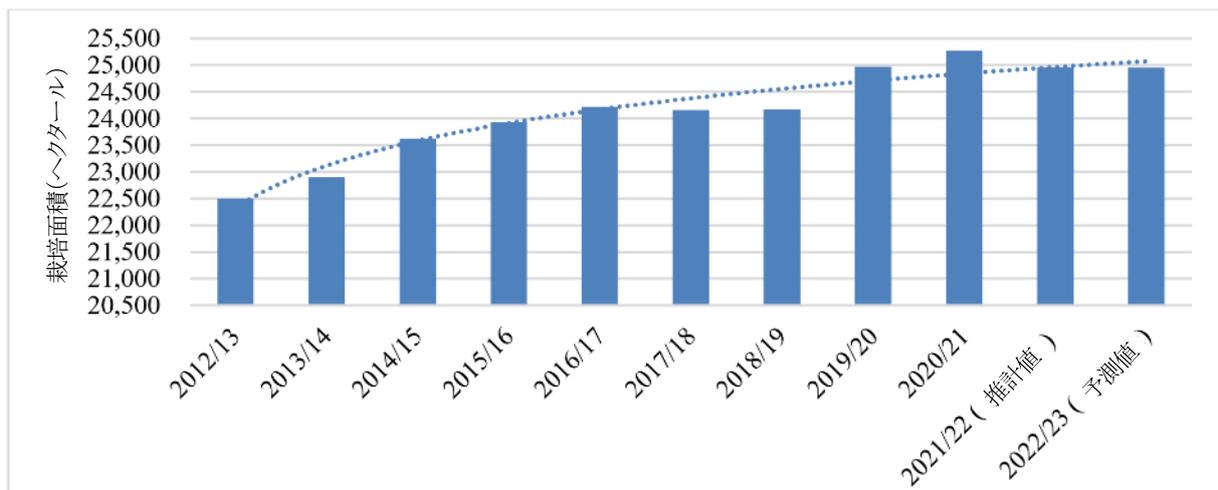
2022/23販売年度(以下「年度」)のリンゴ、洋ナシ、生食用ブドウの生産量は、3品目とも主に栽培面積の停滞と、昨年の記録的な豊作の後で通常の収量に戻ることから、わずかに減少すると推定される。リンゴと洋ナシの産地では2022年11月に雹を伴う嵐の被害を受け、また北ケープ州では2023年1月の熱波が生食用ブドウの減収につながった。南アフリカは落葉果実を自給しており、ニッチ市場を満たすため、または供給が限られるオフシーズンの需要を満たすために少量のみを輸入している。輸出可能な供給量の減少と港へのアクセスの問題により、2022/23年度にはリンゴ、洋ナシ、生食用ブドウの輸出が減少すると予測される。

<リンゴ(生鮮)>

栽培面積

リンゴの栽培面積は過去10年間で着実に拡大しており、平均成長率は年1%を超えている(図1参照)。この前向きな傾向は、比較的高い収入と輸出市場の収益性の改善に基づく落葉果実セクターへの継続的な投資によって推進されてきた。さらに、改良品種の導入や防雹ネットの設置への投資等の良い農業慣行によって収量が増加した。しかし、この上ない生産条件の年にもかかわらず、南アフリカの2022/23年度のリンゴの栽培面積は2万4,950ヘクタール、果樹本数は約3,600万本で横ばいと推定されており、新植はごくわずかである。農業生産資材費の上昇、包装資材と保管コストの上昇、高い輸送費、さらに市場の低迷により、リンゴの収益性が低下し、栽培の拡大への継続的な投資を制約している。国内の港で起こっている出荷の遅延は、輸出市場での果実の品質に悪影響を及ぼし、最終的には生産者の収益を低下させている。業界は統合整理の段階にあるようで、生産者は収量の増加、信頼できる電力と水源、及び高い投入コストを相殺するための垂直統合に投資を集中させている。

図1 南アフリカのリンゴの栽培面積と傾向線



出典: Hortgro

西ケープ州は南アフリカ最大のリンゴ産地であり、東ケープ州と合わせてリンゴ生産量の95%以上を占めている(図2参照)。小さいながらも成長している産地は、主にフリーステート州、ムプマランガ州及びリンポポ州を中心に北部に形成されている。南アフリカのリンゴの収穫は通常1月末に始まり6月まで続き、収穫の最盛期は2月から4月の間にある。CA貯蔵庫の利用により、一年中国内市場と国際市場の両方に産品を提供

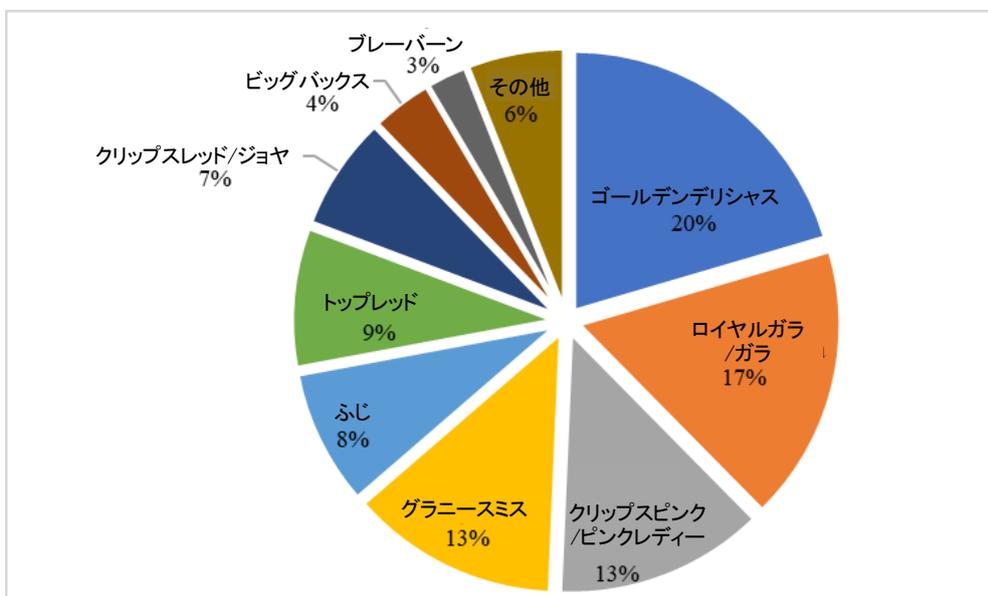
することができる。クラス1の果実は通常、CA貯蔵庫で約9か月間保管され、その後、短期間(3か月)通常の大気(RA)の貯蔵庫に置かれる。当事務所の情報提供者らによると、冷蔵貯蔵施設の需要が増加しており、拡大計画が進行中である。

図2 南アフリカの落葉果樹産地の地図



出典: Hortgro

図3 栽培されているリンゴ品種(面積ベース)



出典: Hortgro Tree Census, 2021

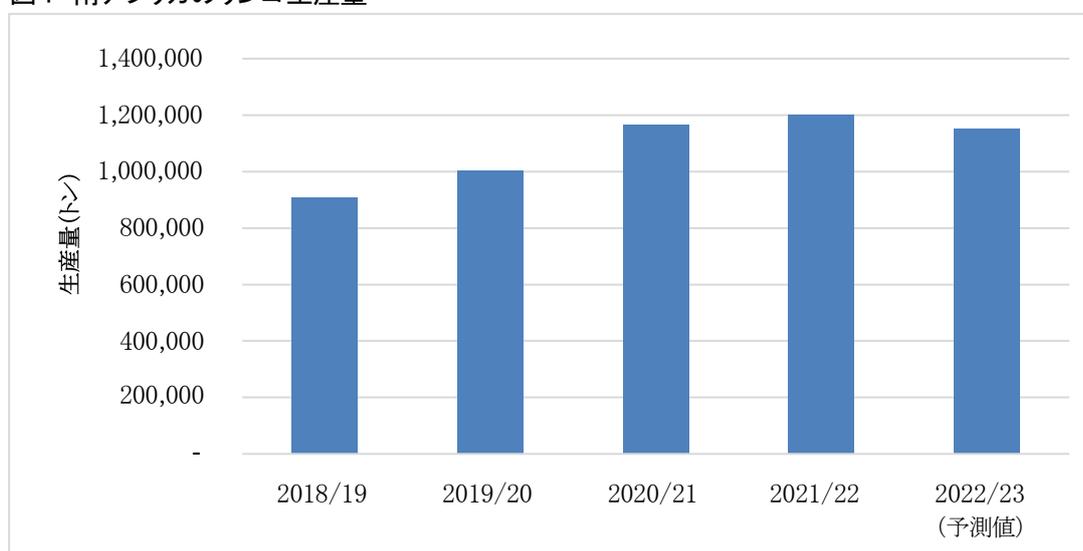
南アフリカでは6つの品種が栽培面積の80%以上とリンゴ生産の大部分を占めている。選択される品種は、主に消費者の好みと南アフリカの輸出市場の需要によって決定される。しかし、最近5年間の植栽は、収量を増やしたいという生産者の願望に従って進められてきた。

生産

当事務所は、2022/23年度の南アフリカのリンゴ生産量は、4%減の115万トンと予測する(図4参照)。この予測は、栽培面積の停滞と、2021/22年度の記録的な豊作の後で通常の収量に戻ることに基づいている。2022年11月には西ケープ州の一部の地域で霜を伴う嵐により作物が被害を受けた。この地域の生産者は、加工用に仕向けたリンゴの割合が例年の平均20~25%から2022/23年度には55~60%に増加したと報告した。当事務所の情報提供者らは、通常は生鮮消費用に出荷される約10万トンのリンゴが、2022/23年度には加工用に仕向けられたことを示唆した。その結果、多くの果汁工場はシーズンの処理能力の上限に達し、提携している生産者以外には扉を閉ざしている。品質の低い果実の出荷先が明らかでないため、当事務所は2022/23年度には収穫されない面積がわずかに増加し、出荷量が減少すると予想する。

2021/22年度には、南アフリカは120万トンと過去最多のリンゴを出荷した。2021年の冬の間の好ましい降雨と適切な低温時間は、十分な灌漑用水と果実の良好な生育を生産者に保証した。シーズンを通して良好な気象条件が続き、豊作と優れた果実の品質を確実にした。さらに若い果樹園が成園化し、出荷量の増加に貢献した。

図4 南アフリカのリンゴ生産量



出典: Hortgro 及び当事務所推計

輸出

当事務所は、主要産地における降霜による輸出品質のリンゴの出荷量の減少に伴い、2022/23年度の輸出量予測を53万5千トンに下方修正した。これは、2021/22年度の62万5,103トンから14%の減少となる。2021/22年度には記録的な豊作に伴い、リンゴの輸出量は6%増の62万5,103トンとなった。もし、輸送コストの上昇、国内の港湾の問題、通常の貿易パターンに対するロシアとウクライナの紛争の影響、及び英国におけるインフレ圧力といった問題が無ければ、2021/22年度の南アフリカのリンゴ輸出量の増加率はさらに大きくなっていた可能性がある。

アフリカ諸国への輸出は主に強い需要(特にピンクレディー、ガラ、ゴールドデンデリシャスの各品種)、これらの市場での競争の少なさ、及び最適とは言えない取り扱いに耐えるリンゴの性質のおかげで伸びている。ただし、アフリカ諸国への輸出は、貿易コストの高さと物流上の問題によって制約されている。南アフリカは欧州連合(EU)と英国の両方と自由貿易協定を結んでおり、これらの市場への免税輸出の恩恵を受けている。

アフリカと欧州の市場は従来から堅調だが、成長は主に東方諸国への輸出の増加に牽引されると予想される。南アフリカからインドへのリンゴの輸出は、インド政府が南アフリカ産のリンゴとナシの輸出における輸送中の低温処理を承認したのを受けて、2022年に約67%増加した。競合国への関税引き上げによって南アフリカの輸出業者が機会を掴んだため、インドへの輸出は2022/23年度にさらに増加すると予想される。

表1 南アフリカの生鮮リンゴ輸出

輸出先	単位	2020/21	2021/22	2021/22	2022/23	変化率(%)
				1月～3月		
世界	トン	589,186	625,103	100,406	116,656	16%
英国	トン	89,598	77,948	1,450	1,105	-24%
ナイジェリア	トン	43,790	56,937	13,235	10,191	-23%
バングラデシュ	トン	37,496	38,008	13,325	18,978	42%
マレーシア	トン	36,210	37,413	5,307	6,458	22%
アラブ首長国連邦	トン	27,486	34,791	9,336	12,980	39%
ロシア	トン	31,711	26,463	492	863	75%
ベトナム	トン	16,878	23,783	1,453	3,174	118%
セネガル	トン	22,049	22,772	4,332	3,756	-13%
オランダ	トン	24,086	21,786	283	341	20%
ケニア	トン	18,999	17,558	2,359	3,008	28%
インド	トン	10,446	17,470	3,703	6,754	82%
ジンバブエ	トン	12,969	16,095	2,893	2,440	-16%
ザンビア	トン	12,485	15,508	2,876	2,730	-5%
ボツワナ	トン	14,070	14,172	3,524	3,624	3%
中国	トン	9,028	13,223	2,840	3,959	39%
ガーナ	トン	14,856	12,667	3,514	3,021	-14%
ドイツ	トン	9,396	11,987	71	123	73%
カメルーン	トン	11,146	10,784	1,906	2,186	15%
ナミビア	トン	8,995	10,678	2,275	2,618	15%
その他	トン	137,494	145,060	25,233	28,346	12%

出典: Trade Data Monitor

表3 生鮮リンゴの生産需給統計

リンゴ(生鮮) 市場年度	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年1月～12月		2022年1月～12月		2023年1月～12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
南アフリカ						
栽培面積	25,272	25,272	24,956	24,956	24,950	24,950
収穫面積	22,580	22,580	22,850	22,850	22,800	22,300
結果樹本数	32,540	32,540	33,637	33,637	33,560	33,700
未結果樹本数	3,934	3,934	3,100	3,100	3,470	2,700
果樹総本数	36,474	36,474	36,737	36,737	37,030	36,400
商業的生産量	1,164,105	1,164,105	1,170,000	1,201,100	1,100,000	1,150,000
非商業的生産量	0	0	0	0	0	0
生産量合計	1,164,105	1,164,105	1,170,000	1,201,100	1,100,000	1,150,000
輸入量	200	173	200	25	200	25
総供給量	1,164,305	1,164,278	1,170,200	1,201,125	1,100,200	1,150,025
国内消費量	575,105	575,092	545,200	576,022	540,200	615,025
輸出货量	589,200	589,186	625,000	625,103	560,000	535,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	1,164,305	1,164,278	1,170,200	1,201,125	1,100,200	1,150,025

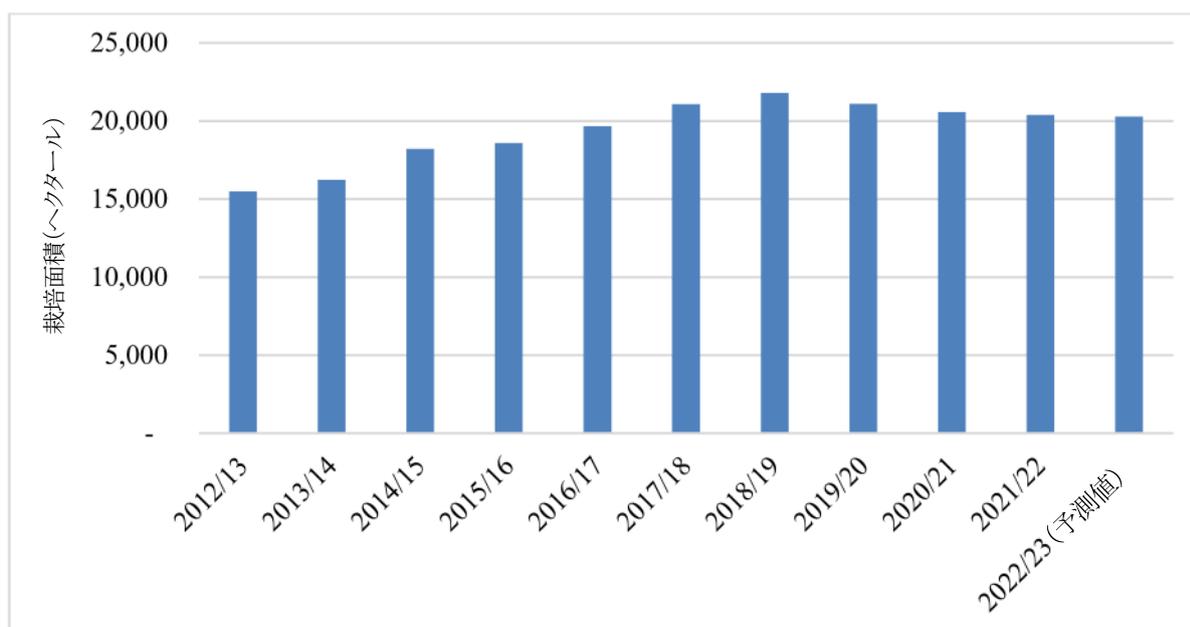
単位: ヘクタール、千本、トン

<生食用ブドウ(生鮮)>

栽培面積

生食用ブドウは南アフリカで生産される2番目に多い落葉果実であり、落葉果樹栽培総面積のほぼ30%を占めている。当事務所は、南アフリカの生食用ブドウの栽培面積は、2021/22年度の2万379ヘクタールに対して2022/23年度には2万270ヘクタールで、比較的安定していると推定する。生食用ブドウの栽培面積は、主に輸出収入の増加に牽引されて、2012年から2017年にかけて急激に増加した後(図9参照)は、約2万ヘクタールで停滞している。現在の農業生産資材費の高騰、非効率的な港湾運営、道路網の劣化、他の南半球諸国との競争の激化、及び電力供給の頻繁な中断は、南アフリカの生食用ブドウ生産者の収益性を低下させ、この産業への新規の投資を制約している。生産者らは、2021/22年度に直接費用全体の45%を占める販売と包装材料にかかるコスト、及び同じく31%を占める人件費の増加を経験した。人件費については、南アフリカ雇用労働省が2023年3月1日に新たな最低賃金を1時間当たり25.42ランド(1.38米ドル)と定めたことから、2022/23年度にはさらに上昇すると予想される。これは、2022年の23.19ランド(1.26米ドル)から10%の増加となる。これに対し、生産者らは新しい品種の植栽や接ぎ木を控えることにより、人件費を削減している。当事務所は、現地調査において伐根された生食用ブドウ園を見かけたが、すぐに改植されたかどうかは明らかでない。

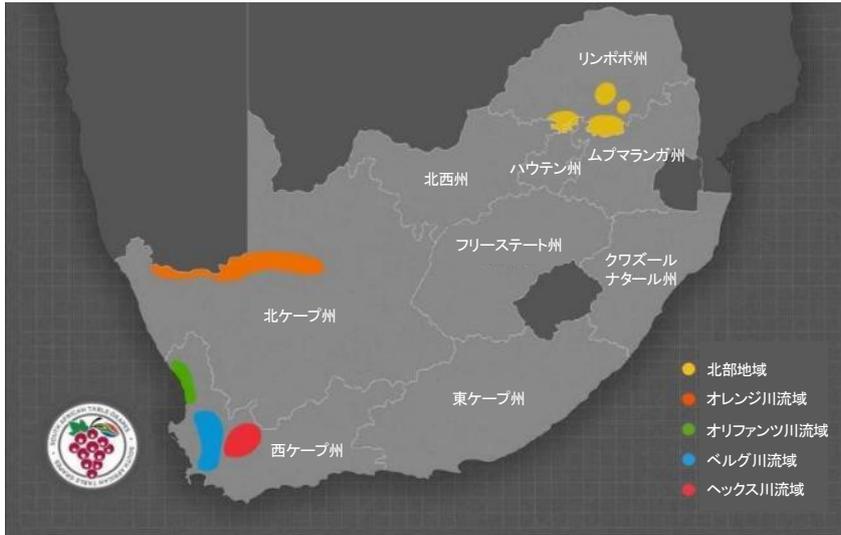
図9 南アフリカの生食用ブドウの栽培面積



出典: 南アフリカの生食用ブドウ産業(SATI)及び当事務所推計

2021/22年度の栽培面積は、2020/21年度の2万564ヘクタールから1%減の2万379ヘクタールとなった。特に面積が減少したブドウ産地は、北部地域(-8%)、ベルグ川流域(-2%)等であり、ヘックス川流域の栽培面積は変わらず、オレンジ川流域(+3%)とオリファンツ川流域(+1%)ではわずかに増加した。西ケープ州のヘックス川流域は、南アフリカの主要な生食用ブドウ産地であり、南アフリカの栽培面積の31%を占めている(図10参照)。その他の主要産地は、北ケープ州のオレンジ川流域(総面積の28%)、西ケープ州のベルグ川流域(23%)、北東部のリンポポ州(12%)等である。

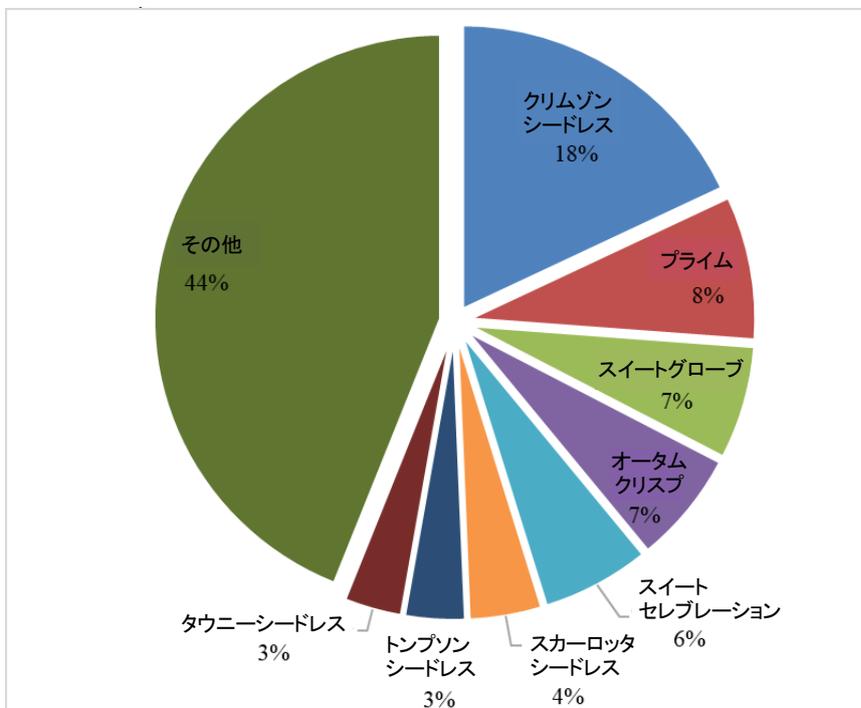
図10 南アフリカの生食用ブドウ産地



出典: SATI

2021/22年度におけるブドウの樹齢は、3～9年が主体(53%)で、次に10～15年(19%)、さらに16年以上(15%)が続いた。約2,740ヘクタール(13%)は、樹齢2年未満の若い園地であった。上位5品種の樹齢別の割合を見ると、スイートグローブ(43%)、オータムクリスパ(38%)、スイートセレブレーション(32%)では、樹齢2年未満の新しいブドウの木の栽培面積が多かった。南アフリカの生食用ブドウの品種構成は、過去10年間で大きく変化した。消費者は種なしブドウを好み、その結果、種なし生食用ブドウ品種の栽培が増加する一方で、種のある品種は減少している。現在のブドウ園のうち、種のある生食用ブドウは8%未満である。

図11 生食用ブドウの品種別シェア



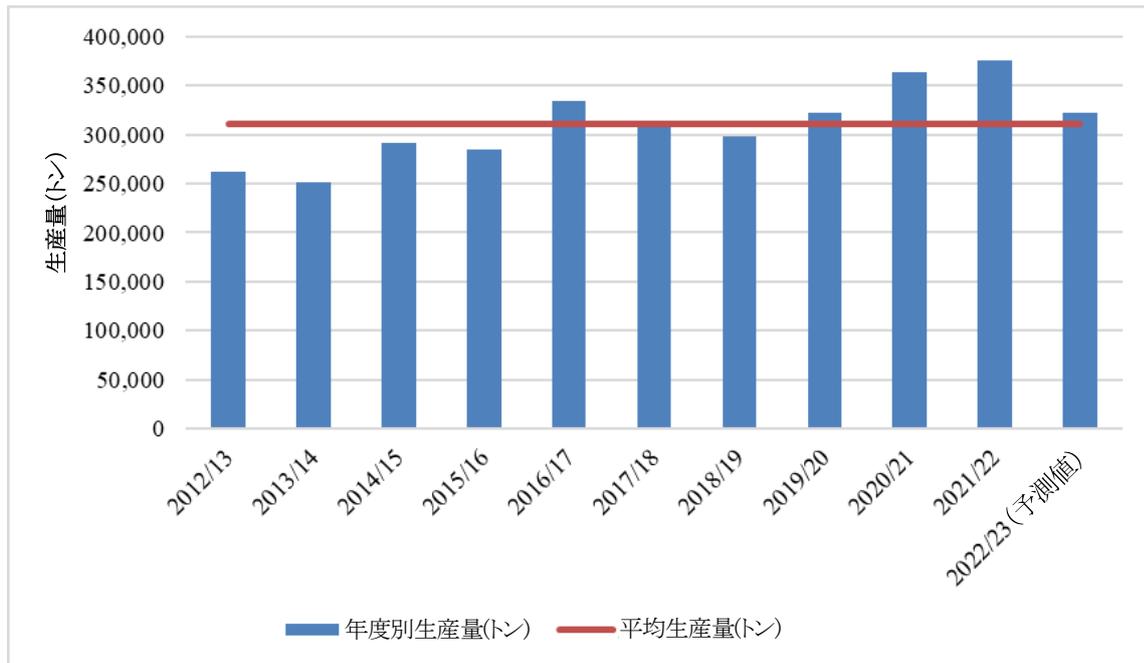
出典: 2022 SATI Tree Census

生産

南アフリカの生食用ブドウ生産量は、2021/22年度に過去最高の37万6,015トン記録したが、当事務所2022/23年度の生産量を34万トンに下方修正する(図12参照)。これは、2023年1月の熱波の影響を受けた北ケープ州オレンジ川流域を初めとする減収によるものである。さらに、この予測は、栽培面積のわずかな減少と、収量が通常に戻ることも踏まえている。

2021/22年度の生食用ブドウの栽培面積は横ばいであったが、多収性の新しい品種の園地が成園化したことと、シーズン中の良好な気象条件によって過去最高の生産量が達成された。

図12 南アフリカの生食用ブドウ生産量



出典：米国農務省、SATI、当事務所推計

輸出

当事務所は、生産量の減少を踏まえ、2022/23年度の南アフリカの生食用ブドウ輸出量を30万トンに下方修正する。2021/22年度には、史上最高の生産量に支えられ、生食用ブドウの輸出量は4%増加し、記録的に多い33万5,750トンに達した(表8参照)。しかし、ケープタウン港の非効率性、輸送の遅れ、及び高いリーファーコンテナ運賃が業界に大きな圧力となっている。南アフリカの生食用ブドウ輸出量の約95%はケープタウン港を経由しており、残りはダーバン港を経由している。生食用ブドウは非常に傷みやすく、港湾を円滑に通過することが重要だが、南アフリカからの輸出は国内の港で繰り返し物流上の困難を経験している。2023年2月には、生食用ブドウの輸出の最盛期にケープタウン港が強風のために約240時間閉鎖され、この非常に傷みやすい果実の取り扱いが大幅に混乱した。

業界の代表組織である南アフリカ生食用ブドウ産業協会(SATI)によると、同国は2019/20年度に28万4,280トンの生食用ブドウを輸出したが、2020/21年度には国内生産の改善により、13%増となる32万1,770トンを輸出した。

ヨーロッパは南アフリカの生食用ブドウの主要な輸出市場であり、2021/22年度の生食用ブドウの総輸出量の約75%を占めた。個別の国ではオランダが南アフリカの生食用ブドウの最大の輸出市場であり、総輸出量の40%以上を占めた。南アフリカは、他の南半球の競合国に比べてヨーロッパへの輸送距離が短く、EU及び英国との特恵貿易協定の恩恵も受けている。アジア、中東、アフリカへの輸出も強力な成長の可能性があり、南アフリカの生食用ブドウ産業が注目している。米国への輸出量は過去5年間で大幅に増加したが、い

まだ5千トン未満であり、生食用ブドウの総輸出量の2%未満に過ぎない。米国に輸出される主な品種は、オータムクリスピー、レッドシードレス、アドラシードレス等である。

表8 南アフリカの生食用ブドウ輸出

輸出先	2020/21(トン)	2021/22(トン)	2022/23*(トン)
欧州連合	173,538	179,554	153,926
英国	70,992	75,027	57,591
カナダ	17,885	20,152	17,978
中東	14,463	17,945	20,632
東南アジア	15,517	15,839	15,055
極東	12,333	11,290	8,006
アフリカ	4,748	5,957	4,405
米国	4,867	3,719	2,745
ロシア	4,836	3,452	3,726
その他	2,590	2,813	1,396
合計	321,769	335,747	285,460

出典: SATI

* 2023年第15週(4月前半)までの輸出

表11 生食用ブドウの生産需給統計

生食用ブドウ(生鮮) 販売年度	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～2021年9月		2021年10月～2022年9月		2022年10月～2023年9月	
南アフリカ	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	20,564	20,564	20,349	20,379	20,300	20,270
収穫面積	18,000	18,000	18,500	18,500	18,500	18,250
商業的生産量	364,063	364,063	380,000	376,015	350,000	340,000
非商業的生産量	0	0	0	0	0	0
生産量合計	364,063	364,063	380,000	376,015	350,000	340,000
輸入量	9,100	9,053	9,700	9,712	10,000	8,000
総供給量	373,163	373,116	389,700	385,727	360,000	348,000
生鮮国内消費量	51,393	51,347	53,900	49,977	50,000	48,000
輸出量	321,770	321,769	335,800	335,750	310,000	300,000
市場からの隔離	0	0	0	0	0	0
総仕向量	373,163	373,116	389,700	385,727	360,000	348,000

単位: ヘクタール、トン

65. 米国北西部 サクランボの出荷が暖かい天候で加速

FreshPlaza 2023年5月23日

米国西海岸では最近暖かい日が続き、太平洋岸北西部のサクランボは一週間前よりも良い状況にあるようだ。スターランチ農場のダン・デイビス氏は「出荷量は思っていたよりも早くピークに達しそうで、7月4日(独立記念日)の祝日用に小売業者にサクランボを供給できそうな兆候が見える。これはわずか2週間前の我々の予想を超えるものだ」と言う。(以下「」は同氏の発言)

確かに、春が寒かったためワシントン州とオレゴン州で開花が非常に遅くなり、出荷シーズンの開始は例年より遅くなると予想されていた。「我々は、出荷のタイミングがどうなるか、7月4日の祝日に向けた販促期間に少しでも出荷できるか、本当に心配していた。しかし、この10日間は非常に良い天気恵まれており、予報ではこれが続くようだ。」

この時点で、収穫は6月16～18日の間に小規模に始まり、6月20～22日までには本格的な出荷ができる見込まれる。当初の予想では、太平洋岸北西部のサクランボの出荷の終了は9月に入ると予想されていたが、最近の暑さにより、サクランボの出荷は8月の第3週までに終了すると予想される。量に関しては、去年は生産者と出荷業者にとって梱包数量が前年の半分であったが、今年は良い作柄になりそうである。

カリフォルニア州産から太平洋岸北西部産へ

暖かさはまた、太平洋岸北西部のサクランボとこちらも今年の出荷開始が遅かったカリフォルニア州産のサクランボの間の出荷時期の重複が少なくなる可能性があることを意味する。「カリフォルニア州産と重複する部分があるかもしれないが、重複する出荷量は日々減っているように見える。」カリフォルニア州は全体的に6月20日頃に終盤にかかり、同月の最終週には供給が減るはずである。「カリフォルニア州から北西部への移行はかなり順調に進むだろう。カリフォルニア州の天候が良く、出荷期間中特に問題がなく、品質の良いサクランボで力強く出荷を終了し、消費者の購買意欲の高い状態の小売市場をできるだけ早く我々に手渡ししてくれることを願いながら、様子を見ている。」

一方、小売業者らはサクランボの季節をこの上なく歓迎している。「彼らは明るい兆候を求めており、サクランボは祝日を祝う人々を売り場に引き込み、夏期の小売販売を牽引するものである。彼らはサクランボを中心に据えて宣伝を行い、消費者を青果物売り場に引き込みたいと考えている。最近では農産物の災害に次ぐ災害で盛り上がるのが無かったので、サクランボが青果物売り場に活気を与えてくれることを願っている。」

2022年よりも低価格

価格に関しては、順当で荷動きを安定させるのに役立つと見られる。「価格設定の水準は昨年よりも大幅に低くなり、従来の水準に戻ることはなく、現在の経済状況に見合ったものになるだろう。1ポンド(約0.45kg)当たり1.99～3.99ドルの価格をつける小売業者が多く見られると思う。」

これは、2022年のシーズンに苦勞した生産者と出荷業者にとっての朗報である。「昨シーズンは、天候関連の園芸技術上の問題で難しい生育期間となり、生産量が減少するなど、生産者に様々な形で多くの悲観的な状況をもたらした。我々は今年のシーズンに期待しており、パートナーである生産者のために必要な勢いを取り戻せることを願っている。」

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

66. チリ 日本のリンゴ市場開放が関心事項

PortalFruticola 2023年5月23日

日本とチリは125年以上の外交関係があり、1897年9月25日に両国の友好条約が締結され、二国間交流が始まった時にまでさかのぼる長い通商関係の歴史がある。

友好通商航海条約により、日本はアジア太平洋地域でチリが初めて外交関係を樹立した国となり、様々な分野での交流と協力が深まった。果実に関しては、日本はアジアにおけるチリ産生鮮果実の5番目に大きい輸出先であり、近年増加傾向にある。

したがって、チリ貿易促進機構(ProChile)東京事務所の商務・農務担当アタッシュエであるヌリー・ディセーニ・ジリ氏とチリ果実輸出業者協会(Asoex)との間で持たれた会合は重要であり、果実輸出業者が関心を有する課題について理解を深めるだけでなく、将来の共同作業の機会についても分析された。

Asoexのミゲル・カナラエチェベリア会長は、「アジアはチリの産業にとって重要な市場であり、日本は我々にとって重要な輸出先の1つである。日本はアジアで5番目の輸出市場であり、世界では31番目の市場である。それは成熟した市場であり、我々が果実の交流で長い歴史を持つ市場であるが、そこに届ける果実の輸入条件を整え改善する機会はある。興味深い話題をいくつか挙げれば、現在、リンゴの輸入や植物検疫証明書の電子認証の実施を進めるために日本と交渉を行っているほか、物流の改善を可能にするための調整を進めており、チリの日本駐在商務・農務担当アタッシュエとともに分析を進めている」と述べた。

同会長は、2021-22年度の果実輸出シーズン中に、チリは3万2,609トンの生鮮果実を日本に送ったと付け加えた。そのうち88%は生食用ブドウであり、キウイフルーツが6%、レモンが4%、ブルーベリーが2%、サクランボが1%とそれに続いた。

一方、ヌリー・ディセーニ氏は、「日本に駐在するのはこれが2回目である。最初は2014年から2018年まで農業アタッシュエを務め、果実の輸出に関するさまざまな問題を体得することができた。また、農業省農業調査政策局(Odepa)での仕事でもこの業界を知っていたのでチリの農業部門を理解しており、日本で前向きな活動ができると思う」と述べた。

同氏は、この新しい任務では、農務部門の長になるだけでなく、日本での商務部門も担当するので、より大きな責任を負っていると付け加えた。「日本での仕事はどちらの分野も非常に順調に進んでおり、我々ができることについて非常に楽観的である。農務アタッシュエとしての主な使命は貿易を維持し促進することであり、植物検疫及び動物検疫のプロトコルが開かれているよう、またこれを開かせるために必要なことを前進させることであり、商務に関しては商品に関心を持ってもらい消費されるような方法で宣伝を行うことが目的である。」

Asoexとの会合について同氏は、「(任地に向けて出発する前に)いくつかの団体と会い、彼らの関心事と優先事項を知った。果実部門については、リンゴの市場開放をフォローアップし、電子認証の交渉を開始することが、非常に関心の高い事項となっている」と述べた。

前回の日本市場での経験を踏まえ同氏は、「消費者は品質志向だが、これは広い意味で、つまり製品自体だけでなく、その提示の仕方においても同様であり、また健康に貢献し害を及ぼさないと言う意味での安全性が日本市場では重要だ。持続可能性も重要な問題であり、特に包装に関してはリサイクル可能か生分解性の包装が優先される。同様に、彼らにとって、商品が表示された産地の産品であること、包装が本当に生分解性であること、何かが無害であることなどを保証する証明書は非常に重要である。要するに、日本の消費者は教育を受けた消費者であり、したがって非常に要求が厳しい」と語った。

67. ペルー産マンダリン 米国では需要が高まり、欧州では価格が上昇

FreshPlaza 2023年5月24日

ペルーの生産輸出業者であるコエサ(Coexa)社は、米国市場でのマンダリンの需要が高まっている一方、ヨーロッパでは輸入果実の不足により価格が上昇していると見ている。同社の販売部長であるロドリゴ・シスネロス氏によると、「米国市場ではマンダリンの需要が近年増加しており、2023年も例外ではない。マンダリンは、同国で最も人気のある柑橘類の1つである。今年、ヨーロッパでは、シーズンの初め(4月と5月)に輸入果実が不足しており、南半球産の早生品種の価格が上昇する可能性がある。」(以下「」は同氏の発言)

同氏は、コエサ社の主要市場は米国であり、出荷量の約65%を占めると言う。残りは欧州連合とアジア市場に仕向けられている。「米国市場でのマンダリン需要の高まりに貢献した重要な要因の1つは、その汎用性である。この果実は、生食からジュース、料理、ベーキングまで、さまざまな方法で使用できる。また、マンダリンは学校に行く子供たち弁当箱の中で非常に重要な役割を果たしている。ビタミンCやその他の必須栄養素の優れた供給源であり、健康志向の消費者の間で人気のある選択肢となっている。価格面では、米国のマンダリンの輸入市場は近年多少の変動が見られるが、2023年には価格は引き続き比較的安定するものと予想される。しかし、年々複雑化し難しくなっている要因の1つは、輸入業者間の競争の激化である。供給側はペルー、チリ、スペイン、モロッコ及びその他の国のサプライヤーが市場の一部を獲得しようと競争しており、品質が重要かつ不可欠な要素となっている。」

同社は、オロヌール、クレメヌール、タンゴ、タヒチライム、及び生食用ブドウのスイートグローブを生産、梱包、輸出している。同社はペルーのリマ市にオフィスを構えており、農場はイカ県の肥沃な谷にある。

ヨーロッパに目を向ける

「マンダリンのヨーロッパ市場は、健康的な食事への関心の高まりと、手軽で便利なスナックとしてのマンダリンの人気により、近年拡大している。ペルーの輸出業者の多くは、今年、ウンシュウミカン(サツマ)、プリモソール、クレメンティンなどの早生の品種でヨーロッパをターゲットにしている。海上輸送コストの低下もこれを可能にするのに一役買っている。平均価格については、ヨーロッパのマンダリン市場は米国と同様比較的安定している。価格は季節や果実の出回り量によって変動する傾向があるが、全体として、消費者にとって妥当な範囲にとどまっている。」

輸送費の低下

「昨年1年間、世界経済は海上貨物運賃の大きな変化を経験した。コロナ禍は、海運業界に予期せぬ課題をもたらした。昨年、海運サービスに依存する多くの企業は、サプライチェーンを維持する上で多くの課題に直面した。海外への輸送コストが高騰し、多くの企業にとって利益を上げることが次第に困難になった。コンテナの不足も、一部の企業の商品の受け取りを遅らせ、売上と利益の喪失につながった。しかし、我々生産者は、最近の海上輸送コストの低下に安堵のため息をつくことができる。状況の改善は、ロックダウンの緩和、コンテナの入手可能性の向上、世界貿易の正常化など、さまざまな要因に起因している。しかし、これはまだ生産者の生産資材コストの増加をカバーするためには十分でない。」

アジアへの展開

「今後4年以内にアジア市場を開拓し、出荷量シェア20%以上を達成することを目指す。新しいチャンカイ港の操業開始は、より迅速かつ効率的な方法でアジア市場への扉を開くのに役立つ。また、オリ(Ori)などの新しい柑橘類品種にも賭けており、輸入業者やスーパーマーケットに様々な商品を提供することができる。最後に、今日、生産性がすべてである。生産者は、最高の収量を達成し、輸出可能な果実の比率を高め、最も要求の厳しい市場で競争できるプレミアム品質を実現するために、各自の果樹園を隅から隅まで活用する方法を知る必要がある。」

執筆者: クレイトン・スワート

68. トルコ サクランボの需要は昨年より好調

FreshPlaza 2023年5月26日

アラナール社で販売調整を担当するイギット・ギョキギット氏は、この数年サクランボの出荷量が少なかったが、今年はついにそれを好転させる年であると考えている。同氏は、「今年はこの数年に比べてトルコのサクランボの出荷量が多いものと期待している。昨年2022年は、収穫量が非常に少なかったため、トルコのすべての生産者と輸出業者にとって非常に困難な年であった。それはおそらく我が国の過去数十年で最低水準の収穫量であった」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

現在この農産物輸出業者は、自社の生産量がまだ十分でないため、他の生産者からサクランボを調達する必要があるが、まもなく自社のサクランボに完全に依存できるようになると同氏は説明する。「2018年以来、弊社のプランテーションに巨額の投資が行われてきた。アラナール社は現在600ヘクタール以上の果樹園を所有しており、そのうち約200ヘクタールがサクランボの生産に使用されている。弊社のサクランボの果樹の大部分はまだ完全に成木化していない。そのため、現在はほとんどのサクランボを契約生産者から購入している。およそ5年後には自社の果樹園が完全に成園化し、その時点で年間1,800トンを超えるサクランボを収穫できるようになると予想している。」

数か月前、同国は一連の強い地震に見舞われた。同氏はまだそのことを悲しく思っているが、サクランボの出荷シーズンがこの恐ろしい出来事によって大きな影響を受けるとは考えていない。「地震は、トルコ全体にとって非常に劇的な事件であり、今でも私たちに深く傷つけている。ただし、サクランボの出荷シーズンに与える地震の影響となると、直接的なものはないと思う。輸出されるサクランボは、ほとんどがトルコの他の地域で栽培されている。」

ヨーロッパのサクランボの需要はこれまで大きくないが、今年はシーズンが始まる前にすでに高まっているようだと同氏は言う。「パンデミックの後、特にヨーロッパではサクランボの需要が減少したが、今年は再び需要が増えている。弊社のサクランボは世界中で人気があり、シーズンが始まる前にすでに引き合いがあるため、ヨーロッパ、アジアの太平洋側、南アジア、中東での販売を拡大することを見込んでいる。」

「欧州市場に関しては、トルコは主にスペインと競合する。競争の観点から、価格はヨーロッパの消費者が産品を選択する際の重要な要素の1つである。ヨーロッパの多くの取引業者やスーパーマーケットは、独特で濃厚な風味のトルコ産のサクランボを入手することを特に目指している。ジラート(Ziraat) 900は、トルコが輸出する主要なサクランボ品種である。これに加えて、弊社は自社の果樹園でレジーナ品種のサクランボも栽培している。この品種は棚持ちがよいことで知られており、弊社の取引先からの引き合いが強い。全体として、良いサクランボシーズンとなることを期待している。」

執筆者: ニック・ピーターズ

69. オーストラリア 西オーストラリア州の柑橘類の出荷が始まる

FreshPlaza 2023年5月26日

西オーストラリア州政府のジャッキー・ジャービス農業食品大臣は本日、同州の2023年柑橘類シーズンの開始を告げた。同州産の品質の高いオレンジ、マンダリン、レモンが間もなく小売店の棚に並ぶ。

西オーストラリア州の柑橘類の生産額は過去8年間で2倍になり、ウェストミッドランズ地域からハーベイ地域までの1千ヘクタール以上で栽培され、マンジマップ、カーナーボン、カナナラの各地域に小さな産地がある。

生産量の増加は、既存の生産者の規模拡大と密植栽培に移行する傾向に加えて、完全な成園化が近い3つの新しい大規模果樹園によってもたらされる。

同州のマクガウン政権は、生産者主導の研究開発と提携することにより、業界の成長を支援している。これは、台木や品種の試験、作物保護手法の探求、改善された総合的病害虫防除戦略、水利用の効率化等である。

州政府はまた、付加価値アグリビジネス投資助成金とアジア市場輸出イニシアチブの一環として、輸出の発展と技術の改善に投資することで、業界が新しい市場機会を獲得することを支援している。

西オーストラリア州産オレンジに対する国際的な関心は高まり続けており、現在の輸出先は中国、香港、ペルシャ湾岸諸国及び日本である。中でも最近トップ市場となった日本向けは、過去3年間で出荷量が2倍以上となった。

さまざまな柑橘類生産者、集出荷梱包業者及び大型スーパーマーケットが、州政府が展開し、地元で栽培、加工、調理、提供される飲食料品を特徴的な緑色の歯形のロゴで識別するバイ・ウェスト・イート・ベスト (Buy West Eat Best 西オーストラリア州産品を買って最高のものを食べよう) 運動に参加している。

西オーストラリア州産の柑橘類は、タイ、日本、インドなどで州政府が近年行ったいくつかの輸出プロモーションで取り上げられた。

ジャッキー・ジャービス農業食品大臣のコメント:

西オーストラリア州の2023年柑橘類シーズンを開始し、地元産のプレミアムなオレンジとマンダリンが小売店に並び、消費者に楽しんでいただけるようになることを嬉しく思う。

西オーストラリア州産オレンジが入手できる限り、そのみを店内の在庫として持つようある大手小売業者と交渉している西オーストラリア州の柑橘類業界とノーザンバレー集出荷業者協会の取組みを歓迎する。

この業界の成長は目覚ましく、サプライチェーンとの協働及び西オーストラリア州の新しい柑橘類戦略計画によって導かれる将来に向けた明確な方向性によって強化されている。

我々の政府は、現場での研究開発を支援するとともに、輸出入両方の貿易代表団を通じて経済とコミュニティに継続的な利益を生み出す機会を模索することにより、西オーストラリア州の柑橘類産業がその可能性を実現するのを支援することを約束している。

70. 南アフリカ 2023年産柑橘類の詳細見直し

FreshPlaza 2023年5月26日

ヴァンガードインターナショナル社(米国)は、南アフリカの2023年産柑橘類全体の出荷量見直しを入手した。最新の推定は1億6,560万箱で、昨年より80万箱多い。

過去数年間で、2つの興味深い品目がこの業界に台頭してきた。レモンは、過去数年間で栽培面積の大幅な急増が見られた。現在、樹齢6年未満のレモン園は約8千ヘクタールあり、そのうち約1,750ヘクタールは樹齢4年以下に分類される。マンダリンについては、同社によると樹齢6年以下の果樹園が約1万3,500ヘクタールあり、そのうち約7,300ヘクタールが樹齢4年以下である。

果実の生産状況を見ると、すべての指標が今シーズンの果実のサイズがやや大きいことを示している。全体的な生産量が悪い方向に影響を受けることはないため、これは有望である。

レモンの梱包は第4週(1月下旬)に始まり、それ以来、すでに900万箱以上が南アフリカの港を離れた。東ケープ州では大量のレモンの梱包が始まり、この段階では供給は順調である。

第18週(5月初め)の時点で、グレープフルーツの梱包はすでに30%完了しており、これまでに370万箱が梱包された。グレープフルーツのサイズは入り数40~45/50(中玉程度)が最も多い。

ネーブルオレンジの梱包は始まったばかりである。リンポポ州とムプマランガ州で平年よりも雨が多いため、オレンジの収穫が遅くなった。しかし、出荷量は今後2週間で急速に回復すると予想され、果実のサイズは昨年と比較してやや大きい。

最初のターキーバレンシア種の収穫は第22週(5月末)に予定され、出荷量が増えるのは第24週(6月中旬)以降になる。バレンシアのサイズは、大玉の果実を求める市場にとって理想的であると見込まれる。ただし、バングラデシュ、マレーシア、シンガポールなどの市場では不足を生じる可能性がある。ミッドナイト種に関しては、最も早い収穫開始は第26週(6月末)頃と予想され、量が増えるのは第28週(7月中旬)と予想される。

マーケティングの観点からは、インフレと生活費の上昇という蔓延している問題がヨーロッパの消費者の購買力に衝撃を与えており、それが需要に影響している。

物流面では、新しい低温処理規則により、オレンジの出荷最盛期のEUへの輸出が懸念される。こうした変化は、あらゆる面で物流インフラの大きな負担となる。冷蔵スペースの需要は高く、南アフリカの電力事情がこれらの需要を満たすことを非常に困難にしている。

今後5年の将来を見据えて、ヴァンガード社はソフト柑橘類とレモンの生産が大幅に増加すると予想している。バレンシアオレンジは通常の伸びが続くと予想されるが、グレープフルーツと、より古くから生産されているネーブルオレンジは減少が予想される。

71. 米国カリフォルニア州 核果類の出荷は遅いが品質は良い

FreshPlaza 2023年5月29日

カリフォルニア州の核果類の出荷シーズンは、約2週間遅れて始まった。キングスバーク果樹園のチャド・オールレッド氏は、「ケトルマンシティの一部の園地は、セントラルバレーの他の地域より収穫開始が約2週間早いので、今年は5月1日頃に開始した。例年なら、4月15日頃に開始しているところだ」と言い、したがって現在は収穫・梱包の3週目であり、セントラルバレーの他の地区のほとんどはまだ2週目にあると述べた。スケジュールの遅れは、春にあった降霜と降雨のためである。(以下「」はオールレッド氏の発言)

キングスバーク果樹園は現在、アンズ、黄肉のモモ、白肉のモモ、黄肉のネクタリン、白肉のネクタリン、白肉の平たいモモ(蟠桃)を収穫している。6月の第2週にスモモの収穫を開始する予定である。「今年は、モモとネクタリン、そしておそらくスモモも中程度の作柄である。アンズは霜の影響を受けたため、おそらく15～20%減収する。」

好調な季節のスタート 同氏は、出始めの果実は平均より少し量が少ないが、色、糖度、食味の特性は良好だと付け加えた。「風味に関しては、今まで経験した中で最高のスタートの1つとなった。通常、シーズン初めに糖度が高いと、その年はずっとそれが続く。」

非常に強い需要がその高い品質に込んでいる。「多くの品目の出荷が遅れているため、店舗にはあまり商品がない。そのため、需要は極端に高く、シーズンを通して高い水準が続くと予想している。」価格に関しては、昨年と比べ全体的に上昇しており、同氏はシーズンを通して好調を維持すると考えている。

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

72. 海運大手2社が太平洋航路から東京を除外

CONTAINER NEWS 2023年5月29日

日本発着の貨物量減少のもう1つの現れとして、MSC社とマースク社の2M連合は、極東と米国西海岸を結ぶTP8サービスから東京を除外した。マースク社の顧客担当は、北米からアジアに向かう際の最初の寄港地である東京の除外は「効率的で信頼性の高いサービスを顧客に提供する」ことが目的だと述べた。

マースク社のエドモントン号(積載コンテナ数13,568TEU(20フィートコンテナ換算))は、現在オークランドを出発しており、東京を除外する最初の船として、6月12日に青島からTP8のアジア循環航路を開始する。このサービスは同社が運航する積載量10,100～13,500TEUの8隻の船が、青島、上海、寧波(以上中国)、釜山(韓国)、ロサンゼルス、オークランド(以上米国)に寄港して青島に戻り、8週間で航海を完了する。

アルファライナー社の5月23日のレポートによると、東京とカリフォルニアの間の今後の輸送は、シーランドアジア社の上海-日本サクラエクスプレスを接続に使い、上海で積み替えることになる。日本の荷主は太平洋西海岸に商品を運ぶために、中国または韓国での積み替えにますます依存せざるを得なくなっている。

日本の国土交通省は、コロナ禍前の2019年に、東京、横浜、名古屋、大阪、神戸の日本の主要コンテナ港に推定2万2千隻のコンテナ船が寄港したとしている。この数字は、2020年には約2万隻に、2021年には1万8千隻に減少した。2022年の数字はまだ公表されていないが、昨年も縮小が続いたと見られ、日本へのコンテナ船の寄港数は過去3年間で最も低い水準に減少したものと予想されている。

日本の製造業は1980年代半ばから衰退し、中国や東南アジアの新興国に取って代わられた。主要なコンテナ船運航会社は、中国と韓国への直接の寄港を維持しながら、貨物量が減少する日本の港を除外することが現実的であると判断した。

これは日本の荷主が積み替えのために1TEU当たり200～300米ドルを追加で支払わなければならないと、さらに貨物が目的地に到着するまでに3～4日余分にかかることを意味する。

執筆者: マルティーナ・リー アジア特派員

(訳注: 2022年12月21日付けの日本海事新聞によると、東京は今年1月からこのサービスに含まれていました。)

73. トルコ モモとネクタリンに目を向ける生産者が増加

FreshPlaza 2023年5月29日

トルコのモモとネクタリンの総生産量は、より多くの生産者がこれらの品目に目を向けていることから増加している。トルコの青果物輸出業者MDA農産のオーナーであるムスタファ・アルスラン氏は、「年によって異なるが、トルコでは年平均80万トンのモモとネクタリンが生産され、世界第6位にランクされている。突然変異により近年開発された果実品種の増加及び品質保持期間の延長と品質の向上による果実価格の上昇に伴い、農地を所有する多くの人々が他の様々な品目から果樹に切り替えている」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

当然のことながら、これは今年の収穫量の増加につながったと同氏は言う。「全体的に生産量が増加した。気象条件によって変わるが、収量については今シーズンは平年並みと言えるだろう。特に新品种の苗木が約8千~9千ヘクタールで2~3年生に育っていることから、生産量は増加を続けると考えられる。詳細において最も重要なことは、生産者が早生から中生及び晩生の品種について計画的で正しい生産戦略を実行していることから、果実が予定通りに収穫され、供給過剰になることなく、需要に沿って輸出と国内消費を満たしていることである。」

同氏は、彼の会社が今シーズン極東への輸出量を増やせることを望んでいる。「一般論として、弊社のモモとネクタリンの主要な輸入国はロシア、ドイツ、ウクライナ、ルーマニアである。弊社は、欧州連合諸国及び極東諸国と協力している。弊社が精力的に協力している国は、ヨーロッパではルーマニア、ドイツ、フランス、イギリス、スウェーデン、イタリア、極東では香港とシンガポールである。今後数年間でこれら極東の国々での市場シェアを拡大することを目指している。弊社がそうする主な理由は、包装と果実の品質に関して極東諸国に目を向ける輸出業者が多くないことと、これらの国ではトルコ産果実の需要が増加していることである。」

「弊社は、モモとネクタリンについて、取引先のために多くの様々な包装オプションを用意し、輸出を増やしてきている。近年のコスト上昇と多くの分野で直面する問題にもかかわらず、トルコの生産者と輸出業者はともに、高い品質と健康的で持続可能な農業に注力してきた。この勤勉さが、世界でトルコ産果実の需要が高まっている理由である。」

執筆者: ニック・ピーターズ

74. 研究成果 フラボノールが豊富な果実と野菜は記憶力の低下を防ぐ

欧州食品庁 2023年5月30日

あなたは老後にもよい記憶力を保ちたいと思いますか？ それならば、果実や野菜、特にフラボノール抗酸化物質が豊富なものをたくさん食べてください。

エピカテキンを摂取すると、記憶力が最大16%向上する。これは、コロンビア大学とブリガム・アンド・ウィメンズ病院/ハーバード大学の専門家によって編集されたコスモス研究*で明らかになり、最初はアメリカ臨床栄養学雑誌(AJCN)に掲載され、後に米国科学アカデミー紀要(PNAS)に改訂版が掲載された。

*:ココアサプリメント及びマルチビタミンの効果に関する研究(COSMOS: COcoa Supplement and Multivitamin Outcomes Study)

マルチビタミンの補給により、加齢による記憶力の低下を検出するテストのスコアが改善する。したがって、老齢になる前にフラボノールの豊富な食事を摂ることは記憶力の低下を予防するのに役立つ。記憶力への良い影響は、特に食事の質が低い人々で最も顕著に表れた。この研究は、500mgのフラボノール(80mgのエピカテキンを含む)またはプラセボ(偽薬)を3年間毎日服用した3,500人以上の高齢の被験者を対象に行われた。

試験開始以前にフラボノールの少ない食事を摂っていた人々では、記憶力の改善はプラセボよりも10.5%良く、彼ら自身の試験開始時と比べて16%改善した。結論として、研究者らはマルチビタミンを40代または50代で摂り始める人々で改善がより顕著である可能性があることを示唆している。

75. 中国 栽培されている青果物の量は驚異的

FreshPlaza 2023年5月31日

ワールドフレッシュエクスポート社*のリック・チョン氏は、1か月にわたる中国視察から戻ったところで、彼とそのチームは数か所の生産者と梱包施設を訪問し、中国の青果物産業の発展を直接見てきた。同氏は、「中国の農業が盛んであることに驚かされた」と言う。標高2千メートル以上でも、多くの作物が栽培されているのが見られた。レタスからブドウ、柑橘類まで、すべてが平均気温28℃の高地で栽培されている。チョン氏は多くの発展を目撃し、どのようにして作付面積の半分以上がプラスチックまたは温室で覆われているかを説明した。(以下「」は同氏の発言)

量の多さに加えて、チョン氏は彼が見た果実の品質の高さに驚いた。中国人はどのようにしてこれほど短期間に量と質の両方を伸ばすことができたのだろうか。「彼らは、米国、韓国、チリ等から長年の経験を持つ農学者を雇い入れている。」彼らがそのような高品質の農産物を育てることができるもう1つの理由は、生産者が量ではなく質に焦点を合わせていることである。たとえば、米国では、生食用ブドウ生産者は1エーカー(0.4ヘクタール)当たり約1,800箱のブドウを生産している。一方、中国では、1エーカー当たり450~500箱程度である。これにより、彼らは高品質の果実を栽培し、生産者に平均以上の利益をもたらすことができる。

電子商取引 中国における品質改善の結果、輸入需要は減少に転じ始めている。「中国の生産者は農場での栽培慣行について非常に透明性を持つようになり、多くの人が有名人と協力して農場での映像を撮影している。その結果、中国の消費者は国産の果実や野菜を次第に信頼するようになり、青果物の電子商取引市場は巨大になっている。」

同社は、2020年に中国で独自の事業を開始した。それ以来、同社は中国の生産者や梱包業者と協力して、東南アジアの消費者にできる限り最高品質の農産物を提供してきた。「弊社が果実産地である広西チワン族自治区と雲南省の2つの地方政府と協力して進めている新しい取組みの1つは、高品質の輸出果実を開発することである。地方政府と協力して、生産者が生産物からより良い収益を上げることを支援している。」そこでは柑橘類、ブドウ、リンゴを初めとする様々な作物を生産している。

「北朝鮮との国境から約20キロ離れた地域は、間違いなく世界で最高水準のリンゴを栽培している。また、例えば内モンゴルでは独特のベゴニアリンゴが栽培されている。」これら2つの地域の農産物は、タイ、ベトナム、インドネシア、マレーシア、シンガポールに輸出されているが、米国、カナダ、ヨーロッパからの関心も高まっている。

執筆者: マリーケ・ヘムズ

76. ベトナム ライチとリュウガンの海外市場拡大を目指す

FreshPlaza 2023年6月1日

ベトナムのバックジャン省産業貿易部のトラン・クアン・タン部長によれば、同省の今年のライチ総生産量は18万トン以上で史上最高と予想されている。収穫期間は5月25日から7月30日に予定されている。伝統的な中国市場に加えて、有望な市場として米国、欧州連合、日本、韓国、オーストラリア、マレーシア、アラブ首長国連邦、シンガポール、中東諸国、タイ、香港等がある。一方、ハイズオン省産業貿易部のトラン・バン・ハオ部長によると、同省には現在約9千ヘクタールのライチ農園があり、今年約6万1千トンの収穫が予想されており、そのうち約3万1千トンが早生のライチである。

バックジャン省は生産者のデジタルプラットフォームでの農産物販売を支援

北部バックジャン省の人民委員会議長は、地域の生産者がデジタルプラットフォームで農産物を販売するよう促しており、これによりデジタル農業と農村地域の発展に貢献している。そのため、一村一品(OCOP: One Commune One Product)事業で3つ星以上となったすべての産品が電子商取引プラットフォーム上で入手可能となるよう、郡レベルの人民委員会は関連機関と連携して、農業生産世帯に対してデジタル技術と電子商取引プラットフォームでの取引に関するトレーニングクラスを開催する必要がある。

出典: en.vietnamplus.vn

77. チリの柑橘類事情(レモン)

米国農務省GAINレポート 2023年6月2日

これは米国農務省海外農業局サンチャゴ事務所(チリ)が作成した「柑橘類半期報告書」の要点及びレモンの項を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

レポートの要点

海外農業局サンチャゴ事務所は、良好な気象条件を踏まえ、2022/23年度のレモンの生産量を26.4%増の合計17万2千トンと推定する。レモンの輸出量は、生産量の増加と貨物運賃の低下により33.9%増加し、7万5千トンに達すると見られる。同様に、2022/23年度のオレンジ生産量は6.1%増の17万4千トン、輸出量は4.7%増の9万トンと見込まれる。2022/23年度のマンダリンの生産量は、収量の増加と新しい果樹園の成園化により、26.5%増の21万5千トンと見込まれる。マンダリンの輸出量は18万トンと見込まれる。チリは2023年3月に、レモン、クレメンティン、マンダリンについて、臭化メチル燻蒸に代えて検査システムを強化することでメキシコへの市場アクセスを獲得した。(以下、レモン(貿易統計上レモンと同一のライムを含む)以外の記述は省略しました。)

<レモン(生鮮)>

表1 レモンとライムの生産需給統計

レモン/ライム(生鮮) 販売年度 チリ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年4月～翌年3月		2022年4月～翌年3月		2023年4月～翌年3月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積	7,340	7,340	8,040	8,040	8,500	8,080
収穫面積	7,100	7,100	8,000	8,000	8,300	8,000
結果樹本数	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計	0	0	0	0	0	0
生産量	200	200	140	136	200	172
輸入量	13	13	15	15	12	12
総供給量	213	213	155	151	212	184
輸出量	102	102	60	56	100	75
生鮮国内消費量	100	100	86	86	101	98
加工仕向量	11	11	9	9	11	11
総仕向量	213	213	155	151	212	184

単位：ヘクタール、千本、千トン

出典：当事務所推計

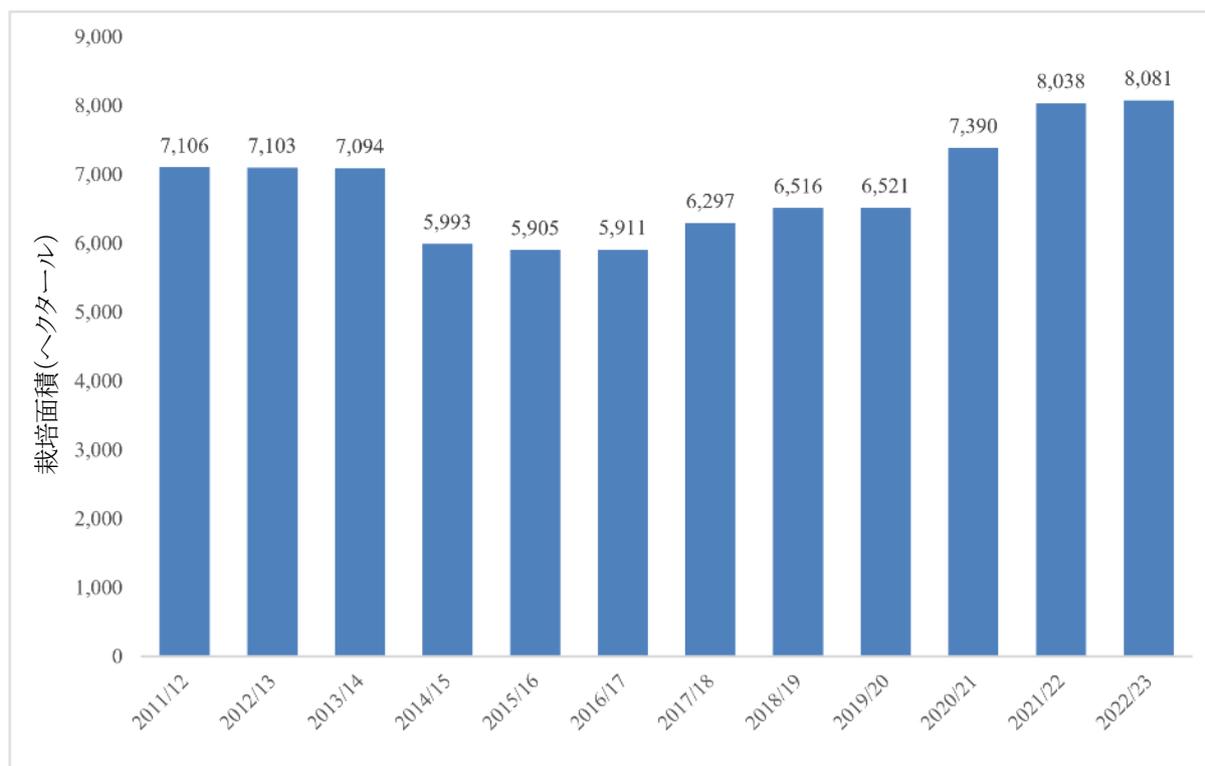
生産

当事務所は、2022/23年度のレモンの生産量を26.4%増の17万2千トンと推定する(表1)。当事務所の情報提供者によると、コキンボ州の良好な気象条件と水供給量の増加によりレモンの収量が増え、総生産量が増加した。コキンボ州には1,628ヘクタールのレモン園があり、これはチリのレモン栽培面積の20.3%に相当する。

2022/23年度の総栽培面積は8,080ヘクタールで、2021/22年度に比べて0.5%増加した。これは、過去3販売年度に見られた栽培面積の増加率の減速を意味する(図1)。コキンボ、バルパライソ、メロポリターナの各州では、生食用ブドウ等の他の作物では低価格のために生産者の収益が減少する中、レモンは収益性の高い代替品となっており、レモンの生産量と輸出量が急増した。チリの中央部にあるメロポリターナ州は、レモン栽培面積の41.1%を占め、最大の産地となっている。

チリでは、レモンの販売年度は収穫の開始時期に当たる4月に始まる。輸出の大部分は毎年6月から9月の間に行われ、各販売年度の状況に応じて7月または8月に最盛期となる。

図1 レモンの栽培面積(ヘクタール)



出典: ODEPA, 2023

消費

レモンの国内消費は、12月から3月までの夏季にピークに達する。チリの冬に当たる6月から9月の間は国内消費が減少し、レモン生産量のほとんどは輸出市場に向かう。当事務所は、2022/23年度の生鮮国内消費量を、生産量の増加に伴い14%増の9万8千トンと推定する。レモンの加工仕向量は、2021/22年度に比べて22.2%増の1万1千トンに達すると見られる。加工業界では、果汁、エッセンシャルオイル、菓子用濃縮果汁の製造にレモンを使用する。

貿易

当事務所は、2022/23年度のレモン輸出量を、生産量の増加と貨物運賃の低下に伴い、33.9%増の7万5千トンと推定する。2021/22年度には、輸出業者からの高い需要と輸送用コンテナの供給の逼迫により運賃が大幅に増加し、輸出量と輸出収益が減少した。2021/22年度には、降霜による生産量の減少と運賃の高騰により、レモンの輸出量は44.9%減の5万6千トンとなった。

米国はチリ産レモンの最大の市場である。チリは2021/22年度に総輸出量の55.5%に相当する3万1,222トンのレモンを米国に輸出した(表2)。チリはまた、日本、中国、韓国等にもレモンを輸出した。

チリは2021/22年度に、生産量の9.0%に相当する1万2,267トンのレモンを輸入した。チリは、ペルー、ブラジル、コロンビア、米国からレモンを輸入している(表3)。従来から、最大の輸入先はチリに近いペルーである。チリでは夏の間レモンの需要が高く価格が高いため、輸入が必要となる。

政策

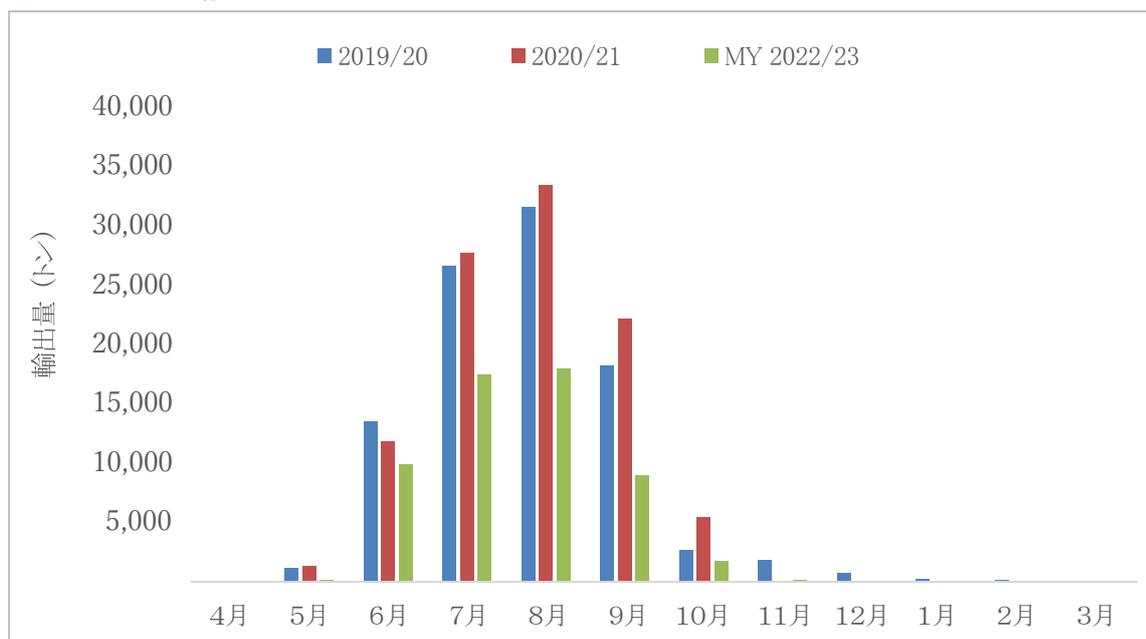
チリは2023年3月に、強化された検査システムによるメキシコのレモン市場へのアクセスを獲得し、これにより臭化メチル燻蒸を回避することができる。チリの輸出業者らによると、臭化メチルは日持ちを悪くするため、それを避けることにより品質の高い果実をメキシコ市場に供給することができる。また、チリの輸出業者は輸出市場を増やすことができる。

表2 レモンとライムの輸出量(トン)

輸出先国	品目: 080550、レモン及びライム、生鮮または乾燥			
	販売年度			
	2019/20(トン)	2020/21(トン)	2021/22(トン)	変化率(%)
世界	96,606	101,996	56,217	-44.9%
米国	54,458	65,682	31,222	-52.5%
日本	18,705	17,056	15,578	-8.7%
韓国	5,343	4,999	4,423	-11.5%
中国	5,657	6,532	1,558	-76.1%
デンマーク	821	962	1,434	49.1%
オランダ	4,575	4,630	901	-80.5%
スペイン	966	858	689	-19.7%
イタリア	1,298	617	209	-66.1%
コロンビア	88	54	58	7.4%
ドミニカ共和国	30	56	54	-3.6%
パナマ	40	49	39	-20.4%
カナダ	70	95	12	-87.4%
ドイツ	74	173	0	-100.0%
フィンランド	0	115	0	-100.0%
ブラジル	389	47	0	-100.0%
その他	4,092	71	40	-43.7%

出典: Trade Data Monitor, LLC

図2 月別レモン輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

表3 レモンとライムの輸入量(トン)

輸入先国	品目: 080550、レモン及びライム、生鮮または乾燥			
	販売年度			
	2019/20(トン)	2020/21(トン)	2021/22(トン)	変化率(%)
世界	11,356	12,703	12,267	-3.4%
ペルー	8,027	10,350	8,567	-17.2%
ブラジル	0	202	3,057	1,413.4%
コロンビア	2,204	1,827	500	-72.6%
米国	1,116	324	142	-56.2%

出典: Trade Data Monitor, LLC

78. メキシコ ソノラ州のブドウが不作で米国の小売りが品不足

FreshFruitProtal 2023年6月2日

米国アリゾナ州ノガレス市に本拠を置くディバインフレーバー社の営業担当副社長であるカルロス・ボン氏は、6月に入ってから米国の多くの小売店の棚で販売するブドウがないと嘆く。

同氏は6月1日に本サイトに対し、この冬と初春に通常より寒い天候が続いたため、メキシコのソノラ州産のブドウが遅くなることは3月に予想されていたと説明した。しかし、まったく予想外だったのは、現在の寒い天候である。同氏は、6月1日の朝、アリゾナ州との国境に近く、ソノラ州の主要ブドウ産地であるカボルカ地域の気温が55F(12.8℃)であったと指摘した。

同社の親会社であるグルッポ・アルタ社は、メキシコで唯一、国内のすべての商業的ブドウ産地で生産を行っているブドウ生産者である。同氏は、ソノラ州の全てのブドウが遅れていると述べた。

南部では、ハリスコ州の今春の早生のブドウ販売は大成功を収めた。同社は4月初めから5月23日に最後のトラックが出るまで、ハリスコ州から特産の品種を出荷した。高品質なハリスコ州産の果実は、6月に向けての小売需要を高めた可能性がある。南米産のブドウの出荷は終了しており、ボン氏が指摘するように、短期的にはブドウの供給が非常に不足している。同氏は小売業者に対し、6月中旬に供給が増えるまで、ブドウを目立たせず控えめな売り方をすることを勧めている。

メキシコ産のブドウは全ての色と品種で、シーズンを通じて一箱当たり40ドル以上の出荷価格がついた。価格はそれほど問題ではなく、供給が問題だとボン氏は強調する。米国の小売店でのブドウの価格は、6月初旬には1ポンド(約454g)当たり2.99ドル〜4.99ドルの範囲で推移している。

フレイムシードレスは、ソノラ州で最も多く生産されている品種である。この品種は、粒が小さく、大きさが不均一であるという生産上の問題があり、18ポンド箱を満たすために多くの房が必要である。今年の春の業界の見通しでは、フレイムの推定出荷量は650万箱と比較的少なかった。ボン氏は、フレイムの粒が小さいため、ソノラ州が500万箱以上を出荷できれば「幸運だろう」と予想している。

ソノラ州の他のブドウ品種は、サイズ、品質、状態が良好である。ボン氏は、出荷が遅いことは品質にとっては良いことだが、残念ながら我々が望む以上に遅いと述べた。

エキサイティングなことが起こる

しかし、同氏は「すぐにエキサイティングなことが起こるだろう」と言う。スイートグローブ品種とスイートセレブレーション品種は、「素晴らしい」年になりそうだ。ガミーベリー品種は12日後に市場に出ると見込まれる。広く人気のあるコットンキャンディ品種は、ボン氏によれば6月25日頃までに入荷する。

緑色の種無しブドウが6月1日から出荷されている。赤ブドウは、6月10日頃から市場に入荷する。

大変難しい年

同氏は、「もし今、魔法のランプを持っていて、ブドウ(の仕入れ値)が25%安くなるか、在庫があるかを選べるとしたら、在庫がある方をすぐ選ぶ。大変難しい年になっている。弊社にとって重要なことは、バイヤーとのコミュニケーションを保ち、タイムリーに情報を提供し続けることである」と述べた。

そう言いつつも、ハリスコ州産の取引は非常に順調に進んだ。オータムクリスプは、ハリスコ州で生産されている新しい主要品種で、ボン氏がこれまでのブドウの品種の中で最も気に入っているものである。オータムクリスプは商業的に大成功している。

79. 米国 ワシントン州産サクランボは量が豊富

The Packer 2023年6月2日

ワシントン州ウェナチー市を拠点とするステミルトグローブズ社 - マティソン家の家族経営による果実栽培、梱包、出荷業者 - は、今シーズン小売業者が販売促進できるだけの「かなり多い」量のサクランボを期待できるとしている。

同社の販売営業担当副社長であるマイク・テイラー氏はニュースリリースで、同社のワシントン州産サクランボの安定した供給により、7月の最盛期には販売促進のチャンスがあると見ていると述べた。2022年の収穫が今頃始まったのに比べると10日遅れるが、小売業者らがもう少し待てば、今シーズンは大きな成功を収められるだろうと同氏は言う。(以下「」は同氏の発言)

「今年はサクランボの量がかかなり多くなるので、素晴らしいシーズンになるはずだ。遅れているワシントン州産サクランボの出荷は、6月15日までには始まると見ている。これにより、売上はカレンダー上で後ろにずれ込むが、最終的には素晴らしい結果が得られるだろう。」

最近のサクランボ作

最近2年のサクランボ作は、記録的に寒い春から記録的に暑い夏まで、様々な天候の問題を経験した。その結果、生産量が減少し、品質が低下した。

リリースによると、今シーズンはカリフォルニア州産とワシントン州産の出荷の切れ目がなく、一貫した供給が行なわれる。これによって、小売業者はこれまでにない総売上高の成長を達成するチャンスを十分に得られる。

「私が小売業者に言える最善のアドバイスは、サクランボの品揃えを拡大し、どの週にも品物を切らさず、計画を立て、必要に応じて計画を調整し、販促を実施する場所を確保することである。出荷先に関係なく、7月4日(独立記念日)に向けた販促活動には前向きである。」

同氏は、ダークスイートチェリー、レーニア、スカイラーレイの各品種及び有機栽培のサクランボは、7月中ずっと販促できると言う。ステミルト社の晩生の「半マイル月に近いサクランボ*」は、9月初旬に収穫される。(※: 標高約800メートル(半マイル)以上で栽培されるサクランボの商標 A Half Mile Closer to the Moon® cherries)

衝動買い、価格、包装

7月のサクランボの販売促進のタイミングは、ステミルト社の「カイルズピック(Kyle's Pick)」ブランドとも一致する。リリースによると、最近再設計されたこのブランドは、その日に収穫され硬さと糖度の厳しい基準を満たしたサクランボを詰めたもので、人目を引くパッケージを特徴としている。

「サクランボは衝動買いするものであり、品質の良さはリピート購入を促進する。」リリースによると、カイルズピックは、品質と素晴らしい食体験のために厳選されたパッケージを小売業者に提供でき、7月の最盛期と8月の終盤におけるサクランボのリピート購入の場を整える。

同氏は、今年はより積極的なサクランボの出荷価格を予測していたが、それはこの品目の値崩れを引き起こさない範囲の価格である。リリースによると、供給量の増加と安定した出荷の組み合わせにより、小売店での総売上高の増加が期待される。

同氏は、主要な販促期間中にはキャッチウエイトバッグ(事前に袋詰めして重量を測り、袋ごとに重さと価格を表示したもの)が役立つと言う。また、トップシール型のパッケージと3ポンド(約1.4kg)入りクラムシェルパッケージは、定量販売やオンラインショッピングに適している。

「小売業者には、最盛期の絶好のタイミングに実施される7月11日の全国レーニアチェリーデーを活用することをお勧めする。」

執筆者: エイミー・ソウダー

80. カナダ サクランボは堅調な輸出が見込まれる

FreshPlaza 2023年6月5日

ブリティッシュコロンビア州では開花中の天候が暖かかった。ジェラスフルーツ社のジュリー・マクララン氏は、「ある朝花が咲き始め、翌日には100%開花した」と言う。(以下「」は同氏の発言)

いわゆる一斉開花 (flash bloom) は非常にまれであり、その影響は甚大である。通常は花の約10~15%が毎日咲き始め、その割合は日々増加して、約5~7日後に果樹園全体が開花する。「今年は、暑さのためにすべてが一斉に開花し、開花期間が短くなった。その結果、ミツバチが受粉を媒介するのに十分な時間がなかった。」

「今年は果樹が過剰に着果していないことが明らかで、着果状態は控えめである。」ただし、これはまた、通常よりもサクランボのサイズが大きく、糖度が高いと予想されることも意味する。同社の果樹園では若干の落果が見られた。それにもかかわらず、新しい園地が成園化するため、同社全体の出荷量は、2022年に比べて30~35%増加すると予想される。「今年は新たな出荷が始まるという幸運に恵まれた。」

最新の状況

現段階では、サクランボが樹上で形成されている。これは、すべてのエネルギーが種子の形成に使われる重要な段階である。現在の予測によると、同社の早生の園地では、7月5日~7日に少量の収穫が開始される見込みである。その後、収穫は7月20日頃に本格化し、8月末または9月上旬まで続く。

労働力

サクランボを収穫するのに十分な労働力があるかどうかについて、マクララン氏は今年は外国人労働者の数が増えたと述べた。「弊社の労働者の大部分はグアテマラとメキシコから来ており、今年は割り当て人数が多かったので、十分な人員を確保している。弊社の労働者は、カナダ政府が財政的に支援する事業の下で確保しており、毎シーズンこれらの貴重な労働者をカナダに連れてくることができる。」さらに、カナダのバックパッカーが再びサクランボの収穫に興味を持つのは、コロナ禍以来今年が初めてある。「過去数年間に比べて、カナダ人の収穫作業員はかなり増えるだろう。」

輸出

ブリティッシュコロンビア州 (BC) 産サクランボの今年の需要は強いと予想される。米国ワシントン州の出荷量は7月下旬に先細りになってくるので、BC産果実へ順調に移行するはずである。米国の旺盛な需要に加え、輸出も堅調に推移するとみられる。興味深い進展は、カナダの生産者が、燻蒸の代わりに、承認されたシステムアプローチの下で韓国市場に完全にアクセスできることで、これにより着荷時の鮮度が高まる。

「2022年は韓国との試行の年であり、2023年シーズンは登録されたすべてのカナダの出荷業者に開かれている。」韓国の秋夕 (チュソク) と中国の中秋節の両方が9月29日の週末に祝われるので、同氏は両国への力強いサクランボの出荷を期待している。「8月の後半2週間に収穫されるサクランボに最適な出荷時期である。」このほかの輸出先としては、台湾、ベトナム、タイ、中東諸国等がある。

レジーナ品種とスタッカート品種はどちらも海外市場で非常に人気がある。「弊社はカナダで最大のレジーナ品種の出荷業者である。これは弊社の代表的な品種で、7月下旬から8月上旬まで出荷する。スタッカートは弊社の取り扱いが最も多い品種で、8月を通して出荷できる。両方の品種に対する海外からの高い需要が見込まれる。」

執筆者: マリーケ・ヘムズ

81. メキシコ ソノラ州のブドウ出荷は開始が遅れた後に回復

The Packer 2023年6月5日

メキシコ(ソノラ州)の生食用ブドウの出荷シーズンは開始が遅かったが、6月に入ってからからは通常の出荷量に回復している。

生産者が所有する販売会社であるディバインフレーバー社(米国アリゾナ州ノガレス市)は、生産物は現在、春の涼しい天候のために出荷が遅れていたソノラ州の北部及び沿岸地域から来ているとしている。同社の販売担当副社長であるカルロス・ボン氏はニュースリリースで、「ようやくブドウの供給が正常に戻ってきている」と述べている。(以下「」はニュースリリースでの同氏の発言)

6月に入り出荷が安定

リリースによると、6月の初頭にはブドウの出荷量は正常に戻りつつある。緑色の早生ブドウの大部分はすでに安定しており、赤ブドウは数日遅れている。

「ここ数週間、流通段階のものがほとんどなく、売り場に果実を供給するのが困難であったが、ブドウの出荷は急速に安定してきている。緑色ブドウでは早生の品種のほとんどの出荷が通常に戻ってきて良い状態にあり、赤ブドウもすぐにそうなるだろう。」

6月は通常、早生品種の出荷の最盛期である。ボン氏は、今年のこの時期と比較して、出荷量は73%少ないと付け加えた。

「ソノラ州産のブドウの出荷開始が遅れ、出荷量が不足していたため、関係者全員に大きなプレッシャーがかかっていたが、状況は好転しており、今月末から7月一杯は大規模な販促活動を実施できるようになるだろう。」

生食用ブドウだけでなく、他の果実についても、気温の低下が現在の品不足の主な原因である。

「今年これまでのブドウのシーズンは難しく、この仕事をしてきた中で最も困難なものであった。自然がもたらした状況は本当に厳しいが、我々にはできる限りの方法でそれに対処している。最初は苦しいスタートであったが、価格については数日のうちに良好な水準に調整されるだろう。それは緑色ブドウから始まり、赤ブドウの在庫が完全に揃うにはまだ数日かかる。」

収量予測の見直し

2023年3月の見通しでは、ソノラ州のブドウ出荷量は2,150万箱以上と推定された。リリースによると、現在は合計約2千万箱程度と予測されている。ソノラ州のブドウの栽培面積の大部分を占めるフレームシードレス品種は収量が少なく、小売用の18ポンド(約8kg)箱を埋めるために、ブドウの房を多く必要としている。

ボン氏は、ソノラ州の出荷量は当初の予測よりも100万箱少なくなるだろうと付け加えた。

「通常は一箱詰めるのに26房くらい必要であるが、今年は収量が少ないためブドウの粒が小さく、生産者は38房くらいを必要としている。」

「最も困難なシーズンの1つであったが、トンネルの出口に光が見える。出荷量が増えて来ており、さらに、弊社は約12日後には特産品種の出荷を開始する。」

「出荷の遅れを払拭する前向きな点があるとすれば、それは果実の品質と状態が信じられないほどよいことである。売り場の棚が再び埋まるように取り組んでおり、重要なことは、取引先の小売業者に優れた品質のブドウを届けることである。良い果実は常によく売れる。」

82. ヨーロッパ 農業者団体は包装・農薬規制の根本的な変更を要求

FreshPlaza 2023年6月6日

フランス、イタリア、スペインの果実と野菜の協同組合*は、昨日欧州議会内で開かれた会合で、植物保護製品(農薬等)の使用の削減と新しい包装基準に関する立法提案による取組みの根本的な変更を要求した。この会合はフランスのイレヌ・トレレ欧州議会議員によって推進、開催され、多くの出席者があった。

(*: FELCOOP, Alleanza Cooperative Italiane F&V sector 及び Cooperativas Agro-alimentarias de España)

3つの生産国の果実・野菜の主要な協同組合の代表者は、会合に出席した欧州議会議員らに、ヨーロッパの果実・野菜セクターが植物保護製品の使用を減らし、包装資材の使用とその再利用を最適化する上で既に達成してきた多くの進展について説明した。

その後、彼らは、「恣意的、不均衡、差別的」とされる1.5kg未満の販売物への包装資材の使用の新たな禁止措置を手始めに、「農場から食卓まで戦略」に基づき欧州委員会が提示した規制提案に対する明確な否定的判断を繰り返して主張した。

これらの協同組合は、自分たちの経験に基づく具体的な証拠とともに、果実や野菜などの傷みやすい青果物を、品質、安全性、価格の面で消費者の期待に応えつつ市場に出荷するに当たっては、包装が引き続き基本であることを示した。包装はまた、青果物を損傷から保護することから、棚持ちを良くし、消費者に対し生産方法、生産国、または原産地に関する正しい情報を提供することまで、多くの機能を果たしている。

新しい規則はまた、食品廃棄物の削減、健康的な食事の基礎としての果実と野菜の消費の促進、果実と野菜の価値の向上と差別化など、欧州委員会自体が戦略的であると見なしている他の目的と矛盾している。そのため、これらの協同組合は、感覚ではなく科学的根拠に基づき、果実・野菜セクターを不当に罰する抜本的な禁止ではなく、包装の削減、合理化及びより良い管理に向けたEU共通の規制を求めてきている。

植物保護製品の使用の50%削減に関して、これは「科学的データに一切基づいておらず、すでに行われた努力や、生産量の減少が避けがたいとの予測で一致している様々な影響研究を考慮していないため、非現実的で経済的な側面から実現不可能である」としている。

したがって、ヨーロッパは「懲罰的で官僚的な戦略」を放棄し、代わりに「持続可能性の低い第三国からの輸入を回避しつつ、競争力のあるヨーロッパの農業とヨーロッパの消費者の食料主権」を保護することを目指す必要がある。

ヨーロッパの協同組合は何を求めているのか? 第一に、2030年をはるかに超えるより長い時間枠、適切かつ網羅的な影響研究の実施、及び科学と研究が新しい技術(新しいゲノム技術、ドローンの利用、より抵抗性の高い品種など)を活用してこのセクターに提供できる代替ツールを効果的に利用可能にすること。

第二に、欧州委員会は、EUで禁止されている植物保護製品の使用が許可されている国からの果実と野菜のEUへの流入を回避し、個別の規制を通じて「相互主義の原則」を実現するべきである。

これらの協同組合はまた、この会合の機会を利用して、農民の収入とその協同組合に悪影響を与える複数の要因、すなわち気象災害(2022年の降霜、2023年の干ばつと洪水)、EUに影響を与えた様々な地政学的または健康上の危機(英国のEU離脱、ウクライナでの戦争、コロナ後の状況)の結果としての市場の不均衡と生産コストの上昇によるストレスの下で、農業及び果実・野菜セクターが現在経験している困難な状況を思い起こすよう欧州議会を促した。

欧州委員会はこのセクターと市場の詳細に正確な状況を踏まえ、「追加コストを生み出すことになる過度のEU政策の導入を控えるべきである」。

これらの協同組合はスポークスパーソンを通じ、2つの案件を担当する欧州議会環境委員会が、今後提出が予想される農業委員会の意見書に記された要求を検討することを期待している旨表明した。

83. ニュージーランド 2022/23年度はキウイ生産者に厳しい結果

RURAL NEWS 2023年6月6日

ゼスプリの最近の決算によると2022/23年度の果実販売による世界的な収益は前年比3%減少

驚くに値しないが、ゼスプリが最近発表した最終的な数値は、キウイフルーツ部門にとって悪い年であったことを示している。2022/23年度の世界での果実販売による総収益は39億2千万NZドルであり、前年度の記録的な数値から3%減少した。世界の販売量も2億150万箱から1億8,350万箱に減少した。(1NZドル=約85円)

ゼスプリによると、2022/23年度に品質問題によって失われたキウイフルーツの価値は5億3,400万NZドルで、前年度の3億700万NZドルから大幅に増加した。それに加えて、コストの増加により生産者の収益も減少し、ゼスプリグリーンキウイの一箱当たりの収益は、前年の6.35NZドルと比べて2022/23年度は5.78NZドルとなり、一方サンゴールドキウイの収益は前年度の11.51NZドルから9.97NZドルに減少した。

ゼスプリのダン・マシソン代表は、この結果は、多くの第一次産業にとって非常に困難な時期であったことを示しており、生産者は労働力不足、コロナ禍の継続的な影響、気象災害及びコストの上昇に関連する課題に直面していると述べている。(以下「」は同氏の発言)

「これまでで最も厳しいシーズンの1つであり、業界は、大幅な労働力不足等の多くの課題に直面したにもかかわらず、果実を市場に届けるために信じられないほど懸命に働いた。」

マシソン氏は、この結果は、品質を改善するための業界の取り組みの重要性を示しており、それは将来より多くの収益をもたらすための重要な推進力であると述べている。

同氏は、2023/24年度も果実の量が少なくなるという事実を踏まえると、これは生産者、特にグリーンキウイの生産者にとって困難な時期であると言う。

「状況は依然として厳しいが、2023/24年度の最初の出荷分は取引先から好評を得ている。このことは、業界の品質行動計画の取り組みが品質管理コストを削減し、品質の低い果実を輸出しないようにする上で役立っていることを示している。」

執筆者: ピーター・バーク

84. 米国 セントラルバレーで核果類の収穫が本格化

FreshPlaza 2023年6月7日

カリフォルニア州のセントラルバレーでは、現在、核果類の収穫が本格化している。しかし、パリエ市近くの農場でモモやネクタリンの収穫を行う労働者は、はしごを上り下りする代わりに、果樹の間を移動するプラットフォーム(移動台車)に安全ロープで繋がれている。HMC農場は、ここ数年、収穫時に何台かのプラットフォームを使用してきた。監督者のジョン・マクラーティ氏は、労働者の安全と日よけに役立つと言う。

全体的に見て、収穫作業員は果実が成熟するまでに数週間余計に待たなければならなかった。同氏は、「今年は収穫が遅く、おそらくここ数十年で最も遅い。冬に雨が多く寒かったためだ」と述べた。

HMC農場は、100品種以上の核果類とブドウを栽培している。ネクタリンは有機栽培で、全米の店舗に出荷される。同氏は、雨天は収穫を遅らせたかもしれないが、果樹の状態は非常に良いようだと言う。

同氏は、「果実の品質は本当に良い。食味は素晴らしく、おそらくこの15年間で最高だ」と述べた。同氏はまた、収穫用プラットフォームは、日陰で働くというアイデアを好むより多くの労働者を引き付けるのに役立つと考えている。

出典: abc30.com (原典にはプラットフォームを使った収穫風景の動画があります。)

85. チリ 最初の種なしマンダリン品種は米国市場を目指す

FreshPlaza 2023年6月7日

イザベリーナ (Isabelina) は、カトリック大学 (UC) 農林工学部の柑橘類遺伝子改良プログラムで開発された新しいマンダリン品種であり、早生で、果実は皮をむきやすく、濃いオレンジ色で、種なしである。

オロヌール品種 (母品種) では1果実当たり平均5つの種子があり、同じ条件下で最大30個の種子があることもあるのに対し、イザベリーナの強制受粉 (ダブルマーコット品種の稔性花粉を用いた手作業による受粉) の場合では、果実当たりの平均種子数は、最大0.5である。このプログラムの研究者であるヨハンナ・マルティス氏は、「これ (0.5) が種子の混入の最大値であることを保証できる。これにより非常に競争力が高く、我々の育種プログラムにとっても大きな成功である」と述べている。

イザベリーナは、農業イノベーション財団 (FIA)、デリプラント種苗会社及びアグリコム社 (輸出会社) が支援する「チリの柑橘類産業の競争力向上のためのマンダリンとレモンの少種子及び種なし新品種の開発」プロジェクトの成果の一部である。

新しい品種は、低温のリスクを冒してでもさらに南の地域で栽培しようとする人々にとっても解決策となる。「気候変動により、我々は水を確保できる新しい産地を探すことを余儀なくされた。この品種は、第6州と第7州の産地での選択肢となる可能性がある。これらは灌漑用水をあてにできる地域であるが、霜のリスクが高い。イザベリーナは早生品種であるため、生産者は降霜の前に収穫することができる。」

米国は、チリの柑橘類輸出の90%以上を占める主な輸出先である。柑橘類の遺伝的改善プログラムは、この高品質の種なし果実でその市場を引き続き征服しようとしている。

「我々の主な動機は、チリ初の種なしクレメンタイン品種を作ることであった。この品種のもう1つの特徴は早生であることで、4月の最後の週に収穫される。このことによって、米国市場により早く送り出し、品質と状態の良い果実でペルーや南アフリカなど他の国の果実と競争することができる。」

出典: redagricola.com

86. 世界のオレンジ果汁価格 ブラジルの収穫期が始まり下落

FreshPlaza 2023年6月7日

オレンジ果汁は、毎日何百万人もの人々によって消費されている主要な商品である。今日消費されているオレンジの多くは、毎年1,600万トン以上のオレンジを生産するブラジルで生産されたものである。中国、米国、インド、メキシコがこれに続く。

オレンジ果汁の価格は、5月に史上最高値の295.82ドルに急騰した後、反落した。最近のデータによると、オレンジ果汁は274ドルで取引されており、今年の最高値から7.5%以上下落している。全体として見ると、オレンジ果汁は、コーヒーと肥育牛に次いで今年3番目に投資パフォーマンスの高い商品となっている。

全体としては、価格は過去10年間で100%以上、過去3年間で120%以上上昇した。この上昇は主に、米国のオレンジ生産量の全体的な減少によるものである。

日足チャートは、オレンジ果汁が296.90ドルでピークに達したことを示している。現在は下落して、4月4日と4月25日につけた最高値で、重要な支持線である287.56ドルを下回っている。相対力指数 (RSI) は買われ過ぎのレベルを下回っている。

出典: invezz.com

87. 米国 北西部のサクランボは遅いが待つに値する

The Packer 2023年6月8日

スターランチ農場(ワシントン州ウェナチー市)の事業開発責任者であるダン・デイビス氏は、今シーズンのワシントン州産サクランボの出荷は遅れているが、待つ価値は十分にあると言う。

同氏によると、収穫時期は昨年より2週間も遅れている。

デイビス氏は、1年前のサクランボの出荷量は約1,500万箱であったが、今年は5年平均を上回り、2千万箱台の前半から半ばになる可能性があると言った。

スターランチ農場は、6月18日～20日頃に小規模に収穫を開始し、6月25日までに量が増えると予想している。出荷は7月を通して最盛期で、8月中もずっと出荷が続く見込みである。

北西部のサクランボ出荷業者は通常、7月4日(独立記念日の祝日)に向けて大量に出荷するが、今年の祝日向け販売促進に使える出荷量は逼迫すると見られる。

デイビス氏は、カリフォルニア州産のサクランボは6月の第2週または第3週まで収穫できると述べた。

同氏は、「我々のサクランボがカリフォルニア州産と重なるだろうという考え方については、あまり重複することはないだろうと見ている。実際には途切れないようにするのが難しいと思う」と言う。

同氏によると、スターランチ農場は、ポーチバッグ、クラムシェル、トップシールパックの組み合わせでサクランボを提供している。同氏は、クラムシェルは電子商取引の小売プラットフォームに適した選択肢になる可能性があり、一方ポーチバッグは小売店で大きくて人目を引く商品展示でサクランボを販売するために依然として人気があると言う。

デイビス氏によると、輸出市場は北西部のサクランボに対し強い需要を示すと予想されており、通常、台湾、韓国、日本等が同社の主要輸出市場である。

スターランチ農場は有機栽培のサクランボも提供しており、近年出荷量が増えている。

米国北西部の有機生産者にとって今年の懸念の1つは、開花の遅れである。有機栽培では慣行栽培と比較してカビに対処する手段がそれほど多くないため、夏の後半にはそれが有機果実の問題になる可能性がある。

低温が鍵

慣行栽培と有機栽培の両方で、サクランボの品質の鍵はコールドチェーンであり、スターランチ農場では園地から梱包施設までカバーしているとデイビス氏は言う。サクランボは果樹園でハイドロクーリング(収穫後すぐに冷水で冷却すること)され、冷蔵トラックで梱包施設に運ばれて、そこではすぐに冷蔵室に入れられる。

同氏は「低温は、サクランボの棚持ちを維持する上で、最大の焦点である」と言う。

スターランチ農場は、高度な光学的選別機能(サイズ及び等級)を備えたユニテック社のサクランボ梱包機を備えている。

執筆者: トム・カースト

88. エジプト 今シーズンの柑橘類の価格は持ちこたえた

FreshPlaza 2023年6月8日

エジプトの柑橘類出荷シーズンが終了する中、生産者と輸出業者は価格面では良い年であったと報告している。輸出業者のアル・ウェッサム社のマフムード・エサウィ氏は、「今シーズンは収益性の面で最高の部類であった」と語った。(以下「」は同氏の発言)

「柑橘類の世界的な不足により、すべての需要がエジプトに向かった。主要市場がエジプト産オレンジに依存し、価格を押し上げた。生産者と輸出業者はこの回復を待ち望んでいた。」

「弊社が今年好調だった市場は、中国、インド、ヨーロッパで、ヨーロッパでは特にロッテルダム市場(オランダ)とコペル市場(スロベニア)であった。一方、マレーシアとロシアでは予想よりも取引が少なく、過去2か月で大幅に減速した。弊社は今シーズン、合計で4万トンを出した。」

「今シーズンは昨年の同時期よりも高い価格で始まった。価格には変動があったものの、シーズンを通して概ね安定しており、シーズンの終わりに向けて約10%上昇した。大玉は当然価格が高かったが、今年は大玉の数が少なく特に高くなった。品目別では、最も収益性の高いのはマンダリンとレモンであった。」

今年の収益性に寄与するもう1つの要因は、エジプトの輸出業者が、1月以降米ドルに対して3割以上も価値が下落したエジプトポンド切り下げの恩恵(1ドル当たりの国内通貨が多くなる)を受けている一方で、コストの大部分を占める人件費は国内通貨のポンドで支払われていることである。

「来年もこの傾向が続き、弊社の市場が拡大することを望みたい。大幅なコスト削減のための計画を導入しながら、品質にこだわっていく。一言で言えば、競争力を高め、このエジプト産柑橘類のブームに乗るため、来シーズンは品質とコストを管理することが重要になるだろう。」

執筆者: ユーネス・ベンサイド

89. トルコ 核果類の生産量の増加と堅調な需要

FreshPlaza 2023年6月8日

トルコの輸出業者アークスーン社の販売部長であるアーキン・ソーレーエン氏は、トルコの核果類の出荷は力強く始まったとして、「トルコの核果類出荷シーズンの最初の数週間を見ると、今年是非常に有望だ。天候は、この時期としては過去数年間よりもかなり涼しかった。涼しい天候により、出荷シーズンの開始は2~3週間前倒しされたが、気温が一定であるため供給は安定しており、品質は良好である。弊社では4月にアンズで核果類シーズンを開始し、フラットピーチ(蟠桃)、ネクタリン、ブラックプラム、さらに最も重要なものとして、弊社にとって大切なシュガーアプリコットへと続いている。シュガーアプリコットは歯ざわりと甘い食感で、取引先の間で非常に人気が高い」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

旺盛な需要と生産量の増加により、トルコの核果類の販売額は増加が予想されると同氏は言う。「弊社の核果類の総出荷量は、特にフラットピーチやネクタリンなどのニッチな品目を中心に、昨年よりも多い。これらの果実は人気が高まっている。消費者はさまざまな香りと味を高く評価し始めており、その結果、需要が増えている。今シーズンは、気象条件が良ければ総販売額の30~40%の増加を見込んでいる。」

世界的なインフレの結果、価格は上昇したが、同氏はこれまでのところ、価格の上昇が今シーズンの販売に影響を与えたとは考えていない。「生産者は、世界的なインフレと非常に不安定な需要のために然るべき影響を受けており、コストが大幅に上昇している。価格を昨年と比較すると、核果類は全体として14~18%値上がりしている。シーズンの初めから核果類の需要が旺盛であったため、販売には影響を与えていない。これはまた、ヨーロッパの悪天候が核果類の生産に悪影響を与えているためでもあるかも知れない。」

執筆者: ニック・ピーターズ

90. 米国 フロリダ州の柑橘類は減収でシーズン終了へ

FreshFruitProtal 2023年6月12日

米国農務省農業統計局がフロリダ州農業局と共同で作成した6月9日付けの報告書によると、フロリダ州の柑橘類の推定出荷量は(前回の予測に比べて)わずかに増加する傾向があるが、2021-22年度との比較では柑橘類のすべての品目で減少した。

グレープフルーツ全種類とバレンシア種以外のオレンジについては、収穫期間が終了した。バレンシア種の収穫は5月31日の調査の時点で「ほぼ完了」していた。

今シーズン最悪の打撃を受けたのは、タンジェリンとタンジェロであった。フロリダ州産のタンジェリンとタンジェロの6月9日の推計出荷量は49万箱で、前回の予測から1万箱、すなわち2%減少した。これは、昨シーズンの最終的な出荷量の75万箱よりも35%少ない。推計出荷量には、州の認定を受けたすべてのタンジェリンとタンジェロの品種が含まれている。

フロリダ州のオレンジの推計総出荷量は、新しい報告書では1%増加した。フロリダ州産バレンシアオレンジと同グレープフルーツ(全品種)の予測も1%増加した。バレンシア種以外のオレンジの出荷量は前回の予測と同様とされている。

2022年から2023年のフロリダ州産オレンジ全体の予測出荷量は、1,580万箱(90ポンド/箱)である。これは、バレンシア種以外のオレンジ(早生、中生、ネーブル)615万箱とバレンシア種960万箱から成る。「バレンシア種以外」に含まれるネーブル種の予測出荷量は24万箱で、「バレンシア種以外」のうちの4%である。

フロリダ州のグレープフルーツの合計予測出荷量は、182万箱(85ポンド/箱)である。このうち、白肉品種は前回予測から1万箱増の25万箱であり、赤肉品種は同1万箱増の157万箱である。

フロリダ州の柑橘類産業は打撃を受けており、オレンジの総出荷量は2020-21年度の5万2,950箱から、2021-22年度には4万1,200箱に減少した。2022-23年度産については、昨年9月下旬にフロリダ州を襲ったハリケーンイアンがフロリダ州の柑橘類の出荷量に大きな打撃を与えた。

(次ページに農務省報告書の集計表を掲載)

(関連記事) 米国 柑橘類予測出荷量

米国農務省農業統計局(2023年6月9日)

フロリダ州農業消費者サービス局との共同発表

フロリダ州の全オレンジの予測出荷量は5月の予測から1%増加

フロリダ州の非バレンシアオレンジの予測出荷量は変更なし

フロリダ州のバレンシアオレンジの予測出荷量は1%増加

フロリダ州の全グレープフルーツの予測出荷量は1%増加

フロリダ州のタンジェリン及びタンジェロの予測出荷量は2%減少

柑橘類の種類別出荷量及び予測出荷量 - 州別及び米国計

種類及び州	出荷量 ¹		2022-23年度の予測出荷量 ¹	
	2020-2021 (1,000 箱)	2021-2022 (1,000 箱)	5月予測値 (1,000 箱)	6月予測値 (1,000 箱)
バレンシア以外のオレンジ²				
フロリダ州	22,700	18,250	6,150	6,150
カリフォルニア州 ³	41,300	31,500	37,000	37,000
テキサス州 ³	1,000	170	700	700
米国計	65,000	49,920	43,850	43,850
バレンシアオレンジ				
フロリダ州	30,250	22,950	9,500	9,600
カリフォルニア州 ³	7,700	7600	8,100	8,100
テキサス州 ³	50	30	350	350
米国計	38,000	30,580	17,950	18,050
オレンジ合計				
フロリダ州	52,950	41,200	15,650	15,750
カリフォルニア州 ³	49,000	39,100	45,100	45,100
テキサス州 ³	1,050	200	1,050	1,050
米国計	103,000	80,500	61,800	61,900
グレープフルーツ				
フロリダ州合計	4,100	3,330	1,800	1,820
赤肉系	3,480	2,830	1,560	1,570
白肉系	620	500	240	250
カリフォルニア州 ^{3 4}	4,200	4,100	4,200	4,200
テキサス州 ³	2,400	1,700	2,400	2,400
米国計	10,700	9,130	8,400	8,420
レモン³				
アリゾナ州	750	1,250	1,700	1,700
カリフォルニア州	20,100	25,200	23,000	23,000
米国計	20,850	26,450	24,700	24,700
タンジェリン及びタンゴール				
フロリダ州	890	750	500	490
カリフォルニア州 ³	28,800	17,500	21,000	21,000
米国計	29,690	18,250	21,500	21,490

1. 一箱当たり正味重量(ポンド数 1ポンド=約 453.6 グラム)

オレンジ: カリフォルニア州-80、フロリダ州-90、テキサス州-85; グレープフルーツ: カリフォルニア州及びテキサス州-80、フロリダ州-85; レモン- 80; タンジェリン及びマンダリン: カリフォルニア州-80、フロリダ州-95

2. フロリダ州では早生の非バレンシア品種(ネーブル種を含む)及び中生の非バレンシア品種。カリフォルニア州ではネーブル種及びその他の品種。テキサス州では早生品種及び中生品種。

3. 前回の予測を持ち越し

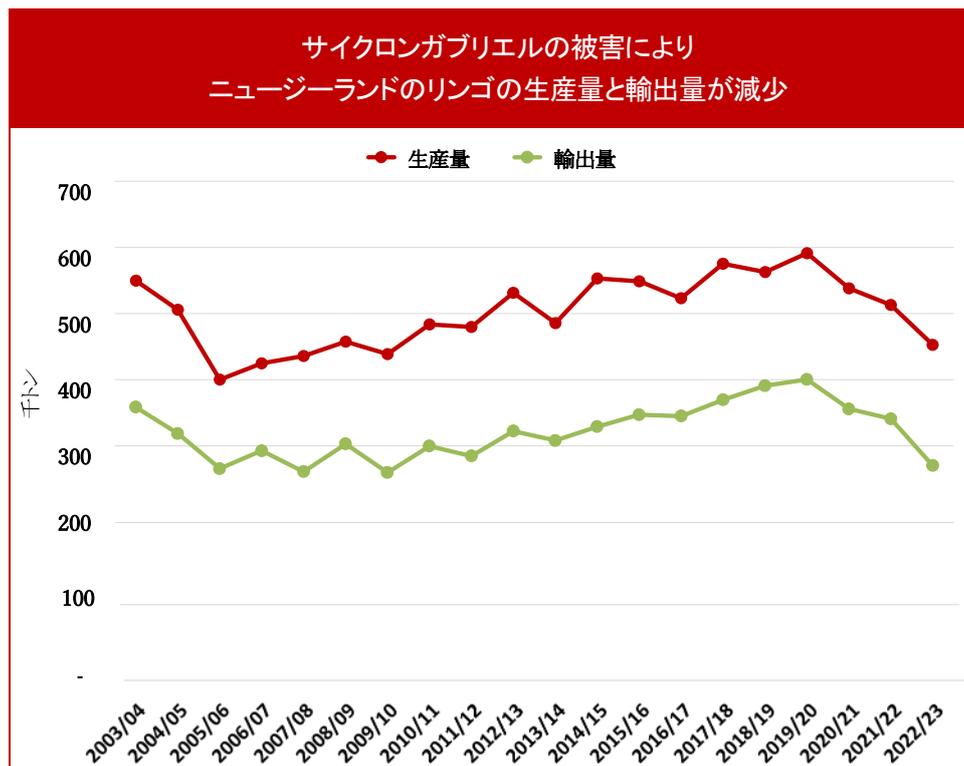
4. カリフォルニア州ではボメロを含む

91. 世界の落葉果実事情と市場動向(リンゴ、ブドウ、ナシ)

米国農務省海外農業局 2023年6月13日

ニュージーランドのリンゴ生産：何年分もの利益を奪われた

ニュージーランドのリンゴ生産量は、2019/20年度にピークに達した後、3年連続で減少した。2020/21年度と2021/22年度の減少は、主にコロナ禍関連の労働力不足によるものであった。入国制限により、季節労働者の不足が深刻になり、果樹園の果樹を完全に収穫することができなかった。生産者はこれらの試練を乗り越え、ニュージーランドのリンゴ産業は2022/23年度に非常に良いシーズンを期待していたが、2023年2月のサイクロンガブリエルによって壊滅的な被害を受け、生産を拡大するための長年の投資が無に帰した。



2020/21年度以前は、降雹、厳しい降霜及び長引く降雨といった2004/05年度から2年間の悪天候が生産に与えた大きな影響から回復し、ニュージーランドのリンゴ生産量は長期的な増加傾向にあった。失われた生産量をゆっくりと回復し、2019/20年度には生産量(59万1,200トン)と輸出量(40万400トン)の両方で史上最高に達し、南半球の生産量の13%を占めた。この期間に栽培面積も拡大し、過去10年間のうち9年間で増加し、平均で毎年270ヘクタール近く増加した。海外市場の消費者が好む新しい多収性品種に転換するために大規模な投資が行われた。ニュージーランドは、生産量の3分の2を60か国以上に輸出している。輸出量は平均して世界の輸出量の5%、南半球の輸出量の20%を占めている。2021/22年度の主要市場は、中国、ベトナム、欧州連合(EU)、台湾、米国であった。

2019/20年度に続く2年間は、コロナ禍関連の減速にもかかわらず、増加率は減少したものの栽培面積は拡大を続け、古い園地を新しい品種に継続的に転換するための投資が続いた。過去数年間は、等級分けのためのカメラ技術や梱包及び積み上げのためのロボット工学など、梱包施設の自動化を進めて効率を向上させるための多額の投資も見られた。過去2シーズンは供給量が少なかったが、生産者は過去10年間のうち9年間に於いて50万トン以上の生産量を維持することができ、コロナ禍関連の物流上の課題にもかかわらず、輸出量は平均35万トンであった。

これらの困難な季節を乗り越えた後に、2022/23年度は、コロナ禍以前の水準への生産量の回復に大きな期待を持って始まった。ニュージーランド及び世界中でコロナ禍の制限が緩和されたことで、物流が改善さ

れ、果樹園と梱包施設の両方で労働力の確保状況が改善した。さらに、生育条件は理想的であり、新しい果樹園の成園化が進んでいた。

2月中旬に収穫が始まった時、サイクロンガブリエルがニュージーランドの北島を襲い、果樹園が広範囲に破壊されたことでこれらの期待は打ち砕かれた。最も打撃を受けた地域は、ニュージーランドの生産量の3分の2を占めるホークスベイ地方とギズボーン地方であった。果樹のほぼ半分が影響を受け、4分の1近くが破壊されたか、または水没や深い土砂に覆われた結果として枯死するものと見込まれる。また、ほとんどの商業的果樹園が依存している灌漑施設等のインフラにも大きな被害があった。

その結果、2022/23年度については、生産量は6万トン減の45万3千トン、輸出量は7万トン減の27万トンと、いずれも2009/10年度以来の低水準になると予測される。生産者が果樹園を復旧するのに伴い、果樹の転換のペースが前年よりも加速し、ロッキット、エンヴィイ、ピンクレディーなど、収益性の高い多収品種の栽培面積の増加ペースが加速すると予想される。しかし、リンゴ業界がガブリエルの被害全体から完全に回復するには何年もかかる可能性がある。

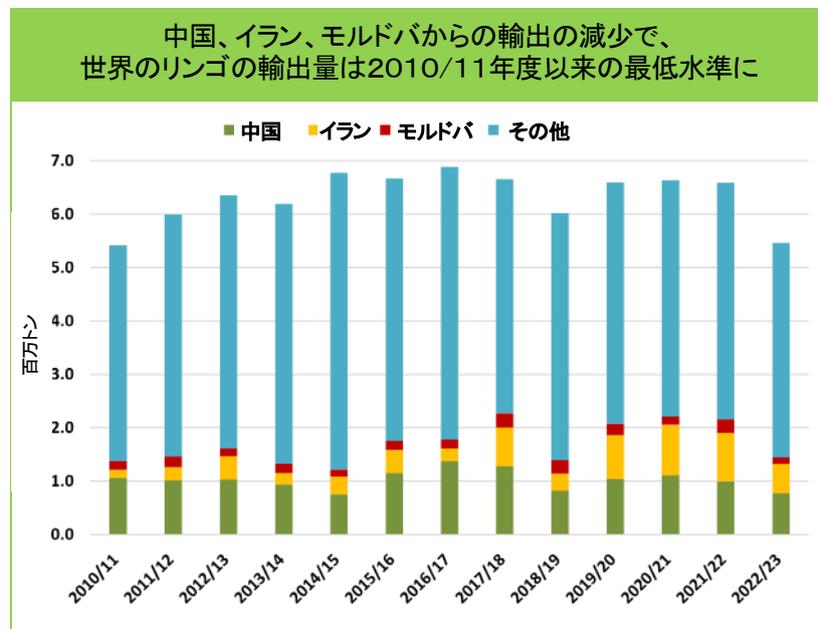
<リンゴ>

世界の2022/23年度のリンゴ生産量は、中国での悪天候による減収のため430万トン減の7,840万トンと予測される。リンゴの輸出量は、中国、イラン、モルドバからの輸出の大幅な減少により、100万トン以上の減となる550万トンと推定される。

中国の生産量は、最大の産地である陝西省と山東省で開花時の高温により着果数が減少したため、これらの省の生産量の減少により、約500万トン減の4,100万トンと予想される。市場収益の低さから、北部と西部の一部の省で果樹の伐採が進んでおり、また農家人口の高齢化も果樹園の管理に影響を与えている。輸出量は、供給量の減少に伴い20%以上の減となる77万トンと推定される。ロシアへの輸出は、病害虫を理由とする2019年8月からの輸入禁止が2022年2月に解除されたのを受けて再開されたが、その量は他の市場への販売の低迷を部分的に相殺するに過ぎないと予想される。輸入量は、販売年度(7月～翌年6月)の初期にニュージーランドからの出荷が増えたため、1万トン増の8万5千トンと予測される。

EUの生産量は、ポーランドで良好な開花と受粉により着果量が増えたことで生産量が増加したことから、全体では微増の1,280万トンと予測される。ポーランドでの生産量の増加は、古い果樹園の多収性新品種への転換が続いていることにも起因している。供給量の増加にもかかわらず、輸出量は10万トン減の110万トンと推定される。冷蔵コストの上昇は輸出のために貯蔵する意欲をそぎ、加工仕向量を増やし、域内の消費量を1,200万トンに押し上げると予想される。供給量が多いため、輸入需要は前年比4万1千トン減の29万トンと見込まれる。

米国の生産量は、ワシントン州の悪天候による減収がミシガン州の記録的な増収を上回り、7万5千トン減少して、2012/13年度以来の最低水準である430万トンと推計される。ミシガン州では生育期間を通して理想的な天候に恵まれ、生産量は前年のほぼ2倍となった。米国農務省農業統計局(NASS)は業界を調査し、



2023年5月の「非柑橘果実及びナッツ類に関するサマリーレポート2022」で、米国の生産量を更新した。供給量の減少が引き金となって輸出量が20%近く減少し、59万トンと2003/04年度以来の最低水準となり、輸出量は3年連続の減少となるものと予想される。供給量の減少にもかかわらず、ニュージーランドからの輸出量の減少により、輸入量は10万トンに縮小すると予想される。

チリの生産量は、栽培面積の継続的な減少が良好な生育条件による収量の増加によって大部分相殺されるため、微減の100万トンと予測される。生産量の減少により、輸出量は58万5千トンに減少すると予想される。

メキシコの生産量は、干ばつのあった昨年よりも収量がわずかに増加するものの、64万トンでほぼ横ばいと予想される。栽培面積は郊外の都市開発の圧力を受けて減少を続けているが、一部の生産者は、リンゴよりも収益性が高く、水の必要量が少ないイチジクなどの他の作物に転換している。輸入量は、インフレ率の上昇と個人消費の減少が需要を減退させているため、3万1千トン減の23万5千トンと予想される。

ニュージーランドの生産量と輸出量は、生産量の65%以上を占める北島が2月にサイクロンガブリエルによる深刻な被害を受けたため、2009/10年度以来の最低水準に落ち込むと予測される。良好な生育条件により南島の生産量が増加するが、サイクロンによる損失を部分的に補うに過ぎないと予想される。サイクロンによる被害のため、生産量は6万トン減の45万3千トン、輸出量は20%以上の減となる27万トンと予測される。

南アフリカの生産量は、2年続きの記録的な収穫量の後の果樹の回復のため、5万1千トン減の120万トンと予測される。底堅い生産量にもかかわらず、輸出品質の果実の供給量の減少と冷蔵コストの高騰により、輸出量は9万トン減の53万5千トンと予測される。西ケープ州の最大の産地では降雹被害のため低品質のリンゴが多くなり、本来輸出されるはずであった果実を加工用に仕向けると予想され、一方貯蔵コストの高騰と電力負荷の軽減措置(計画停電)は、国内市場での売り急ぎを招くと予想される。

トルコの生産量は、良好な生育条件と新品種の多収性により、27万7千トン増の480万トンと推定される。輸出量は、供給量の増加により41万トンに増加すると予想され、サウジアラビアとロシアへの出荷が増加すると予想される。

インドの生産量は、開花期と着果期に十分な雨が降ったため、5万トン増の240万トンと予想される。不十分なコールドチェーンネットワークと限られた流通によって、増加した国内供給量へのアクセスが妨げられているにもかかわらず、イランとEUからの供給量の減少により、輸入量は6万トン以上の減となる38万5千トンと予測される。

<生食用ブドウ>

世界の2022/23年度の生食用ブドウの生産量は、中国とトルコでの良好な生育条件による増収がチリとインドでの減収を上回ったため、4年連続の増加となる110万トン増の2,730万トンと予測される。輸出量は、中国とペルーの増加がチリと南アフリカの減少を相殺するため、370万トンの横ばいと予想される。

中国の生産量は、良好な生育条件と栽培技術の継続的な改善による収量の増加により、62万トン増の1,260万トンと推定される。供給量の増加により輸出量は39万トンに増加し、アジア市場、特にタイとベトナムへの出荷が増加すると予想される。輸入量は、オフシーズンの安定的な貿易により、18万トンの横ばいと予想される。

トルコの生産量は、ブドウ園が昨年の霜害から回復し、また良好な生育条件により収量が増えるため、38万トン増の220万トンと予想される。輸出量は昨年まで3年連続で増加したが、ウクライナの需要の弱さがロシア及びサウジアラビアとの貿易の増加を上回るため、供給量の増加にもかかわらず、3万9千トン減の22万5千トンと予測される。生産量の増加と輸出量の減少により、消費量は再び200万トンを超えると予想される。

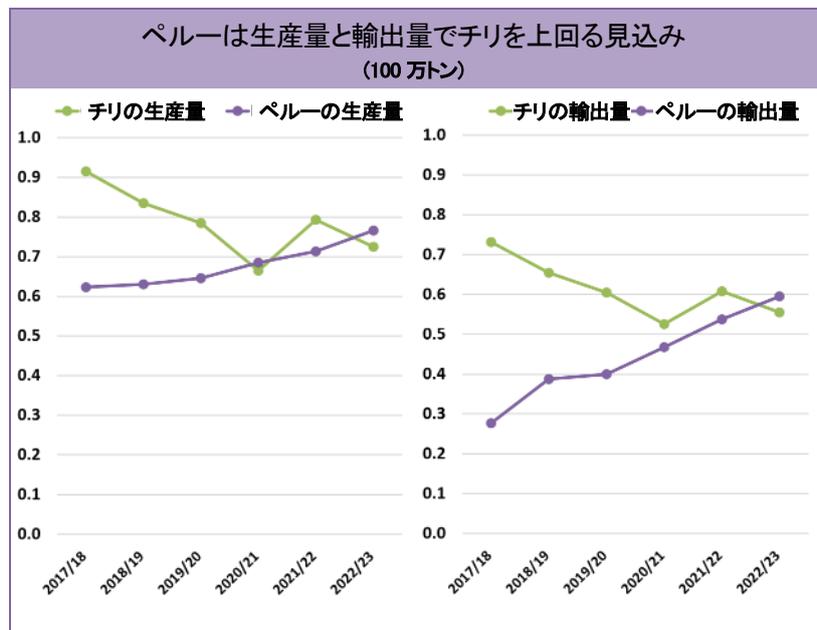
インドの生産量は、2年連続で季節外れの大雨の影響を受け、290万トンでほぼ横ばいと予測される。また、輸出品質のブドウの量が減少する。干しブドウの国内需要の高まりもブドウを干しブドウ生産に向かわせ、輸出量をさらに縮小させている。生鮮ブドウの入手可能性の低下により、輸出量は2万トン減の25万5千トンと

予想され、特に最大の市場であるバングラデシュへの出荷が減少すると見込まれる。

EUの生産量は、イタリア、スペイン、ポルトガルで新しい種なし品種の園地が成園化するため、2年続きの減収の後16万1千トンの増加に転じ、160万トンに回復すると予想される。供給量が増加し、高い運賃と輸送コストが輸出量を17万トンのほぼ横ばいに留めているため、消費量は、200万トン以上に増加すると推定される。輸入量も、チリからの輸入の増加が南アフリカとブラジルからの輸入の減少で相殺されるため、59万トンのほぼ横ばいとなる。

米国の生産量は、水不足が引き続き生産量に影響し、また降霜により収量が下がるため、81万1千トンの微減で、4年連続の減少となるものと推定される。米国農務省農業統計局(NASS)は業界を調査し、2023年5月の「非柑橘果実及びナッツ類に関するサマリーレポート2022」で、米国の生産量を更新した。供給量の減少により、輸出量は主要市場であるカナダとメキシコを含めて微減となり、24万7千トンと予想される。輸入量は、ペルーでの生産量の増加と、販売年度(5月から翌年4月)の初めにチリからの出荷が増加したことから、史上最高の74万6千トンに達すると予測される。米国の生産量に占める輸出量のシェアは30%に減少し(2017/18年度から2021/22年度の平均は35%であった)、輸入量の増加と相まって、消費量を史上最高の130万トンに押し上げると見られる。

ペルーの生産量は、良好な生育条件と新植園地からの出荷量の増加により、5万トン以上増えて76万6千トンに達し、8年連続で増加すると予想される。生産量の増加に伴い、北米、特に米国への輸出が急増し、輸出量は約6万トン増の59万5千トンと推定される。これが実現すれば、ペルーはチリから世界一の輸出国の地位を奪い、生産量ではチリを抜いて世界第9位となる。



チリの生産量は、好ましくない生育条件と栽培面積の減少により、7万トン近く減となる72万5千トンと予測される。一部の生産者は古い品種を新しい多収性品種に改植しているが、他の地域では、サクランボやクルミなど収益性のより高い作物に転換しており、多収性品種への改植による増収を相殺している。供給量の減少は、輸出量を5万3千トン減の55万5千トンに押し下げると予想される。

オーストラリアの生産量は、春の大雨により一部の生産者に病害管理の問題が生じたため、微増の20万トンと予想される。輸出量は、2年間のコロナ禍関連の減少から回復し、物流の改善が特に中国向けの出荷を活性化させることから、2万トン増の13万トンと予測される。ただし、涼しく雨の多い天候による出荷開始の遅れのため、出荷シーズン終盤に完熟する量が制約され、力強い回復が妨げられると予想される。

<ナシ>

世界の2022/23年度のナシ生産量は、EUの作柄の回復を中国の悪天候による減収が上回るため、74万トン減の2,370万トンと予測される。輸出量は、中国の減少により170万トンに減少すると見込まれる。

中国の生産量は、最大の産地である河北省で厳しい降霜のために着果が妨げられたため100万トン減の1,790万トンと予想される。栽培面積も、収益性の低下により果樹が伐採され、地方政府も穀物への転換を奨励しているため、2年連続で減少する。輸出量は、供給量の減少により、7万2千トン減の41万トンと推定さ

れ、輸入量は新規の輸入先である南アフリカから供給によって最大1万2千トンの増加が見込まれる。

EUの生産量は、オランダの生育条件が良く、イタリアの果樹園が昨年の降雪、降霜、低温の影響から回復するため、24万トン増の210万トンと予測される。輸出量は、EU産リンゴとナシのベラルーシへの一時的な輸出禁止が2022年4月26日に終了したことから、1万1千トン増の36万トンと推定される。国内供給の回復により輸入需要が減り、輸入量は2万2千トン減の16万5千トンと予想される。

米国の生産量は、カリフォルニア州での好天による増収が、ワシントン州とオレゴン州での低温による小玉化と減収によっ

て相殺されるため、58万3千トンの横ばいと推定される。米国農務省農業統計局(NASS)は業界を調査し、2023年5月の「非柑橘果実及びナッツ類に関するサマリーレポート2022」で、米国の生産量を更新した。輸出量は、最大の市場であるメキシコで高価格とインフレにより需要が減退し、1万1千トン減の10トンと予想される。輸入量は、中国と韓国からのシーズン初期の出荷の増加がチリからの供給の減少を相殺するため、7万トンの横ばいと予想される。

アルゼンチンの生産量は3万3千トン増の59万トンと予測されるが、高温のため小玉化し、成熟が早くなり、生産量のそれ以上の増加が妨げられ、果実の品質に影響を与えた。供給量の増加により、輸出量は3万トン増の30万5千トンと予想され、量が増える低品質の果実は近隣の中南米諸国に向かうものと予想される。

チリの生産量は減少傾向が続き、栽培面積の減少により1万1千トン減の21万2千トンと予想される。生産者はアバテフェタル等の知名度の低い品種の市場の多様化に苦労しているため、栽培面積は2019/20年度以降20%近く減少した。輸出量は供給量の減少により6千トン減の11万トンと予測される。

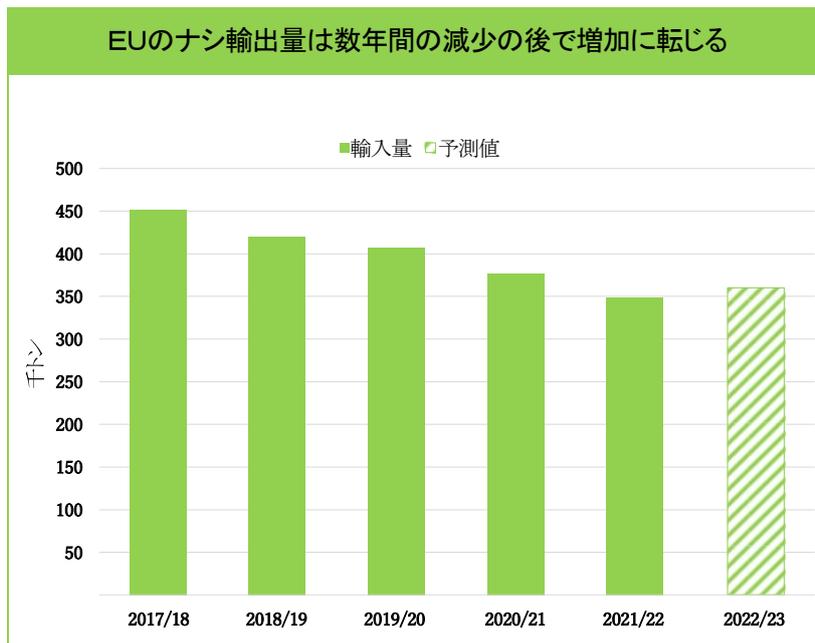
南アフリカの生産量は、雹を伴う嵐と、昨年の記録的な収穫量の後で収量が平常に戻るため、3万6千トン減の47万トンと予測される。生産量の減少にもかかわらず、中国への新しい市場アクセスの獲得と、インド向け果実の輸送中低温処理が承認されたことによって、供給量減少の影響が緩和されるため、輸出量は1万2千トン減の27万5千トンと予測される。

留意事項

欧州連合の定義： 関税同盟の27か国(国名省略)

販売年度：

- **リンゴ** - 米国とメキシコは8月から翌年7月。その他のすべての北半球の国は、7月から翌年6月。南半球の国々は、分割表示の2年目として示される暦年。
- **生食用ブドウ** - 米国とメキシコは5月から翌年4月。他のすべての北半球の国は、6月から翌年5月。南半球のアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー、南アフリカは、10月から翌年9月。ブラジルは、分割表示の2年目として示される暦年。
- **ナシ** - 北半球の国々は7月から翌年6月。南半球の国々は、分割表示の2年目として示される暦年。



リンゴ(生鮮) 主要国の生産需給統計(千トン)

	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 12月推計	2022/23 6月推計
生産量						
中国	33,000	42,425	44,066	45,973	41,000	41,000
EU	14,810	11,480	11,935	12,277	12,772	12,772
トルコ	3,600	3,620	4,300	4,493	4,770	4,770
米国	4,479	4,852	4,505	4,375	4,494	4,300
インド	2,371	2,370	2,300	2,300	2,350	2,350
イラン	2,241	2,207	2,207	2,207	2,207	2,207
ロシア	1,611	1,779	1,540	1,540	1,540	1,540
南アフリカ	894	991	1,164	1,201	1,100	1,150
ウクライナ	1,154	1,115	1,115	1,115	1,115	1,115
チリ	1,210	1,124	1,099	1,040	1,040	1,010
その他	6,480	6,619	6,453	6,213	6,373	6,200
合計	71,849	78,581	80,683	82,734	78,760	78,413
国内消費量						
中国	32,275	41,487	43,033	45,051	40,300	40,315
EU	13,839	10,659	11,175	11,460	11,842	12,012
トルコ	3,324	3,412	4,013	4,096	4,351	4,361
米国	3,884	4,098	3,838	3,757	3,939	3,810
インド	2,384	2,250	2,400	2,577	2,600	2,550
ロシア	2,323	2,455	2,259	2,116	2,080	1,910
イラン	1,916	1,389	1,251	1,300	1,457	1,657
ウクライナ	1,110	1,114	1,109	1,066	1,086	1,081
ブラジル	1,246	1,028	936	1,078	1,043	1,053
メキシコ	794	1,017	973	899	904	874
その他	8,520	9,130	9,126	9,102	8,880	8,615
合計	71,615	78,040	80,114	82,503	78,482	78,236
輸入量						
インド	277	194	377	448	430	385
ロシア	795	763	796	587	550	380
イラク	321	405	406	452	375	340
英国	343	320	330	328	330	300
ベトナム	158	233	278	300	280	300
EU	389	378	325	331	320	290
メキシコ	247	257	260	266	265	235
バングラデシュ	188	271	266	252	215	195
カナダ	203	205	190	206	215	195
サウジアラビア	182	195	174	179	185	190
その他	2,991	3,196	2,973	3,147	2,980	2,609
合計	6,094	6,416	6,374	6,496	6,145	5,419
輸出量						
EU	1,359	1,199	1,084	1,149	1,250	1,050
中国	818	1,042	1,102	997	800	770
米国	741	861	775	723	670	590
チリ	674	660	644	603	605	585
イラン	325	818	956	907	750	550
南アフリカ	469	509	589	625	560	535
トルコ	278	209	288	398	420	410
ニュージーランド	391	400	356	341	385	270
モルドバ	251	217	150	253	220	130
セルビア	184	206	185	165	160	115
その他	530	476	506	428	468	456
合計	6,020	6,596	6,634	6,588	6,288	5,461

注: 米国とメキシコの販売年度は8月から翌年7月。その他のすべての北半球の国は7月から翌年6月。南半球の国々は分割表示の2年目として示される暦年。

ブドウ(生食用、生鮮) 主要国の生産需給統計(千トン)

	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 12月推計	2022/23 6月推計
生産量						
中国	9,900	10,800	11,450	11,980	12,600	12,600
インド	2,900	2,280	2,300	2,900	2,850	2,850
トルコ	1,950	2,050	2,220	1,857	2,236	2,236
ウズベキスタン	1,603	1,607	1,607	1,607	1,607	1,607
EU	1,589	1,548	1,374	1,420	1,581	1,581
エジプト	1,350	1,385	1,170	1,435	1,480	1,480
ブラジル	1,485	1,436	1,436	1,436	1,436	1,436
米国	997	905	871	826	850	811
ペルー	630	645	685	713	766	766
チリ	835	785	665	793	737	725
その他	1,147	1,316	1,311	1,298	1,274	1,254
合計	24,386	24,757	25,089	26,264	27,417	27,346
生鮮国内消費量						
中国	9,873	10,677	11,215	11,810	12,395	12,390
インド	2,356	1,803	1,830	2,285	2,270	2,288
トルコ	1,771	1,845	2,006	1,595	1,966	2,013
EU	1,916	1,872	1,766	1,851	1,941	2,001
ブラジル	1,455	1,394	1,364	1,391	1,409	1,393
ウズベキスタン	1,485	1,487	1,478	1,383	1,402	1,367
エジプト	1,235	1,248	1,027	1,273	1,307	1,317
米国	1,199	1,252	1,227	1,281	1,340	1,310
ロシア	307	308	369	399	362	432
メキシコ	236	273	272	266	262	275
その他	2,115	2,171	2,229	2,212	2,231	2,094
合計	23,948	24,329	24,782	25,747	26,884	26,880
輸入量						
米国	571	672	670	713	745	746
EU	520	501	572	604	520	590
ロシア	290	288	351	380	340	410
英国	268	275	269	271	280	260
カナダ	179	189	191	184	190	185
中国	262	239	194	181	170	180
ベトナム	100	113	147	99	135	135
メキシコ	102	91	98	103	115	130
タイ	124	131	140	103	135	130
香港	259	238	201	119	110	120
その他	682	680	742	833	751	696
合計	3,355	3,415	3,575	3,590	3,491	3,582
輸出量						
ペルー	388	400	468	537	585	595
チリ	655	605	526	608	555	555
中国	289	362	428	351	375	390
南アフリカ	276	284	322	336	310	300
インド	250	185	267	275	270	255
米国	368	325	314	258	255	247
ウズベキスタン	118	120	129	224	205	240
トルコ	179	205	215	264	270	225
メキシコ	147	224	207	196	200	202
EU	193	177	180	173	160	170
その他	627	653	614	537	519	550
合計	3,490	3,540	3,669	3,758	3,704	3,729

注：米国とメキシコの販売年度は5月から翌年4月。他のすべての北半球の国は6月から翌年5月。南半球のアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー、南アフリカは、10月から翌年9月。ブラジルは、分割表示の2年目として示される暦年。

ナシ(生鮮) 主要国の生産需給統計(千トン)

	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 12月推計	2022/23 6月推計
生産量						
中国	14,000	17,314	17,815	18,876	17,850	17,850
EU	2,568	2,059	2,373	1,843	2,083	2,083
アルゼンチン	600	640	615	557	700	590
米国	726	645	593	589	613	583
トルコ	520	530	550	530	560	560
南アフリカ	413	438	461	506	450	470
インド	300	310	308	310	312	312
ロシア	242	290	247	247	247	247
韓国	203	201	133	210	244	244
チリ	252	222	233	223	217	212
その他	585	577	579	578	581	577
合計	20,410	23,226	23,907	24,469	23,857	23,728
国内消費量						
中国	13,645	16,707	17,345	18,404	17,442	17,452
EU	2,305	1,823	2,172	1,681	1,888	1,888
米国	654	586	560	547	593	553
トルコ	478	479	477	436	463	475
ロシア	461	436	446	429	441	421
インド	288	327	330	338	342	347
アルゼンチン	291	300	301	283	375	285
韓国	176	170	113	186	214	214
日本	237	197	197	197	197	196
南アフリカ	188	212	214	219	200	195
その他	1,542	1,799	1,620	1,666	1,645	1,638
合計	20,265	23,037	23,775	24,387	23,800	23,665
輸入量						
ロシア	261	194	241	183	195	175
EU	157	172	175	187	165	165
インドネシア	145	236	196	215	180	160
ブラジル	154	138	121	133	135	155
英国	118	100	105	103	110	115
ペラルーシ	118	119	112	78	115	110
ベトナム	63	133	97	101	95	100
香港	85	76	81	77	80	75
メキシコ	92	84	73	72	70	75
米国	73	72	75	69	80	70
その他	426	495	454	485	484	479
合計	1,691	1,818	1,729	1,702	1,709	1,679
輸出量						
中国	366	619	480	482	420	410
EU	420	407	377	349	360	360
アルゼンチン	310	340	315	275	325	305
南アフリカ	226	227	247	287	250	275
チリ	132	114	127	116	110	110
米国	144	130	109	111	100	100
トルコ	42	51	73	94	97	85
ペラルーシ	70	16	54	27	55	45
韓国	27	31	19	24	30	30
オーストラリア	9	9	9	8	7	10
その他	15	15	11	11	12	12
合計	1,760	1,959	1,821	1,784	1,766	1,742

注：北半球の国々の販売年度は7月から翌年6月。南半球の国々は、分割表示の2年目として示される暦年。

92. ニュージーランド ルビーレッド・キウイの輸出が3倍に増加

FreshFruitPortal 2023年6月13日

ニュージーランドのキウイフルーツ販売事業者であるゼスプリは、ルビーレッド品種のキウイフルーツの輸出量が大幅に増加し、これまでに33万箱を出荷したと発表したと、ニュースサイト [Stuff.nz](#) が伝えている。この増加により、この権利関係のある品種の輸出額は以前の3倍になった。今シーズンのルビーレッド品種の主な輸出市場は、日本、中国、シンガポール、台湾等である。

これは、同社の最新の決算で販売量が2億150万箱から1億8,350万箱に減少する中で起こった。2022-23年度の世界での総売上高は23億8千万米ドルで、2021-22年度の記録的な金額から3%減少した。

ニュージーランドのキウイフルーツの生育シーズンは、サイクロンガブリエルと異常に雨の多い天候がほとんどの産地で生産に大きな影響を与えるなど、複数の問題に直面した。このセクターはさらに、業界の深刻な労働力不足、コストの増加及びサプライチェーンの問題に起因する、果実の品質問題に直面している。

ルビーレッドは通常でも他のキウイフルーツ品種よりも果実が小さいが、今シーズンの果実のサイズはさらに平均を下回っている。ゼスプリの生産者・持続可能性担当役員であるキャロル・ウォード氏は同サイトに対し、赤肉品種は良い数字を達成しているが、まだ商業生産の2年目に過ぎないと語った。

ワード氏は、新しく商品化された品種の栽培には「固有の不確実性」が伴い、果実のサイズが小さいことがその要素の1つである可能性があると言う。

93. トルコ サクランボは悪天候の影響を受けていないが高値

EUROFRUIT 2023年6月15日

このトルコの業者は、価格が正常化し、品質が向上するのを待って今シーズンのサクランボの収穫を開始しようとしているが、作柄は悪天候の影響を受けていないようだ。

トルコ産のアプリコットは天候の問題で今年は悲惨なスタートとなったが、生産・輸出業者のアラナル社は、少なくとも今のところ、同社のサクランボは悪天候の影響を受けていないようであることに感謝している。

同社の販売コーディネーターのイギット・ギョキギット氏は、「弊社のアンズ園は、降雹、降霜、大雨などの悪天候によって台無しになった。サクランボが今のところ無事であることを神に感謝する。弊社の果樹園では2週間以内に収穫を開始する」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

トルコの一部の地域ではすでにサクランボの収穫が始まっているが、同社は辛抱強く待っている。

「生産者価格が極めて高く、品質は最高ではない。そのため、価格が正常化するまで収穫を待つことにした。シーズン半ばの6月下旬頃には産地の出荷量が増えてくるようなので、トルコのサクランボ輸出業者にとってはよくなるだろう。」

トルコの輸出業者らは、2020年から留保され、サクランボ供給業者の不満の元になっている中国向けサクランボの輸出手続きの再開を待ち続けている。

「出荷手続きは今年のおそらく7月にも再開する可能性があると思うので、出荷シーズンが終了する前にいくらかでも中国にサクランボを輸出できることを願っている。」

執筆者: トム・ジョイス

94. EUの柑橘類事情(オレンジ、オレンジ果汁)

米国農務省GAINレポート 2023年6月15日

これは米国農務省海外農業局のマドリッド事務所(スペイン)が作成した「柑橘類半期報告書」のエグゼクティブサマリー及びオレンジとオレンジ果汁の項(他の品目は生産需給統計のみ)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

2022/23年度のEUの柑橘類の生産量は、前年度比10%減の1,040万トンと予測される。柑橘類のこの予測生産量は、前回(柑橘類年次報告書)の推計値から0.7%減少した。

EUの柑橘類の生産は地中海地域に集中している。スペインとイタリアはEUの主要な柑橘類生産国であり、ギリシャ、ポルトガル、キプロスがそれに続く。公式データ及び業界筋の情報によると、EUの柑橘類生産量の減少は主にスペインで見られ、約18%減少して過去10年間で最低の水準になると予想される。スペイン産の柑橘類は、EUの生産量の約65%を占めている。柑橘類の生産量の減少は、イタリア(主にオレンジ)とポルトガルでも予測される。一方、ギリシャは、2022/23年度には昨年度からの回復が期待される。スペインで予想される大幅な減少は、2022年の春の雨が開花と着果に悪影響を及ぼしたことと、異常に暖かい夏とその後2023年5月まで続いた干ばつによるものである。これらの好ましくない気象条件は、オレンジとレモンをはじめとする柑橘類の生産を著しく損なった。

昨年2月のロシアによるウクライナ侵攻は、エネルギー(燃料や電気)などの投入コストの増加を引き起こし、肥料は入手が困難になり価格が上昇した。柑橘類の販売額は、農業投入資材の価格上昇と同様には増加せず、柑橘類の生産者及び事業者の収益性の低下につながった。農業投入コストの上昇、経済的生産性の欠如、及び農業労働力の不足は、EU全体の柑橘類生産者にとって依然として懸念事項である。

海外農業局EU内各事務所の予測によると、地中海沿岸の生産国で耕種作物より収益性の高い果樹の植栽が続くため、EUの柑橘類栽培面積は前回の予測どおりに増加すると予想される。レモンとグレープフルーツの面積は、2022/23年度に大幅に増加すると予想される。EUのオレンジ栽培面積も緩やかに増加すると予想されるが、EUのマンダリン栽培面積はわずかに減少すると予想される。柑橘類の栽培面積拡大はスペインに集中しており、イタリア、ポルトガル、ギリシャの栽培面積はそれよりも安定している。

2022/23年度には、EUの柑橘類の収穫量の減少、柑橘類の価格の全体的な上昇、EUの食品インフレの増大、及び消費者が価格に敏感なことから、EUの柑橘類の消費量は、前回の予測どおり減少すると予想される。

EU全体としては柑橘類の純輸入者である。トレードデータモニター(TDM)社のデータによると、2021/22年度のEUのEU域外からの柑橘類の総輸入量は、前年度に比べ5%減少した。2022年10月から2023年3月までのEUの柑橘類輸入量は、主にオレンジ生産量の不足により、2022年の同時期と比較して6%増加した。EUへの主な柑橘類輸出国は、南アフリカ、トルコ、エジプト、モロッコ、アルゼンチン、ブラジルであり、主にEUの北部及び東部の諸国に柑橘類を出荷している。2022/23年度の上半期には、トルコとモロッコからEUへの柑橘類の輸入量は減少したが、南アフリカとエジプトからの輸入量は増加した。EUの柑橘類の輸出货量に関しては、2021/22年度には前年度よりも6%少なかった。同様に、2022/23年度上半期のEUの柑橘類輸出货量は、供給と需要が減少し、ロシアのウクライナ侵攻後の貿易の流れの変化によって競争が激化したため、前年度の同時期に比べて3%減少した。EUの柑橘類の主な輸出先は、英国、スイス、ノルウェー、カナダである。

スペインは、EUの代表的な柑橘類生産国であり、他のEU加盟国への主要な柑橘類供給国でもある。スペインは、世界最大級の柑橘類の生産国及び輸出国の1つである。2021/22年度のスペインの柑橘類の輸出货量は370万トンで、主にオレンジ、マンダリン、レモンであった。スペインの柑橘類の主な輸出先は他のEU加盟国である。

<オレンジ>

表1 EUの生鮮オレンジ生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度 欧州連合(EU)	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2021年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2022年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	277,864	277,714	279,620	279,596	282,145	282,348
収穫面積(ヘクタール)	259,164	259,164	257,780	260,935	262,779	263,043
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	6,540	6,531	6,720	6,720	5,854	5,856
輸入量(千トン)	858	859	740	734	835	835
総供給量(千トン)	7,398	7,390	7,460	7,454	6,689	6,691
輸出量(千トン)	410	410	403	403	390	390
生鮮域内消費量(千トン)	5,992	5,954	5,947	6,009	5,640	5,470
加工仕向量(千トン)	996	1,026	1,110	1,042	659	831
総仕向量(千トン)	7,398	7,390	7,460	7,454	6,689	6,691

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2020/21年度及び2021/22年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM) その他は海外農業局EU各事務所

図1 EUのオレンジ生産量とオレンジ栽培面積 2012-2022



出典：海外農業局EU各事務所

生産

EUのオレンジ生産は地中海地域に集中している。スペインとイタリアは、EUのオレンジ総生産量のそれぞれ約55%と約25%を占めている。残りの20%は、ギリシャやポルトガルなどの他の加盟国によるものである。

2022/23年度のEUのオレンジの生産量は、約580万トンと予想され、前年度と比較して約13%減少し、前回の推計値と変わらない(図1参照)。生産量の減少は、スペインで予想される減少によって主に説明され、イタリアとポルトガルでもわずかに減少する。

スペイン政府の公式データによると、2022/23年度のオレンジ生産量は22.8%減の2,895万トンと予測される。スペインのオレンジは、開花から着果までの時期の気象条件の悪さによって柑橘類の中で最も深刻な影響を受けた。公式データによると、スペインの主要産地であるバレンシア州とアンダルシア州では、2022年春の開花から着果までの時期の過剰な降雨や肥大期の異常な高温、干ばつ、灌漑割り当て水量の制限といった極端に悪い天候条件にさらされ、予想される収穫量は過去5年間の平均に比べ約20%減少した。

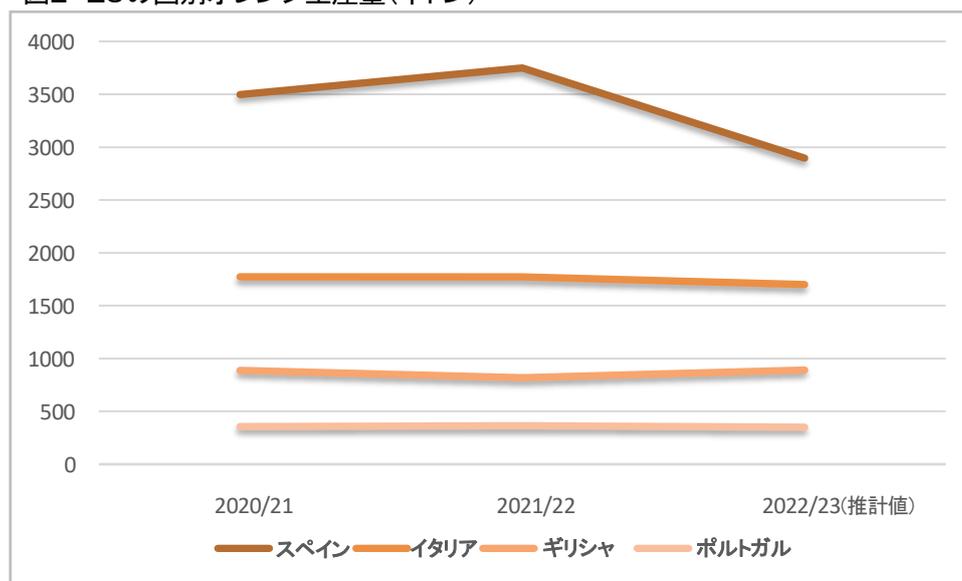
数年連続の経済の減速により、柑橘類生産者は次第にオレンジから収益性のより高い品目に切り替えているが、スペインではオレンジ栽培面積が2018年以降着実に回復して2022年には約14万3千ヘクタールに達しており、持続可能な栽培慣行、スペインのオレンジ園の生産性、及び効率的で高性能な品種の使用により、スペインはEUでトップのオレンジ生産国及び輸出国としての地位を維持している。

スペインのオレンジ生産の約90%を占めるバレンシア州とアンダルシア州が、主要なオレンジ産地である。スペインの生産者は、果実の入手可能性を高めるために早生品種と晩生品種の両方を栽培することにより、年間を通して市場に供給しようとしている。スペインで栽培されている主要なオレンジ品種は、ナベリーナ(Navelina)、ネーブル(Navel)、ナベラーテ(Navelate)、サルスティアーナ(Salustiana)、バレンシア(Valencia)及びサンギネッロ(Sanguinello)である。

イタリアは、スペインに次ぐヨーロッパ第2のオレンジ生産国である。シチリア島とカラブリア州がオレンジの主産地であり、それぞれ総生産量の約63%と約19%を占めている。タロッコ(Tarocco)、モロ(Moro)、サンギネッロ(Sanguinello)、ナベリーナ(Navelina)、バレンシア(Valencia)が主要品種である。さらに、栽培品種 IPPOLITO(イッポリト)と MELI(メリ)の人気が高まっている。

イタリアの2022/23年度のオレンジ生産量は、シチリア島の干ばつが主に果肉の黄色い品種と晩生品種に影響を与えたため、前回の推計値同様、前年度に比べて微減の170万トンと予想される。

図2 EUの国別オレンジ生産量(千トン)



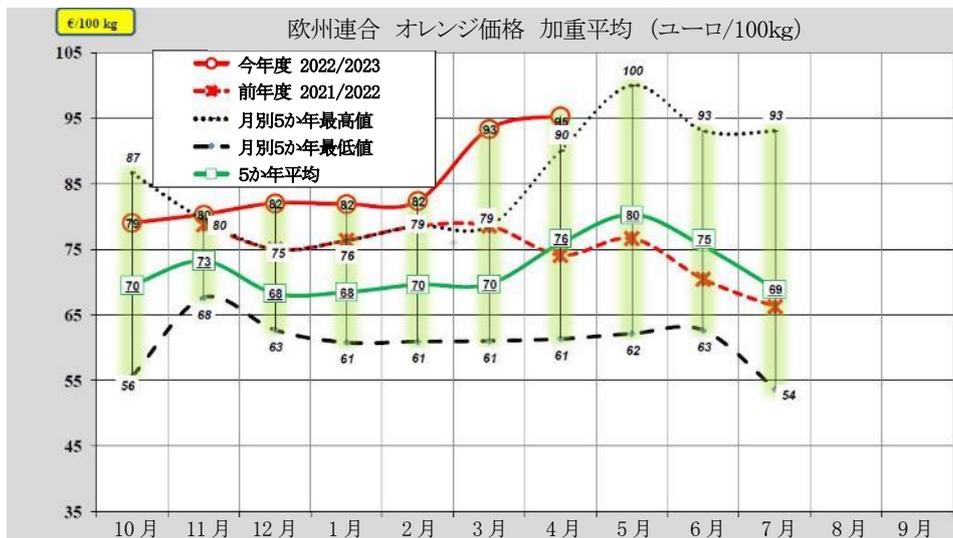
出典: 海外農業局EU各事務所

ギリシャの2022/23年度のオレンジ生産量は、ほとんどの品種で通常の着果が見られたことにより、前年度と比べて約9%増加すると予想される。ペロポネソス半島とエトロカルニア県(西ギリシャ地方)が主要なオレンジ産地である。ギリシャで栽培される主要品種は、ワシントンネーブル(Washington Navel)、コモンズ(Commons)、スカッグスボナンザ(Skaggs Bonanza)、ナベリーナ(Navelina)、ニューホール(New Hall)、レーンレート(Lanelate)、バレンシア(Valencia)である。バレンシア種の収穫は現在、在庫量が多いこととエネルギーコストが高いことから、前年に比べて遅れている。

これとは逆に、公式データによる2022/23年度のポルトガルの生産量は、悪天候と極端な干ばつにより、前シーズンと比較してわずかに減少すると予想される。しかしながら、ポルトガルは過去10年間に、より効率的で灌漑が整備された園地でのオレンジ生産を増やしてきた。ポルトガルのオレンジ生産量の75%は、南部のアルガルヴェ地方のものである。

EU柑橘類ダッシュボード(統計チャート集)によると、2022/23年度は、国内供給の減少に後押しされて、EUにおけるオレンジの平均価格が過去5年間の平均よりも高い状態で始まった(図3参照)。2023年4月には、EUにおけるオレンジの価格は95ユーロ/100kgで、過去5年間の平均に対し125%であった。全体として、EUのオレンジ生産者は価格を引き上げた。2023年4月のスペインのオレンジ価格は過去の平均の134%に当たる89ユーロ/100kgとなり、イタリアのオレンジ価格も127%に当たる132ユーロ/100kgとなった。

図3 EUのオレンジ価格(ユーロ/100kg) 2022/23年度



出典：欧州委員会 農業・農村開発総局 柑橘類ダッシュボード

消費

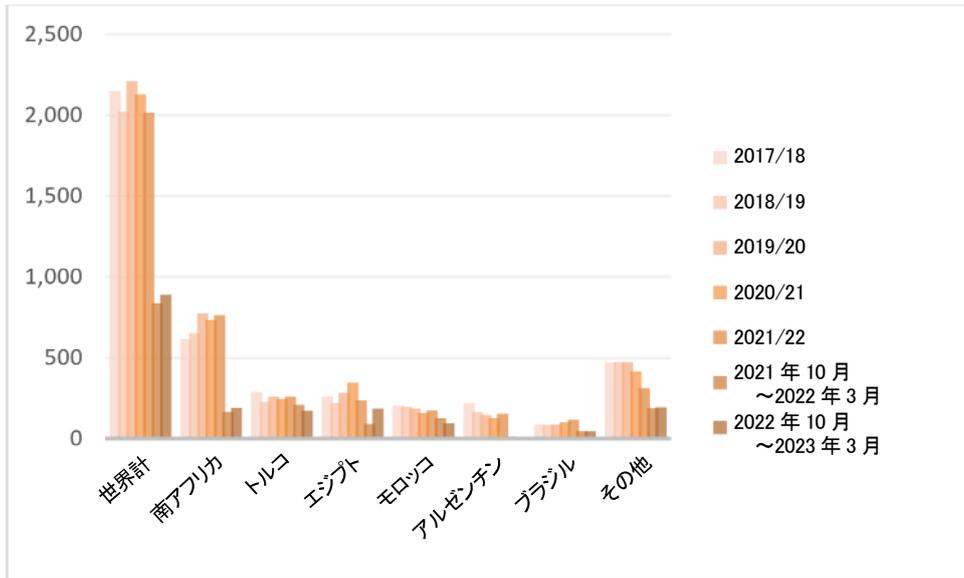
2022/23年度の生鮮オレンジの消費量は、EU域内の収穫量が少なく、オレンジ価格が高く、消費者が価格に敏感なため、前回の予測と同様に、前年度実績及び前回より前の推定値と比較して減少すると予想される。EUでは、EU産オレンジの約85%が生鮮果実として消費される。オレンジの農場売渡価格の上昇により、2022/23年度は加工用に仕向けられる果実が減少した。

貿易

2022/23年度にはEUのオレンジ生産量が大幅に減少したため、EUのオレンジ輸入量は前年度の水準と比較して増加すると予想される(図4参照)。EUへの主要なオレンジ供給国はスペインであることに留意することが重要である。EU域外の主な輸入先国は、南アフリカ(特にオフシーズン中)、エジプト、モロッコ、ジンバブエ、アルゼンチン等である。アルゼンチンは、2019/20年度にカンキツ黒星病(CBS)が検出されたためEU市場から締め出されたが、2021年5月1日以降は生鮮レモン及びオレンジを再びEUに輸出する資格がある。2022年7月14日以降、フォールスコドリグモス(*Thaumatotibia leucotreta*)の影響を受けている国からEUへのオレンジの輸入には、予冷及び輸送中の低温処理が必要となる。

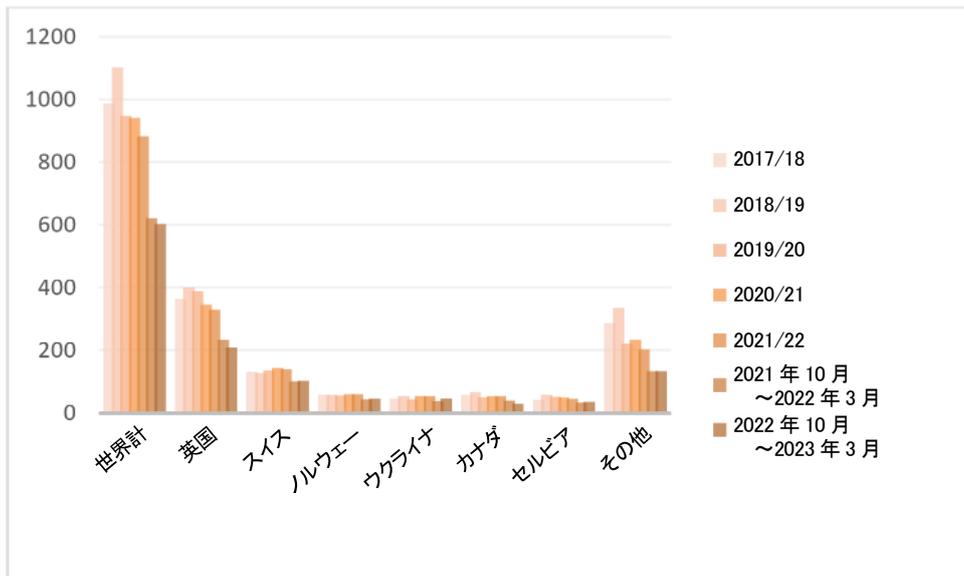
2022/23年度のEUのオレンジ輸出量は、オレンジ生産量の不足によりわずかに減少すると予想される。スペイン産を主体とするEU産オレンジの主な輸出先は、英国、スイス、カナダ、ノルウェー、セルビア、中東諸国等である(図5参照)。

図4 EUの輸入先別オレンジ輸入量 2017~2022 年度及び今年度前半(千トン)



出典: 海外農業局マドリッド事務所(Trade Data Monitor, LLC のデータに基づく)

図5 EUの輸出先別オレンジ輸出量 2017~2022 年度及び今年度前半(千トン)



出典: 海外農業局マドリッド事務所(Trade Data Monitor, LLC のデータに基づく)

<オレンジ果汁>

表2 EUのオレンジ果汁(ブリックス 65)生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度 欧州連合(EU)	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2021年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2022年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値
原料の加工仕向け量(トン)	1,029,000	1,026,000	1,116,000	1,042,000	709,000	831,000
期初在庫量(トン)	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
製造量(トン)	79,538	79,538	77,522	80,778	54,963	64,421
輸入量(トン)	637,366	637,409	569,057	566,664	570,000	560,000
総供給量(トン)	731,904	731,947	661,579	662,442	639,963	639,421
輸出量(トン)	132,127	132,086	111,765	111,860	82,000	90,000
域内消費量(トン)	584,777	584,861	534,814	535,582	542,963	534,421
期末在庫量(トン)	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000
総仕向け量(トン)	731,904	731,947	661,579	662,442	639,963	639,421

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2020/21年度及び2021/22年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM) その他は海外農業局EU各事務所

製造

2022/23年度のEUのオレンジ果汁製造量は、6万4,421トンと予測され、これは前回の予測を上回るものの、前年度を20%下回る。加工用に仕向けられるオレンジの量は、オレンジの全体的な生産量と、国内外の生鮮市場向け果実の品質とサイズによって変動する。EUのオレンジ加工産業は、EU産オレンジの需給バランスを安定させる上で重要な役割を果たしている。EUのオレンジ生産量の大幅な減少が予想されることと、生産者が生鮮オレンジの販売から得る価格が良いことを考えると、加工仕向量は減少すると予想される。

スペインはEUにおける主要なオレンジ加工国であり、イタリアがそれに続く。スペイン産オレンジの生産量の約20%が加工用に仕向けられ、主体である生鮮オレンジ果汁のほか、他の重要な柑橘類副産物の製造に使用される。さらに、スペインの大手柑橘類加工業者らは持続可能な対策を実施し、消費者の新しい需要に対応している。持続可能な包装の使用もEUの重要な傾向である。

消費

EUの2022/23年度のオレンジ果汁の消費量は、食品価格のインフレ率の高さ、価格に敏感な消費者、代替飲料や他の果汁飲料との競争の激化を考えると、昨年度と比較してわずかに減少すると予想される。EUのオレンジ果汁製造量は約53万5千トンで、国内のオレンジ果汁需要の約15%しか満たしていない。

貿易

EUは、主に域内需要を満たすためのオレンジ果汁の純輸入者である。EUのオレンジ果汁の輸入先は主としてブラジルであり、2021/22年度の同国からの輸入量は56万6,664トンでEUの総輸入量の90%を占めた。2022/23年度の上半期には、EUのオレンジ果汁の輸入量は7%減少した。2022/23年度にはEU域内のオレンジ消費量の減少が予想されるため、EUのオレンジ果汁輸入量は昨年度と比較してわずかに減少すると予想される。EUへの他の供給国は、メキシコ、南アフリカ、アルゼンチン、エジプト等である。2021年春に米国のオレンジ果汁に対するEUの関税が撤廃されたにもかかわらず、米国は2018年以前のEUへの輸出レベルを回復していない。

英国はEU産オレンジ果汁の突出して最大の輸出先である。2022/23年度には、EU産オレンジ果汁の輸出量は、EU域内のオレンジ生産量の減少に伴いわずかに減少すると予想される。

<タンジェリン/マンダリン>

表3 EUのタンジェリン/マンダリン生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮)	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月		2021年10月～翌年9月		2022年10月～翌年9月	
販売年度 欧州連合(EU)	農務省公式	今回推計値	農務省公式	農務省公式	今回推計値	農務省公式
栽培面積(ヘクタール)	152,102	152,102	149,975	150,197	150,758	149,476
収穫面積(ヘクタール)	140,575	140,575	136,652	137,950	138,576	137,546
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	3,243	3,245	3,155	3,158	3,013	3,035
輸入量(千トン)	423	423	432	430	410	410
総供給量(千トン)	3,666	3,668	3,587	3,588	3,423	3,445
輸出量(千トン)	350	350	322	322	300	300
生鮮域内消費量(千トン)		3,051	3,041	3,016	3,018	2,990
加工仕向量(千トン)	257	277	249	248	133	240
総仕向量(千トン)	3,658	3,668	3,587	3,588	3,423	3,445

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2020/21年度及び2021/22年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM) その他は海外農業局EU各事務所

<レモン/ライム>

表4 EUのレモン/ライム生産需給統計

レモン/ライム(生鮮)	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月		2021年10月～翌年9月		2022年10月～翌年9月	
販売年度 欧州連合(EU)	農務省公式	今回推計値	農務省公式	農務省公式	今回推計値	農務省公式
栽培面積(ヘクタール)	83,978	83,998	86,464	85,164	88,631	86,442
収穫面積(ヘクタール)	71,844	72,844	74,201	74,209	76,496	76,333
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	1,731	1,733	1,629	1,630	1,567	1,474
輸入量(千トン)	551	551	629	628	560	560
総供給量(千トン)	2,282	2,284	2,258	2,258	2,127	2,034
輸出量(千トン)	155	155	142	142	140	140
生鮮域内消費量(千トン)	1,734	1,837	1,741	1,829	1,731	1,642
加工仕向量(千トン)	393	292	375	287	256	252
総仕向量(千トン)	2,282	2,284	2,258	2,258	2,127	2,034

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2020/21年度及び2021/22年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM) その他は海外農業局EU各事務所

<グレープフルーツ>

表5 EUのグレープフルーツ生産需給統計

グレープフルーツ(生鮮)	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月		2021年10月～翌年9月		2022年10月～翌年9月	
販売年度 欧州連合(EU)	農務省公式	今回推計値	農務省公式	農務省公式	今回推計値	農務省公式
栽培面積(ヘクタール)	3,598	3,598	3,799	3,791	3,892	3,960
収穫面積(ヘクタール)	3,120	3,120	3,191	3,191	3,260	3,344
結果樹本数(千本)						
未結果樹本数(千本)						
合計果樹本数(千本)						
生産量(千トン)	106	106	111	106	109	99
輸入量(千トン)	295	295	223	223	215	215
総供給量(千トン)	401	401	334	329	324	314
輸出量(千トン)	26	26	17	17	15	15
生鮮域内消費量(千トン)	362	362	299	299	297	288
加工仕向量(千トン)	13	13	18	13	12	11
総仕向量(千トン)	401	401	334	329	324	314

これは米国農務省の公式データではない。

出典：2020/21年度及び2021/22年度の貿易量は Trade Data Monitor, LLC (TDM) その他は海外農業局EU各事務所

95. 世界のモモ・ネクタリン市場

FreshPlaza 2023年6月16日

世界の核果類(モモ、ネクタリン、フラットピーチ)市場は、一部の産地で天候が悪いものの、多くの国で順調なスタートを切っている。オランダでは、スペイン産核果類のシーズンは遅れて始まったが、モモ、ネクタリン、フラットピーチの供給は徐々に改善した。フラットピーチの販売量が近年急増しており、モモの需要に影響を与えている。ベルギーでは引き続き天候の問題があり、品質の良い核果類が入手しにくく、価格が上昇している。ドイツでは、スペイン産の核果類が市場を支配しており、イタリアからの輸入品がそれに続いている。イタリアの生産者は大幅な減収を予想しているが、スペインでは今年は収量が多い。フランスの流通業者は依然としてスペイン産の核果類を好んでおり、国内産のモモの取り扱いが遅れている。トルコではモモとネクタリンの出荷量が増加しており、輸出需要と国内消費のニーズを満たしている。南アフリカでは、豊富な降雨量の恩恵を受けて、モモとネクタリンの実り多い季節を期待している。中国の国内産のモモは、施設の近代化により安定した味と品質を確保している。北米では、依然として天候の問題によりモモとネクタリンの供給が制限されており、価格の上昇につながっている。スペイン産の輸入品が多く出回っており、競争力のある価格を提示している。(以下一部省略しました。)

オランダ：供給開始に遅れ フラットピーチが足場を固める

今年のスペイン産核果類のシーズンは、やや遅れて始まった。輸入業者らによると、スペインからのモモ、ネクタリン、フラットピーチの供給は先週末に順当なスタートを切り、現在ギリシャ産の供給がそれに追加されている。過去には供給過剰が時折見られたが、現在はそのようなことはなく価格は安定している。オランダの輸入業者らは、フラットピーチの売り上げが近年かなり増えており、その分モモが減っていると言う。プラテリーナ品種(フラットネクタリン)ではそのような伸びは見られず、ネクタリンはシェアを保持している。

ベルギー：天候の問題が引き続き影響

ベルギー市場ではスペイン産核果類の供給が回復しているが、国内産は依然として天候の問題がある。ある業者は、「先週は状況がわずかに改善したが、それでも高品質の核果類を入手するのは依然として難しい。水の供給確保に関する問題は引き続き深刻である。先週は雨が降ったが、集中的な降雨では水問題の解決にならない。雨水はすぐに流れ出てしまうが、それは求められていることではなく、地面に浸透する時間が必要だ。その結果、この時期としては依然として核果類の価格が高く、販売面で消費者の障壁となっているようだ」と述べた。

ドイツ：核果類に強い需要なし

連邦機関によると、スペイン産の核果類がドイツ市場を支配しており、イタリア産の核果類が重要性の点でそれに続いていた。若干のトルコ産とギリシャ産が補足的に輸入されていた。フランス産はケルン市の市場でのみ見られた。一般的に関心は特に高くなかったが、特段の問題もなく需要を満たすことができた。価格はおおむね下落傾向にあったが、一部で上昇もみられた。特に、取引先に人気のあるAAサイズは価格が上昇した。フラットピーチとプラテリーナは、その非常に魅力的な食味のおかげで十分な注目を集め、ベルリンでは良いペースで販売された。

フランス：国内産よりもスペイン産が好まれる

2023年6月1日現在、今年のモモとネクタリンの推定生産量は22万8,700トンと見込まれる。この水準は、昨年及び過去5回の収穫(2018~2022年)の平均に近い(+1%)。5月末には雹を伴う嵐がオクシタニー地域圏(フランス南西部)の盆地にある産地を襲った。それらの正確な影響はまだわかっていない。PACA地域圏(南東部)では、最近の降雨により収穫前の干ばつのリスクは限定的で、ルシヨン地域(PACA地域圏のうち)では、年初から観測されていた水不足が軽減された。収穫が早かった昨年と比べ、今年は少し遅く始まると見られる。生産量は、2022年の生産量及び過去5回の収穫の平均を超えると予想される。ローヌ地方(南東部)では、5月に強風と降雹があり、出荷量は前年比で減少した(-14%)。収穫の開始は2022年よりわずかに遅れると予想される。市場に関しては、需要は強いが、フランス産の入荷が早くても、流通業者らはスペイン産を好むため、フランス産のモモの取扱いは遅い。

イタリア：スペイン産の供給により価格が下落

イタリア北部のある業者は、モモとネクタリンの市場がわずか数日でどう変化したかを説明する。その業者は、第23週の終わり(6月上旬)までは価格が高く、カゴ入りのものでも1.60ユーロ/kgで、大玉では価格がもっと高かった(例えば2.30ユーロ/kg)と言う。その後、翌週の初めにイタリア南部とスペインの両方から市場に入荷する果実が増え始め、これによって価格が下落した。この業者は、販売量はあまり多くないが、いずれにせよスペイン産によって価格が決まる、それは量と価格競争力の点でスペイン産が重要なためだと言う。スペインの一部の地方では気温が非常に高く、多くの果実が同時に熟したため、出荷量が多い。

トルコ：出荷量が増加中

トルコのモモとネクタリンの総出荷量は、より多くの生産者がこの作物に目を向けているため増加している。トルコでは年平均80万トンのモモとネクタリンが生産されており、今シーズンの収量は平年並みのようである。詳細において最も重要なことは、生産者が中早生から晩生の品種の出荷において、計画的で適切な出荷戦略を実行しているため、果実は予定どおりに収穫され、供給が過剰になることなく、需要に即した輸出と国内の消費に対応していることである。トルコ産のモモとネクタリンの主な輸入国は、ロシア、ドイツ、ウクライナ及びブルーマニアである。包装と果実の品質の面で極東諸国に目を向ける輸出業者は多くないが、これらの国々ではトルコ産果実の需要が高まっている。

南アフリカ：良い季節が期待される

南アフリカのモモとネクタリンの大部分が栽培されている西ケープ州では、局地的な洪水が起こるほどの雨が降っている。ある核果類の生産者は、「現在は適度の雨と雪が降っている。これまでのところ、5月と6月はちょうど良い寒さで大変素晴らしかった。着果に非常に適しており、冬から来春の初めにかけてこのような寒さが続けば、モモとネクタリンは豊作になるだろう」と言う。

あるスーパーマーケットのバイヤーは、モモとネクタリンはスペインから輸入されており、学校に持参するランチ用のネクタリンの需要は常にあると述べている。最も早い輸入もののモモとネクタリンが入荷し、このバイヤーは、スペイン産の果実はブリックスが12以上あり、黄肉系と白肉系があって、「大変良い」ようだと言う。

南アフリカ産の最後の果実とスペイン産の最初の果実の間には約4か月の間が空き、この間南アフリカではモモやネクタリンがほとんど入手できない。モモとネクタリンの輸入は、8月中旬まで続く。

中国：暖かく乾燥した天候の恩恵

国内産のモモは山東省、河南省、山西省、河北省、安徽省で栽培されている。近年多くのモモ産地が近代化された。新型の選別機及び貯蔵施設は、中国産のモモの品質と貯蔵寿命を向上させている。今年のモモの味と品質は安定している。ある生産者は、今年は雨がやや少ないことが、果実の糖度に影響していると述べた。モモはとても甘く、卸売市場でよく売れている。廈門市(福建省)のある業者は、今年は寒さのために春の訪れが遅かったが、モモの成長にはほとんど影響しなかったと述べた。多くのモモの産地で少雨、高温及び十分な日照時間が見られた。こうした気象条件により収量が向上し、一部では出荷が早まった。中国はまた、チリとオーストラリアからモモを輸入している。チリはモモとスモモの主要供給国であり、昨シーズンの供給量は13万5千トンを超えた。

北米：供給は依然として少なめ

モモとネクタリンの供給は依然として逼迫している。通常であれば、ジョージア州や南北カロライナ州などからもっと多く入荷するはずであった。しかし、3月の低温が東部の多くの核果類生産州に影響を及ぼした。(サウスカロライナ州ではモモの収穫量は約10%で、価格は今年の2倍になっている。)

西海岸のカリフォルニア州では出荷の開始が遅く、寒い天候のため挽回に苦労している。ある出荷業者は、「果実は肥大してきているが、市場の需要に追い付かない」と言い、また、カナダ向けの果実はスペイン産で、昨年よりもその傾向が強いとして、「運賃が安いのでスペイン産でより競争力のある価格設定ができる」と言う。

供給不足のため引き合いは堅調なようで、現時点では価格は昨年よりも高くなっている。また、輸送費のために通常東部産よりもかなり価格が高いカリフォルニア州産が大部分を占めていることも価格に影響している。

96. モロッコの柑橘類事情(タンジェリン/マンダリン、オレンジほか)

米国農務省GAINレポート 2023年6月19日

これは米国農務省海外農業局のラバト事務所(モロッコ)が作成した「柑橘類半期報告書」を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

報告書の要点

海外農業局ラバト事務所は、モロッコの柑橘類業界から得た最新のデータに基づき、タンジェリン/マンダリンとオレンジの生産量の推計値を調整した。また、2022/23年度これまでの実績に基づき輸出量を改訂した。

生産データの更新

当事務所は、モロッコの柑橘類業界から得た最新のデータに基づき、タンジェリン/マンダリンとオレンジの生産量の推計値を調整した。改訂された数値は、タンジェリン/マンダリンが90万トンから92万7千トンに、オレンジが75万トンから78万3千トンにわずかに増加した。レモンとオレンジ果汁は、柑橘類年次報告書から変更がない。

貿易データの更新

当事務所は、モロッコの外国為替管理局から入手した最終データに基づいて、2022/23年度の生鮮タンジェリン/マンダリンとレモン/ライムの貿易量を調整した。今季これまでの貿易データに基づき、タンジェリン/マンダリンの輸出量は42万5千トンに、レモン/ライムの輸出量は7千トンに、ともに上方修正した。オレンジの輸出量には変更がない。

政策に関する更新

モロッコ柑橘類協会(Maroc citrus)は、2023年5月6日にメクネス市で開催された国際農業ショー(SIAM)の傍らで、モロッコ政府とプログラム合意契約を締結した。この契約は、生産性を高め、輸出市場を多様化し、モロッコの流通・マーケティングシステムを近代化し、柑橘類の輸出を2030年までに100万トンに増やすことを目的としている。合意書は、生鮮市場におけるタンジェリン/マンダリンの包装率を総生産量の少なくとも60%に増やし、オレンジの少なくとも10%を加工するという目標を設定した(現在は、タンジェリン/マンダリンの生産量の30%が包装され、オレンジの加工は総生産量の3%となっている)。

契約プログラムの下で計画された行動を実施するためのコストは、2021年から2030年の期間で約560万米ドルに上る。これには、モロッコ柑橘類協会の280万米ドルの資金とモロッコ政府の280万米ドルの資金が充てられる。

<タンジェリン/マンダリン(生鮮)>

品目コード HS-080520, 080521, 080522, 080529

表1 モロッコの輸出先別タンジェリン/マンダリン輸出量(トン)

輸出先	2019/20	2020/21	2021/22	2021/22 10月～3月	2022/23 10月～3月	増減率
EU27 各国	150,097	165,801	180,699	166,786	142,726	-14%
ロシア	124,247	149,464	182,346	173,081	94,038	-46%
米国	38,244	43,208	109,254	103,239	58,090	-44%
カナダ	53,824	54,160	69,033	67,540	56,908	-16%
サハラ以南のアフリカ	27,510	31,216	58,101	47,462	36,337	-23%
中東諸国	14,093	18,007	18,801	16,999	15,202	-11%
その他	2,937	3,798	6,742	6,582	4,649	-29%
合計	410,952	465,652	624,976	581,689	407,950	-30%

出典: モロッコ外国為替管理局

生産需給統計の更新

当事務所は、輸出量の増加と今後の供給可能性を踏まえ、2022/23年度のタンジェリン/マンダリンの国内消費量の推計値を50万2千トンに下方修正した。

表2 モロッコの生鮮タンジェリン/マンダリン生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮)	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年9月～翌年8月		2021年9月～翌年8月		2022年9月～翌年8月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
販売年度						
モロッコ						
栽培面積(ヘクタール)	65,515	65,515	65,750	65,750	59,150	59,150
収穫面積(ヘクタール)	58,850	58,850	58,900	58,900	50,000	50,000
結果樹本数(千本)	19,975	19,975	20,000	20,000	17,975	17,975
未結果樹本数(千本)	6,800	6,800	6,820	6,820	6,150	6,150
合計果樹本数(千本)	26,775	26,775	26,820	26,820	24,125	24,125
生産量(千トン)	1,205	1,205	1,360	1,360	900	927
輸入量(千トン)	0	0	0	0	0	0
総供給量(千トン)	1,205	1,205	1,360	1,360	900	927
輸出量(千トン)	466	466	625	625	325	425
生鮮国内消費量(千トン)	739	739	735	735	575	502
加工仕向量(千トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(千トン)	1,205	1,205	1,360	1,360	900	927

<オレンジ(生鮮)>

品目コード HS-080510

表3 モロッコの輸出先別オレンジ輸出量(トン)

輸出先	2019/20	2020/21	2021/22	2021/22 10月～3月	2022/23 10月～3月	増減率
EU27 各国	84,191	52,011	51,284	14,662	3,208	-78%
ロシア	9,909	9,609	20,307	16,638	6,026	-64%
米国	2,142	2,919	18,611	7,226	5,483	-24%
カナダ	6,968	10,972	17,783	10,471	7,794	-26%
サハラ以南のアフリカ	8,706	10,030	13,869	4,841	4,081	-16%
中東諸国	4,532	4,459	6,784	2,198	554	-75%
その他	736	1,546	1,721	932	523	-44%
合計	117,184	91,546	130,359	56,968	27,669	-51%

出典: モロッコ外国為替管理局

生産需給統計の更新

当事務所は、予想生産量の増加を踏まえ、2022/23年度のオレンジの国内消費量の推計値を66万3千トンに修正した。

表4 モロッコの生鮮オレンジ生産需給統計

オレンジ(生鮮)	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月		2021年10月～翌年9月		2022年10月～翌年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
販売年度						
モロッコ						
栽培面積(ヘクタール)	58,850	58,850	59,600	59,600	58,500	58,500
収穫面積(ヘクタール)	55,405	55,405	56,500	56,500	55,100	55,100
結果樹本数(千本)	17,150	17,150	17,200	17,200	17,125	17,125
未結果樹本数(千本)	1,615	1,615	1,635	1,635	1,600	1,600
合計果樹本数(千本)	18,765	18,765	18,835	18,835	18,725	18,725
生産量(千トン)	1,039	1,039	1,150	1,150	750	783
輸入量(千トン)	0	0	0	0	0	0
総供給量(千トン)	1,039	1,039	1,150	1,150	750	783
輸出量(千トン)	92	92	130	130	80	80
生鮮国内消費量(千トン)	897	897	965	965	630	663
加工仕向量(千トン)	50	50	55	55	40	40
総仕向量(千トン)	1,039	1,039	1,150	1,150	750	783

<オレンジ果汁(65ブリックス換算)>

品目コード HS-200911, 200912, 200919

変更なし

表5 モロッコのオレンジ果汁輸入量(トン)

品目名	2019/20	2020/21	2021/22	2021/22 10月～3月	2022/23 10月～3月	増減率
200919: 非冷凍、その他	1,054	1,304	1,607	738	1,065	44.31%
200912: 非冷凍、20ブリックス未満	5	9	8	6	4	-33.33%
200911: 冷凍	627	243	165	79	260	229.11%
合計(65ブリックス換算)	1,687	1,556	1,780	823	1,329	61.48%

出典: モロッコ外国為替管理局

表6 モロッコのオレンジ果汁輸出量(トン)

品目名	2019/20	2020/21	2021/22	2021/22 10月～3月	2022/23 10月～3月	増減率
200919: 非冷凍、その他	1,075	1,594	1,398	479	867	81%
200912: 非冷凍、20ブリックス未満	755	554	841	188	232	23.4%
200911: 冷凍	226	522	818	178	586	229.21%
合計(65ブリックス換算)	2,056	2,670	3,057	845	1,684	99.29%

出典: モロッコ外国為替管理局

表7 モロッコのオレンジ果汁生産需給統計(65ブリックス換算)

オレンジ果汁 販売年度 モロッコ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月		2021年10月～翌年9月		2022年10月～翌年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
原料果実加工仕向量(トン)	50,000	50,000	55,000	55,000	40,000	40,000
期首在庫(トン)	0	0	0	0	0	0
製造量(トン)	5,000	5,000	5,500	5,500	4,000	4,000
輸入量(トン)	1,556	1,556	1,780	1,780	2,000	2,000
総供給量(トン)	6,556	6,556	7,280	7,280	6,000	6,000
輸出量(トン)	2,670	2,670	3,057	3,057	2,500	2,500
国内消費量(トン)	3,886	3,886	4,223	4,223	3,500	3,500
期末在庫(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	6,556	6,556	7,280	7,280	6,000	6,000

<レモン/ライム(生鮮)>

品目コード HS-080550

表8 モロッコの輸出先別レモン/ライム輸出量(トン)

輸出先	2019/20	2020/21	2021/22	2021/22 10月～3月	2022/23 10月～3月	増減率
EU27 各国	2,434	891	1,164	467	920	97%
ロシア	6,477	4,242	2,091	2,043	1,615	-21%
カナダ	1,073	649	1,642	1,625	1,203	-26%
米国	2	26	0	0	0	0%
サハラ以南のアフリカ	6,855	2,727	2,536	1,507	1,760	17%
中東諸国	434	339	4	2	27	1,250%
その他	44	35	0	0	12	
合計	17,319	8,909	7,437	5,644	5,537	-2%

出典: モロッコ外国為替管理局

生産需給統計の更新

当事務所は、2022/23年度これまでの貿易データに基づきレモン/ライムの輸出量を調整するとともに、輸出量の増加を反映して国内消費量の推計値を2万8千トンに引き下げた。

表9 モロッコの生鮮レモン/ライム生産需給統計

レモン/ライム(生鮮) 販売年度 モロッコ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2021年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2022年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	3,995	3,995	4,000	4,000	2,900	3,900
収穫面積(ヘクタール)	3,100	3,100	3,110	3,110	3,000	3,000
結果樹本数(千本)	1,675	1,675	1,680	1,680	1,650	1,650
未結果樹本数(千本)	0	0	0	0	0	0
合計果樹本数(千本)	1,675	1,675	1,680	1,680	1,650	1,650
生産量(千トン)	44	44	45	45	35	35
輸入量(千トン)	0	0	0	0	0	0
総供給量(千トン)	44	44	45	45	35	35
輸出量(千トン)	9	9	7	7	5	7
生鮮域内消費量(千トン)	35	35	38	38	30	28
加工仕向量(千トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(千トン)	44	44	45	45	35	35

97. ペルーの柑橘類事情(マンダリン/タンジェリン)

米国農務省GAINレポート 2023年6月20日

これは米国農務省海外農業局のリマ事務所(ペルー)が作成した「柑橘類半期報告書」を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

報告書の要点

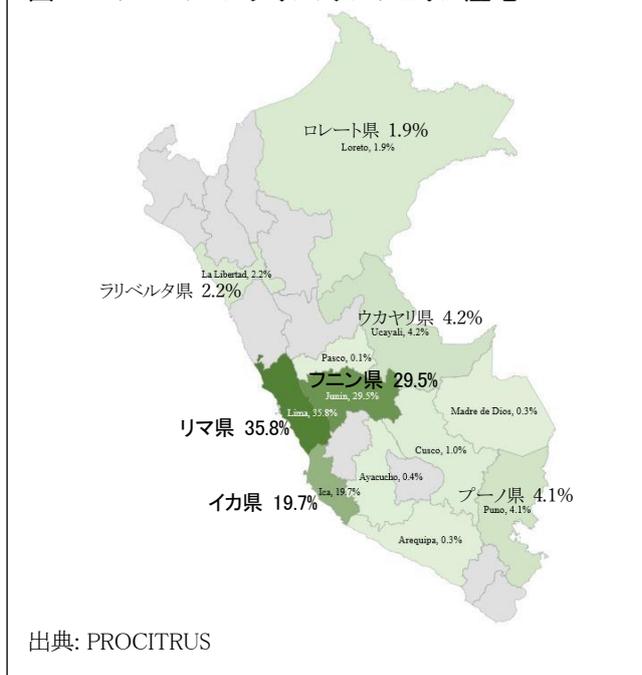
海外農業局リマ事務所は、2022/23販売年度(以下「年度」)(2023年3月～2024年2月)のペルーのマンダリン/タンジェリンの生産量を55万トン、輸出量を22万2千トンと予想する。異常に暖かい天候のために収穫期の開始が遅れたにもかかわらず、生産者らは年の後半に堅調な収穫を期待している。柑橘類の米国への輸出量は12万2千トンとわずかに減少すると予想されるが、米国は引き続きペルー産柑橘類のトップ市場であると見られる。

表1 ペルーの生鮮マンダリン/タンジェリン生産需給統計

マンダリン/タンジェリン(生鮮)	2020/21	2021/22	2022/23
ペルーの販売年度	2021年3月～翌年4月	2022年3月～翌年4月	2023年3月～翌年4月
栽培面積(ヘクタール)	23,000	23,000	22,000
収穫面積(ヘクタール)	22,000	23,000	22,000
結果樹本数(千本)	8,800	9,200	8,800
未結果樹本数(千本)	400	0	0
合計果樹本数(千本)	9,200	9,200	8,800
生産量(千トン)	540	570	550
輸入量(千トン)	0	0	0
総供給量(千トン)	540	570	550
輸出量(生鮮)(千トン)	215	220	222
生鮮国内消費量(千トン)	300	320	298
加工仕向量(千トン)	25	30	30
総仕向量(千トン)	540	570	550

注: ペルーと米国の販売年度の間には1年のずれがあり、たとえば、2023/24ペルー年度は2022/23米国年度に相当する。データの継続性を確保するために、現在の2023/24ペルー年度は、この報告書全体を通して2022/23米国年度としている。

図1 ペルーのマンダリン/タンジェリン産地



生産

当事務所は、ペルーの2022/23年度のマンダリン/タンジェリンの生産量は、前回の予測どおり前年度よりわずかに少ない55万トンにとどまると予想する。この減少は、収量の低い果樹の伐採、出荷の遅れ、早生品種の収穫量の減少、及び予想よりも暖かい秋の天候に帰することができる。ペルーのマンダリン/タンジェリンの栽培面積は2万2千ヘクタールと推定される。多くの課題にもかかわらず、ペルーの柑橘園は引き続き安定した生産を示している。

ペルーの主要なマンダリン/タンジェリン産地は、水が豊富な中部亜熱帯沿岸地域にある。リマ、フニン、イカの各県は合計で1万8,600ヘクタールを占め、ペルーのマンダリン/タンジェリンの全国生産量の85%を占めている。公式データによると、ウカヤリ、プーノ、ロレート、ラリベルタの各県でもマンダリン/タンジェリンが生産され

ている。タンジェリンの栽培面積は4千ヘクタールと推定され、マンダリンとその他の交配種が1万8千ヘクタールを占めている。

ペルーのアマゾン盆地と高地での生産は国内市場向けであり、リマ県とイカ県の低地における生産は輸出志向である。リマ県とイカ県での生産は、砂漠の立地(病虫害圧力の低さ、昼夜の気温格差の大きさ)と主要な港湾であるカヤオ港へのアクセスが近いことの両方の恩恵を受けている。

ペルーの輸出用マンダリン/タンジェリンの生産は、主に50ヘクタール以上の産業規模の農場で行われている。そこでは、生産を最大化するために正確な量の水と栄養を提供する最先端の点滴灌漑システムを使用している。これらの農場の収量は平均70~90トンである。品種は、生産性の高さと品質を基準に選択される。ペルーの主な品種は次のとおりである。

ウンシュウミカン(*Citrus unshiu*): クラウゼリーナ(Clausellina)、興津、尾張、プリモソーレ(Primosole)。

クレメンタイン(*Citrus reticulata*): クレメンタイン(Clementine)、クレメヌール(Clemenule)

交配種: フォルチューナ(Fortuna)、カラ(Kara)、ピクシー(Pixie)、ノヴァ(Nova)。

*Citrus reticulata*と *Citrus paradise* の交配によるタンジェリン品種: マーコット(Murcott)、オルタニーク(Ortanique)、タンゴ(Tango)。

その他: ダンシー(Dancy)、ナドルコット(Nadorcott)。マルバセオ(Malvaceo)とリオデオロ(Rio de Oro)もペルーで長い歴史を持つ人気のある品種である。

輸出市場では、マーコット、タンゴ、プリモソーレ、クレメンタイン、オリ(Ori)などの皮が剥き易い種無し品種が大部分である。ウンシュウミカン、プリモソーレ及びクレメンタインは早生品種と見なされ、マーコット、タンゴ、オリは出荷シーズンの後半に収穫される。現在、ほとんどのウンシュウミカンは国内市場向けであり、プリモソーレとクレメンタインは輸出されている。マーコット、タンゴ、オリは通常3~4週間遅く収穫され、今シーズンは均一な色とサイズが期待される。

図2 ペルー、イカ県沿岸部のタンゴ産地の様子



出典: 海外農業局リマ事務所

ラニーニャ現象により3年連続で気温が低かったが、その後気象パターンが変化しているようである。2023年3月には、ペルー沖では珍しい低気圧が発達し、ペルー北部と中央部で激しい雨が降り、洪水や土砂崩れが発生した。この出来事と同年4月と5月の平均を上回る海水温により、柑橘類の収穫期が遅れた。

ペルー国立気象水文局 (SENAMHI) は、2023年6月から8月までの平均降水量を予測した (図3)。平年を超える雨量 (緑色) は北部と中央部の沿岸部で予想される。白で示される地域は平均的な降雨量を表し、平均以下の降雨量は黄色で表されている。この予報によると、晩生品種の産地では雨の影響があると予想されていない。

マンダリン/タンジェリンは、機械的な損傷や混入を避けるために手作業で収穫される。その後、果実は梱包施設に運ばれ、サイズと色で選別され、冷蔵される。ペルーには、優れた産品を保証する近代的な梱包施設が何か所かある。

業界筋によると、マンダリン/タンジェリンの生産は、輸出の期待に応えるための生産量の課題に直面している。ペルーの生産量全体の約50%は、国際市場で要求されるサイズ、色、食味 (酸度及び糖度) の基準を達成している。

図4 国内のスーパーのマンダリン売り場



出典: 海外農業局リマ事務所

図3 2023年6月から8月の降水量予測



出典: SENAMHI 2023

消費

当事務所は、2022/23年度の生鮮マンダリン/タンジェリンの国内消費量を29万8千トンと予測する。

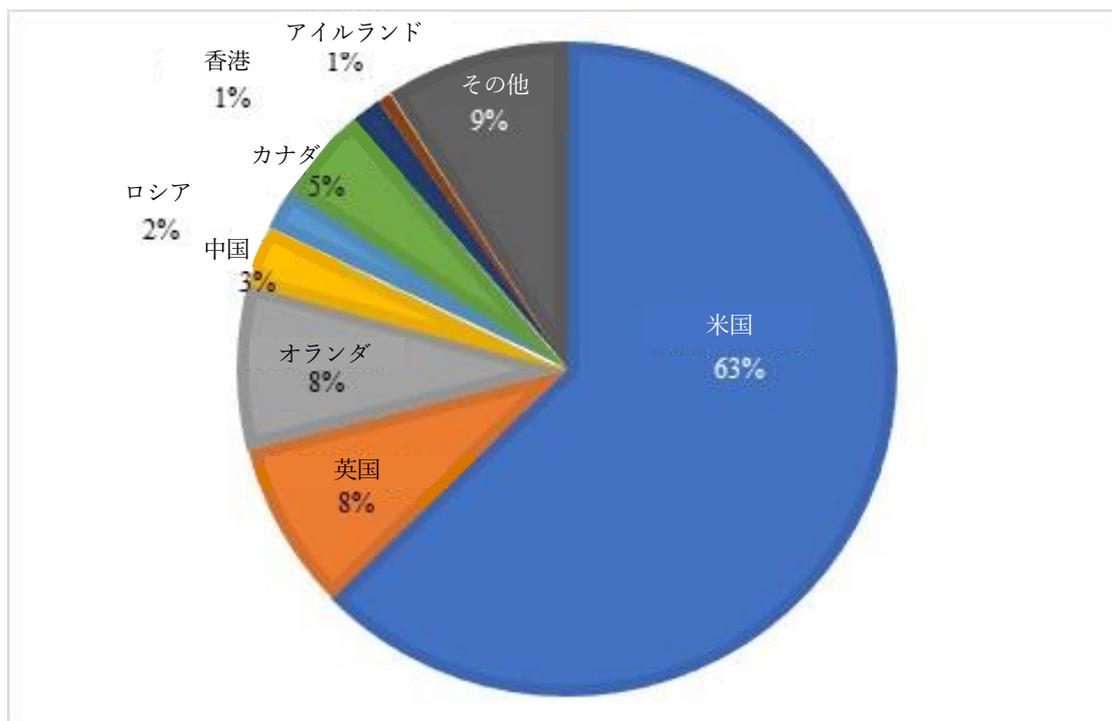
ペルーでは、マンダリンは弁当や食事の合間の軽食として人気がある。ペルーのマンダリン/タンジェリンの一人当たりの消費量は11kgと推定される。消費を後押しする革新的な方法として、マンダリンジュース、ジャム、精油、アルコール飲料などの人気スーパーマーケットやコンビニエンスストアで高まっている。近年国内で人気のある売り方は、カットしたマンダリンの果肉を果汁に入れた4オンス (約113グラム) 入り容器で、販売量は2017年の2千トンから2022年には1万4千トンに増加した。

貿易

当事務所は、ペルーの2022/23年度のマンダリン/タンジェリンの輸出量を1%増の22万2千トンと予想する。ペルーは2021/22年度に、生鮮マンダリン/タンジェリンを主として米国(63%)、英国(8%)、オランダ(8%)に輸出した。

2021/22年度の生鮮輸出量は前年の21万5千トンから2%増の22万トンとなった。2015/16年度にはペルーの輸出量は11万2千トンであり、それ以来一貫した成長を示し、輸出量をほぼ2倍に増やした。

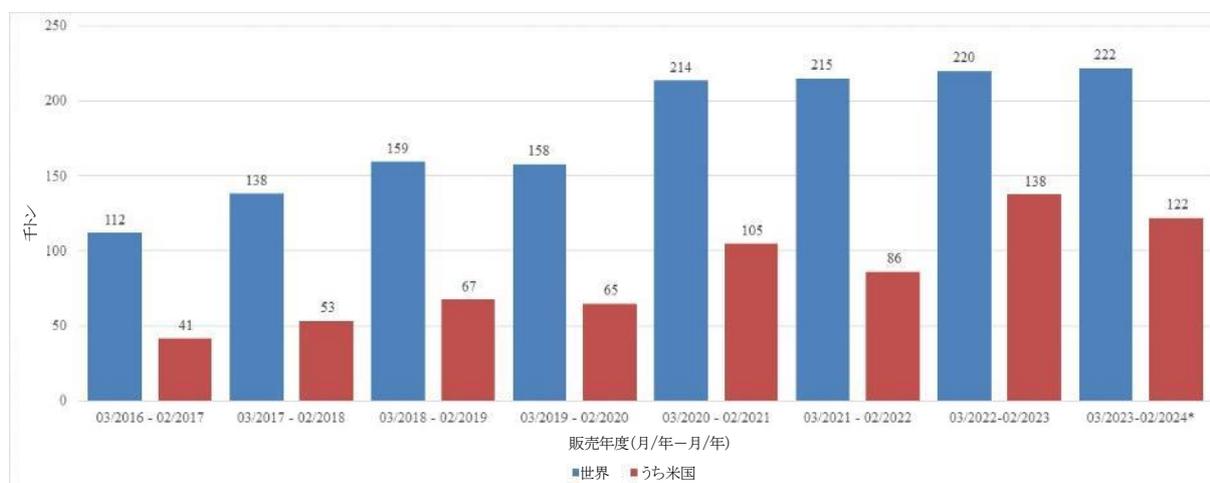
図5 2022/23年度のペルーのマンダリン/タンジェリンの輸出先(国別、数量シェア)



データの出典: Trade Data Monitor

米国への輸出は過去6年間で大幅に増加した。過去3シーズンは、コロナ禍が柑橘類の需要にプラスの効果をもたらしたため、輸出はかなり増加した。ただし、今年は需要が安定すると予想される。

図6 ペルーのマンダリン/タンジェリン輸出量(千トン)



データの出典: Trade Data Monitor

2022/23年度は、収穫が遅れているものの、品質の高さと出荷量の多さから、柑橘類の世界への総輸出はわずかに増加すると予測される。通常、交配種(ハイブリッド)が総輸出量の77%を占める。クレメンタインの輸出は横ばいと見られるが、マンダリンは増加が見込まれる。

図7 ペルー産マンダリン/タンジェリンの品目コード別世界への輸出量(千トン)



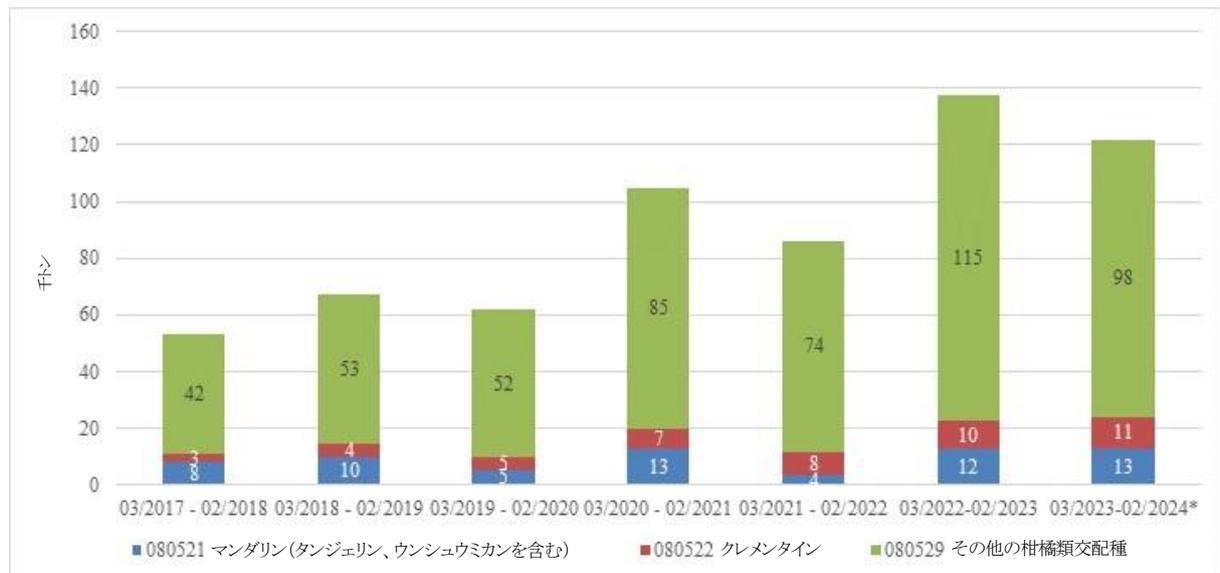
データの出典: Trade Data Monitor

2021/22年度の「その他の柑橘類交配種」の価格は、米国向けが平均1,101米ドル/トン、英国向けが901米ドル/トン、オランダ向けが880米ドル/トンであった。平均輸出価格は、2020/21年度の1,063米ドル/トン、2019/20年度の1,161米ドル/トンに対し、2021/22年度は1,059米ドル/トンであった。

市場動向

生鮮マンダリン/タンジェリンは通常、10kgまたは15kg入りの段ボール箱に詰められる。当事務所は、ペルーの2022/23年度の米国向けマンダリン/タンジェリン輸出量は、12万2千トンに減少すると予測する。米国のペルー産マンダリン/タンジェリンの輸入量は、2020/21年度の8万6千トンから昨シーズン2021/22年度には13万8千トンに急激に増加した。

図8 ペルー産マンダリン/タンジェリンの品目コード別米国への輸出量(千トン)



データの出典: Trade Data Monitor

政策

ペルー産マンダリン/タンジェリンの輸出は、2009年2月1日に発効した米国ペルー自由貿易協定(PTPA)の恩恵を受けている。この合意により、ペルー産マンダリン/タンジェリンは無税で米国に輸入される。

ペルーの農業衛生局(SENASA)は、輸出用生鮮果実の監視と管理において主導的な役割を果たしている。SENASAは収穫シーズンごとに、登録された果樹園と処理施設のリストを更新する。公式データによると、SENASAは2022/23年度には379のマンダリン/タンジェリン果樹園を登録した。また、昨シーズンより1つ少ない30の梱包・処理施設が登録された。

登録果樹園: <https://servicios.senasa.gob.pe/siimf/produccionMandarina.html>

登録梱包・処理施設: <https://servicios.senasa.gob.pe/siimf/empacadoraMandarina.html>

ペルー柑橘類生産者協会(PROCITRUS)は、柑橘類の業界団体であり、柑橘類輸出産業の80%を占めている。1998年に設立された同協会は、研究、開発及び官民の調整に向けた業界の取り組みをリードしている。

マンダリン/タンジェリンの規格は、柑橘類業界の品質要件と基準の統一を促進する2014年の技術基準(NTP011.023)に準拠している。すべての出荷される柑橘類に外観と色の基準が求められる。果汁含有量は、マンダリンでは33%、タンジェリンでは45%である。マンダリンの最小サイズは直径45mm、タンジェリンは54mmである。次の表に最低成熟要件を示す。

表2 ペルーの柑橘類の最低成熟度要件

品目	品種	ブリックス (最低)	酸度				最低成熟指数
			最低		最高		
			国内用	輸出用	国内用	輸出用	
マンダリン 及び 交配種	ウンシュウミカン (Satsuma)	7.50	0.50	0.75	1.50	1.50	6.50
	クレメンタイン (Clementine)	9.00	0.50	0.75	1.50	1.50	7.50
	マンルバシオ (Malvasio)	9.00	0.50	0.75	1.50	1.50	8.00
	ダンシー (Dancy)	8.00	0.50	0.75	1.50	1.50	7.00
	ノヴァ (Nova)	8.00	0.50	0.75	1.50	1.50	8.00
	フォルチューナ (Fortuna)	10.00	0.50	0.75	1.50	2.00	6.00
	マーコット (Murcott)	10.00	0.50	0.75	1.50	1.50	8.50
	その他(ピクシー (Pixie)、ダブルマーコ ット(W Murcott)、カラ (Kara)、オルタニーク (Ortanique))	8.00	0.50	0.75	1.50	1.80	7.00
タンジェリン	ミネオーラ(Minneola)、 オーランド(Orlando)、 その他	8.00	0.50	0.75	1.50	1.80	6.00

出典: 2014年ペルー技術基準(NTP011.023)

98. トルコの柑橘類事情(オレンジ、タンジェリン/マンダリン、オレンジ果汁)

米国農務省GAINレポート 2023年6月20日

これは米国農務省海外農業局のアンカラ事務所(トルコ)が作成した「柑橘類半期報告書」のオレンジ、タンジェリン/マンダリン、オレンジ果汁の項(他の品目は生産需給統計のみ)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

報告書の要点

2022/23年度の柑橘類の生産量は、2022年3月のオレンジの開花期の初めに-7℃に達した極寒の気象条件により、タンジェリンを除くすべての柑橘類で減少した。2022/23年度の柑橘類の輸出量は、海外需要の減少、ロシア・ウクライナ戦争による政情不安、輸送と物流の問題により、前年比でわずかに減少した。

特に、柑橘類の輸出業者は、2023年3月のトルコ南東部の地震によって道路が閉鎖され、冷蔵施設が人道支援に優先使用されたため、深刻な影響を受けた。地震の被災地域はトルコの柑橘類生産の57.5%を占めており、そのうち被害の大きかったハタイ県は生産量の20.8%を占め、レモンは特に影響を受けた。トルコの主要な輸出市場は、ロシア、ウクライナ、イラク、ポーランド、ルーマニアである。

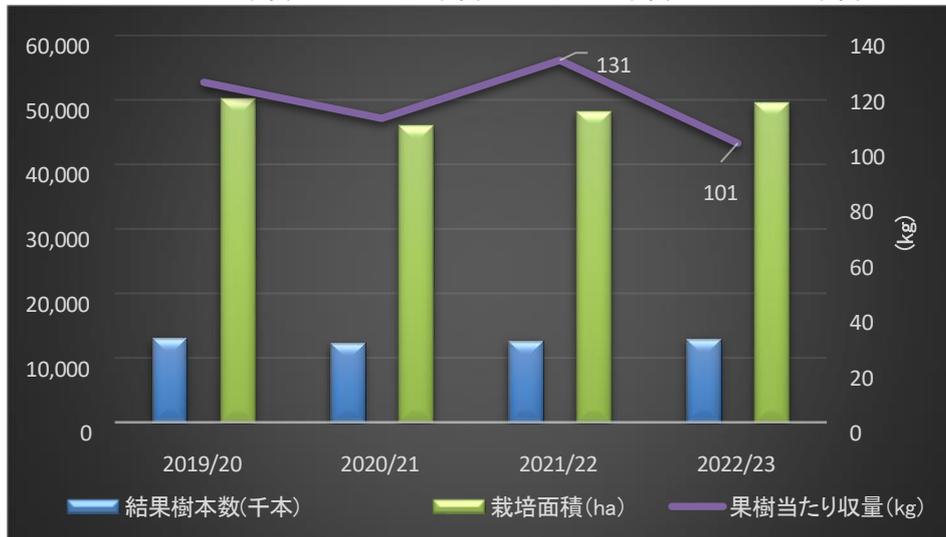
<オレンジ(生鮮)>

生産

2022/23年度のオレンジの生産量予測は、2022年3月のオレンジの開花期に-7℃に達した極寒の気象条件のため、わずかに下方修正して132万トンとする。着果果樹本数のわずかな増加にもかかわらず、この寒波は果実の成熟プロセスに影響を与えた(図2)。トルコは2021/22年度に、同国のオレンジ生産量の80~85%を占める地中海地域で雨の多い良好な天候条件に恵まれたことから175万トンのオレンジを生産し、これは2020/21年度(130万トン)に比べて35%多かった。

2022/23年度の収量の減少は、オレンジ総生産量の70%を占めるワシントン(Washington)品種の28%の減収に現れた。2番目に影響を受けた品種はヤファ(Yapha)で22%減収し、他の品種は平均15%減収した。

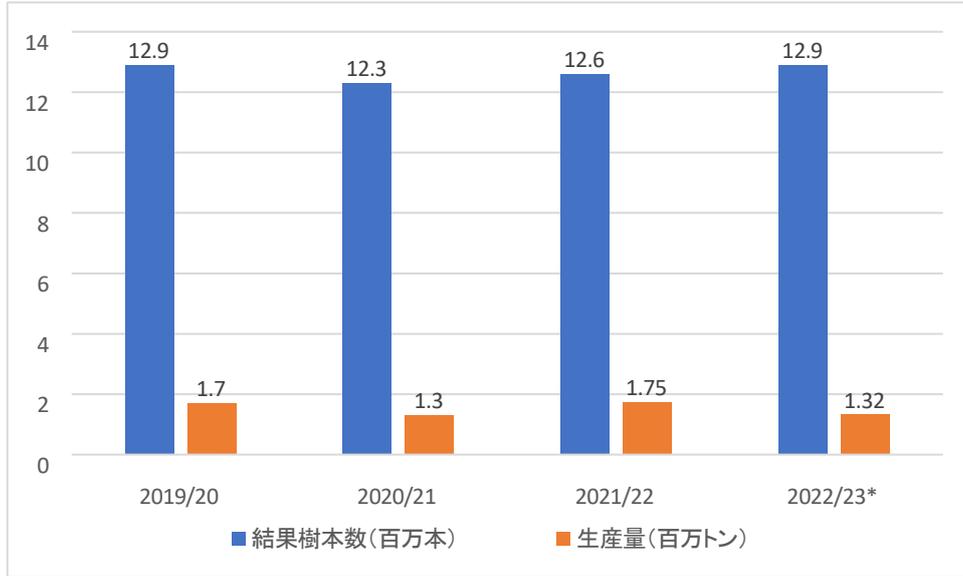
図1 オレンジ果樹園面積(ha)、結果樹本数及び果樹当たり収量(kg)
2019/20年度-2020/21年度-2021/22年度-2022/23年度



出典: トルコ統計局 2023年

他のトルコの生産者と同様に、柑橘類の生産者は、燃料、電気、肥料、農薬等投入コストの上昇に対処している。生産者は、肥料とディーゼル燃料の価格の上昇によって特に大きな打撃を受けている。ディーゼル燃料と肥料に対する政府の補助金は2022年にそれぞれ264%及び162%増加したが、実際には肥料の価格は前年比で400%上昇し、ディーゼル燃料の価格は前年比250%上昇している。その結果、生産者の全体的なコストは、2022年に204%上昇した。

図2 トルコのオレンジ生産量(百万トン)と結果樹本数(百万本)
2019/20年度-2020/21年度-2021/22年度-2022/23年度の比較



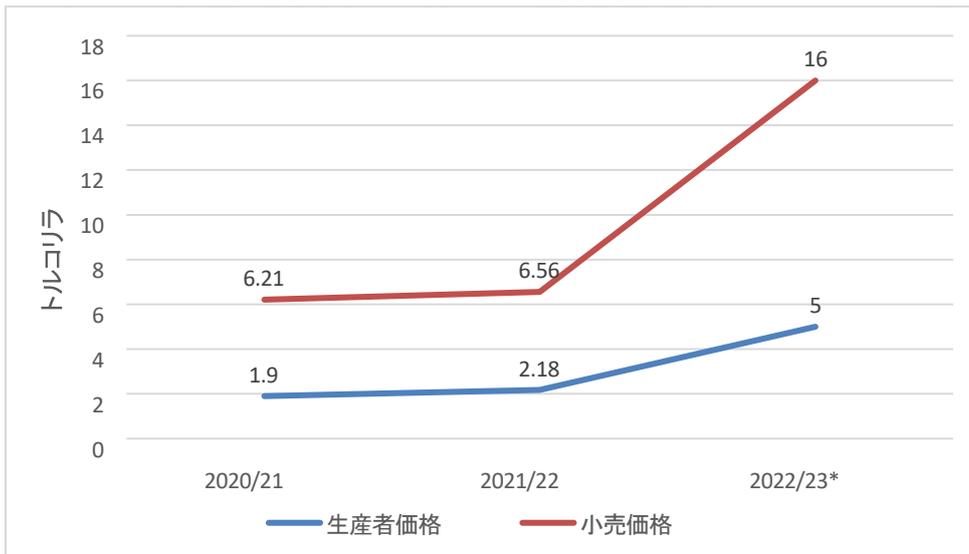
出典: トルコ統計局 2023年 *は当事務所の推計値

消費

2022/23年度のオレンジ消費量は、生産量の減少と減収による市場価格の上昇のため、106万トンに減少すると予想される。2021/22年度のオレンジ消費量は130万トン、2020/21年度の消費量は102万トンであった。

2022年のオレンジの平均小売価格は、前年と比較して141.7%上昇した。さらに、生産物が小売店の棚に並ぶためには中間業者と輸送のコストが加算されるため、小売価格は農場の販売価格の約3倍となる。他の柑橘類も、同じ理由で、国内サプライチェーンの中で農場販売価格と小売価格の間には大きな差がある。

図3 オレンジ生産者価格指数(PPI)対オレンジ消費者物価指数(CPI) 2019-21年比較



出典: トルコ統計局 2023年 (2023年6月8日現在、1米ドルは23.5トルコリラに相当)

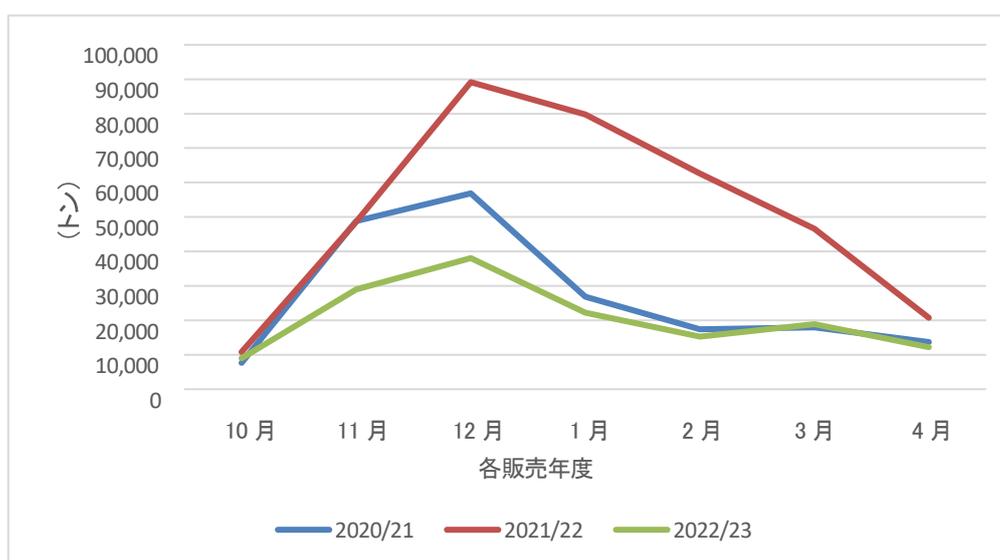
(訳注: グラフの表題は原文のまま)

貿易 輸出

2022/23年度のオレンジ輸出量は、米国農務省の公式予測である29万1千トンより36%少ない18万5千トンに減少すると予想される。この減少は、栽培面積と結果樹本数の増加にもかかわらず、収量の低下により生産量が減少したためである。トルコは2021/22年に38万9千トンのオレンジを輸出し、これは2020/21年度の22万608トンより76%多かった。2021/22年度には、ロシア当局の最大残留基準値(MRL)に関わる懸念の結果として輸出業者が中東諸国を優先したため、イラクとシリアへの輸出が増加した。その間に、ロシアとウクライナへの柑橘類の出荷は、ウクライナでの戦争のために困難になった。

現在の販売年度(2022/23年度)の最初の7か月間(10月～4月)のオレンジ輸出量は、前年同期と比較して60%減少した。

図4 トルコのオレンジ輸出量
2020/21年度、2021/22年度及び2022/23年度の月別比較



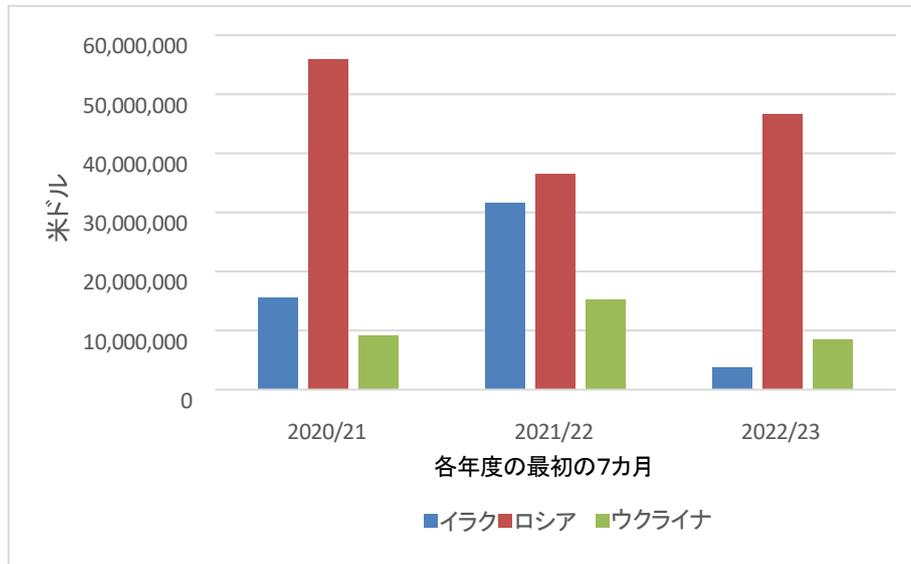
出典: Trade Data Monitor, LLC

主要な輸出先は、ロシア、イラク、ウクライナである。2022/23年度は年度当初から、トルコの出荷業者がより収益性の高い輸出価格を示すロシア市場に供給するようにシフトしているため、イラクへのオレンジ輸出の大幅な減少が見られる。さらに、イラクの生産者は、国内生産を支援するために果実や野菜の輸入への支援を減らすようイラクの金融機関に影響を与える協調した働きかけを行っている。

イラクは従来からトルコ産オレンジの最大の輸出先であるにもかかわらず、この6か月間にイラク向けの出荷量は87%、ウクライナへの出荷量は60%減少した。トルコの生産量の70%が地中海地域のものであるため、2023年3月の地震は柑橘類の輸出にも影響を及ぼした。この期間(10～4月)のロシア向け輸出量は、供給量の減少により前年比3%減となった。

EU加盟国は残留農薬の問題に対処するため、2022年1月からトルコ産オレンジに対して適合証明書を求めるようになった。適合証明書を取得するためには、輸出前にトルコの認可された試験機関で特定の残留物の検査を受ける必要がある。この新しい要件により、輸出業務に追加の費用がかかるようになった。トルコ産オレンジのEUへの輸出は、今や書類審査及び物理的な検査が20～30%増えている。

図5 3つの主要市場へのトルコのオレンジ輸出額(米ドル)
2020/21年度、2021/22年度、2022/23年度の最初の7か月の比較



出典: Trade Data Monitor, LLC

輸入

2022/23年度のオレンジの輸入量は、2021/22年度及び2020/21年度と同じ4万3千トンの横ばいと予想される。ほとんどすべての輸入オレンジは、北キプロス・トルコ共和国 (TRNC) から来ている。トルコのオレンジ輸入は国内生産量にも依存するが、TRNCからの輸入は、トルコが経済的及び政治的にTRNCを支援する1つの手段にもなっている。(TRNCは、トルコのみが国家承認している北キプロスのトルコ系住民の多い地域)

表1 トルコの生鮮オレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度 トルコ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2021年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2022年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	46,012	46,012	48,176	48,176	48,000	49,535
収穫面積(ヘクタール)	46,000	46,000	48,176	48,176	47,000	50,000
結果樹本数(千本)	12,306	12,306	12,620	12,620	12,000	12,966
未結果樹本数(千本)	1,052	1,052	1,210	1,210	1,300	1,786
果樹本数合計(千本)	13,358	13,358	13,830	13,830	13,300	14,752
生産量(千トン)	1,300	1,300	1,750	1,750	1,400	1,320
輸入量(千トン)	46	46	45	45	45	43
総供給量(千トン)	1,346	1,346	1,795	1,795	1,445	1,363
輸出量(千トン)	223	223	389	389	291	185
生鮮国内消費量(千トン)	1,018	1,018	1,296	1,296	1,044	1,068
加工仕向量(千トン)	105	105	110	110	110	110
総仕向量(千トン)	1,346	1,346	1,795	1,795	1,445	1,363

<タンジェリン/マンダリン(生鮮)>

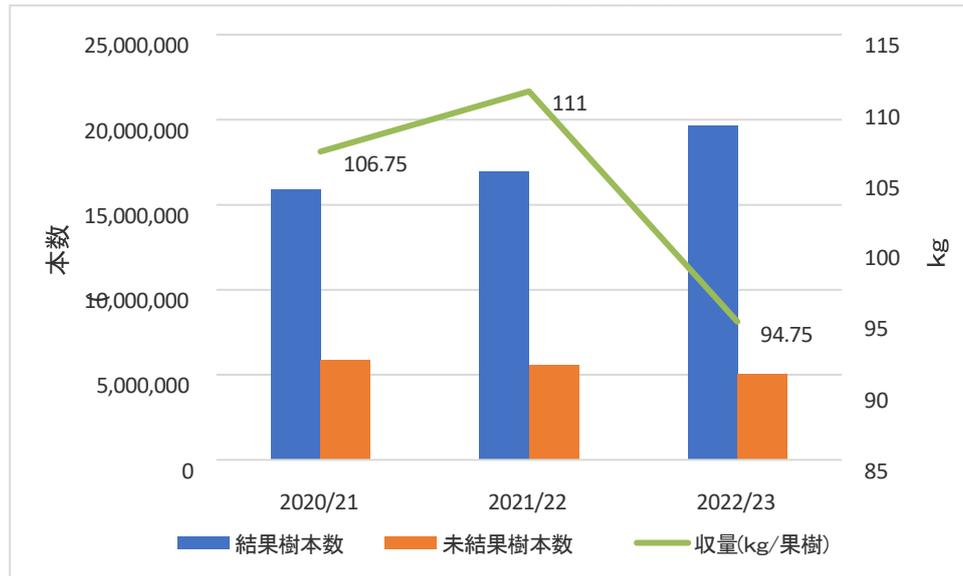
生産

2022/23年度のマンダリン生産量は、前年度と変わらず186万トンと予測される。マンダリンは2022年3月の開花中の極寒の天候条件の影響が少ないため、この予測は米国農務省の当初の公式推定値よりも38万トン多い。また、エーゲ海地域の収量は非常に良好で、中でも最も広く栽培され、国内消費と輸出の両方にとって重要なウンシュウミカンは特に良好であった。

2021/22年度のマンダリン生産量は、地中海地域の良好な気象条件に恵まれ181万トンであった。2020/21年度の実績は160万トンであった。トルコのタンジェリンの大部分は地中海沿岸のハタイ県で生産されており、ここは2023年2月の地震が特に壊滅的な被害をもたらした地域である。

2022/23年度には果樹当たりの収量が減少したが、特にエーゲ海地域で結果樹本数が増加し、総生産量を補った。一方、最大の減収は、地中海地域で栽培されているクレメンタインとキング品種で見られた。また晩生及び早生のタンジェリン品種の果樹園面積も拡大しており、厳しい輸出市場への季節的な供給量が増加している。

図6 トルコのタンジェリンの結果樹、未結果樹本数と果樹当たり収量
2020/21-22-23年度の比較



出典: トルコ統計局 2023年

タンジェリン生産者はまた、燃料、電気、肥料、農薬等投入コストの上昇に苦しんでいる。国内の複数の農業会議所によると、タンジェリンの生産コストはすべての果実の中で2番目に高く、生産者価格は2022年に528.4%上昇した。(原文のまま)

消費

2022/23年度のマンダリン消費量は、米国農務省の公式数値から92万5千トンに上方修正した。この増加は、十分な国内生産量と予想外の輸出減少によるものである。2021/22年度には、栽培面積と結果樹本数の増加、及び一人当たり消費量の増加(9.29kg/人)により、トルコのタンジェリンの国内消費量は86万8千トンであった。2020/21年度には、トルコのタンジェリンの国内消費量は一人当たり7.7kgに相当する74万トンであった。

マンダリンの小売価格は、農場価格よりも約200%高い。この価格差は、特に近年利幅が縮小しているため、多くの生産者にとっての懸念事項である。オレンジと同様に、農場価格と小売価格の間のかかなりの価格差は、農場から都市へのサプライチェーンにおける中間業者と輸送のコストの高さに起因している。

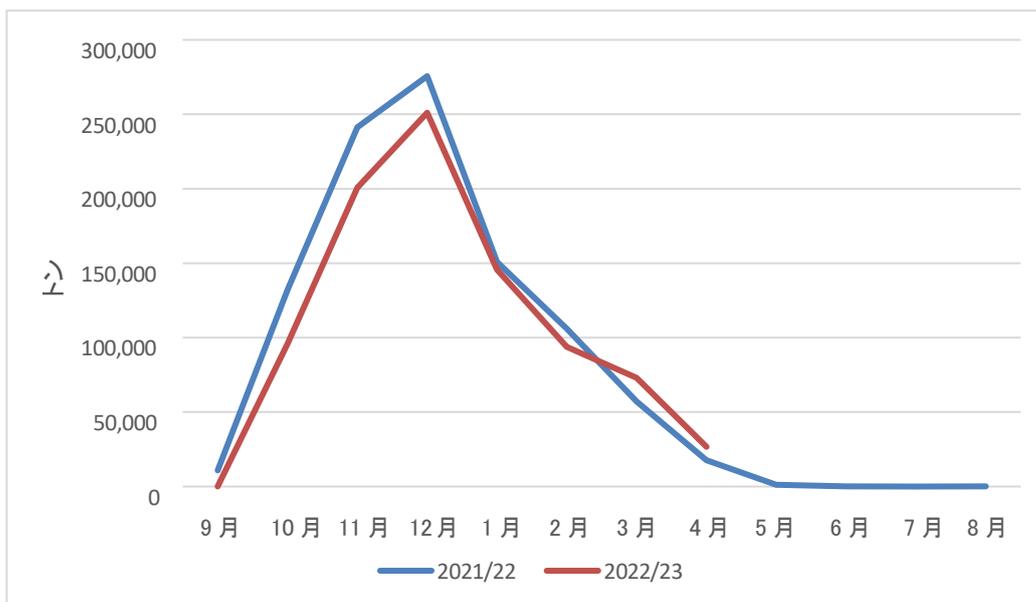
貿易

輸出

2022/23年度のタンジェリンの予測輸出量は99万トンで、イラク政府が国内生産を支援するために果実や野菜の輸入を遅らせることを決定した結果、イラクへの輸出が予想外に減少したため、前年度と同じである。ロシアは依然としてトルコのタンジェリンの最大の輸出市場である。

タンジェリンは、トルコで生産される最も輸出量の多い柑橘類である。トルコの輸出業者らによると、トルコのタンジェリンは皮をむきやすいため、需要が高いとのことである。さらに、タンジェリンの輸出の増加は、トルコの柑橘類の出荷シーズンの拡大にも貢献している。トルコの輸出業者らは、包装と果実の品質により柑橘類の輸出市場でうまく競争できると考えている。

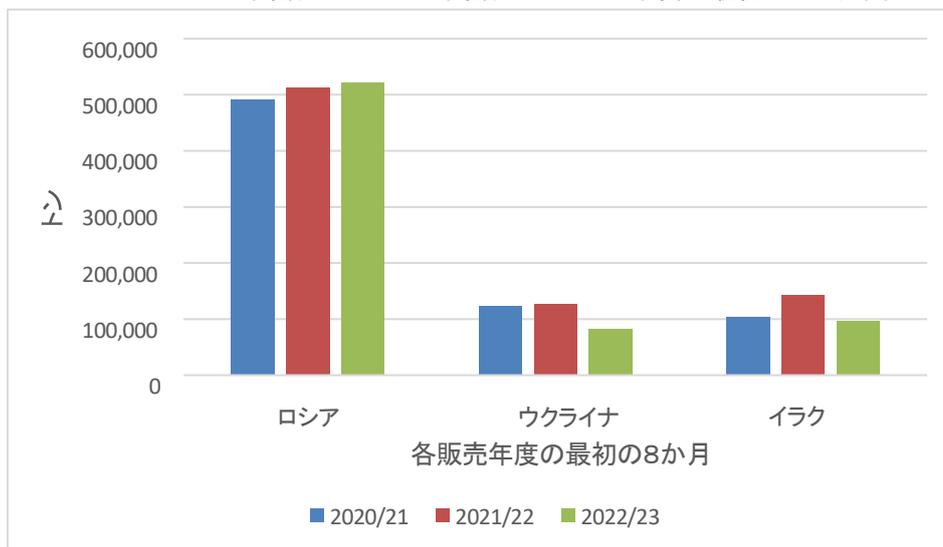
図7 トルコのタンジェリン輸出 2021/22年度と2022/23年度の月次比較



出典: Trade Data Monitor, LLC

2021/22年度のタンジェリン輸出量は99万3,319トンであった。高品質な果実の生産量の増加と高い輸出需要により、2021/22年度にはタンジェリンの総生産量の半分以上が輸出された。トルコは、2021/22年度に4億7,600万ドルのタンジェリンを輸出し、世界で最大級のタンジェリン輸出国の1つと見なされている。トルコ産タンジェリンの需要が最も高いのはロシアとウクライナである。2021/22年度のタンジェリンの総輸出量の65%がロシア向けで、輸出額は3億200万ドルであった。2020/21年度には、トルコは89万8,322トンのタンジェリンを輸出し、その大部分をロシア、ウクライナ及びイラクに輸出した。

図8 トルコの主要タンジェリン輸出市場の比較
2020/21年度、2021/22年度、2022/23年度の最初の8か月間



出典: Trade Data Monitor, LLC

ウンシュウミカン(サツマ)は輸出されるタンジェリンの中で最も人気のある品種であり、総輸出額の約半分を占めている。さらに、トルコ西海岸に位置するイズミル県産の種なしタンジェリン品種は、輸出用として次第に人気が高まっていると報告されている。オレンジと同様に、EU諸国へのタンジェリンの輸出には適合証明書の取得が必要である。さらに、2022年1月の時点で、英国へのトルコのタンジェリンの輸出は、到着時の農薬検査が強化されており、貨物の検査率は50%となっている。

輸入

2022/23年度のトルコのタンジェリンの輸出量は合計5万5,700トンと予想されており、これは2021/22年度をわずかに上回っている。2021/22年度には、トルコは主にTRNC*から5万2,106トンを入力した。タンジェリンの輸入の98%はTRNCからのものである。(*: オレンジの輸入の項参照)

表2 トルコのタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮) 販売年度 トルコ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年9月～翌年8月 農務省公式	今回推計値	2021年9月～翌年8月 農務省公式	今回推計値	2022年9月～翌年8月 農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	59,832	59,832	60,719	60,719	60,000	67,853
収穫面積(ヘクタール)	58,000	58,000	60,719	60,719	60,000	67,853
結果樹本数(千本)	15,926	15,926	16,987	16,987	15,000	19,620
未結果樹本数(千本)	5,842	5,842	5,571	5,571	6,000	5,053
果樹本数合計(千本)	21,768	21,768	22,558	22,558	21,000	24,673
生産量(千トン)	1,600	1,600	1,810	1,810	1,480	1,860
輸入量(千トン)	39	39	53	53	50	56
総供給量(千トン)	1,639	1,639	1,863	1,863	1,530	1,916
輸出量(千トン)	898	898	994	994	990	990
生鮮国内消費量(千トン)	740	740	868	868	539	925
加工仕向量(千トン)	1	1	1	1	1	1
総仕向量(千トン)	1,639	1,639	1,863	1,863	1,530	1,916

<レモン/ライム(生鮮)>

表3 トルコのレモン/ライムの生産需給統計

レモン/ライム(生鮮) 販売年度 トルコ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年9月～翌年8月 農務省公式	今回推計値	2021年9月～翌年8月 農務省公式	今回推計値	2022年9月～翌年8月 農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	46,935	46,935	52,233	52,233	51,000	55,426
収穫面積(ヘクタール)	45,000	45,000	52,233	52,233	51,000	55,426
結果樹本数(千本)	11,139	11,139	13,539	13,539	12,000	14,699
未結果樹本数(千本)	4,391	4,391	4,112	4,112	4,500	4,676
果樹本数合計(千本)	15,530	15,530	17,651	17,651	16,500	19,375
生産量(千トン)	1,100	1,100	1,500	1,500	1,200	1,320
輸入量(千トン)	3	3	5	5	3	3
総供給量(千トン)	1,103	1,103	1,505	1,505	1,203	1,323
輸出量(千トン)	620	620	693	693	600	600
生鮮国内消費量(千トン)	433	433	762	762	553	673
加工仕向量(千トン)	50	50	50	50	50	50
総仕向量(千トン)	1,103	1,103	1,505	1,505	1,203	1,323

<グレープフルーツ(生鮮)>

表4 トルコのグレープフルーツの生産需給統計

グレープフルーツ(生鮮) 販売年度 トルコ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2021年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値	2022年10月～翌年9月 農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	5,051	5,051	5,039	5,039	4,700	4,982
収穫面積(ヘクタール)	4,800	4,800	4,900	4,900	4,500	4,700
結果樹本数(千本)	1,184	1,184	1,189	1,189	1,000	1,073
未結果樹本数(千本)	44	44	27	27	28	68
果樹本数合計(千本)	1,228	1,228	1,216	1,216	1,028	1,141
生産量(千トン)	238	238	249	249	186	198
輸入量(千トン)	1	1	4	4	1	1
総供給量(千トン)	239	239	253	253	187	199
輸出量(千トン)	161	161	149	149	126	126
生鮮国内消費量(千トン)	77	77	103	103	60	72
加工仕向量(千トン)	1	1	1	1	1	1
総仕向量(千トン)	239	239	253	253	187	199

＜オレンジ果汁＞

製造

2022/23年度のオレンジ果汁製造量は2021/22年度と同じ1万トンと予測される。トルコの果実部門は、オレンジの収穫量の減少に対応したオレンジ果汁製造量の減少を想定していない。

加工場に送られるオレンジの数は11万トンで横ばいであった。トルコの果実加工産業はまだ発展途上であり、非常に限られた潜在的な輸出市場に到達できるよう産業を発展させるための政府の支援を求めている。果汁輸出業者らによると、トルコのオレンジ品種の果汁率は必ずしも理想的な業界標準を満たしているわけではない。これらの基準を満たすために、トルコの生産者らは、搾汁用果実の基準を改善するための業界による計画策定をトルコ政府が支援することを期待している。

トルコで最も人気のある果汁製造用果実は、リンゴ、アンズ、サクランボ、オレンジ、ザクロである。柑橘類の総生産量の5～10%が果汁業界で加工されている。トルコ果汁産業協会(MEYED)によると、加工果実全体の7%がオレンジ、5%がレモンである。

トルコの果汁消費量は年間8～9リットル(1人当たり)と推定され、ヨーロッパ諸国と比較してかなり少ない。

貿易

輸出

2022/23年度のオレンジ果汁輸出量は、オレンジの生産量が安定していることから、前年度とほぼ同じ3,500トンと予測される。トルコは、2021/22年度に570万ドル相当のオレンジ果汁3,675トンを主にイタリア、オランダ、イラクに輸出し、これは470万ドル相当の3,160トンを輸出した2020/21年度よりも16%多かった。

輸入

2022/23年度のオレンジ果汁輸入量は、国内市場の需要の微増により、2,500トンに増加すると推定される。トルコは2021/22年度に主にキプロス、イスラエル、イタリアから2,200トンのオレンジ果汁を輸入した。トルコは、加糖か否かを問わず主に冷凍のオレンジ果汁を輸入している。

表5 トルコのオレンジ果汁の生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度 トルコ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2020年10月～翌年9月		2021年10月～翌年9月		2022年10月～翌年9月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
原料果実加工仕向量(トン)	105,000	105,000	110,000	110,000	110,000	110,000
期首在庫(トン)	150	150	150	150	150	150
製造量(トン)	9,500	9,500	10,000	10,000	10,000	10,000
輸入量(トン)	1,213	1,213	2,200	2,200	2,500	2,500
総供給量(トン)	10,863	10,863	12,350	12,350	12,650	12,650
輸出量(トン)	3,159	3,159	3,675	3,675	3,500	3,500
国内消費量(トン)	7,554	7,554	8,525	8,525	9,000	9,000
期末在庫(トン)	150	150	150	150	150	150
総仕向量(トン)	10,863	10,863	12,350	12,350	12,650	12,650

99. ニュージーランド 2023年のキウイフルーツは生産者の失望で終了

FreshPlaza 2023年6月21日

ニュージーランドの2023年産キウイフルーツの収穫量は控えめであり、生産者はこのシーズンに生産されたキウイフルーツの量に満足していない。これは、キウイフルーツ生産者にもう1年財務的な圧力をもたらすことになる。彼らは、2024年のトンネルの出口の光を目指して、海外市場に輸出されるキウイフルーツの品質に目を光らせている。

ニュージーランド最大の園芸輸出品目であるキウイフルーツの2023年の収穫シーズンは、現在海外市場に出荷されている荷を以てほぼ終了した。

ニュージーランド・キウイフルーツ生産者協会のコリン・ボンド会長は、生産量が少ないため、これは最近の記憶の中で最も経済的に報われない収穫の1つであるとして、「キウイフルーツ業界は、コロナ禍の間も事業を継続することができたため、比較的好調であった。しかし、過去2年間は、コロナ禍の間に他の業界が経験した経済的な困難と同程度であり、今度は我々の番である」と述べている。(以下「」は同会長の発言)

生産者にとっての多くの問題は、2022年後半の品質問題から始まり、2023年に入っても、受粉の不良、風、洪水、雹、サイクロンが続き、出荷量が減少した。当初は1億6千万箱のキウイフルーツが出荷されると考えられていたが、最終的な数は1億4千万箱をはるかに下回る可能性が高く、2022年の1億7,500万箱にはほど遠い。

各箱には平均して約30個のキウイフルーツが入っている。ボンド氏によると、キウイフルーツの栽培と輸出にかかるコストの増加が、生産量が少ない年の生産者にとって特に苦痛となる。

「生産者は、少ない量のキウイフルーツで可能な限り最高の利益を得るために、ゼスプリが市場でパフォーマンスを発揮するよう一層の圧力をかけている。ゼスプリは、市場に出回るキウイフルーツの品質は高く、これまでのところ予想される収益は良好であると報告しているが、当協会は今後数か月にわたって品質を詳しく追跡し続ける。業界は品質の問題を減らすために協力して取り組んできたが、収量の低い年にこの取り組みが報われることは一層重要である。」

しかし、トンネルの終わりには光があり、2024年の予測はこれまでで最大級のものになると見られている。

「その大量のキウイフルーツを優れた状態で消費者に届けるために、サプライチェーン全体として大きな責任がある。業界全体ですでに計画が進行中である。天候を制御することはできないが、成功の可能性を高め、生産者を経済的負担から解放するために、正しい取り組みを行う必要がある。」

2022年の輸出額は29億NZドルで、ニュージーランドのキウイフルーツ産業は、キウイフルーツ産地の経済に重要な貢献をしており、多くのコミュニティがその成功の恩恵を受けている。

100. 中国 世界のリンゴ輸出国首位の座を失う

EastFruit 2023年6月21日

生鮮リンゴ輸出国の世界ランキングで長期的に首位にある中国は、2022/23年度の輸出量を大幅に減らした。このため、本サイト(EastFruit)のアナリスト達は、今シーズン間違いなく世界のリンゴ輸出の新しいリーダーが現れると見ている。

国連食糧農業機関(FAO)投資センターのエコノミストであるアンドリー・ヤルマク氏は、「イタリアが2022/23年度の世界のリンゴ輸出の新しいリーダーになる可能性が最も高い。ポーランドがリンゴの輸出量で中国を追い抜く可能性も高い。近年中国とほぼ同量のリンゴを輸出して主導的な地位に近づいていたイランは、リンゴの輸出量が中国以上に急減したため、むしろランキングを下げると見られる」と述べた。

2023年最大のリンゴの会議で、世界のさまざまな地域からリンゴの生産と貿易の予測が発表されるであろう「Prognosfuit 2023」を主催するのがイタリアであることは、象徴的である。ヤルマク氏はこの会議で、ウクライナ及びコーカサス・中央アジア地域の国々におけるリンゴとナシの生産と価格の見通しについて講演する。

本サイトのアナリストによると、中国のリンゴ輸出が減少した主な理由は、いくつかの異常気象による収量の低下である。さまざまな推計によると、中国のリンゴの生産量は400万~500万トン減少した。その結果、本サイトの調べでは、2022/23年度の中国のリンゴ輸出量は前年度比25%減の約75万トンとなる可能性がある。これは、同国の生鮮リンゴ輸出量の久しぶりの最小値となる。

興味深いことに、イランは2022/23年度のリンゴの輸出量を40%減らす可能性があり、これにより世界ランキングの2位から7位に転落する。

ちなみに、ベトナムは歴史上初めて中国産リンゴの主要市場になる可能性がある。ベトナムはリンゴの輸入量においてインドネシアを追い抜く可能性があると予想される。また、中国からの大量のリンゴの輸出は、タイ、フィリピン、バングラデシュなどの市場でも注目された。なお、ウズベキスタンは輸入量を1年で2.5倍に増やし、中国産リンゴの最も重要な市場のランキングで12位となった。

中国のリンゴ輸入もこの期間に急増し、生産量減少の推計を裏付けた。中国は10万トンを超えるこれまでで最大のリンゴを輸入すると予想される。中国へのリンゴの主な供給国は、従来からニュージーランド、南アフリカ、チリ、米国、フランスである。オーストラリアとポーランドも少量のリンゴを中国に輸出している。

101. ベトナム オーストラリア産タンジェリンが中国産との競争で半値に

VNEXPRESS INTERNATIONAL 2023年6月25日

6月下旬にベトナムで販売されたオーストラリア産タンジェリンの小売価格は、この果実が旬であり、中国産タンジェリンと競合しているため、前年同期に比べて半値となった。

ホーチミン市の伝統的な市場や果実店では、オーストラリア産のタンジェリンは9万~12万ドン(3.83~5米ドル)/kgで販売されている。価格は、2017年にベトナムに最初に輸入された時の25万ドンから下落した。

市内の輸入果実店のオーナーであるオアン氏は、「オーストラリア産タンジェリンのシーズンは6月から10月または11月まで続く。毎年、この果実は地元市場限定であったが、今年はオーストラリア産の輸入品と同じ様にパッケージされた中国産のタンジェリンと競合している」と言う。

ホーチミン市のトゥーダク農産物卸売市場のマネージャーによると、市場のタンジェリンのほとんどは中国産であり、卸売価格は2万5千~3万ドン/kgである。

ベトナム産のタンジェリンと比較して、オーストラリアや中国で栽培されたタンジェリンは果汁が多く、繊維が少なく、皮が薄く、香りが強い。

執筆者: ホン・チャウ

102. 米国 北西部のサクランボの収穫が始まる

ASIAFRUIT 2023年6月23日

業界団体の北西部サクランボ生産者協会(NWCG)によると、北西部のサクランボの収穫が始まり、最初の10日間で120万箱(20ポンド(約9kg)/箱)が出荷された。生産者協会の最新情報によると、気温が低いためすでに遅れている出荷シーズンの開始がさらに遅れたが、出荷量は増えてくるものと予想される。

同協会の最新情報は、「産地の気温が60度台半ば(約18℃)に低下し、その結果、一部の生産者は計画された収穫をさらに数日延期しなければならなかった。良いニュースは、2023年の収穫が始まっており、現在までに20ポンド箱で120万箱を出荷したことである」としている。(以下「」は同協会の情報)

「夏が進むにつれて、より多くの生産者からより多くの品種が出荷されるようになり、毎日の出荷量が増えるはずである。先週、米国だけでなく世界中で積極的な販売促進プロモーションが見られた。今週、早生のビング(Bing)品種とアーリーロビン(Early Robin 黄色い品種)の出荷が始まる。」

同協会の国際チームはまた、引き続き東南アジア市場を開拓する業界の取り組みの一環として、ベトナムとタイの輸入業者のグループを受け入れた。

「東南アジア市場は、今も成長とチャンスのある有望な兆候を示している。当協会の会員である生産者と出荷業者の協力を得て、管内の果樹園と梱包施設を訪問している。毎年の北西部のサクランボの荷を動かすには世界の助けが必要である...そして、ベトナムとタイの友人たちは、世界で最高のサクランボを消費者にとどけるのを助ける素晴らしい仕事をしている。」

執筆者: リアム・オキャラハン

103. エジプト 法的な混乱に巻き込まれたブドウ生産者

FreshPlaza 2023年6月27日

地元で「ブラックマジック」(Black Magic)として知られる黒ブドウ品種は、エジプトの生産者に広く使用されており、国内及び輸出市場で高い需要がある。しかし、生産者はこの品種をめぐる法的な混乱に陥っている。

エジプトのある生産者は匿名を条件に、「この品種は、独占販売権を有するエジプトの会社を通じてエジプトに導入された。しかし、10年ほど前に植物が誤って配達され、それ以来、生産者から生産者へと品種が伝わり、その優れた品質のおかげで非常に人気が高まっている」と話す。(以下「」はこの生産者の発言)

「種子がどのようにしてエジプトに入ったのか、誰が知的財産権を所有しているのか全く知らないまま、ますます多くの生産者が種子を繁殖させた。この品種は、商品名ではないブラックマジックという名前で人気を博し、広大な面積で生産されており、ロシア、東アジア、アラブ諸国から強い需要がある。」

しかし、権利を有する会社が現れ、何人かの生産者に対して苦情を申し立てたと情報提供者は続けた。「エジプトはUPOV条約(植物の新品種の保護に関する国際条約)に署名しており、生産者は非常に微妙な状況に置かれている。」

「生産者らは、第三者のミスのために自覚なくこの状況に陥り、品種の使用を悪用するつもりはなかった。我々は、権利を有する会社に対し、すべての人に受け入れられる解決策を見出すための対話に参加するよう呼びかけている。我々はもちろん、種子を使用する権利に対価を支払うつもりである。しかし、同社は単に栽培をやめさせたいだけであり、それは我々にとって、特に種子を誠実に使用した小規模生産者にとって、巨額の投資が無駄になり耐え難い損失が生じることを意味する。」

「すべての当事者にとって壊滅的なこの状況を解決し、双方がウィン-ウィンになるように、どちらの当事者にも損害を与えることなくこの種子の使用を正常化することが、すべての人の利益になる。」

執筆者: ユーネス・ベンサイド

104. 海運会社が太平洋のコンテナ路線から撤退

CONTAINER NEWS 2023年6月28日

アルファライナー(Alphaliner)社の最新のレポートによると、MSC社と太平洋地域の他の日和見的な海運会社は、太平洋横断航路の輸送能力の減少を主導している。

今月時点の輸送能力は、514隻、486万TEU(20フィートコンテナ換算コンテナ積載数)で、2022年6月の674隻、556万TEUから減少した。減少した船のほとんどは、MSC社とその他の長距離航路の新規参入企業のもので、コロナ禍に煽られたブームが終わったのを機に撤退した。

MSC社は、同社の太平洋横断積載容量の35%にあたる40万TEU弱を減らした。

CUラインズ(CULines 中聯航運)が中国-米国西海岸のサービスを取りやめることを決定したのに続き、コロナ禍の異常な年にこの路線に参加したすべての新規参入企業は、スワイヤー海運(Swire Shipping)を除いて今月末までに撤退すると見られる。

2022年6月には、CUラインズ、シーリード海運(SeaLead Shipping)、パシヤ・ハワイ(Pasha Hawaii)、トランスファー海運(Transfar Shipping)、TSラインズ(TS Lines)、BALコンテナライン(BAL Container Line)、上海錦江海運(Shanghai Jin Jiang Shipping)などの新規参入企業によって展開された船舶は、約13万8,800TEU(全船舶の2.5%)の積載量を有していた。

同期間に船舶の積載量全体が5.4%増加したにもかかわらず、アジアと北米の間に配備された船舶の積載量は、前年比12.6%減少した。

マースク社とMSC社(2M連合)は、船舶共有パートナーのZIM社(米国東海岸向け)と共同で2Mとしての積載量を7%削減した。しかし、MSC社とマースク社はコロナ禍の間に活況を呈していた市場を迅速に活用するために開始した個別の航路を終了させたため、全体的な積載量の減少率はより高く(-19%)になっている。

アルファライナー社は、「いくつかのサービスが終了したにもかかわらず、MSC社が2Mとしてのサービス(14万5,500TEU)よりも、独自の路線でより多くの容量(23万2,700TEU)を展開していることは注目に値する。このため、MSC社は引き続き、単独でサービスを提供する海運会社の中で最大の積載量を有し、第2位のワンハイラインズ社の2倍の船舶を保有している。ZIM社と同様に、ワンハイラインズ社は、市場が冷え込んだ後に大型の新造船が納入された。1万3千TEUの新造船5隻が導入されたにもかかわらず、この台湾の海運会社は、多くの小さな航路を閉鎖し、米国西海岸(AA3)と東海岸(AA7)に往復する2つの大きな航路のみを保持することにより、積載量を33%削減することに成功した」と説明する。

輸送量と運賃がピークに達していた時に太平洋横断航路に参入した海運業者のほとんどは、比較的小さな積載量で事業を展開していたが、スポット運賃がコロナ禍前の水準を下回ったため、現在は赤字路線になっている。

アジアと米国西海岸の間の運賃は、6月中旬時点で1,200米ドル/FEU(40フィートコンテナ当たり)に低下しており、2022年6月の7,600米ドル/FEU及びコロナ禍前の2020年1月の1,550米ドル/FEUよりも大幅に低くなっている。アジアと米国東海岸の間の運賃は、昨年6月の1万米ドル/FEU以上から、今日では2,100米ドル/FEUに低下した。コロナ禍前の2020年1月には2,900米ドル/FEUであった。

執筆者: マルティナー・リー アジア特派員

105. チリ 雨の被害はこの30年で最悪

FreshPlaza 2023年6月29日

先週の大雨と洪水の後、チリの生食用ブドウ、サクランボ、ブルーベリーの一部の園地はまだぬかっけていて近づくことができない。野菜生産者は特に大きな打撃を受けており、チリからの初期の報告では一部の生産者はすべてを失った。チリの生産・輸出業者であるフルセントロ社の農業専門家フアン・パブロ・オロスコ氏によると、「チリのこの雨は、少なくとも過去30年間で最悪であった。」

青果物業界は、インフラの損傷を示す初期の兆候について被害の程度をいまだ確認中であるが、果実や野菜への影響はより長期的に見られる。

「多くの川が氾濫し、土地や家屋が浸水した。こんなに短い時間でこんなに雨が降った冬は記憶にない。洪水に見舞われたブドウ生産者もいるが、幸いなことに今は冬で、果樹やブドウの木は休眠している。ブドウの木の幹に傷や損傷がない限り、それほど悪いことにはならない。問題を防ぐために薬剤散布を行う必要があるが、問題ないはずである。ジャガイモ、レタスなどの野菜生産者については状況が異なり、これらの生産者にとって洪水はまさに災害である。」



2023年6月22日から25日にかけての600mmを超える大雨と洪水が、首都サンティアゴやバルパライソの主要港を含むチリ中南部に影響を及ぼした。柑橘類、アボカド、ブルーベリーは現在出荷シーズンであり、野菜も出荷されているが、生食用ブドウとサクランボは冬の休眠状態にある。

チリで最も被害を受けたセントラルバレー地域にブルーベリーとサクランボの農場を構える別の大規模生産・輸出業者は、「チリの一部の農場で大規模な洪水があった。ブルーベリー農園が影響を受けたが、水に浸かっているサクランボの果樹園でも大きな問題がある」と述べた。

チリ果実生産者連盟(Fedefruta)による初期の査定は、一部の生産者がすべてを失ったことを示している。同連盟のホルヘ・ヴァレンズエラ・トレビルコック会長はさらに、洪水によって多くのインフラ被害があったと述べている。これには、流失したかひどく損傷した重要な灌漑施設とポンプが含まれる。畑に置かれていたトラクターなど他の機器も損傷している。同連盟は、調査の結果が入り次第、より多くの情報を公表する。しかし、多くの生産者は、果樹園がぬかるんだり、水位が高かったりしてまだ果樹園に入ることができないと言う。被害がどれほどひどいかなを確認するためには、水が引き、園地が乾くのを待たなければならない。

チリの青果物業界の別の専門家らは、インフラの損傷を確認しており、「多くの灌漑インフラが失われ、オンラインの地籍簿を作成中である。プランテーションも失われたが、我々の印象では、果樹産地では最小限のようだ。そこでは最も深刻なことはインフラの喪失である」と述べた。

執筆者: クレイトン・スワート

106. ベトナム産ライチ 米国と日本に輸出され高値で販売

VIETNAMNET GLOBAL 2023年6月29日

ベトナムの熱帯特産品であるライチは、選択眼の厳しい市場に向けてますます多くの荷が出荷されている。

6月20日、バックジャン省の2023年産の生鮮ライチの荷が米国のヒューストンに到着した。ライチは到着後すぐに、ホンコン、タンビン、ベトホア、リンダのトロピカルフルーツ、カマウなどのブランドで大型スーパーマーケットの棚に並んだ。スーパーマーケットでは、ライチは1ポンド(約454グラム)当たり14~15ドル、または11ポンド(5kg)バッグが140ドルで小売りされている。

ベトナム産のライチは、以前は冷凍果実として米国で販売されていた。ベトナム貿易事務所は2020年に、生鮮ライチに対する高い需要を見出し、両国の輸出入業者を結び付け、生鮮ライチの米国市場向け輸出について米国農務省動植物検疫局(APHIS)と協力した。

ベトナム農業農村開発省(MARD)は5月下旬に、ベトナムの生鮮果実を米国に輸出するための放射線照射の要件を満たす1品目の追加をAPHISが認めたと発表し、生鮮ライチが米国市場に到達する道が開かれた。

ライチの輸入業者であるLNSインターナショナルコーポレーションのジョリー・グエンCEOは、同社は、ライチを含むベトナムの農産物を米国のさまざまな州に輸入、流通、輸送するため複数のパートナー企業との協力を続けると述べた。

ベトナム産ウーホンライチ(オーストラリアでの商標は「幸運の果実」ゴールデンライチ)の荷が、6月初旬にTTメリディアン社により英国に輸入された。これは、ベトナム産ライチが今年初めて関税の軽減無しに英国に輸出された荷であった。ベトナム産ライチは英国で、同じ種類の果実や他の輸入果実と比較して高い15ポンド/kgの価格で売られている。

ホー・グオム - ソン・アム(Ho Guom-Song Am)ハイテク農業社は6月中旬、種なしライチを日本と英国に輸出した。アナリストらによると、日本ではライチは4,500~5千円/kgで販売されている。

MARDのフィン・タン・ダット氏によると、17口82トンのライチが、日本に輸出される要件を満たしていると認定されており、果実は40万~55万ドン/kg(1万ドン=約60円)で販売される。

これに先立ち、在日ベトナム貿易事務所は6月15日、数社の企業と協力して業界関係者と日本企業の代表者30人をハイズオン省とバックジャン省に招き、ライチ生産の2大産地を視察し、輸出用ライチの集荷計画について話し合った。

アメイ・ベトナム社のグエン・カク・ティエン氏は、同社のライチ輸出は昨年の同時期と比較して30~50%増加すると予測した。

ベトナム産ライチは30以上の市場に出荷されている。

執筆者: タム・アン

出典: vietnamnet.vn

107. オーストラリア 雨が柑橘類の収穫を妨げる

FreshPlaza 2023年6月29日

オーストラリアの柑橘類は数週間前から収穫されているが、リバーランド地域では雨が作業を妨げている。

サイワールド社のサム・ヴァサラ氏は、「現時点ではゆっくりと進んでいる。雨のためにペースが落ちているので、梱包施設に十分な果実を搬入できない。現時点では果実の品質には影響は出ておらず、天候がすぐに回復することを期待している。果皮の内側の白い筋(アルベド)が少し出ているものがあるが、昨年ほど悪くはないので、影響を受けた果実を取り除くことに最善を尽くしている」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

予測されたとおり、今年のワシントンネーブル種は入数88、113と果実のサイズが小さくなっている。小売主導の市場ではこれらのサイズの需要があるが、卸売市場はもっと大きなサイズを求めている。「大規模な生産者は出荷量が多いので大きなサイズを提供できているが、中小規模の生産者は大玉の果実を十分に持っていない。今年はレモンだけが大きく、誰も大きなレモンを求めている。」

同氏は、今シーズンは課題もあるが、需要が十分あり、出荷シーズンが進むにつれて順調に進むだろうと期待していると述べた。

「果実の風味は良いが、最善とは言えないかもしれない。オーストラリアは高品質で味の良い果実で知られており、天候のためにまだ風味が最高に達していないが、天気が回復すれば味も良くなるだろう。雨が収まれば、通常の状態に戻るだろう。」

「課題はあるものの、すべての市場は好調で、需要は良好である。また、タイと韓国で大変好評な皮を剥きやすいネーブル種の販売促進も行っており、日本と台湾への輸出を始めたところである。」

執筆者: ニコラ・マクレガー

108. オーストラリア ブドウのシーズンは良い結果で終了

FreshPlaza 2023年6月30日

オーストラリアのブドウの収穫は、シーズン開始時に予想されていたよりも良い結果で終わった。

オーストラリア生食用ブドウ協会CEOのジェフ・スコット氏は、「収穫シーズンは3~4週間遅れて始まり、その結果、一度に多くの品種が収穫された。11月と12月は雨が多く、それが遅れの要因であった。雨によるべと病やうどんこ病を予防するため、生産者は可能な時期に薬剤を散布する必要があったが、最終的には予想よりも良いシーズンになった」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

雨天により果実が成熟して着色するまでに時間がかかったが、品質や収穫量には影響がなく、実際、オーストラリアのブドウの輸出量は今年2万トン増加した。今シーズンのブドウの総輸出額は5億7千万豪ドルに達した。(1豪ドル=約95円)

「早い時期の果実の多くは国内市場に出荷された。これらのブドウは通常輸出されるので、輸出が増えたという統計は喜ばしい。中国が今年1月に海外旅行を解禁したため、バイヤーがブドウ園に果実を見にくることができ、中国への輸出を押し上げた。中国は最大の市場で、ブドウの40%が中国向けであった。」

オーストラリアのブドウ産業は市場アクセスの改善に取り組んでおり、タイ、フィリピン等の市場向けの放射線照射プロトコルの取得、日本向け品種の早期の追加、及び米国向けプロトコルの変更を望んでいる。

「来年は、冬の夜の寒さと日中の暖かさ、春の適度な降雨、夏の少雨と暑さなど、気象パターンがやや通常に戻ると予想されているため、さらに良いシーズンを期待している。」

執筆者: ニコラ・マクレガー

109. 南半球の生食用ブドウが引き続き輸出をリード

FreshFruitPortal 2023年6月30日

情報サイト [Topinfo](#) の最近の分析によると、ブドウは引き続き南半球の代表的な産品であり、ペルー、チリ、南アフリカが引き続き世界の3大主要輸出国である。北半球市場の消費者の傾向や嗜好の変化への対応能力が同セクターを成功に導き、種なし品種と権利関係のある品種への変更が重要な役割を果たしている。北半球の冬の間、バイヤーに新鮮で魅力的な産品を提供し続けるための物流上の課題にも対応できた。

南半球は出荷先を多様化することにも成功した。当初、主な市場は米国であったが、そのシェアは南半球の出荷量の3分の1にまで減少した。ヨーロッパと極東が徐々に重要な市場となり、近年では南半球の出荷量の4分の1を占めている。中南米諸国、カナダ、中東諸国も南半球産ブドウの良い輸出先になりつつある。一方、ロシアは、ウクライナとの戦争に起因する貿易紛争の結果、市場としては衰退した。

さまざまな輸出国の重要性に大きな変化があった。このビジネスの先駆者であり、何十年にもわたって絶対的なリーダーであったチリは、世界最大の輸出国としての地位を今年初めてペルーに譲った。ペルーは2022-23年度に約60万トンを出したが、一方チリは50万トンに留まった。近年の悪天候、作物の更新、及び強力な品種の転換により、チリの潜在的輸出能力が低下した。

南アフリカも2023年には悪天候に苦しんだ。収穫期間中の大雨は、輸出を制限し、困難にした。生食用ブドウは、極端な気温だけでなく、過度の降雨や湿度にも非常に敏感である。

チリ、南アフリカ、ブラジルは、この2022-23年度の輸出量が前年度比で16～20%少なかった。前シーズンより12%多く輸出することができたペルーだけが引き続き輸出量を増やした。ペルーの輸出量は約60万トンで、わずか7年間で輸出量を倍増させた。ペルーの増加は他の国の減少を補いきれなかったため、南半球の総輸出量は2021-22年度に達成した最高記録の154万トンを8%下回った。

事実上すべての主要市場の輸入量が前シーズンをわずかに下回った。この出回り量の低さにより、市場の需給バランスが改善し、良好な価格水準を維持することが可能となった。

110. トルコ サクランボ価格の下落傾向が予想される

FreshPlaza 2023年6月30日

トルコの青果物生産・輸出業者アナフルーツ社の営業販売部長であるヤフヤ・エルドアン氏は、トルコのサクランボは出荷の最盛期だが、需要は地域によって異なると言い、「シーズンの初めから、トルコ産サクランボに対するヨーロッパ諸国からの需要は強かったが、極東地域の需要は前年と比較して予想よりもやや低い」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

同氏によれば、サクランボの価格はこの3～4週間安定しているが、来週から変動する可能性がある。「今シーズンのさくらんぼの価格に関して、これまで驚きはあまりない。これまでのところ状況は非常に安定しているが、来週はわずかに下降傾向になると予想しており、トルコ産のサクランボについて新たな照会を行う輸入業者にとってはプラスになるだろう。」

トルコのサクランボの出荷量は今シーズンかなり多いと同氏は説明する。「出荷量を見ると、今シーズンは間違いなく増えている。今週以降の天気予報は良好なので、十分な出荷量でより良い影響が見られることを期待している。」

出荷シーズンの終わりはすでに見えているが、同氏はさらに5～6週間続くと予想している。「収穫期間中の素晴らしい天候のおかげで、現在のサクランボの品質は非常に良い。出荷は8月の第1週か第2週まで続くと予想している。サクランボの季節をうまく終え、その後のリンゴの季節を迎えることを期待している。」

執筆者: ニック・ピーターズ

111. 南アフリカの柑橘類事情(オレンジ、グレープフルーツほか)

米国農務省GAINレポート 2023年6月30日

これは米国農務省海外農業局のプレトリア事務所(南アフリカ)が作成した「柑橘類半期報告書」の各品目について訳したものであり(一部省略)、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。1米ドル=約19.77ランド(2023年5月末現在)

報告書の要点

南アフリカの2022/23販売年度(以下「年度」)のオレンジとレモンの生産量は、栽培面積の停滞と収量が平年並みに戻ることに伴い、減少すると予想される。グレープフルーツとタンジェリン/マンダリンの2022/23年度の実績は、主要産地の良好な気象条件により、わずかに増加すると予想される。柑橘類業界は、農業投入資材コストの増加、高い輸送コスト、インフラの非効率性、新しい植物検疫規制など、いくつかの課題に直面している。その結果、業界の収益性と持続可能性が脅かされ、将来の投資が制約される可能性がある。米国は依然としてプレミアム市場と考えられており、米国のアフリカ成長機会法(AGOA)に基づく米国向け柑橘類の免税輸出は、前年比で力強い成長を続けると予想される。

<オレンジ(生鮮)>

栽培面積

南アフリカの柑橘類果樹園は約9万6,277ヘクタールで、そのうちオレンジ果樹園が約45%を占めている。オレンジの栽培面積は過去7年間でほぼ4%、すなわち年平均1%増加した。しかし、オレンジ栽培面積の増加は、西ケープ州とリンポポ州の産地におけるソフト柑橘類への積極的なシフトによって制約されている。当事務所は、2022/23年度のオレンジの栽培面積を、ごくわずかな新植による0.5%増の4万3,900ヘクタールと予測する。

農業投入資材コストの増加、高い輸送コスト、計画停電等インフラの非効率性、効率的でない港湾運営、道路網の劣化、及びEUの新たな植物検疫規則により、オレンジ生産者の収益性が低下し、業界による継続的な投資が制約されている。当事務所は、2021/22年度のオレンジの栽培面積は、2020/21年度の4万5,123ヘクタールから4万3,668ヘクタールに3%減少したものと推定する。

投入資材コストの高騰と実質輸出価格の下落により、生鮮消費と加工のために国内市場で販売されるオレンジが増加した。当事務所の情報提供者らは、一部の果実が家畜飼料としても販売されたことを確認したが、収穫物の一部は利用されず、生産者の収益性が低下し、栽培拡大への投資が制約された。図1に、オレンジの栽培面積の推移を示す。

図1 南アフリカのオレンジ栽培面積の推移



出典: 柑橘類生産者協会(CGA)及び当事務所推計/予測

リンポポ州は南アフリカの主要なオレンジ産地であり、総栽培面積の48%を占め、東ケープ州(23%)と西ケープ州(14%)がこれに続く。

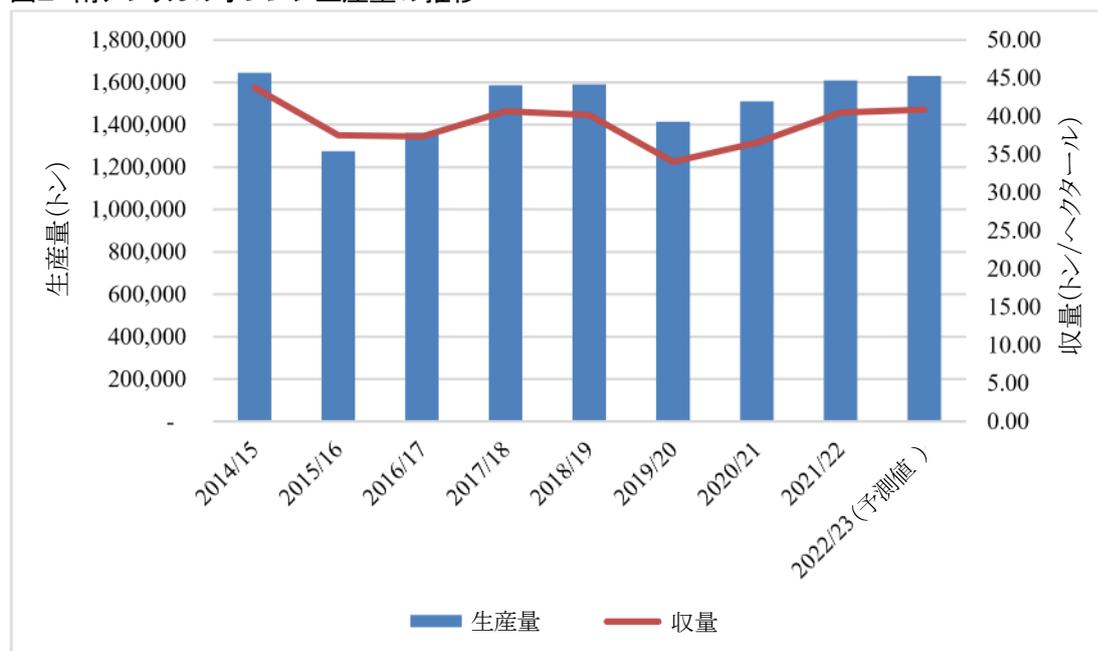
バレンシア種はオレンジ総栽培面積の3分の2を占め、ネーブル種が残りの3分の1を占めている。栽培されている主要栽培品種はミッドナイト(Midnight)バレンシアで総面積の26%を占め、バレンシアレート(Valencia Late 10%)、デルタ(Delta 9%)、ターキー(Turkey 7%)がそれに続く。南アフリカで栽培されるこの他の栽培品種は、ベニー(Bennie)、パーマー(Palmer)、カンブリア(Cambria)、バイアニーニャ(Bahianinha)、ワシントン(Washington)等である。

生産

当事務所は、南アフリカの2022/23年度のオレンジ生産量の予測を下方修正し、2021/22年度の161万トンから1%増となる163万トンとする。西ケープ州では雹を伴う雨や強風の被害を受け、生産量に影響が出る可能性がある。さらに、東ケープ州では大雨に見舞われ、生産量が減少する可能性がある。しかし、他のオレンジ産地は天候条件が良く、十分な灌漑用水がある。

当事務所は、2021/22年度のオレンジ生産量は前年比6.5%増加したものと推定する。この生産量の増加は、主要産地でシーズンを通して降った平均以上の降雨により十分な灌漑用水が確保され、生産に有利な条件が整ったためである。当事務所は2020/21年度の南アフリカのオレンジ生産量を151万トンと推定する。図2に、2014/15年度以降の南アフリカのオレンジ生産量を示す。

図2 南アフリカのオレンジ生産量の推移



出典: 柑橘類生産者協会 (CGA) 及び当事務所推計/予測

輸出

当事務所は、輸出可能な果実の生産量の増加と南アフリカ通貨の弱体化による輸出条件の一層の好転に基づき、2022/23年度の南アフリカのオレンジ輸出量を前年度比5%増で史上最高水準の136万トンと予測する。2020/21年度及び2021/22年度には、生産量の伸びにもかかわらず、南アフリカのオレンジ輸出量は130万トンの横ばいであった。(表1)。

南アフリカは世界100か国以上にオレンジを輸出しているが、EUは引き続き南アフリカにとって最大の輸出市場であり、総輸出額のほぼ40%を占めている。しかし、柑橘類の輸出に免税アクセスを認めるEUとの自由貿易協定にもかかわらず、南アフリカは柑橘類の黒星病(CBS)と蛾の一種であるフォールスコドリグモス(FCM)の蔓延により、引き続きEU市場での植物検疫上の課題に直面している。柑橘類業界は、EU市

場のCBS及びFCMの要件に適合するために、年間約40億ランド(2億3,200万ドル)を費やしていると推定している。南アフリカは、EU市場を維持・成長させることを可能にするため、輸出前検査、厳格な防除手順、ほ場監視プログラム、輸送手順の遵守、及び包括的なCBSリスク管理システム等の措置を講じている。

EUは2022年7月14日以降、FCMの防除を確実にするために、柑橘類の輸入に当たって特定の低温処理と輸入前の一定の期間の予冷を行うことを要求している。これらの変更は南アフリカの輸出シーズンの真っ最中に導入されたため、実施が困難であり時間的に繊細な問題であった。昨年、推定1,350コンテナの柑橘類がEUの港で数週間留め置かれ、品質の低下と処理コストの増加により、推定2億ランド(1,200万ドル)の損失が発生した。南アフリカは、新しい規制で規定される低温処理について、世界貿易機関(WTO)におけるEUとの協議プロセスを2022年7月に開始した。WTOでの数か月の協議によっても、両当事者は相互に合意した議定書を得ることができなかった。したがって、今年の市場には不確実性があり、オレンジ生産者らは、2022/23年度のEU向け果実の約30%に当たる12万トンが、輸出されない可能性があるかと推定している。

表1 南アフリカの生鮮オレンジ輸出量

輸出先	2020/21(トン)	2021/22(トン)	増減率	2021/22 右と同時期(トン)	2022/23 これまで(トン)	増減率
オランダ	283,466	264,586	-7%	21	20	-5%
アラブ首長国連邦	105,057	110,113	5%	1,061	198	-81%
中国	72,744	96,892	33%	0	87	-
ロシア	86,289	85,153	-1%	0	62	-
英国	68,670	73,686	7%	199	96	-52%
サウジアラビア	74,370	66,208	-11%	49	25	-49%
バングラデシュ	61,624	59,977	-3%	0	0	-
ポルトガル	71,154	59,261	-17%	0	0	-
米国	47,501	59,192	25%	0	2	-
マレーシア	41,380	49,160	19%	24	24	0%
香港	46,506	47,692	3%	24	48	100%
カナダ	40,404	42,630	6%	81	46	-43%
イラク	41,810	41,475	-1%	0	120	-
イタリア	42,747	34,538	-19%	0	0	-
インド	21,093	28,173	34%	0	0	-
カタール	11,341	15,542	37%	0	42	-
シンガポール	10,174	12,894	27%	0	24	-
クウェート	17,218	10,689	-38%	0	14	-
その他	152,189	140,866	-7%	4,245	5,361	26%
合計	1,295,737	1,298,727	0%	5,704	6,169	8%

出典: Trade Data Monitor

中国への輸出量は2021/22年度にはほぼ33%増加し、中国は現在、南アフリカにとって3番目に大きなオレンジ市場である。2021年に開始されたモザンビークのマプト港からの柑橘類の輸出は、中国への輸送時間とコストを削減する画期的なものである。マプト港は、南アフリカ産柑橘類のアジア・中東市場向けの強化された玄関口である。南アフリカのオレンジのかなりの量は同国の北東部で生産され、ダーバン港よりもマプト港の方がかなり近い。

4番目に大きな市場であるロシアは、南アフリカのオレンジ総輸出量の7%を占めているが、輸出量は2020/21年度の8万6,289トンから2021/22年度には1%減少して8万5,153トンとなった。このわずかな減少は、ロシアのウクライナ侵攻により、ロシア市場への出荷が中断されたためである。

南アフリカの米国向け輸出は、米国のアフリカ成長機会法(AGOA)に基づく免税アクセスの恩恵を受けて、増加を続けると予想される。米国へのオレンジ輸出量は、2020/21年度の4万7,501トンから2021/22年度には史上最高の5万9,192トンへと25%増加した。

表3 南アフリカのオレンジの生産需給統計

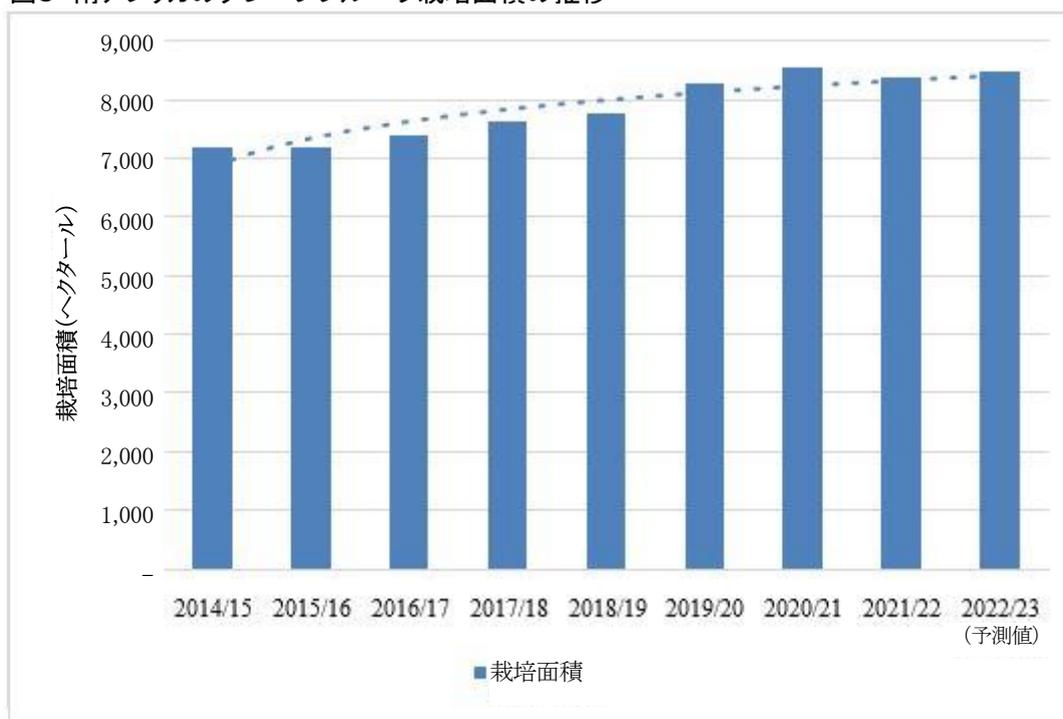
オレンジ(生鮮) 販売年度 南アフリカ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年2月～翌年1月		2022年2月～翌年1月		2023年2月～翌年1月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	46,810	45,123	47,750	43,668	48,130	43,900
収穫面積(ヘクタール)	42,360	41,360	43,210	39,738	43,320	40,388
結果樹本数(千本)	41,300	41,300	42,130	42,130	42,240	42,500
未結果樹本数(千本)	4,575	4,575	4,665	4,495	4,930	4,000
果樹本数合計(千本)	45,875	45,875	46,795	46,625	47,170	46,500
生産量(千トン)	1,511	1,511	1,600	1,609	1,650	1,630
輸入量(千トン)	3	3	4	5	4	3
総供給量(千トン)	1,514	1,514	1,604	1,614	1,654	1,633
輸出量(千トン)	1,296	1,296	1,345	1,299	1,380	1,363
生鮮国内消費量(千トン)	95	95	85	135	90	115
加工仕向量(千トン)	123	123	174	180	184	155
総仕向量(千トン)	1,514	1,514	1,604	1,614	1,654	1,633

<グレープフルーツ(生鮮)>

栽培面積

南アフリカのグレープフルーツ栽培面積は、ヨーロッパ、アジア、中東を初めとする世界的な需要の急増に牽引され、過去7年間で18%成長した(図3)。ただし、世界的な需要の鈍化により、グレープフルーツの栽培面積は、今後数年間は横ばいになると予想される。さらに、農業投入資材コストの増加と輸送コストの上昇により、グレープフルーツ生産者の収益性が低下し、この業界での継続的な投資が制約されている。このため、当事務所は、ごくわずかの新植と、古い果樹園の伐根により、2022/23年度のグレープフルーツの栽培面積は2021/22年度の8,377ヘクタールから微増の8,477ヘクタールと予測する。

図3 南アフリカのグレープフルーツ栽培面積の推移



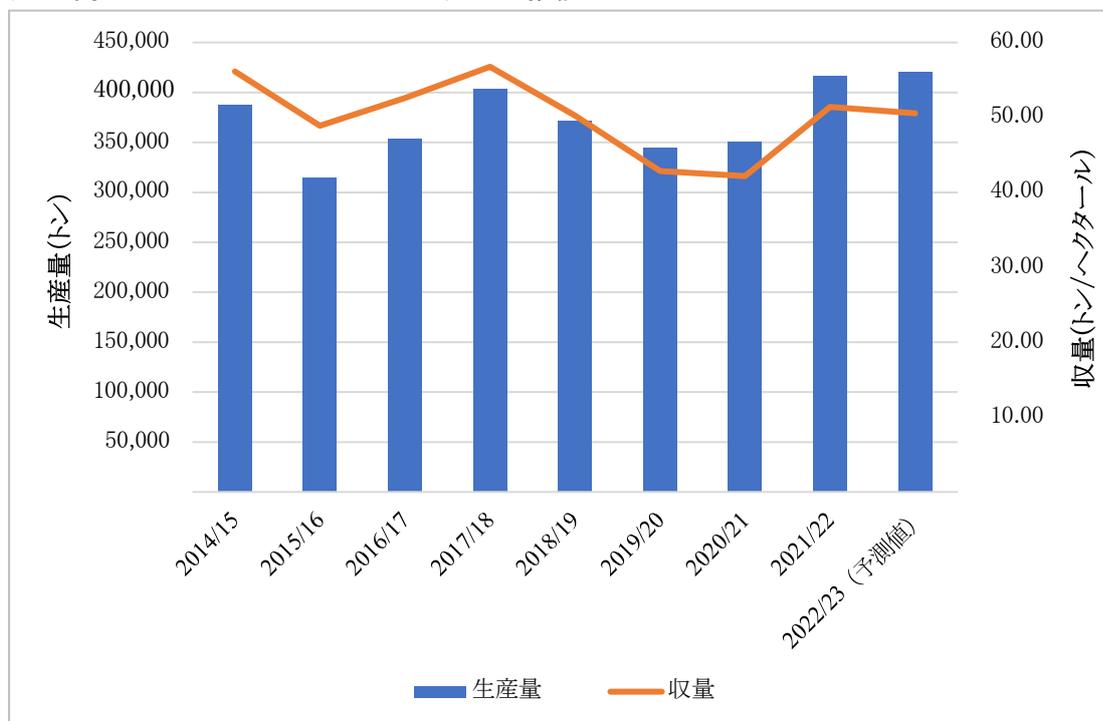
出典: 柑橘類生産者協会 (CGA) 及び当事務所推計/予測

リンポポ州は南アフリカのグレープフルーツ総栽培面積の59%を占める主要産地であり、ムプマランガ州(21%)、クワズールナタール州(10%)、北ケープ州(6%)がそれに続く。栽培されている品種では、世界的な需要が高いスタールビー(Star Ruby)が主要品種であり、総面積の88%を占めている。南アフリカで栽培されているグレープフルーツのその他の栽培品種は、マーシュ(Marsh)、Fe1(ジャクソン(Jackson))、ポメリット(Pomelit)、ローズ(Rose)、レッドハート(Redheart)等である。

生産

当事務所は、平年を上回る降雨量と平年並みの収量への回復に基づき、2022/23年度のグレープフルーツ生産量を42万トンに上方修正する。当事務所はまた、2021/22年度のグレープフルーツ生産量の推計値を41万6千トンに引き上げ、これは2020/21年度の35万1,043トンから19%の増加となる。2021/22年度の夏の降雨シーズンはほとんどの産地で通常どおり始まり、シーズンを通して広範囲に雨が降り、十分な灌漑用水が確保され、生産量の増加を支える良好な条件が整った。さらに、ますます多くの若い果樹の結果が始まった。図4に、過去7年間の南アフリカのグレープフルーツの生産量と収量を示す。

図4 南アフリカのグレープフルーツ生産量の推移



出典: 柑橘類生産者協会 (CGA) 及び当事務所推計/予測

輸出

当事務所は、2022/23年度のグレープフルーツの予測輸出量を22万トンに引き下げ、これは前年よりわずかに減少した2021/22年度の輸出量23万8千トンから8%の減少となる。これは、一部のグレープフルーツ産地がクラス2の果実の輸出用の梱包を減らし、国内の加工用に移行することを計画していることに基づく。

当事務所は、2021/22年度のグレープフルーツ輸出量を23万7,753トンと推定しており、これは前年度比18%の減少となる。昨シーズンの投入資材コストの増加と輸送コストの上昇により、一部の等級のグレープフルーツは輸出で利益を上げることができなかった。さらに、収穫時期近くにクワズールナタール州とリンポポ州全域で発生した洪水により、出荷の問題が生じた。大きな被害を受けた地域には(主要港がある)ダーバン市が含まれ、道路が損壊し、港の運営に影響が生じた。グレープフルーツは通常3月から9月の間に収穫されるが、洪水のため、一部の輸出が影響を受けた。

ロシアのウクライナ侵攻では、その開始直後にロシアへの出荷が停止され、南アフリカ産グレープフルーツ

の通常の貿易パターンに影響を及ぼした。しかし、ロシアへのグレープフルーツの輸出は同年のうちに再開され、ロシアは2021/22年度の南アフリカのグレープフルーツ総輸出量の8%を占めた。

中国は2021/22年度の南アフリカ産グレープフルーツの主要輸出市場であり、輸出額の27% (6万3,470トン)を占め(表6)、オランダ(27%、6万3,408トン)、日本(10%、2万2,866トン)、ロシア(8%、1万9,429トン)がそれに続いた。これら4か国を合わせると、昨年の南アフリカのグレープフルーツ総輸出量の70%以上を占める。グレープフルーツの米国向け輸出量はまだ少ないが、2010/11年度の275トンから2021/22年度には6,184トンと、過去10年間で指数関数的に増加した。2021/22年度には輸出量全体の減少を反映して米国へのグレープフルーツ輸出量が30%減少したが、2022/23年度には成長が戻ると予想される。

2020/21年度には南アフリカは過去最高の29万607トンのグレープフルーツを輸出し、2019/20年度の輸出量24万4,334トンから19%増加した。

表4 南アフリカの生鮮グレープフルーツ輸出量

輸出先	2020/21(トン)	2021/22(トン)	増減率	2021/22 1~4月(トン)	2022/23 1~4月(トン)	増減率
中国	77,707	63,470	-18%	7,488	3,572	-52%
オランダ	73,231	63,408	-13%	5,975	12,420	108%
日本	30,029	22,866	-24%	297	570	92%
ロシア	22,127	19,429	-12%	202	1,668	726%
英国	10,347	8,978	-13%	475	814	71%
大韓民国	4,547	7,427	63%	0	0	-
カナダ	8,351	7,168	-14%	373	1,197	221%
香港	13,130	6,862	-48%	889	829	-7%
米国	8,827	6,184	-30%	0	0	-
イタリア	11,118	4,854	-56%	837	1,428	71%
ポルトガル	5,475	4,472	-18%	216	601	178%
アラブ首長国連邦	4,795	3,831	-20%	427	836	96%
エスワティニ	2,135	3,372	58%	73	72	-1%
台湾	3,557	2,970	-17%	314	652	108%
ドイツ	719	1,744	143%	0	334	-
その他	14,512	10,718	-26%	1,267	1,922	52%
合計	290,607	237,753	-18%	18,833	26,915	43%

出典: Trade Data Monitor

表6 南アフリカのグレープフルーツの生産需給統計

グレープフルーツ(生鮮) 販売年度 南アフリカ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年1月~12月		2022年1月~12月		2023年1月~12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	8,952	8,548	9,200	8,377	9,250	8,477
収穫面積(ヘクタール)	8,325	8,325	8,550	8,100	8,600	8,307
結果樹本数(千本)	8,240	8,240	8,500	8,500	8,595	8,595
未結果樹本数(千本)	980	980	1,000	1,000	955	955
果樹本数合計(千本)	9,220	9,220	9,500	9,500	9,550	9,550
生産量(千トン)	351	351	380	416	385	420
輸入量(千トン)	1	1	5	5	1	2
総供給量(千トン)	352	352	385	421	386	422
輸出量(千トン)	290	290	235	238	245	220
生鮮国内消費量(千トン)	3	3	3	4	3	4
加工仕向量(千トン)	59	59	147	179	138	198
総仕向量(千トン)	352	352	385	421	386	422

<タンジェリン/マンダリン(生鮮)>

栽培面積

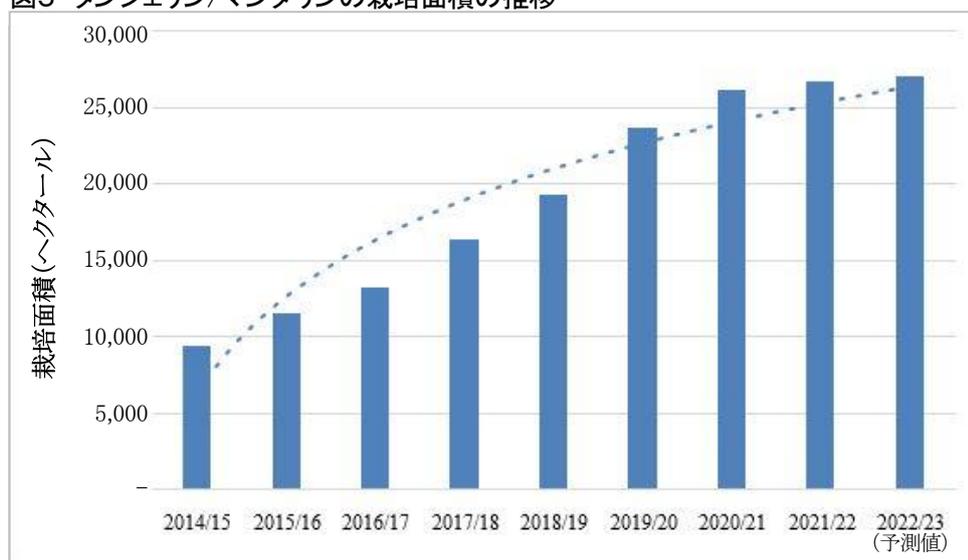
南アフリカのタンジェリン/マンダリン(ソフト柑橘類)の栽培面積は、種なしソフト柑橘類の世界的な需要の高まりと、他の種類の柑橘類に比べた利益率の高さに牽引されて、過去7年間で指数関数的に増加した(図5)。ただし、当事務所は、苗の売上が引き続き減少傾向にあるため、2022/23年度にはソフト柑橘類の面積の拡大が鈍化すると予想し、栽培面積は比較的控えめの2万6,977ヘクタールと見込む。業界は、消費者へのインフレ圧力と予想される経済成長の減速により、EUや英国などの主要市場でソフト柑橘類の需要が鈍化していることを懸念している。さらに、農業投入資材コストの増加、輸送コストの上昇、インフラの非効率性、非効率的な港湾運営、道路網の劣化により、ソフト柑橘類生産者の収益性が低下し、業界では継続的な投資が制約されている。

2021/22年度のタンジェリン/マンダリンの栽培面積は、2020/21年度の2万6,137ヘクタールから2%増加して2万6,677ヘクタールとなった。害虫をより適切に防除し、より良い水管理を可能にし、強風、雹、日焼けによる損傷などの悪天候から果実を保護するために、保護ネットを備えたタンジェリン/マンダリンの園地が増加している。

2021/22年度には輸送コストが増加し、クラス2のタンジェリン/マンダリンの輸出の収益性が低下し、栽培面積拡大への投資がさらに制約された。また、より多くのクラス2及びクラス3の果実が国内市場に出回った。当事務所の情報提供者らは、昨年のタンジェリン/マンダリンの一部が、商業的な販売機会が限られていたために利用されなかったことを確認している。

栽培されている主な品種はナルドコット(Nardocott)で、総栽培面積のほぼ19%を占めている。アークシットナイン(Arcsit 9 12%)、ナル(Nule 12%)、タンゴ(Tango 11%)、ノヴァ(Nova 10%)、リアンリ(Leanri 9%)、オリ(Orr 8%)がこれに続く。西ケープ州はソフト柑橘類の主要産地であり、総生産量の37%を占め、リンポポ州(28%)と東ケープ州(25%)がそれに続く。南アフリカのソフト柑橘類果樹園の40%以上は樹齢5年以下であり、これは今後数年間ますます多くのソフト柑橘類が市場に出回ることを意味する。

図5 タンジェリン/マンダリンの栽培面積の推移



出典: 柑橘類生産者協会 (CGA) 及び当事務所推計/予測

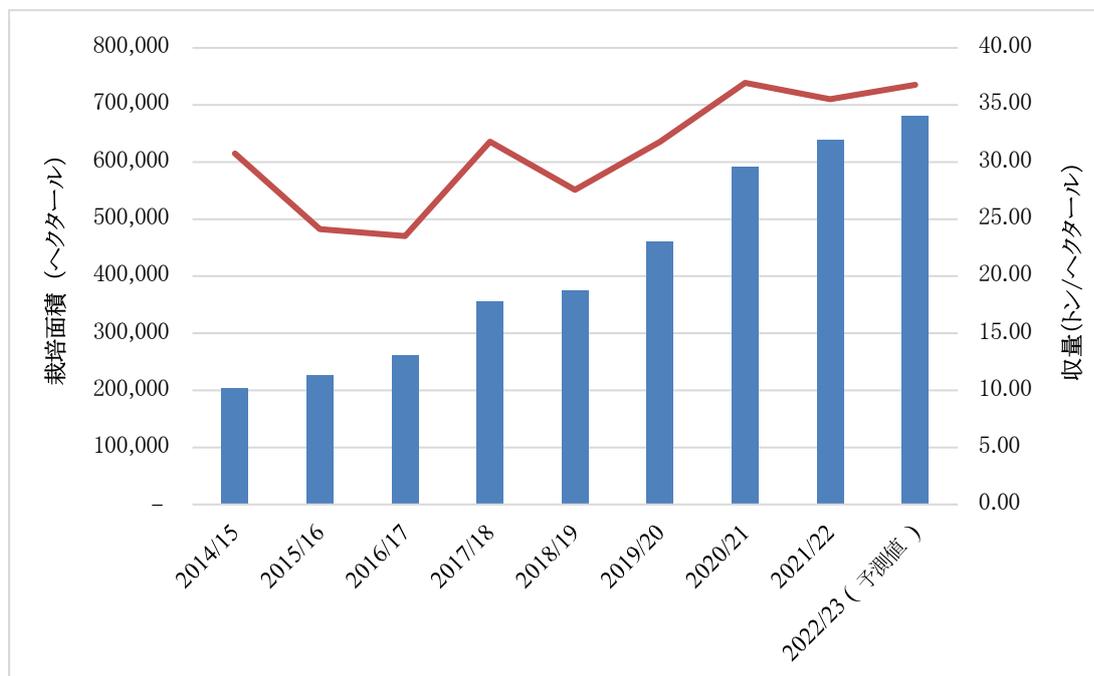
生産

当事務所は、2022/23年度のタンジェリン/マンダリンの生産量を6%増の68万トンと予測する。十分な降雨により主要産地で灌漑用の水資源が確保されている。また、多くの新植園地が成園化している。

タンジェリン/マンダリンの生産量は、2021/22年度に前年度の59万1千トンから8%増加して63万9千トン

となった(図6)。これは、栽培面積の拡大、生育に適した気象条件、新しい果樹園に保護ネットを備える最近の傾向に基づいており、南アフリカにおける水効率、収量、及びソフト柑橘類の全体的な品質が向上した。

図6 タンジェリン/マンダリンの生産量の推移



出典: 柑橘類生産者協会 (CGA) 及び当事務所推計/予測

輸出

当事務所は、2022/23年度の南アフリカのタンジェリン/マンダリン輸出量を、生産量の増加と輸送コストの正常化により7.5%増で史上最高の56万トンと予測する。南アフリカは2021/22年度に52万565トンのタンジェリン/マンダリンを輸出し、前年度の50万6,768トンから3%増加した(表7)。

表7 南アフリカの生鮮タンジェリン/マンダリン輸出量

輸出先	2020/21(トン)	2021/22(トン)	増減率	2021/22 1~4月(トン)	2022/23 1~4月(トン)	増減率
オランダ	107,572	101,995	-5.2%	3,225	5,496	70.4%
英国	87,359	87,821	0.5%	5,034	7,143	41.9%
米国	43,665	53,489	22.5%	0	67	-
ロシア	39,600	51,336	29.6%	644	5,142	698.4%
アラブ首長国連邦	39,997	39,962	-0.1%	21	275	1209.5%
中国	24,098	23,117	-4.1%	0	23	-
カナダ	20,497	22,906	11.8%	352	747	112.2%
バングラデシュ	33,598	21,762	-35.2%	0	110	-
ポルトガル	9,651	10,853	12.5%	0	71	-
マレーシア	6,748	10,744	59.2%	6	45	650.0%
香港	6,866	9,475	38.0%	0	0	-
サウジアラビア	9,357	9,437	0.9%	0	24	-
アイルランド	7,797	8,288	6.3%	729	1,010	38.5%
イラク	10,112	6,137	-39.3%	45	0	-100.0%
台湾	4,486	6,020	34.2%	0	0	-
インド	2,917	5,161	76.9%	0	0	-
セネガル	5,189	4,997	-3.7%	0	0	-
フランス	5,459	4,461	-18.3%	0	0	-
その他	41,800	42,604	1.9%	640	848	32.5%
合計	506,768	520,565	2.7%	10,696	21,001	96.3%

出典: Trade Data Monitor

EUと英国は南アフリカのソフト柑橘類の最大の海外市場であり、総輸出量の45%を占め、米国(10%)、ロシア(10%)、アラブ首長国連邦(8%)、中国(4%)がそれに続く。タンジェリン/マンダリンの輸出は、これまでのところEU市場で南アフリカにおける柑橘類の黒星病(CBS)の影響を受けていない。しかし、すべての柑橘類の輸出と同様に、ソフト柑橘類の輸出は、輸送コストの上昇、国内の港湾の課題、道路網の劣化の影響を受けている。さらに、EUや英国などの主要市場では、消費者へのインフレ圧力と予想される経済成長の減速のため、ソフト柑橘類の需要が鈍化している。

米国のアフリカ成長機会法(AGOA)に基づく南アフリカから米国へのソフト柑橘類の輸出は、過去5年間で指数関数的に増加し、2017/18年度の1万3,695トンから2021/22年度には5万3,489トンに増加した。この増加傾向は、AGOAの下で免税市場へのアクセスが継続することを前提として、「皮を剥きやすい」品種に対する消費者の嗜好の拡大により今後も続く予想される。2021/22年度には、米国は南アフリカの3番目に大きなタンジェリン/マンダリンの輸出市場であった(表7)。

表9 南アフリカのタンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮) 販売年度 南アフリカ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年2月～翌年1月		2022年2月～翌年1月		2023年2月～翌年1月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	26,150	26,137	28,000	26,677	28,225	26,977
収穫面積(ヘクタール)	16,000	16,000	18,000	18,000	20,000	18,500
結果樹本数(千本)	9,000	9,000	10,500	10,500	12,000	12,000
未結果樹本数(千本)	3,500	3,500	5,000	5,000	4,950	4,950
果樹本数合計(千本)	12,500	12,500	15,500	15,500	16,950	16,950
生産量(千トン)	591	591	630	639	670	680
輸入量(千トン)	3	3	3	3	3	3
総供給量(千トン)	594	594	633	642	673	683
輸出量(千トン)	507	507	520	521	560	560
生鮮国内消費量(千トン)	43	43	45	45	48	50
加工仕向量(千トン)	44	44	68	76	65	73
総仕向量(千トン)	594	594	633	642	673	683

<レモン/ライム>

栽培面積

南アフリカのレモン/ライムの栽培面積は、世界的な需要の改善と価格の上昇に牽引され、過去7年間で2倍以上となった。しかし、レモン/ライムの栽培面積の増加傾向は、生産者が受け取る輸出価格の弱気な動向により、近年弱まっている。当事務所は、この状況は2022/23年度も続き、果樹の新植本数は古い果樹園の更新に過ぎず、栽培面積はほぼ横ばいの1万7,550ヘクタールと予想する。レモンの栽培面積の拡大ペースは鈍化しており、樹齢6～10年の果樹園が50%を占めているのに対し、樹齢5年以下の果樹園は総面積の14%に過ぎない。

レモンの主要産地である東ケープ州では、2022年11月に降雹被害があり、2022/23年度の収穫面積に影響を生じる可能性がある。また東ケープ州のレモン産地では、生産者らは2021/22年度の収穫期間中に労働者のストライキの影響を受け、収穫が約3週間遅れ、果実の品質に影響が出た。さらに、2021/22年度には輸送コストが高く、国内市場に出荷されるか加工用に売却されるクラス2及びクラス3の果実が増加し、収益性が低下して、生産拡大への投資が制約された。当事務所の情報提供者らは、昨年産のレモンの一部は、売り先が無いために利用されなかったことを確認している。

南アフリカのレモン/ライムの最大の産地は東ケープ州で、総栽培面積の42%を占め、リンポポ州(32%)と西ケープ州(14%)がそれに続く。南アフリカで栽培されるレモンで最も人気がある品種はユーレカ(Eureka)で、総面積の75%を占め、リスボン(Lisbon 8%)と2Ph シードレス(2Ph Seedless 6%)がそれに続く。

生産

当事務所は、東ケープ州で雹の被害によって収量が減少することから、2022/23年度のレモン/ライムの生産量を13%減の65万3千トンと予測する。2021/22年度には、南アフリカは過去最高の74万8千トンのレモン/ライムを生産し、これは2020/21年度の62万7千トンよりも19%多かった。

輸出

2022/23年度の南アフリカのレモン/ライムの輸出量は、2%増で史上最高水準の57万トンと予測される。この推計は、輸出可能なレモンの生産量の増加、EU・英国市場の持続的な成長、及び中東・アジア市場の需要の伸びの予測に基づいている。

当事務所は、2021/22年度の南アフリカのレモン/ライムの輸出量を、2020/21年度の49万9千トンより12%多い55万7千トンと推定する。2021/22年度年には、東ケープ州で収穫期に労働者のストライキがあり、クワズールナタール州では洪水が北部のレモン産地とダーバン港を結ぶ道路インフラに損害を与えたにもかかわらず、レモンの輸出量は増加した。EUと英国は依然として南アフリカのレモン/ライムの主要な輸出市場であり、2021/22年度の総輸出量のほぼ50%を占めた。総輸出量の7%を占めるロシアへのレモン/ライムの輸出量は、2021/22年度にも横ばいであり、ロシアとウクライナの紛争の影響が限定的であることを示している。

中国へのレモンの輸出は、2021年8月に低温処理の要件が緩和された後、2021/22年度には10倍以上の約9千トンに増加した。南アフリカは世界的なレモンの主要輸出国であるが、中国へのレモンの輸出は昨年まで、果実に低温障害とそれに伴う腐敗を引き起こす低温処理の要件によって制約されていた。この輸出手順の変更により、将来的には南アフリカ産レモンの中国への輸出が強化されると予想される。

表12 レモン/ライムの生産需給統計

レモン/ライム(生鮮) 販売年度 南アフリカ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年1月～12月		2022年1月～12月		2023年1月～12月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	18,057	17,744	18,200	17,555	18,300	17,550
収穫面積(ヘクタール)	14,000	12,421	14,500	12,289	15,000	13,000
結果樹本数(千本)	7,500	7,500	8,410	8,410	8,700	8,700
未結果樹本数(千本)	2,900	2,900	2,140	2,140	1,910	1,910
果樹本数合計(千本)	10,400	10,400	10,550	10,550	10,610	10,610
生産量(千トン)	627	627	650	748	660	653
輸入量(千トン)	2	2	3	3	3	2
総供給量(千トン)	629	629	653	751	663	655
輸出量(千トン)	499	499	560	557	570	570
生鮮国内消費量(千トン)	27	27	28	35	30	45
加工仕向量(千トン)	103	103	65	159	63	40
総仕向量(千トン)	629	629	653	751	663	655

<オレンジ果汁>

製造

当事務所は、2022/23年度のオレンジ果汁の予測製造量を前年度比4%減となる3万1,313トンに下方修正する。この変更は、オレンジの加工仕向量の減少に基づく。2021/22年度には、南アフリカは過去最高の3万2,500トンのオレンジ果汁を製造し、南アフリカにおけるコロナ関連の厳格な封鎖措置により加工が大幅に制限された前年度から47%急増した。このことは、輸送コストが高いためにクラス2の果実がロシア向けの輸出から国内市場向けに転用され、それらの果実の一部がその後加工用に販売されたことにも一部起因していた。

当事務所の情報提供者らは、計画停電(負荷制限)中に発電機を動かすための燃料需要の増加により、加工コストが大幅に増加したことを示した。果汁は品質を維持するために一定の温度に保つ必要があることか

ら、途切れることのない電力供給は加工部門にとって重要である。業界は、周年供給を確保するために、前シーズンからの持ち越し在庫を保持している。濃縮オレンジ果汁は、南アフリカで製造されるオレンジ果汁全体の少なくとも90%を占めている。柑橘類業界は、生鮮柑橘類の輸出を優先し、輸出基準を満たさない果実のみを加工している。

オレンジ果汁の業界統計は、南アフリカではほとんど利用できない。製造、消費、在庫水準のデータは、様々な情報源、情報提供者、及び生鮮オレンジの加工仕向量に関するデータから得られた情報に基づく当事務所の推定及び予測を表している。

輸出量

当事務所は2022/23年度のオレンジ果汁の輸出量を、原料果実の加工仕向量の減少により、2021/22年度の2万5,883トンより8%少ない2万3,850トンと予測する。すべてのオレンジ果汁の輸出データを、それぞれの変換係数に基づいて、以下の輸出表に示される65度ブリックス相当量に換算した。HS200919のオレンジ果汁の輸出量は係数1.02を使用して変換し、HS200912のオレンジ果汁の輸出量は係数0.18を使用して変換した。HS200911のオレンジ果汁の輸出量は、すでに65度ブリックスに相当するため、変換しなかった。度数ブリックスは、糖度に基づく果汁の濃度を表す。すなわち、65度ブリックスは、そのオレンジ果汁100グラム当たり少なくとも65グラムのスクロース(ショ糖)を含んでいることを意味する。(原文のまま)

南アフリカは、主にエスワティニ、ボツワナ、ナミビア、レソト、ジンバブエ等の南部アフリカ諸国にオレンジ果汁を輸出している(表13)。しかし、ヨーロッパも依然として南アフリカのオレンジ果汁の重要な市場である。南アフリカは米国へのオレンジ果汁の輸出量を2020/21年の158トンから2021/22年には1,229トンに670%増加させた。2022/23年度の南アフリカから米国へのオレンジ果汁の輸出量は、1月から4月までの貿易量がすでに2021/22年度の総輸出量を上回っており、増加するものと予想される。

表13 南アフリカのオレンジ果汁輸出量(HS200919、HS200911、HS200912)

輸出先	2020/21(トン)	2021/22(トン)	増減率	2021/22		2022/23		増減率
				1~4月(トン)	1~4月(トン)	1~4月(トン)	1~4月(トン)	
オランダ	5,850	7,087	21%	687	3,024	340%		
エスワティニ	3,071	2,964	-3%	1,417	980	-31%		
ボツワナ	3,715	2,804	-25%	724	2,121	193%		
ナミビア	2,052	1,908	-7%	583	785	35%		
イスラエル	470	1,606	242%	50	615	1,130%		
ジンバブエ	900	1,229	37%	906	142	-84%		
米国	158	1,000	533%	27	1,061	3,830%		
レソト	1,106	916	-17%	135	255	89%		
エチオピア	223	746	235%	188	242	29%		
その他	4,658	5,623	21%	1,588	2,832	78%		
合計	22,203	25,883	17%	6,305	12,057	91%		

出典: Trade Data Monitor

表14 南アフリカのオレンジ果汁の生産需給統計

オレンジ果汁 販売年度 南アフリカ	2020/2021		2021/2022		2022/2023	
	2021年4月~翌年3月		2022年4月~翌年3月		2023年4月~翌年3月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
原料の加工仕向け量(トン)	123,000	123,000	174,000	180,000	184,000	155,000
期初在庫量(トン)	16,890	16,890	12,150	12,150	15,920	12,365
製造量(トン)	22,140	22,140	31,320	32,500	33,120	31,313
輸入量(トン)	1,823	1,823	1,000	798	1,000	1,000
総供給量(トン)	40,853	40,853	44,470	45,448	50,040	44,678
輸出量(トン)	22,203	22,203	21,550	25,883	25,000	23,850
国内消費量(トン)	6,500	6,500	7,000	7,200	7,500	7,500
期末在庫量(トン)	12,150	12,150	15,920	12,365	17,540	13,328
総仕向け量(トン)	40,853	40,853	44,470	45,448	50,040	44,678

(令和4年度3月分)

219. オーストラリア 園芸作物輸出は出荷額の増加に伴い回復

FreshPlaza (2023年3月1日)

ホートイノベーション(Hort Innovation)社が発表した新しい業界データ(オーストラリア園芸統計ハンドブック)によると、園芸作物の主要輸出国としてのオーストラリアの地位は、コロナ禍と貿易・貨物輸送の混乱の長引く影響から回復する兆しを見せている。

今回の輸出額の数字は過去最高であった2019/20年度の27億5千万豪ドルには戻らなかったが、輸出量が少なかったにもかかわらず、輸出額は前年度比4%増の24億7千万豪ドルとなった。フレッシュロジック(Freshlogic)社の執行役員でオーストラリア園芸統計ハンドブックの編纂にも協力したマーティン・ニーボーン氏は、本日の報告書の発表に際し、輸出は業界の経済的基盤の大きな部分を占めていると語った。

同氏は、「オーストラリアは真摯な輸出国であり、我々にはもはや観客でも投機家でもない。また、国内市場でもっと良い価格を得ることができるからと言って、輸出品を出したり止めたりしない。そうした日々は過去のものであり、我々はいくつかの主要品目のおよそ50~60%を輸出市場に供給することを約束している。それは、そうした取組みを始めようとする数量の少ないいくつかの品目にとって素晴らしいお手本となる。我々の国内市場は有限である。人口増加率は約1~2%なので、この業界を伸ばすとすれば、それは輸出が成功している場合であり、現状は良いスタートだ」と述べた。

ホートイノベーション社の業界アナリストであるルーシー・ノーブル氏は、輸出は園芸産業の成長に向けた基本的な道筋であると付け加え、「輸出は園芸作物の総出荷量の11.53パーセントを占めている。したがって、過去10年間の業界の出荷額の伸びを見ると、輸出がその期間に、この業界にとって最大ではないにしても最大級の役割を果たしてきたことは驚くほど明白である。園芸作物全体を見ると、野菜を除くすべての品目で輸出額が増えている。生食用ブドウとオレンジは依然として輸出額の多い果実の2大品目であり、2品目合わせて果実の輸出額の57%を占めている」と述べた。

園芸統計ハンドブックは毎年2月に発刊され、果実、野菜、ナッツ類、その他の園芸作物(苗、芝、切り花)の4つのカテゴリーに関する前会計年度のデータを収録している。今年の数値によると、園芸部門全体の出荷額は増加したが、出荷量は1%減の655万トンとなった。ただし、2年前よりはわずかに多かった。

2021/22年度のオーストラリアの園芸農業の総出荷額は156億2千万豪ドル(前年比3%増)で、2012/13年度の61億5千万豪ドルから増加した。ホートイノベーション社のブレット・フィフィールドCEOは、「オーストラリアは2012/13年度よりも85万トン多く青果物を出荷している。これは、この業界が過去10年間、平均して毎年約6億8千万豪ドルずつ(原文のまま)出荷額を増やしていることを意味する」と述べた。

生食用ブドウ(9千万豪ドル増加)、スイカ(2,700万豪ドル増加)、マンゴー(1,700万豪ドル増加)、マンダリン(1,400万豪ドル増加)、ライチ(1千万豪ドル増加)、ネクタリン/モモ(800万豪ドル増加)など、果実の一部の品目は2021/22年度に出荷額が増加した。

ノーブル氏は、「果実全体では、2021/22年度に2億3,730万豪ドル減少(4%減)した。しかし、昨年出荷額が減少した果実も、長期的には明らかに成長を遂げている。これは特にブルーベリーで見られ、出荷量と出荷額の両面で過去10年間に3倍になり、農場出荷額は現在4億豪ドルを超えている。ベリー類業界と柑橘類業界ではその性質と成熟度が異なるが、柑橘類については、同じ期間の出荷量の増加は2倍に満たなかったが、出荷額は2倍以上になったと承知している」と述べた。

オーストラリア園芸統計ハンドブック2021/22の全文は [こちら](#)

執筆者: マット・ラッセル

(野菜に関する記述は省略しました。2023年3月1日現在 1豪ドル=約92円)

220. 世界の洋ナシ市場

FreshPlaza (2023年3月3日)

世界の洋ナシ市場は安定しているようで、小玉を中心に需要が増加して良い値段が付いている。ベルギーの洋ナシ市場は好調で、先月は価格が30%急騰し、小玉の需要が高くなっている。一方、ドイツでは南アフリカ産をはじめとする海外からの供給が増加している。スイスでは有機果実市場で前向きな進展が見られ、またクラブ品種の概念への認識が高まっている。イタリアでは大玉の不足が価格を押し上げ、スペインでは収穫量は少ないが、大玉をはじめとする数量不足のため価格と販売は良好である。南アフリカでは、一部の主要産地が降雹被害を受けるなどの悪天候により出荷量が減少した。収量の低下は輸出に大きな影響を与えると予想されるが、中国市場でのフォレール (Forelle) 品種など赤みがさした洋ナシの導入は、新たな機会を生み出すことが期待されている。一方、北米では、洋ナシ生産者が果実を宣伝し、若い消費者を惹きつけることを目指している。アルゼンチンの輸出業者は高インフレ、政府による価格と為替の管理、資機材の輸入の難しさなどの課題に直面しているものの、洋ナシの出荷量は増加が見込まれている。



オランダ：コンフェレンス品種の価格は1月に反発した後に安定

苦戦しているリンゴ市場とは対照的に、オランダにおける今年の洋ナシの販売は満足な状況で進んでいる。ドワイエンネデュコムス (Doyenné du Comice) 品種のシーズンは終わり、オランダ産の供給はコンフェレンス (Conference) 品種とギーザーウィルデマン (Gieser Wildeman) 品種に限られた。オランダのある果実商は、ドワイエンネデュコムス品種のシーズンは順調に進んだと言い、「価格面では、今シーズンは満足のいくものだった。イタリアも今年は多くのコムス品種を収穫したが、カメムシの問題により、洋ナシの収穫量が毎年少なくなっていることがわかる。コンフェレンス品種の販売も安定している。価格はシーズンを通してかなり良かった。1月には価格の反発が見られたが、現在は安定している。ヨーロッパと海外の両方で幅広い需要がある。しかし、今年は全体的に斑点のある洋ナシが多い」と述べた。

ベルギー：シーズン後半は順調

シーズン後半の洋ナシ市場は順調に進んでいるようである。ベルギーのある輸出業者は、「現時点では、洋ナシ市場の妨げになるものは何もない。需要は良いと言える。価格は先月約30%上昇したため、これも良いと感じることができる。現時点ではやや停滞しているが、特にベルギー産の小玉の洋ナシが今のところ好調であることは注目し値する。大玉は少し難しい。価格についても、先月小玉は上昇したが、大玉はむしろ下落したか、または横ばいであった。これはまた、小玉が国外では一層少ないため、ベルギーで大量に購入されているためでもある」と語った。

ある生産者は、洋ナシ市場については特筆すべきこともないが、「幸いなことに」状況はリンゴほど悪くはないとして、「去年は良い年であったが、今年はコストを回収しているだけだ。確かに、適期に収穫された洋ナシ

シは、出荷シーズンの後半に向けてよく保存されている。収穫が遅れた洋ナシは、品質の変化がすでに発生しているため、あまり長く保管できない」と語った。

ドイツ：海外からの供給が増加

イタリア、オランダ、ベルギー及びドイツ国内からの洋ナシの供給は減ってきている。需要はわずかに増加しているが、市場には主に小玉が入荷している。

一方、南アフリカからの供給は増加しており、ボンクレティエン(Bon Chretien)、ローズマリー(Rosemarie)、セリーナ(Celina)、チーキー(Cheeky)の各品種が多い。全体的に、海外産の洋ナシの品質は非常に満足のいくものであり、それが市場で人気を集めている理由である。価格は全般的に昨年よりやや低くなっている。

特にボーデン湖(ドイツ、オーストリア、スイスの国境に位置する湖)地域では、セニア(Xenia)品種が、慣行栽培と有機栽培の両方で、過去数年で定着してきている。2022年9月1日以降、ドイツ果実品種コンソーシアム(DOSK)がドイツにおける独占的ブランドライセンスを有している。

スイス：有機とクラブ品種が増加

スイスの洋ナシ市場は、有機果実を中心に前向きな発展を示している。2022年12月にスイスの小売業者は191トン以上の有機洋ナシを販売し、これは前年同月に比べて39%多かった。12月として2017年以来最高の有機洋ナシ販売額は、国内の洋ナシの収穫が昨年非常に好調であったことの結果でもある。スイスの小売業でもクラブ品種への認識が高まっている。バリコム(Varicom)社が開発した果皮が赤い洋ナシ品種フレッド(Fred)は、2018年のブランド立ち上げの成功以来急速に重要性を増しており、現在、西ヨーロッパの従来からの洋ナシ産地すべてで栽培されている。昨年、スイスの洋ナシ生産者は合計で約200トン収穫した。

イタリア：大玉の不足が価格を押し上げる

イタリアの洋ナシ市場は、大玉については堅調であった。イタリア北部のある有力業者は、「今年は大玉の不足のため、特にアバテ(Abate)やウィリアム(William)など高価格な主力品種の値段が高くなっている。一方、サンタマリア(Santa Maria)とカイザー(Kaiser)の両品種は、需要と価格の面で難しい」と述べた。

この業者は、サイズ65(小玉)のアバテや他の品種は大量にあるため、低価格で販売されていると説明する。「洋ナシは競り売りされる商品であるが、外国の市場では他の洋ナシとの競争がある。イタリア市場でも外国産の存在感が高まっている。それは価格の安いベルギー産とオランダ産のコンフェレンス品種だ」と説明し、「イタリア産の洋ナシは国外でもベルギー産やオランダ産との競争が激しい」と述べた。

イタリア統計局(Istat)編纂のデータによると、フェラーラ県(エミリア・ロマーニャ州)の全地域で、洋ナシの栽培面積は2013年から2022年の間に約22,000ヘクタールから15,000ヘクタール強に減少し、アバテ品種をはじめとする伐根は、2023年も止まりそうもない。

GfK消費者パネルのデータによると、イタリアでの洋ナシの購入頻度は安定しており、過去12か月間に全世帯数の52%が購入した(2年前は57%)。これは季節に左右され、9~11月にかけては最も高い21%~23%近くであり、6~8月は最も低い11~14%である。有機栽培品は購入促進の機会を提供している。

スペイン：国内産の収穫量は減少したが価格と販売は良好

スペインの洋ナシ市場は、大玉を中心に全般的に品不足のため、価格と販売が好調である。4月の降霜のため、リエイダ県(カタルーニャ州)、アラゴン州、ナバラ州では収穫量が約30~35%減少した。一部の地域では、最大60%減収した。その後夏には、6月と7月の熱波が果実のサイズに影響を与え小玉化した。さらに、悪天候のためにかなり多くの果実が変形し、また果実の損失も全般的に高まった。

コンフェレンス品種の販売は、ベルギーとオランダでも出荷量が大幅に減少したため好調である。ウィリアムズ(Williams)品種とバートレット(Bartlett)品種も良い価格でよく売れている。他方、ある輸出業者によると、ブランキージャ(Blanquilla)品種の需要は減少傾向が続いている。トルコが数年前に今も人気が高まっているサンタマリア品種を導入するまでは、イスラエルがブランキージャの大輸入国であったとこの業者は説明する。ギリシャも過去にスペイン産ブランキージャを輸入していたが、その後自ら栽培を初め、今では自給している。

生産コストは1年間で30%上昇し、さらに上昇を続けており、この部門の最大の懸念事項の1つである。

フランス：市場はリンゴよりも影響が少ない

フランスのある市場運営者は、今年の洋ナシ市場はリンゴ市場よりもはるかに「流動性」があり、「市場は、非常に難しい状況のリンゴよりも影響が少ない。ヨーロッパでは供給過剰はなく、価格は世界的に昨年と同程度である」と述べた。

量が少なければ、通常コムス品種で発生する問題は今年は起こらない。ただし、ますます暑く乾燥した気象条件のため、小玉化していることに留意すべきである。南半球産は来週の南アフリカ産から始まる。

南アフリカ：悪天候が収穫と輸出に影響

天候が南アフリカの洋ナシ輸出の見通しに影響を与えている。一部の洋ナシ産地での降雹の影響がより明確になっている。当初、洋ナシの出荷量は6%減(12.5kg箱で2千万箱弱)と推定されていたが、ある有力大規模生産者は、最終的には8%または9%に近づく可能性があるとして述べている。

輸出シーズンのこの初期段階では、年初からこれまでの出荷は前年に比べ、ヨーロッパ向けが40%、英国向けが57%下回り、中東向けは14%減少した。一方、量的には、これまでのところほとんどが中東とヨーロッパに送られており、第3位はロシアである。ロシアと極東への輸出はそれぞれ30%及び38%増加した。

今年は、南アフリカが新しい市場である中国に大量の洋ナシを送る最初の年であり、フォレール(Forelle)品種のような赤みがさした洋ナシの中国での販売機会が注目されている。フォレールの収穫はまだ始まっていないが、約400万箱の通常の出荷量に戻ると予想されている。

ウィリアムズボンクレティエン(Williams Bon Chretien)品種は全体で31%減少したが、降雹の影響を受けた地域の1つであるセレス地域(西ケープ州)では39%減少した。

かなりの日焼け被害があるが、ある果実業者の技術部長は、ドレーブネット(防護ネット)を設置した生産者は、日焼けの発生率を確実に減らしており、投資の効果を得られると言う。

こぶがありごつごつしたパッカム(Packham)品種は特に出荷量が少なく、セレス地域では約40%が果汁用に仕向けられている。ある梱包施設の管理者は、「パッカムはかなりの風害を受けている。現在のパッカムのような貧弱な出荷量は久しぶりで、間違いなく他の年よりも風が強い」と述べた。

出荷率の低下も、パッカムの輸出量減少の要因である。たとえば、2級品のパッカムをロシアなどの市場に輸出するには、梱包と輸送のコストが高くなりすぎている。輸出業者らは、通常のEU規格1級品のパッカムの市場は縮小していると言い、包装コストが毎年大幅に上昇しているため、ある輸出業者によると洋ナシを出荷することは「とんでもなく高価」になっている。

梱包所は現在、高品質のパッカムのみを選別し、極東向け(インドネシア、マレーシア、インド、及びある程度は香港にも)に出荷している。輸出価格は圧迫されており、需要は鈍い。国内市場の平均価格は7.44ランド/kgで、今月も横ばいと予想される。(2023年3月上旬現在 1ランド=約7.3~7.5円)

北米：プロモーションを推進

北米では洋ナシが販売促進可能な状況になった。ワシントン拠点とするある生産出荷業者は、「弊社では一部の品種と有機栽培品の出荷の終盤に差し掛かっているが、緑と赤のダンジュー(d'Anjou)品種は十分に供給されており、積極的な販売促進ができる。バートレットのような貯蔵期間の短い品種は終わりに近づいており、ボスク(Bosc)品種も同様である」と言う。(北米の項で「」はこの業者の発言)

現時点では供給量は昨年と同様のようなのだが、太平洋岸北西部では今シーズンの収穫がわずかに遅れて始まった。「収穫は秋に行われるので、現在の小売販売には影響がない。2種類のダンジューは販売促進するだけの十分な量がある。」同社のナシはワシントン州のウェナチー地域とエンティアットリバーバレー地域から入荷している。

品質については、特に今、ダンジューの品質が良い。「今は洋ナシの大規模な販促活動を計画するのに理想的な時期だ。特に、季節性の高い果実や春もの、夏ものの果実が入荷して目立って展示スペースを占める前が良い。洋ナシの大きかりな販促活動は、消費者が購入するように惹きつけて販売量を増やすと同時に、洋ナシと青果物売り場全体としての販売額を増やすのにも役立つ。」

需要に関しては良い。しかし、生産者や出荷業者はこの果実にスポットライトを当て続けてほしいと思っている。「我々は消費者の心に洋ナシを留めておく必要があり、人々、特に若い世代にもっと多くの洋ナシを楽しんでもらう余地がある。消費者が洋ナシを簡単に楽しめるようにし、素晴らしい風味体験と、買った洋ナシが購入後すぐに食べられるという信頼を提供することが重要だ。」

アルゼンチン：生産量の顕著な増加が見込まれる

米国農務省の報告書は、アルゼンチン国立農産食品衛生品質局 (SENASA) が今年示した予測 - ウィリアムズ品種は1月8日まで、パッカム品種は1月2日まで - に基づき、アルゼンチン産洋ナシの出荷量は良好な気象条件により25%増加するとともに、北半球諸国からの供給の減少により、2023年は輸出も増加すると予測している。

数字としては、米国農務省によると出荷量は70万トンに達し、前年比4%減であった2022年の56万トンから大きく増加する。一方、輸出量は32万5千トンに増加し、前年比9%減少した2022年にアルゼンチン果実生産者会議所 (CAFI) が記録した27万7,500トンから大幅に増加する。

しかし、米国農務省の報告書が指摘しているように、「これらの生産と輸出の増加予測にもかかわらず、アルゼンチンの輸出業者らは引き続き、その競争力に悪影響を与える国内の困難な経済状況に直面している。高いインフレと政府による価格と通貨の統制は、市場の歪みを生み出しており、長期的な事業計画を困難にしている。政府はまた、果樹産業が必要とする投入資材を輸入することをますます困難にしている。」(以下、「」は米国農務省の報告書からの引用)

米国農務省は、「これらの課題の結果として、生産者は機材・設備の整備と新品種への改植に必要な投資を先延ばしにした」と指摘し、「防霜施設と二目的 (灌漑と防霜) 灌漑施設を備えた園地1ヘクタールに新しい品種を植えるコストは約5万ドルであり、リンゴまたは洋ナシの生産コストは、果実契約表によると1果実当たり0.26ドルと推計される」としている。

さらに、「アルゼンチン通貨 (ペソ) の為替レートへの積極的な介入、人件費とエネルギーコストの上昇、世界的な機材不足による冷蔵コンテナ運賃の急激な上昇など、多くの要因が近年、生産者の収益性にとって重要な課題をもたらしている」ことは事実である。今年にはさらに、ロシアとウクライナの紛争が追加された。

「2022年2月にロシアがウクライナに侵攻し、船会社がロシアの港への寄港をキャンセルし始めた時、洋ナシの最初の荷はアルゼンチンからロシアに向かう途中であった。輸出業者らはコンテナを他の目的地に振り替えなければならず、場合によっては、ヨーロッパ市場に適さない果実をEUの港で降ろさなければならなかった。また、追加の物流コストをかけてトルコなどの最寄りの港を使用しなければならない場合もあった。局地的な供給過剰と輸送時間の延長は果実の状態に影響を与え、価格に悪影響を及ぼしたため、通常は生鮮市場で販売されるはずの果実が割安な価格で加工用に販売された。」

「しかし、2022年の後半には、通常は柑橘類を積み込む設備を使用して、カンパーナ港 (アルゼンチン) からサントペテルブルク (ロシア) に向けて一部の貨物が出荷された。この代替案は、アルゼンチンがより短い輸送時間で1万8千トンの洋ナシをロシア市場に輸出するのに役立った。」

それでも、2022年のリオネグロとネウケンの両地域からロシアへの洋ナシの輸出量は、37%減少した。

ブラジルは昨シーズン、4%増の10万1,785トンを入力し、アルゼンチン産洋ナシの最大の輸出先であった。

221. NZホークスベイ地方 リンゴ園のサイクロン被害は約4千ヘクタール

FreshPlaza (2023年3月6日)

ニュージーランドのホークスベイ地方のリンゴ園被害に関する新しい分析によると、リンゴのほぼ半分が何らかの形でサイクロンガブリエルの影響を受けた。

ニュージーランド・リンゴ・ナシ協会のリチャード・パンター会長は、リンゴ園の47%が影響を受けており、被害の程度は3つのカテゴリーに分類されると述べた。

カテゴリー1は、完全に破壊された果樹園で、果樹やインフラが流失し、全面的な再建が必要である。

カテゴリー2は、完全に水没した果樹園で、土砂が園内に深く堆積しており、深刻な枯死につながる。

パンター氏によると、これら2つのカテゴリーを合わせると、ホークスベイ地方の栽培面積の約25%、すなわち約2,100ヘクタールに及ぶ。

カテゴリー3の果樹園は収穫率が低下する「収穫可能」に分類され、園地は浸水し果樹も水に浸かったが、一部の果実は収穫可能である。

パンター氏は、約1,800ヘクタールがカテゴリー3に該当するため、影響を受けた面積は合計約3,900ヘクタールであると述べた。

出典: rnz.co.nz

222. オーストラリア 国内外の堅調なブドウ市場に期待

FreshPlaza (2023年3月10日)

オーストラリアのブドウ生産者らは、困難な年が2年続いた後、今年は良い出荷シーズンを楽しみにしている。今年の収穫は2~3週間遅れて始まったが、果実は大変見栄えが良く、遅れを取り戻し始めている。

同国のブドウの75%、輸出されるブドウの98%が栽培されているサンレイシア地域の主要産地では、天候に恵まれる中、収穫作業が進んでいる。

オーストラリア生食用ブドウ協会のジェフ・スコットCEOは、作物は天候の悪影響を受けていないとして、「降雨の影響を受けた生産者も一部にいるが、大部分は影響を受けていない。出荷量については平年並みと見込まれており、一部の品種はやや減収するが、我々の主力品種であるクリムゾンは大変良好なようだ」と述べた。(以下、「」は同CEOの発言)

オーストラリア産ブドウのほとんどはアジアに輸出されており、その大部分は中国向けである。

「中国が渡航禁止令を解除したので、中国の輸入業者は果樹園に来て果実を直接見て歩いている。また、タイ、韓国、フィリピン、ベトナムなど、他のアジア諸国の輸入業者も来ている。オーストラリアは昨年、ベトナムへのブドウの輸出を倍増させた。国内市場も好調で、小売業者が出始めのブドウを良い価格で買い付けるため、輸出は量を抑えてきたが、先週は輸出量が2倍になり輸出も動き始めている。」

同CEOは、過去2年間は厳しかったが、今年はブドウの品質が良いと述べた。主力品種はクリムゾンとトンブソンであるが、これらの品種の栽培面積は横ばいであり、生産者らは知的所有権のある新しい品種の栽培を増やしている。それらの新しい品種は大変人気があり、輸入業者からの引き合いが強い。

「我々は日本に輸出する品種を増やすよう取り組んでおり、来シーズンには実現したいと思っている。来年にはまた、米国向け輸出の要件が変更され、出荷できるようになる可能性もある。」

執筆者: ニコラ・マクレガー

223. 米国 オレンジ果汁価格は需給関係から強気筋に有利

FreshPlaza (2023年3月9日)

オレンジ果汁の需要が引き続き供給を上回っており、価格は高い水準にとどまっている。水曜日(3月8日)には2.37ドルで取引されており、年初来の高値である2.449ドルと数ポイント差となっている。オレンジ果汁は2019年の最低価格から172%上昇しており、最も上昇率の高い品目の1つとなっている。

需要が供給を上回る

オレンジ果汁は、世界中で広く使用されている重要な商品である。米国におけるオレンジ果汁分野の収益は102億4千万ドルと推定されている。また、各種調査によると、今後数年間の年平均成長率はほぼ2%と予想されている。オレンジの最大の生産国は、ブラジル、中国、及び欧州連合諸国である。

ほとんどの作物と同様に、オレンジは気象関連のリスクの影響を大きく受ける。主要国の降水量は、従来の水準を下回って推移している。一方、人口は増加しているため、需要は今後増加を続けると予想される。

業界で最も重要なニュースは、2022年に発生したハリケーンイアンである。このハリケーンは、ハリケーンイルマによって引き起こされた荒廃からわずか数年後にやって来て、米国最大のオレンジ産地の1つであるフロリダ州を襲った。

政府は最近の報告書で、今シーズンのオレンジ出荷量が56%減少すると記した。業界最大の企業の1つであるアリコ社は、直近の四半期に大きな損失を出した。同社は、通常に戻るには少なくともあと2年かかると見ている。この回復が別のハリケーンによって中断される可能性もある。

他の国々も大きな課題に直面している。ブラジルでは、主要な生産州が大雨に見舞われ、収穫が遅れ、収量が低下した。こうした基本的な背景事情から考えて、オレンジ果汁の価格は上昇を続ける可能性がある。

日足のチャートは、オレンジ果汁の価格が過去数か月に目覚ましい上昇傾向にあることを示している。これは、50日と25日の移動平均線によってサポートされている。ただし、通常は弱気の兆候である「ダブルトップ」のようなパターンが形成されている。

出典: investorsobserver.com

(参考記事) 米国 フロリダ州の柑橘類予測(抜粋)

FreshPlaza (2023年3月9日)

米国農務省農業統計局が公表した2022-23年度のフロリダ州の全オレンジ予測出荷量は1,610万箱で、2月の予測から10万箱増加した。このとおりであれば、これは同州の昨シーズンの確定出荷量よりも61%少なくなる。予測の内訳は、バレンシア以外のオレンジ(早生、中生、ネーブル品種)610万箱とバレンシアオレンジ1千万箱である。

バレンシア以外のオレンジ 610万箱

バレンシア以外の予測出荷量は、10万箱増加して610万箱となった。2023年2月22～23日に実施された樹列調査では、バレンシア以外の早生及び中生の品種(ネーブルを除く)の樹列の94%が収穫されていることが示された。バレンシア以外のオレンジ(ネーブルを含む)の3月1日までの推計出荷量は、認証されていない果実も含め609万箱であり、そのうちネーブルは24万箱である。

バレンシアオレンジ 1千万箱

バレンシアの予測出荷量は2月の予測と同じ1千万箱である。現在の果実のサイズは過去の最小値を下回っており、収穫時にも最小値を下回ると予想され、90ポンド(約41kg)入りの箱を満たすには277玉が必要である。現在の落果率は過去の最大値を上回っており、収穫時点でも最大値を超えると予想される。バレンシアオレンジの収穫はまだ初期の段階にある。(「最小値」、「最大値」はハリケーンイルマの影響を受けた2017-18年度を除く、過去10か年のデータによる。)

224. 世界の海上コンテナ輸送費は正常化の方向

(1)ドリューリー社の世界コンテナ総合指数は前週比3%、前年比80%低下

FreshPlaza (2023年3月10日)

ドリューリー (Drewry) 社が2023年3月9日木曜日に発表した詳細な評価によると、総合指数は前週から3%低下し、昨年と同じ週と比較して80%下落した。

同社の最新の世界コンテナ運賃指数 (WCI) の総合指数は、40フィートコンテナ1本換算 (FEU) 当たり (以下同じ) 1,806ドルで、ピークであった2021年9月の10,377ドルを83%下回っている。過去10年間の平均である2,691ドルより33%低く、通常の価格に戻っていることを示しているが、依然として2019年 (パンデミック前) の平均レートである1,420ドルよりも27%高い。年初来の平均総合指数は1,994ドルで、10年間の平均 (上記の2,691ドル) より697ドル低い。

総合指数は引き続き低下して前週比3%減の1,806.43ドルであり、2022年の同じ週より80%低くなっている。上海 - ジェノバの運賃は8% (190ドル) 下落し、2,287ドルであった。ロッテルダム - ニューヨークの運賃は4% (196ドル) 下落し、5,377ドルとなった。上海 - ロサンゼルスと上海 - ニューヨークの運賃は、それぞれ2%下落し、1,916ドル及び2,707ドルとなった。同様に、ロッテルダム - 上海と上海 - ロッテルダムの運賃もそれぞれ2%低下し、それぞれ702ドル及び1,562ドルとなった。

一方、ロサンゼルス - 上海とニューヨーク - ロッテルダムの運賃はそれぞれ1%上昇し、1,083ドル及び1,165ドルとなった。ドリューリー社は、今後数週間、前週比での微減を見込んでいる。

(2)ゼネタ社のコンテナ運賃アラートのデータは正常化へ

FreshPlaza (2023年3月10日)

オスロ (ノルウェー) に本拠を置くゼネタ (Xeneta) 社の最新の海上貨物運賃データは、極東から北ヨーロッパへのスポット運賃がパンデミック前の水準に戻り、リーファーコンテナ市場の「正常化」が進んでいることを示唆している。これは、実入りリーファーコンテナの短期運賃が、2022年1月の40フィートコンテナ1本換算 (FEU) 当たり (以下同じ) 16,000ドル近くの高値から、今日では約2,300ドルに低下したことを指している。

市場の歪み ゼネタ社のチーフアナリストであるピーター・サンド氏は、「貿易には興味深い動向が見られ、幅広いマクロ経済的要因について雄弁に語っている」と述べ、「コロナ禍の年には、サプライチェーンの逼迫や高い需要による従来パターンの歪みなど、海上貨物市場に新たな現実が生じた。その結果、ドライコンテナの需要が増えて価格を押し上げ、2021年6月にはドライコンテナがリーファーコンテナに比べて3,600ドル以上のプレミアムを獲得するほどであった。この時がピークであったが、(この逆転した) プレミアムは2020年の後半から2022年の半ばまで市場の特徴の1つとなっていた」と説明する。(以下「」は同氏の発言)

値崩れ 「しかし、ゼネタ社のデータは2022年7月以降にドライコンテナとリーファーコンテナの関係が徐々に『正常化』し、リーファー運賃の方が高くなったことを示している。」それ以来、リーファーの方が平均493ドル高くなっている。「昨年の夏以降、渋滞が緩和され、需要が減少し、運送業者が新たな状況に適応するようにネットワークを調整したことで、ドライとリーファーの両方の運賃がそろって低下している。リーファーの運賃は、その期間に1、2回、ドライの運賃を下回ったが、2022年11月以降は下回っていない。運送業者がコンテナの充填率を利益の出る水準まで上げるために貨物を奪い合っていることから、ドライのスポット運賃は依然として低下傾向にあるようで、価格差は現在広がっているようだ。3月初旬までに、リーファーはスポット市場で (ドライより) 1千ドル近く高くなっている。こうした現在の運賃は、パンデミック前のレベルをわずかに上回っているものの、それにかなり近い。」

欠航と不寄港 「価格を記録的な水準に押し上げたリーファーコンテナの不足はもうない。ヨーロッパの冷蔵品輸業者らは、この通常への回復を歓迎している。」しかし、世界の主要貿易ルートで約30%という膨大な量に相当する欠航や不寄港が輸送計画に影響を与えている。「極東への輸送はリーファー輸送の中心地に向かう戻り便であるため、船が全くやって来なければ輸送業者が困難に直面することは明らかだ。」

225. ペルー ブルーベリーの輸出がまた新記録

EUROFRUIT 2023年3月10日

ペルーは今シーズン、新記録となる28万7千トンのブルーベリーを輸出すると見込まれ、これは14億米ドルに相当し、ブルーベリーは輸出額において同国最大の輸出農産物となる。有機ブルーベリーの出荷量は史上最高の3万5千トンに達し、ペルーの総輸出量の12%を占めている。

ブルーベリーの出荷団体であるプロアラランダノス(Proarándanos)のルイス・ミゲル・ベガス事務局長は、今週リマで開催された第14回国際ブルーベリーセミナーで講演し、来シーズンの出荷量は30万トンを超えると確信していると述べた。

ベガス氏は、ヨーロッパでの供給過剰に起因する価格への圧力、生産コスト及び輸送コストの増加、さらに国内での政治的・社会的不安定により、難しいシーズンであったと述べた。同氏は、ペルーのブルーベリー生産量は今後も増加するので、これ以上の価格の低下を防ぐためには、業界として米国や中国などの主要市場での販売促進活動を拡大する必要があると指摘した。

また、同氏は「ペルーの有機栽培ブルーベリーの9%は米国に出荷されている。来シーズンは有機栽培がブルーベリーの総出荷量の15%を占めると予想している」と述べた。

ペルーは、20品種以上のブルーベリーを世界の30以上の国と地域の市場に輸出している。近年、ブルーベリーの出荷が増加するのに合わせ、関係当局は新しい市場の開拓に努めてきた。現在、インドネシア、日本、南アフリカ、韓国、ニュージーランド、ベトナム、アルゼンチン、ボリビア、ドミニカ共和国、エクアドル、オーストラリアの市場へのアクセスを獲得するための交渉が進んでいる。

執筆者：マウラ・マクスウェル

226. 南アフリカ ブドウの出荷が終了間近

EUROFRUIT 2023年3月13日

南アフリカ産食用ブドウの晩生の産地であるヘックスリバーバレー地域では、3月末までに収穫が終了すると見込まれる。南アフリカ生食用ブドウ協会(SATI)は、最大の産地であるヘックスリバーバレー地域での収穫量が予想を下回ったため、輸出量の予測をさらに引き下げた。

SATIは、「総収穫量は、2021/22年度よりも約18.2%少なく、また当初の予測よりも11.4%少なくなると予想される」としている。同地域の生産者らも、4月まで続いた昨シーズンと比較して、今年の収穫は早く終了することを示した。同協会は、「改訂された出荷予測では、輸出のための検査を受ける箱数(4.5kg/箱)は合計6,300万箱±3%と予測される」としている。

同協会は、全国レベルの出荷予測がさらに減少した主な理由は、ヘックスリバー地域の現時点までの梱包済み数量の減少と、ヘックスリバーバレー地域の残りの品種の予想収量の低下によるものであると指摘し、「ヘックスリバーバレーの出荷予測は2,064万箱に修正された。これは、前回の予測と比較して333万箱、すなわち13.9%の減少に相当する」と説明している。

SATIによると、オレンジリバー地域と北部地域の出荷シーズン終了時の数値はそれぞれ1,640万箱及び560万箱であり、また「オリファンツ川地域(300万箱)及びベルク川地域(1,790万箱)の出荷予測は変更がない。」

最新の予測は、コストの増加と物流の問題が大きな障害となった2021/22年度の出荷シーズンに続いて、南アフリカの生食用ブドウ生産者にとって再び厳しい年となったことを示している。

執筆者：フレッド・マインチェス

227. FAO 世界の2022年の熱帯果実輸出量は5%減少

FreshFruitPortal 2023年3月13日

国連食糧農業機関(FAO)の最近の報告書によると、2022年の世界の熱帯果実の輸出量は前年に比べて5%減少した。中でもマンゴー(マンゴスチン、グアバを含む)、パイナップル、アボカドは最も影響を受けた部類だが、対照的にパパイヤの世界合計輸出量は1%微増の37万トンと見込まれている。

世界のマンゴー、マンゴスチン、グアバの合計輸出量は5%減の210万トン、パイナップルの輸出量は1.5%減の320万トン、アボカドの輸出量は6%減の240万トンと見込まれる。一方価格に関しては、報告書は、上記の熱帯果実主要4品目の世界の平均輸出単価が、総じて強い上昇傾向を示しているとしている。

熱帯果実の生産に影響を与える外的要因

メキシコの主要産地における6月の暴風雨とその後の干ばつによる減収が、輸出量の減少の原因である可能性がある。報告書は他方、ペルー、チリ、ケニア、南アフリカなど他の主要生産国からの輸出は緩やかに増加したと見られるとしている。

メキシコ産パパイヤは逆の影響、すなわち、主に「栽培面積の拡大」による約4%の増加を示した。一方、高い航空運賃は、パパイヤのさらなる成長見通しの阻害要因となったとして挙げられている。

ロシアのウクライナ侵攻は、これら両国の熱帯果実市場を混乱させた。それによる減少は、「世界の熱帯果実出荷量の2.4%が、2022年中に目的地の市場に到達する上でかなりの障害に直面したことを意味する」。

全体として、青果物の輸出量の減少は価格の上昇を伴った。報告書は、「アメリカ合衆国の平均指標卸売価格は、主な熱帯果実のほとんどで強い上昇傾向を示している」と記している。

しかし、価格の上昇はコストの上昇によって相殺された。報告書は、投入資材価格の大幅な上昇が同時に生産コストを大幅に上昇させたとして、「輸送コストの上昇と冷蔵コンテナの世界的な不足が相まって、2022年前半にはコストの上昇圧力が高まり、収益が圧迫されたが、これらの圧力の一部は後半には和らいだようだ」としている。投入コストの上昇は、主な熱帯果実生産国へのロシア製肥料の出荷の混乱の影響を受けた。

報告書は、「出荷、貿易、流通における熱帯果実の日持ちの悪い性質を踏まえると、環境上の課題と不十分なインフラは、熱帯果実の出荷と国際市場への供給を引き続き危険にさらしている」と記している。

228. OECD/FAO 2030年までにアボカドが出荷量最多の果実に

FreshPlaza 2023年3月13日

経済協力開発機構(OECD)と国連食糧農業機関(FAO)の農業見通し2021-2030報告書によると、アボカドは2030年までに最も市場出荷量の多い果実になると見られる。

予測によると、アボカドの出荷量は2030年までに、2010年の出荷量の3倍に当たる1,200万トンに達すると見られる。このうち最大390万トンが輸出され、パイナップルとマンゴーの輸出量を上回る。報告書は「この成長は、世界の需要、収益性の高い輸出単価、及び大産地と新興産地の両方における栽培面積拡大への投資によって引き続き推進される」としている。

ラテンアメリカ及びカリブ海地域が主要産地に

現在、上位10のアボカド生産国が世界の出荷量の80%近くを占めているが、2030年においても、生育条件に恵まれたラテンアメリカ及びカリブ海地域が出荷量の約74%を占めると見込まれている。

世界最大のアボカド生産・輸出国であるメキシコは、米国市場の需要の継続的な成長により、今後10年間、年間5.2%の成長が見込まれる。ペルー、コロンビア、ケニアなどの新興輸出国との競争が激化しているものの、メキシコは2030年までに世界での輸出シェアを63%に増やすと予想されている。

出典: [redagricola.com](https://www.redagricola.com)

229. 南部アフリカ諸国の2023年の柑橘類輸出は大幅に減少か

FreshFruitPortal 2023年3月14日

南部アフリカ諸国(南アフリカ、ジンバブエ、エスワティニ)の柑橘類の輸出量は今シーズン、前年の1億6,480万箱から、約14%減の1億4,250万箱に減少する可能性がある。

これは、南部アフリカ柑橘類輸業者協会(CGA)のジャスティン・チャドウィックCEOによる今季最初の予測であるが、一部のマンダリンについては未定であり、2023年4月中旬までに明らかになるとされた。

同氏は「生産者にとって非常に厳しかった昨年に続いて、2023年の輸出シーズンがやって来る。2022年には輸出用の梱包箱数が出荷シーズン開始時の予測よりも570万箱少ない合計1億6,480万箱となり、収支が黒字になった生産者は5人に1人だけであった。直面する課題は、投入資材価格と輸送コストの高騰、さらに多くの生産者にとって果実の市場出荷を商業的に見合わないものにした海上輸送費の天文学的な高騰等である。さらに、出荷シーズンの途中で欧州連合(EU)が導入した不当で差別的な新しいフォールスコドリグモス(FCM)(蛾の一種)規制の導入と公共インフラの劣化の進行及び不安定な電力供給が業界の苦境に加わった」と述べた。

同氏は、これらの課題の多くは2023年も続く予想され、計画停電の拡大や投入資材コストの増加など一部はむしろ悪化しており、出荷予測が2022年と比較して緩やかな成長または減少しか示さない品目も多いと述べた。

次の出荷シーズンについて、次の見通しが示されている。

レモン

現在の予測では、3,730万箱(15kg/箱)が主要市場に輸出され、2022年と比較して260万箱の増加となる。この増加は、西ケープ州、東ケープ州、クワズールナタール州など多くの地域で若い果樹の成木化が進む結果である。しかし、南アフリカ北部での最近の大雨と東ケープ州の降雹は、その影響が具体化すれば、全体的な輸出量を減らす可能性がある。

現在までに80万箱以上のレモンが出荷され、これは2021年より20万箱以上、2020年より33万箱以上多い。中東は依然として輸出量の49%(2021年は46%)を占めている。アジアのシェアは22%(同18%)に、英国は3%(同2%)に増大した。他方、ロシアのシェアは18%(同23%)に、北米は7%(同10%)に縮小した。

ネーブルオレンジ

現在の予測では、来シーズンに出荷されるネーブルオレンジは250万箱(15kg/箱)減少し、輸出数量は合計2,530万箱と見られる。減少の理由は、一部の地域の農場が2023年に輸出しないことを決定したことである。西ケープ州での最近の雹を伴う嵐は、この地域からの出荷量だけでなく、生産者の灌漑能力に関わる現在実施中の計画停電にも影響を及ぼした。

バレンシアオレンジ

バレンシアオレンジは2023年に推定5,450万箱(15kg/箱)が輸出されると予測されており、これは昨シーズンの5,380万箱から70万箱の増加となる。多くの地域で良好な気象条件により、出荷量が増加すると予測される。ただし、市場からの情報によると、一部の国では柑橘類の消費が減少しており、最終的な出荷量に影響を与える可能性がある。

グレープフルーツ

グレープフルーツは次のシーズンに1,270万箱(17kg/箱)が輸出されると予測されており、これは2022年と比較して210万箱の減少となる。予測数量の減少の理由の1つは、今年は多くの地域で2級品と加工仕向用の果実は輸出用に出荷する予定がないことである。2021年には、約200万箱の加工仕向用果実が輸出用に出荷された。

230. 南アフリカ アジアのバイヤーに人気のグラニースミス

FreshPlaza (2023年3月16日)

リチャード・リンゲンフェルダー氏は、南アフリカで4番目に大きいティーウォータースクルーフ貯水池(以前は同氏の一家が所有していた土地に建設されたダム湖)の近隣で営農する3世代目の生産者である。

同氏は、「アレンシング地区の50ヘクタールの土地にリンゴとナシを栽培しており、スモモも少しある。我々はこの水源があることは特に恵まれていると思っており、また降水量も非常に多い地域である。雨量は通常で800mm、過去2年間は年間900mmを超えたが、2017年の干ばつの間は350mmしか降らなかった」と言う。(以下、「」は同氏の発言)

西ケープ州では今年の夏に異常な量の雨が降り、これは長時間猛威を振るいモザンビークとマラウイで甚大な被害をもたらした熱帯性低気圧フレディに関連している可能性がある。

「電力の供給抑制(計画停電)により灌漑が非常に困難になっているため、最近の降雨は大変ありがたい。雨のために収穫できない日何日か生じるが、我々はいつでも雨を歓迎する。他方、最近降雹被害に遭われた生産者の方々は大変お気の毒であった。」

「我々のロイヤルガラの出荷シーズンは終わっていない。今はパッカム(洋ナシ)で大変忙しい。もう終わっているはずの時期だが、天候のせいで少し遅れている。我々のパッカムは当初は見た目が非常にきれいで出荷量が多かったが、以前の降雨時に強風が吹き、一部の果実は吹き飛ばされ、一部は擦り傷が付いた。風は要注意だ。」

同氏は、生産者であるだけでなく、収穫物の一部を輸出している。「自分の作物を輸出していると、出荷先の顧客のニーズがわかるので、素早く適切に対応できる。」

南アフリカはアジアへの供給過剰を防ぐ必要がある

「我々の地域は、パッカム、グラニースミス、ゴールデンデリシャス(ここでは黄色のゴールデンデリシャスを栽培している)といった典型的な古い品種に大変適している。ガラもそうだが、セレス地域やクーバレー地域ほどには低温積算時間がないため、色付きの問題が大きい。この土地に適した品種は収量が多く、収量が多ければ費用を賄える。1ヘクタール当たり20トンや30トンではやっていけない。我々はグラニースミスとゴールデンデリシャスは1ヘクタール当たり110トン、パッカムは90トンを収穫する。」

同氏によると、マレーシアの買付け業者らは、同国では南アフリカ産のグラニースミスの果汁を絞って砕いた氷と混ぜて飲むのが好まれると語っている。「それは、ここでは日射量が多く糖度が高いことと関係があると考えている。南アフリカ産は味が優れている。輸入業者らは、見かけも大事だが、味が肝心だと言う。」

マレーシア市場には、様々な規格のグラニースミスを幅広く受け入れるという利点がある。

過去15年間で、南アフリカ産リンゴの貿易で東方への大規模なシフトが発生したが、同氏は、ある輸出業者の警告を引用し、南アフリカがこれらの市場にリンゴを過剰に供給しないよう注意する必要があると述べた。

「我々(輸出業者)はヨーロッパについては慎重だ。EU諸国は戦争で傷つき、ロシアからの支払いは依然として問題がある。」

同氏は、南アフリカの一般市民はおそらく認識していないだろうが、ロシアはEU規格の2級品を受け取ってくれるため、南アフリカのリンゴとナシにとって重要だと付け加えた。

「昨年戦争が始まったとき、我々の多くの果実がロシアに向かう途中であった。それは大きな問題であり、損を出して他の国で荷を下ろさなければならなかった。パッカムの輸出が始まったら今年ロシアに送るかどうかを決める。ロシアは以前は輸出量の30~40%を占めていたが、大幅に低下して今年は20%かも知れない。」

同農場のリンゴとナシは、第三者の輸出業者を通じて、アフリカ域内でも販売されている。

南アフリカの不安定な電力網

南アフリカの電力供給は不安定であり、2022年にこれまでで最も多くの電力供給抑制(計画停電)を経験した。

「灌漑ポンプが1日6～8時間止まっており、夜中の何時であっても電気が来た時には起きてポンプを動かさなければならない。今は果樹産業にとって難しい時である。私は3世代目の生産者で農業がどういったものであるかわかっているが、今は非常に困難な状況にある。」

現在、1日最大10時間も電気が通っていないことがある。

「農場では、ソーラーパネルを使って26キロワットを発電しているが、それは大いに役立っている。今では銀行が信用状況をチェックする時、彼らは農場のソーラー発電能力について尋ね、どれだけの再生可能エネルギーを利用できるか尋ねる。既存概念にとらわれずに考える必要がある。」

リンゴとナシの直接の競争相手は柑橘類

今年の国内市場のリンゴとナシの価格は、CA貯蔵品の持ち越し在庫のために、一層低い水準で始まった。

「我々の今季の果実が市場に入荷したとき、そこはすでに(貯蔵された果実で)飽和状態にあった。また、CA貯蔵のナシが最近出てきたため、インド向けナシ輸出の新シーズンにも影響を与えた。」

「あらゆる種類の果実の南半球からの供給が多すぎる。アルゼンチンとチリは強力な競争相手であり、我々が真似できない価格で彼らの果実を出荷している。」

前シーズンからかなりの量のCA貯蔵品、特にゴールドデンデリシヤスが持ち越された。

「個人的には、おそらくリンゴの貯蔵量があまりにも多すぎたのだと思うが、その理由は、昨年国内市場に大量の柑橘類が入荷したことだと言えるだろう。国内市場には信じられないほどの量の柑橘類があった。そして結局のところそれは価格の問題であり、もし果実を1種類だけ買えるとして、柑橘類がそんなに安く入手できるなら、リンゴを買うことはないだろう。」

柑橘類が大量にあったため、リンゴはCA貯蔵庫に留め置かれた。

「昨年10月中旬までによく柑橘類の出荷が終わったとき、CA貯蔵庫にはまだ多くのリンゴがあり、新しい出荷シーズンが始まる前にその在庫を販売する時間がなかった。このため、新しいリンゴは持ち越しのCA貯蔵品と市場で競合した。」

昨年、国内のリンゴ市場は「混沌とした」ものであった。「国内のリンゴ市場は、私が1993年にこの業界に入って以来、群を抜いて最悪であった。」

執筆者: キャロライズ・ヤンセン

231. ペルー 大雨と洪水で果実の輸出に遅れ

FreshPlaza (2023年3月16日)

ペルー北部の多くの地域で大規模な洪水が発生して主要な橋や道路が損傷し、生食用ブドウ、マンゴー、アボカド、アスパラガスなどの輸出農産物の港への輸送が遅れた。同国の沖合で発生したサイクロン「ヤク」による大雨や洪水により、先週初めから8人が死亡し、1人が行方不明になったと報告されている。

出荷業者らによると、カスマ市では先週橋が崩壊し、その復旧のために首都リマに近いカヤオ港への輸送が5日遅れた。

ペルーのラリベルタ州ビルー地域でブルーベリーとアスパラガスを出荷するアグアリマ社のエンリケ・アルテン販売部長は、幸いなことに大雨が始まる前の3月初めまでにブルーベリーの収穫を終えたと言う。

同部長は、「我々の地域と農場の問題に引き続いて、灌漑用水路が丸太や泥などの多くの異物を含む洪水で汚染された。このため、農場を灌漑するための水の利用が制限され、日々利用できる水の量が少なくなっており、これはすぐに解決することを期待している。もう1つの問題は、カスマ市の橋が崩壊し、復旧のために5日の遅れが生じたが、幹線道路は再開し、カヤオの空港と港に貨物を輸送することができる。幸いにも農場では洪水と雨による直接の被害はなかったが、間接的には灌漑用水路と港への輸送の混乱の影響を受けた」と語った。

ピウラ県の生食用ブドウ生産者であるフェリペ・アツリアガーデ氏は、ブドウ園でプラスチックフィルムの被覆材を使って事前に対策を講じたことで救われたと言う。彼らは収穫まで数週間ある。同氏は、「我々は大丈夫だ。大変な豪雨であった。ピウラ県内の何か所かで橋がほとんど崩壊した。ピウラ市内と、タンボグランデ町などで洪水があった。今のところ、極端にひどいことは何もないが、黄色信号の状態であり、これが悪化しないことを望んでいる。通常は年降水量50mmのところで一晩に40mm以上の雨が降った」と説明する。

同氏は、「幸いなことに、数週間後に始まる次の収穫に問題はない。プラスチックフィルムの被覆材はうまく機能している。我々は大変良い収穫を期待している。園地での問題も見られない」と述べた。

ドイツの熱帯果実輸入会社ブラッツラー (Bratzler) 社の最高販売責任者であるアンドレアス・ボルフ氏は、ペルーの雨は物流構造と輸送ルートに負荷をかけたとしつつ、「何日もの集中的な排水作業の後、ゆっくりと、しかし確実に、マンゴーの収穫を再開している。ペルー産マンゴーの出荷シーズン最後のラストスパートを期待しており、小売業者への配送契約をすべて履行できると考えている。農場関係者の尽力に大きな賛辞を送る」と述べた。

気象専門家は、サイクロン「ヤク」は非常に予想外で普通と異なっていたと報告している。いくつかの川の堤防を決壊させ、いくつかの小さな町の住民らはペルーの救助隊が出動して避難させる必要があった。洪水により、何千人もの人々が家を追われた。

執筆者: クレイトン・スワート

232. 中国 現代的なマンダリン産業で農家の生計向上を推進

新華社ネット(2023年3月16日)

南寧 3月16日(新華社)-中国南部の広西チワン族自治区南寧市武鳴区にある果実会社(広西起風橘洲果業有限公司)で梱包を担当するグ・チウファン氏(45歳)は、輸出が円滑にできるようオラー(Orah)品種のマンダリンを慎重に出荷箱に詰めた。

同氏が梱包していたマンダリンは、形が丸くて果皮の色が明るいことを確認して注意深く選別されたものである。同氏は作業に必要な要件を説明しつつ、「果実の高い品質を維持するため、包装、輸送の過程で果実が損傷してはならない」と述べ、合計約14トンのそれらのマンダリンはベトナムに出荷されると付け加えた。

オラー・マンダリンは、イスラエル原産の皮の厚い柑橘類で、2012年から武鳴区で栽培されている。独特の亜熱帯モンスーン気候と土壌条件のおかげで、武鳴区のオラー・マンダリンは甘さが酸味よりもわずかに強く、消費者の需要に完全に合致し、明確な市場優位性を獲得している。

広西チワン族自治区の2022年のオラー・マンダリン栽培面積は12万3千ヘクタールを超え、年間の収穫量は470万トンであった。地元の農業当局によると、武明区の2022年のオラー・マンダリン出荷量は150万トンを超え、出荷額は100億元(約14億米ドル)を超えた。

過去数年間、中国・ASEAN自由貿易地域(FTA)の設置と発展、及び果実の品質の絶え間ない改善により、オラー・マンダリンは国外市場で人気を得ている。前述の果実会社の羅増桂社長は、「主にベトナム、タイ、シンガポールなどのASEAN諸国に輸出している。今年1月から2月にかけて、前年比10%増の850トンのマンダリンを輸出した」と述べた。

この地域の首都南寧にある税関のヘ・チウ監督管理部次長は、FTAに基づく原産地証明書により、オラー・マンダリンはASEAN諸国に輸出される際には無税が適用されると述べた。同次長は、武明区にはオラー・マンダリンの輸出に従事する22の企業があり、広西チワン族自治区の同様の企業のほぼ半分を占めていると言ひ、この果実の輸出はその品質の向上により今も急増していると述べた。

国内外の市場でオラー・マンダリンの販売が急増しているおかげで、オラー・マンダリン産業は現在、この地域の農家の生活水準を押し上げる主要な農村産業の1つになっている。武明区の下陸村では、オラー・マンダリンが村人の主な収入源になっている。村の共産党幹部ナンバー2であるウェイ・ディアンユン氏によると、約7アールのオラー・マンダリンの栽培で得られる純収入は、1万元以上である。同氏は、「村の一人当たりの可処分所得は2022年に約3万7千元に達した。村の若者はもはや、高収入に惹かれて都会の出稼ぎ仕事を探す必要はない」と述べた。

武鳴区農業農村事務所のオウ・ヤンフア副所長によると、この地域には134の果実選果場と216の果実選別出荷ラインがあり、1日あたり1万トン以上の果実を処理することができる。さらに、地区には果実の鮮度を保つ冷蔵倉庫が300以上あり、鮮度保持期間を効果的に延長し、出荷される果実の付加価値を高めることができる。同氏は、「果樹産業は1万人以上の労働者を雇用し、地元の農家の収入を毎年約2億4千萬元増加させてきた」と述べた。

農業の近代化を促進するために、同地区は、種子産業改善計画を展開するとともに、栽培効率と果実の品質を改善するための取り組みにおいて、高度な農業施設の開発とハイテクを用いたインテリジェント農場管理システムの適用を推進してきた。

オウ副所長は、「我々は、オラー・マンダリン産業のためにこの地域にビッグデータセンターを設立した。最新のデジタルクラウド技術を活用して、インテリジェント散水・施肥システム等の自動化されたインテリジェント制御システムを農場内に構築した。農家、選別卸売業者及び消費者はビッグデータのプラットフォームを介して互いに連絡を取り合うことができ、果実の安全性を確保し、高い品質を保証することができる」と述べた。

広西大学の肖安宝教授は、「農業と農村の近代化は中国の近代化への道の重要な部分であり、農業の近代化は科学技術の進歩と革新に基づいている。農業の産業化のペースを加速し、農民の収入を増やし、それによって彼らが発展の成果を共有できるようにする必要がある」と述べた。

233. ニュージーランド サイクロン後のリンゴ作柄見通し

ASIAFRUIT 2023年3月16日

2月中旬に北島の東海岸の一部を襲ったサイクロンガブリエルの影響により、ニュージーランドのリンゴとナシの収穫量予測が下方修正された。3月15日に発表されたニュージーランド・リンゴ・ナシ協会(NZAPI)の最新の予測によると、タイラフィティ・ギズボーン地域の予測はまだ見直し中であるが、ニュージーランド全体の出荷量は1,610万箱(18kg/箱)と推定され、1月の当初予測の2,040万箱から21%減少した。

NZAPIは、「嵐の影響で、ホークスベイ地方のリンゴとナシの出荷量は33%減少した。これは、430万箱の減少を意味している。出荷量の減少は、ホークスベイ地方で栽培されているすべての品種で見られた」としている。ホークスベイ地方はニュージーランド最大のリンゴとナシの産地であり、通常、全国の総出荷量の3分の2近くを占めている。サイクロン前の推定では、ホークスベイ地方の出荷量は1,290万箱で、全国の出荷量の63%を占めていた。

多くの生産者にとって深刻な被害と壊滅的な損失となったが、NZAPIは、その影響は同地方の中でも大きく異なっているとおり、「東海岸では、嵐によって重大かつ深刻な影響を受けた地区と、被害の無い地区に明確に分かれる。影響を受けていない地区については、残りの果実の収穫は順調に進んでおり、残りの収穫期間の天候条件は良好なようだ」としている。

NZAPIによると、南島の主要産地であるオタゴ地方中部とネルソン/タスマン地方では、引き続き良好な栽培・収穫条件を享受しており、予測出荷量を達成できる見込みである。NZAPIはまた、「ニュージーランド全体の収穫量は減少したが、輸出業者らは、例年どおり最高品質のリンゴとナシのみを出荷することで、プレミアム品質の果実を市場に提供する」としている。

執筆者: ジョン・ヘイ

234. エジプト 柑橘類の大きな課題

EUROFRUIT 2023年3月17日

カイロ3Aグループ農畜産会社の品質部長であるモハメド・ディアブ氏によると、エジプトでは今年、柑橘類のサイズが小さい。これは、開花期から着果期の大雨と雹を伴う嵐のためであり、同社では農場の約20%が影響を受けた。同部長は、「スペインとモロッコでも同じ傾向だ。この地域全体で小玉が多く、ネーブルとバレンシアを含めて約60~70%を占めている。この天候はソフト柑橘類にも悪影響を及ぼしているため、市場は品不足が起きている」と述べた。

モハメド・シャムス輸出部長は、「果実のサイズは大きな課題だ。多くの顧客からもっと大きな果実を出荷してほしいと言われているが、今シーズンは大玉のコンテナをいっぱいにするのに時間がかかっている。しかし、彼らはこれが今シーズンの現実であることをわかっている」と話す。

しかし、エジプトの輸出業者らには、高コストを始めとするもっと大きな課題がある。同部長は、「梱包用の資材費などコストの増加が課題だ。出荷シーズンの初めにコストがわかり、それに基づいて価格を設定していた過去とは異なる。今では、すべての物価の変動により、週に1~2回コストを修正する必要がある」と述べた。

シャムス氏は、エジプトの通貨の切り下げは、この期間中のエジプトからの輸出を実際に後押しし、業者が他の国と競争することを可能にしたが、輸送費は依然として高いとして、「輸送費はまだ高い。また、イチゴの輸出に必要な航空輸送の運賃は、数年前に比べて非常に高くなっている。我々は貨物の運賃をドルで支払うので、これは経費の計算に影響を与える主な要因の1つである。エジプトポンドの切り下げにより、弊社は現在、顧客に果実を届けるために莫大な金額を支払っている。そして、これは弊社が顧客に果実を提供する価格に影響を与える。我々は、自分達が支払っているコストに基づいて、顧客に最善の価格を提示し、顧客らはそれを受け入れている」と述べた。(以下、野菜に関する記述は省略しました。)

執筆者: トム・ジョイス

235. 南アフリカ 政府が柑橘類セクターを支援

EUROFRUIT 2023年3月18日

南アフリカ当局は柑橘類産業の極東及び東南アジアへのアクセスを支援

南アフリカのトコ・ディディザ農業・土地改革・農村開発大臣は、政府はベトナム、フィリピン、シンガポールとの多国間関係を通じてアジア市場へのアクセス拡大を推進し、同国の柑橘類部門を支援するすると述べた。

東ケープ州ゲベール市(旧名ポートエリザベス)で開催された柑橘類生産者協会(CGA)の柑橘類サミットで講演したディディザ大臣はまた、柑橘類生産者が昨年、電力負荷削減(計画停電)やEUへのオレンジ輸出を脅かすEUによる新たなフォールスコドリグモス(FCM(蛾の一種))規制の導入など、多くの課題に直面したことを承知していると述べた。

同大臣は、政府はベトナム、フィリピン、シンガポールとの関係を強化することで業界を支援することを約束しており、また停電が農業部門に与える影響を軽減するための解決策を見出すため、農業・土地改革・農村開発省の電力負荷削減対応タスクチームと緊密に協力していると述べた。

南アフリカでは今年、電力供給網に前例のない混乱が見られ、果実輸出産業は全般的に深刻な影響を受けている。

将来世界の市場で柑橘類の出荷量を増加させ、物流上の問題を克服する能力は、これまで大きな課題として強調されてきた。業界はまた、彼らを支援するのは政府の重要な役割であると強調してきた。

予想されたとおり、柑橘類生産者らは2023年の出荷シーズン中のFCM規制の影響について多くの時間をかけて議論したが、CGAは、この規制により今年生産者に生じる追加の費用と収入の損失が5億ランド(約36億円)以上となる可能性があるとしている。

柑橘類の輸出量は今後10年間、毎年1千万箱増加し、2032年までに2億6千万箱に達すると予想されており、CGAサミットは、増加する生産量を主要な輸出市場に出荷して吸収させるための探求すべき機会と克服すべき課題に焦点を当てた。

CGAは声明で、「米国、欧州連合、タイ、韓国、インド、日本、ベトナム、フィリピン、タイについて、今後数年間の市場アクセスの優先度を上げることが確認された。柑橘類に対する世界的な需要の高まりという文脈における持続可能性とエネルギー問題からの回復力についても議論された」としている。

ジャスティン・チャドウィック最高経営責任者(CEO)は生産者らに対し、サミットの目的は将来の成長に向けた計画を策定するだけでなく、CGAの包括的な成長計画を展開するための機会と展望を共に探求することでもある、この成長計画は特に黒人の生産者に力を与えるものだと言った。

執筆者: フレッド・マインチェス

236. NZ産キウイフルーツ 今年最初のチャーター船が日本に向け出港

The Packer 2023年3月20日

2022年の不調と最近の激しい気象災害を受けてニュージーランドのキウイフルーツ出荷業者ゼスプリは2023年以降果実の品質を重視

ニュージーランド産キウイフルーツの2023年出荷シーズン最初の便は、日本の取引先に向けた約2,500トン(60万箱以上)のゼスプリサンゴールドキウイフルーツを積んでタウランガ港を出発した。

サザンプトンスター号は、ゼスプリが今シーズン、グリーン、サンゴールド、ルビーレッドのキウイフルーツ約1億4,500万箱を50か国以上に届けるために使用する53便のチャーター船の最初の船である。ニュースリリースによると、同船は4月上旬に東京に到着し、その後神戸に向かう予定である。

チャーター船は、今シーズンのニュージーランド産果実約7,200万箱を世界の消費者に届ける予定である。今シーズンのチャーター船の計画は、米国西海岸へ2便、北ヨーロッパへ3便、地中海へ7便、アジアへ41便となっている。リリースによると、さらに7,300万箱のキウイフルーツがコンテナ船を使用して運搬される。

ゼスプリの世界供給担当最高責任者代行であるジェyson・テ・ブレイク氏はリリースで、「我々の果実の需要は依然として強く、今シーズンの収穫は今後数週間で増加するため、まもなく果実の大部分が収穫される最盛期に入る。最初の船が我々の果実を取引先と消費者に届けるのを見るのは嬉しい瞬間だが、特に今年は一部の生産者にとって非常に困難なスタートであったので特別だ」と述べた。

テ・ブレイク氏は、困難が多かった2022年と悪天候のために厳しくなった2023年の出荷開始までの道のりを踏まえ、新しい出荷シーズンの開始は業界のリセットを示すものだと付け加えた。

同氏はさらに、今シーズンは果実の量が少なく、労働力は多く確保できることで、業界は果実の品質の向上に集中する機会を得ることができ、これは生産者や産地の地域社会により多くの価値を還元する上で重要な役割を果たすものだとリリースで述べた。(以下「」はリリースでの同氏の発言)

「業界の品質行動計画は昨年10月に開始され、2023年の出荷シーズン及び今後、優れた品質の果実を取引先と消費者に確実に提供するため、業界全体で顕著な連携協力が見られた。それは、我々が素晴らしい収穫物を得るためにできる限りのことを確実にやり、サプライチェーン全体で果実を大切に扱うことから始まる。」

リリースによると、品質行動計画の重要な原則の1つは、果実の流通における意思決定を全体にわたって評価することである。

「コロナ禍は近年、輸送上の重大な混乱を引き起こしたが、今シーズンはより安定した輸送環境で、市場に果実を届けるまでの輸送時間が改善されることを期待している。最初のチャーター船が市場に向かっており、今後数週間で出荷量が増加するものと期待しており、今シーズンの果実を楽しみにしている取引先と消費者に、一貫して品質の高いゼスプリ・キウイフルーツを提供できるよう輸送パートナーと協力している。」

237. 中国 無人機防除技術で果樹園の運営が大幅に改善

FreshPlaza 2023年3月20日

農業では、無人機(UAV)を用いた植物保護技術は主に地形が広く平坦な畑作物やプランテーションで使用されているが、丘陵地帯の柑橘類の果樹園ではあまり使用されていない。最近、臨海市(浙江省)の果実専門協同組合(臨海市春樹水果專業合作社)との交流で、同協同組合がデジタル技術の応用に注目し、山間の柑橘園での散布と輸送にドローンを使用していることを知った。

同協同組合の管炳華代表は、「UAV防除技術の助けを借りて、園地管理の適時性を向上し、労働への依存を減らすことができる」と述べた。(以下「」は管氏の話)



ビデオを見るには画像または[ここ](#)をクリック

浙江省では山が多く平地が少ない地形のため、農業における労働集約度が非常に高い。現在の人手不足や高齢化の問題に対しては、機械やデジタル技術を活用することも選択肢の1つかもしれない。

「病虫害防除の農薬散布を例にとると、10人の作業員が2日間働く必要があり、1日前の手配が必要だ。UAVを使えば2人の作業員が1日だけ働けばよい。いつでも作業できるため、作業の適時性が大幅に向上する。特に黒点病の予防と駆除の要となる雨季には、いつでも効率的に運用できることが非常に重要だ。」

「第二に、UAVの使用コストは人件費に比べて安い。上記の同じ例では、人件費は年間約10万元だが、UAVの購入費用は6万元で、通常は3～5年間使用できる。したがって、年間の消耗品とメンテナンスの費用を含めても、そのコストは人件費よりも低くなる。」

「また、ドローンの積載重量は40～60kgあるので、薬剤散布のほか、山で収穫したアカヤマモモを山麓まで輸送するのに利用しており、時間と労力が大幅に節約できる。」

運用面では、ドローン会社が果樹園の実際の状況に応じて地形図を描き、ドローンの飛行ルートを設定し、繰り返し噴霧することなく果樹園全体をカバーするため、離着陸する度に飛行ルートを自動的に記録する。ドローンの利用に必要な2人の作業員のうち、1人は訓練を受けた操縦者であり、もう1人は農薬を取り扱う。操縦は難しくない。

「UAV技術は、果樹栽培、特に山岳地帯ではあまり使用されていない。我々はこの地域でこの技術を使用する最初の果樹園である。1年間の試行を経て、ほぼ要件を満たした。この技術は果樹園の効率向上とコスト削減に役立つと考えており、関連する機器を購入し、操縦者を訓練し、実際に運用を開始した。」

臨海市春樹果実専門協同組合は、主に柑橘類とアカヤマモモを扱っている。その事業には、栽培、選別、包装、販売、輸出入が含まれ、これらの運営はすべて標準化されている。同社は、山に500ムー(約33ヘクタール)の自社の果樹園を有し、また5千平米のデジタル選果場を持っている。同社が栽培している柑橘類はリンハイ(臨海)タンジェリンでブランドは「東海爆橘」、ヤマモモのブランドは「吉鮮號」である。それらの販路は、全国の複数の卸売市場、スーパーマーケット、チェーン果物店、各種オンラインプラットフォームである。



238. カナダ B.C.州産リンゴは収穫量が少なく価格がやや上昇

FreshPlaza 2023年3月20日

ブリティッシュコロンビア(B.C.)州では多くの品種の生食用リンゴが出荷を終了したが、一部の生食用品種はまだ残っている。ゴールドスター果実会社のバルプリート・ギル氏は、「CA貯蔵品の一部で出荷量が増え、まだ出荷が続いているが、全体として出荷量は2021年よりも少ない。B.C.州産のリンゴは今後品物が不足し、通常より数週間早く品切れになるだろう」と言い、大規模な出荷業者は5月に出荷を終了し、これはB.C.州で過去に時折みられた出荷終了よりも1か月早いと述べた。(以下「」は同氏の発言)

品種に関しては、まだ十分な量のB.C.アンブロシアとガラが市場に出回っている。

出荷の終了が早いこと背景にある理由の1つは、2022年の収穫量が少なかったことである。一方、今年はB.C.州産のリンゴも需要が旺盛で、昨年のこの時期よりも引き合いが強い。「リンゴは今でも定番商品であり、国内産なので、スモモやマンゴーなどの輸入果実に比べ重量当たり安い価格で販売されている。現在、人々は価格に敏感な品目に惹かれており、(B.C.州産のリンゴは)輸入品と比較して手頃な価格である。」

世界で競争するB.C.州のリンゴ

B.C.州産リンゴに対する強い需要は、特に強力な競争力を有する米国ワシントン州のリンゴ産地に近いことを考えると、注目に値する。「我々の産業規模は相対的に小さいので、困難がある。現在、米国ワシントン州、チリ、ニュージーランド及びヨーロッパの一部の国々はすべてリンゴを出荷しているため、世界的な競争であり、当地では比較的生産コストが高い。それは常に世界規模での課題となっている。」

しかし全体としては、価格は昨年に比べて上昇している。「(価格は)主に供給(の問題)のためにやや上昇した。供給が縮小し、需要が横ばいのため、出荷量の減少を補う形で価格が少し上がった。」

2023年のリンゴの作柄に関しては、時期尚早だが前向きな兆候がある。同社は現在、サクランボの蕾のサンプルを採っている。2022年にはB.C.州のサクランボも収穫量が少なかった。「サクランボを1つの指標と見ると、大変良いようだ。冬の間の芽の損傷はそれほどなかったが、弊社は春の降霜、受粉、雨の問題があった場合に対処する方法を有している。リンゴも同様に、昨年の不作を補う豊作であることを願っている。」

著者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

239. ペルー 日本へのブドウ輸出が始まる

FreshPlaza 2023年3月22日

ペルー農業開発灌漑省(Midagri)は、日本へのブドウの輸出が明日*始まると発表した。同省のセグンド・レガラド農業開発政策及び監督担当副大臣は、「数年間の交渉の末、日本へのブドウの輸出が明日始まる。これは、この分野の関係者、特にペルー国立農業衛生局(Senasa)の手柄である」と述べた。同副大臣は、ペルーの農業はパンデミックをうまく乗り越えてきており、国内の大雨や川の氾濫によって引き起こされた直近の緊急事態でも同じことが期待されるとコメントした。

同副大臣はまた、農業部門の2022年の粗生産額は、前年同期と比較して4.5%増加し、史上最高の350億ソル(約1兆2千億円)以上を記録したと述べた。

国立農業衛生局のミゲル・ケベド局長は、貿易観光省(Mincetur)及び外務省と緊密に協力しており、平均して毎年10の市場が開かれていると述べた。

出典: euro.eseuro.com

*訳注: この記事の元となる euro.eseuro.com の記事は現地時間21日に配信されており、文中の「明日」は現地時間22日を指します。日本国内では22日付けの官報に条件付き解禁に関する告示が掲載されています。

240. 米国 カリフォルニア州はアジア向けブドウ輸出を再開できるか

FreshPlaza 2023年3月22日

2022年はカリフォルニア州産生食用ブドウの輸出にとって困難なシーズンだったと言えるだろう。プリティレディ・ブドウ園のニック・ダルシッチ氏は「インフレも進んだが、より大きな影響があったのは、ドルがとてつもなく高くなり、それが我々の産品を海外の市場で極めて高価にしたことだ」と話す。インドネシア、ベトナム、台湾、マレーシア、フィリピンなどの国々は、かつてカリフォルニア州産ブドウの大口輸入国であったが、購入量を減らした。同氏は、「ドル高は我々の輸出に悪影響を及ぼした」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

それだけではない。中国の生食用ブドウ生産量が増加しており、その余剰分がすべての環太平洋市場に自由貿易協定による低価格で流入している。「我々の競争相手は、すべてのアジア諸国と自由貿易協定を結んでいる。それによって、カリフォルニア州はすでに縮小している市場で大きな不利益を被る。」カリフォルニア州産ブドウのもう1つの輸入国である韓国は現在、シャインマスカットを自ら栽培しており、シーズン終了後も数か月は十分な供給がある。

「さらに、輸送費が大幅に上昇した。以前は1箱当たり4ドルであったが、昨シーズンは6ドルであった。」カリフォルニア州の生産者にとってもう1つの不利な点は人件費である。「我々は、州の北部では15ドル、州内の一部地域では20ドル近い最低賃金を払っている。」さらに、生食用ブドウの生産は世界中で大幅に増加している。「中国、スペイン、ブラジル、ペルー、オーストラリア、ナミビア、南アフリカ、エジプトはすべて生食用ブドウを栽培しており、このリストはどんどん増えている。」これらすべての結果として、カリフォルニア州の競争上の優位性が低下し、輸出が減少した。

極端な暑さと記録的な降雨量

ダルシッチ氏は、これらすべてのことにもかかわらず、天候が許せば輸出市場に自信を持っていると言う。「昨年の夏は猛暑に対処しなければならず、中生の緑色ブドウが台無しになった。」これまでで最も暑い夏で、ブドウは梱包時には良好に見えたが、数週間の海上輸送の後には良い状態で着荷しなかった。この冬、カリフォルニア州では記録的な降雨と記録的な降雪が見られ、状況は好転した。ベーカーズフィールド地域では9インチの雨が降り、もう1つの主産地であるフレズノ地域では17インチ近くの降雨があった。これは通常の冬の少なくとも2倍の量である。「水のおかげでブドウの木は必要な栄養素を取り入れ、大変素晴らしい発芽となった。」同社のブドウ園は、はるばるシエラネバダ山脈のチャイナピークから流れてくる雪解け水を利用している。まだ雨と雪が降るので、次のシーズンに向けての状況は有望なようだ。(1インチ=約25.4mm)

輸出機会

「良い果実があり、ドル高がそれほど極端でなければ、輸出市場は大きな可能性がある。品質を重視することは生産者の責任であり、その観点からダルシッチ氏はいくつかの変更を加えた。「黒ブドウは海外で人気を失っており、一部の大手スーパーマーケットでは取り扱いをやめた。これを受けて、種なし黒ブドウの栽培面積を減らし、権利関係のある緑色ブドウと権利関係があり特別な香りがする赤ブドウ品種に置き換えることを決めた。これらサンワールド社(種苗会社)の品種は輸出市場で成功すると信じている。」

輸出を後押しする可能性が高いもう1つのことは、中国でのコロナ関係の規制の解除である。「これによって誰もが自由に移動できるようになる。一部の卸売業者は、今シーズン再びカリフォルニア州産ブドウを取り寄せることを楽しみにしていると聞いているので、取引が再開することを期待したい。」

輸出は常に同社の売り上げの大きな部分を占めてきており、輸出を円滑に再開するため、ダルシッチ氏は経験のあるスタッフを雇った。「彼は業界で15年以上の経験があり、輸出が彼の主要業務になる。」この人物は今週の月曜日、3月20日に同社で働き始め、ダルシッチ氏は出荷を再開する上で彼が重要な役割を果たすと確信している。「意志あるところに道は開ける」

執筆者: マリーケ・ヘムズ

241. チリ リンゴの出荷シーズンが順調 ふじの新クローンが商品化へ

FreshPlaza 2023年3月23日

チリ産リンゴの収穫と輸出のシーズンが順調に進み米国への出荷量も多い中、ふじの新品種は次のシーズンに間に合うように商業的に発売される前の最終評価の段階にある。

チリの育種・評価会社であるアンデス新品種管理会社(AnaChile)はガラの後継品種の候補を発表した。同社は、2023年のふじの出荷シーズンに向けて、色付きが早く色が濃い改良クローンを紹介するフィールドデー(現地見学会)を何度か開催している。

同社の商品部長兼評価者であるロレーナ・ピント氏は、「現在チリでの評価の中で非常に良い結果を出している新しいクローンは、栽培品種ふじVWと栽培品種Dukeである。それらは、収穫の最大1か月前までの非常に早い段階での色付きの良さで際立っている。栽培品種ふじVWと栽培品種Duke(元Grofn fuji)はイタリアで選抜され、数年前からチリで試験栽培されている。両クローンは、果実の形状と硬さ、多汁性、風味といったふじの特徴を維持しながら、優れた発色能力を有している。イタリアとチリでの観察によれば、これらのクローンの成熟時期はふじの一般的なそれと一致し、その約1か月前に着色する。これらのクローンの色の濃さは、日焼けをカバーし、目立たなくするのに役立つことが観察されている」と語る。

ピント氏は、着色の早さの点で非常に興味深いふじクローンであると説明し、「栽培品種キングふじ(r)VWの試験栽培は収穫間近である。スパータイプのふじ品種で発色性が高く、従来の収穫期の1か月以上前に完全に色付く。最終評価段階にあるため、2023年のリンゴシーズンが終了すると、これらのクローンのいずれかについて、チリでいつ商業的に発売されるというニュースがあるかも知れない」と述べた。

イタリアでは、両方のクローンがすでにKING®ブランドで販売されている。

フィールドデーは、2023年3月21日火曜日に、チリのマウレ州イェルバスブエナス地区のサンタアナノルテ農場で開催された。

ガラの代替品種

同社は栽培品種Galy®Inobiを紹介するため、2月末に別のフィールドデーを開催し、2020年に植えられた試験樹が紹介された。これは、INRAとNOVADI*の共同事業で作られたフランス起源の品種であり、ガラに比べて収穫開始が7~10日遅い。ピント氏は、「着色が大変よく、生産性に優れ、果実のサイズはガラと同等またはそれ以上となる品種である。果汁が多く、果肉が細かく、風味が良く、甘い」と言う。

(*INRA: フランス国立農業研究所(現在の正式略称はINRAE)、NOVADI: フランスの果樹種苗生産者グループ)

このフィールドデーは、モリーナの町にあるドール社所有の果樹園(Fundo La Favorita)内のANA品種評価センターで開催された。この同じ日に、評価段階の他の品種もお目見えして試食された。収穫はガラよりも7~12日遅い。

ピント氏は、「その中にはZingy®HC2-1、Isaaq®CIV323及びRed Pop®CIV M49の各栽培品種があり、このうち後ろの2つの品種は『スナック』タイプで、着色の良さ、程よい甘さ、暑い気候への適応性を示す。最初のZingy®HC2-1は香りの強い二色タイプの品種であり、糖度が高く、魅力的なピンクがかかったオレンジ色の色合いを最大限に引き出すため、発色が促進される(ような栽培環境を有する)地域での栽培が推奨される」と述べた。

チリの生産者からは、これらの品種が商業的に発売されれば、今年これからの新シーズンに新しいふじ品種を植え付けできることに大きな関心が寄せられている。

執筆者: クレイトン・スワート

242. 世界のアボカド市場

FreshPlaza 2023年3月24日

世界のアボカド市場は、ペルー、南アフリカ、ケニア、タンザニア、コロンビアなどの国々から大量の果実がオランダ(ヨーロッパ市場の窓口)に到着すると予想される中、さまざまな様相を呈している。ケニア産のアボカドの品質は大幅に向上し、量的には南アフリカを上回っている。英国では、生活費の危機にもかかわらずアボカドの購入は安定しており、スペイン、イスラエル、チリからの供給が終了した後、ペルーと南アフリカからの入荷が増加している。フランスでは供給不足の結果アボカドの価格が上昇し、イタリアではハスアボカドの供給が不十分で価格が急騰している。南アフリカ産は、国内市場では供給過剰により価格が下落したが、ペルー産が物流上の問題と洪水で出荷に影響が出ているため、ヨーロッパ市場での価格は依然として良好である。中国でのアボカドの消費は活況を呈しており、北米市場は、メキシコが米国市場に全面的に的を絞っていることから、年間を通じて十分な供給が続くものと予想される。



オランダ：大量入荷の見込み

オランダのある輸入業者は、「アボカド市場(市況)の今後数か月の見通しは良くない。南アフリカ、ペルー、ケニア、タンザニア、コロンビアから大量の供給が見込まれている。個人的には、今後数年間はケニア産のアボカドの入荷が多いと見込んでいる。同国は過去にはアボカド輸出国の中で変わり者扱いであったが、政府の厳格な管理により品質が大幅に向上し、量の点でも今では南アフリカを追い抜いている」と語った。

ベルギー：人気は衰えていない

ベルギーのある輸入業者は、ペルー産アボカドの供給が市場にある程度の安定を取り戻したと言い、「スペインとモロッコでの収穫が期待外れだったため、市場は需要を満たすためにペルー産の供給を緊急に必要としていた。その入荷量には重要性がある。政情不安のために、ペルー産も入荷量が少ないのではないかとしばらくの間は不安であったが、幸いなことに影響は比較的限られていた」と説明した。

需要については、アボカドは相変わらず人気がある。この輸入業者は、「クリスマス休暇の頃には需要が少し落ち込み、またインフレのために価格が安めのものを選ぶことが多いように思われた。しかし今、春に向かっており、売れ行きが良くなっているのが分かる。それにもかかわらず、供給がやや限られているため、価格はかなり高止まりしている。出荷が終了する輸出国が増えてくるので、これが今後どのように展開するかを見極める必要があるが、アフリカからの供給が不足を吸収すると思う」と述べた。

ドイツ：市場はさまざまな状況

ここ数か月、品質がさまざまに入荷量が少なめなため、市況は非常に不安定である。モロッコ産の入荷シーズンは品質とサイズが良好なのが特徴であった。今年のスペイン産は熟成が非常に難しく、一方入荷量は満足のいくものであった。現在、ペルー産のシーズンが予想どおり非常に良い品質で始まっているが、欧州市

場向けの輸出量がどのように推移するかはまだ不明である。海外の他のアボカド産地からの入荷品は、発芽とサイズの問題により、今年は取り扱いと熟成が難しかった。

英国：生活費の危機にもかかわらず購入は横ばい

英国市場へのスペイン、イスラエル、チリからアボカドの供給はシーズンの後半にあり、ペルーと南アフリカからの入荷量が現在増加し始めている。

今シーズンはスペインからの入荷量が少なく、果実のサイズも小さい。スペイン産は30～40%少なかった。これは、前のシーズンに収穫量が多く、また出荷の終了が遅かったことが原因で、開花が遅くなり、夏季の干ばつと水の制限によっても出荷量が減ったためである。複数の産地の品物を合わせて小売需要を賄った。

南アフリカの早生のアボカドが英国に到着し始めており、ペルー産も同様である。ペルーの生産者は今年これまでに、暴動や道路封鎖などにつながる政情不安など、多くのことに取り組まなければならなかった。さらに先週、サイクロン「ヤク」に襲われ、大雨による洪水、地滑り、その他インフラへの被害を被った。南アフリカでもまた問題があり、サイクロン「フレディ」が産地に大雨をもたらした。

ペルーは今後この混乱から回復し、主に新植により今シーズンは出荷量が増加すると予想される。増加分は世界中のさまざまな市場に向かい、ヨーロッパ向けは約7%増えると予想される。南アフリカの今シーズンの輸出量は、1,800万箱(4kg/箱)と推定される。

カンタール(Kantar)社の世界消費者パネルの統計によると、今年2月19日までの12週間で、英国ではアボカドの小売価格が6.6%上昇した。熟したアボカドの市況は堅調であり、その価格上昇の一部はおそらくインフレによるものである。

生活費の危機は、アボカドが高級品と見なされているにもかかわらず、英国の需要に影響を与えていないようで、販売量は安定している。

フランス：品不足が価格を押し上げる

世界のアボカド市場で、地中海産アボカドの出荷シーズンは終わりに近づいている。生産不足の状況の中で、価格や売上げの推移に関しては比較的良好な方向に進んでいたと言えるだろう。実際、この冬の出荷量はコロンビアとメキシコを除いて不足しており、これら両国もスペイン産とイスラエル産の不足を埋めることができなかった。

地中海地域から今シーズン最後のアボカドが入荷する中、供給は減少を続けている。フランス市場では地中海地域からの出荷が終わるところで、今年もペルーがこれを引き継ぐ。主に5月の初めから8月の終わり(第19週から第35週の間)にかけて非常に大量の入荷が予想される。総出荷量が昨年より7万トン増加し、ヨーロッパ向けの輸出は2万2千トン(7%)の増加が見込まれる。しかし、今年はアメリカ市場がメキシコでの豊作により難しくなる可能性が高いため、ヨーロッパ向けの数字は上方修正される可能性がある。それまでの間、そしてこの供給不足を背景に、市況は今後2～3週間は良好に上昇してくることが確実である。

しかし、この過渡期を過ぎて早生品種の供給の増加に直面しても市況が高水準を維持すれば、そのような市場にもまたリスクが存在する。市況が上がったのは供給不足のためであり、消費が増加したからではない。リスクは、ペルー産の出荷シーズンが始まって入荷量が増加しても、価格が高止まりすることである。この場合、アボカドは消費者にとって魅力的ではない。それは高価であり、出初めによくある最適な熟度に達していない果実の典型である。一方、魅力的な市況は果実の品質と無関係に一部の輸出業者の関心を引き付ける。これは消費の減速につながる。そしてこの場合、市場が崩壊するリスクがある。

ペルーだけでなく、ケニア、コロンビア、南アフリカからの出荷量の増加に直面して、来シーズンの成功は消費に依存することになる。昨年のペルー産が非常によくなかったことを踏まえ、輸出業者らは今年、販売業者らが夏の間ずっとアボカドの販売促進を行うことに賭けている。しかし、市場が米国とヨーロッパに二極化し、世界の生産量が年々増加する中で、この問題は繰り返される可能性が高い。

イタリア：ハスの供給不足と価格の高騰

北イタリアのある卸売業者によると、11週目から12週目(3月後半)にかけて、アボカドの取引は変化した。この業者は、「ハス品種については状況が悪化した。取扱量がさらに限られ、価格は急騰している。ペルー産の入荷は断続的で、実質的に到着前にすでに完売している。モロッコ産は入荷量が最小限で、イスラエル産は出荷シーズンが終わりに近づいている。スペインもまたラムハス品種の量が限られており、価格が高い。スペイン産の購入価格は最大16.00ユーロである」と語った。

この業者はまた、「グリーンスキンのアボカドに関しては、来週以降、より多くの入荷量が予想され、購入価格がさらに下がる可能性がある。フェルテ品種の現在の価格水準は10.50～11.00ユーロで、先週の方がはるかに高い水準であった。4月中旬からは、ケニア産と南アフリカ産の入荷が見込まれる」と述べた。

スペイン：今シーズンは小玉で高価格

スペインのアボカド出荷シーズンは南部で終わりつつある一方、数量が少ない晩生の産地であるバレンシア州では始まる所であり、今年は重要性が高まっている。今シーズンは出荷量が大幅に減少したため、早めに終了する。限られた供給による産地出荷価格の高さと小玉の多さが今季の特徴である。国内産の供給が少ないため、コロンビア産とイスラエル産が入る余地が増えた。常に国産果実を好む顧客への契約販売を履行するのに十分なだけの国産果実があったが、契約外の市場で販売される余剰の果実はなかった。

スペインはペルー産の最初のアボカドの販売を開始したばかりで、その収穫量は昨年よりも10～15%多いと推定される。過去数か月はスペイン産アボカドの価格がかなり高かったため、需要は鈍化した。このため、輸出業者らは、ペルー産の季節へのスムーズな移行を期待している。これは、イースターに向けて気温が上昇するにつれて、消費が再び回復することを望んでのことである。

ペルーからの出荷は大雨の影響で物流上の問題があったが、これらの問題はすぐに解決されると見られ、港へのアクセス道路が再び使用できるようになると、今年は生産量の増加が見込まれることを念頭に置いて、早生の産地と中生の産地の重複がなくなる。

イスラエル：出荷量は昨年比で最大42%減少

イスラエルの2022-23年度のアボカドシーズンは終了まで約4週間となったが、これまでの出荷量は昨年同時期の10万トン以上と比較して約42%減となる推定7万トンとなっている。ある大手輸出業者は、すべての顧客の需要を満たすのに十分な果実がなかったため、困難な年だと述べた。出荷期間中には時々、サイズも平均より少し小さかった。これは、出荷に至るまでの春の開花期の寒い天候が原因であった。イスラエルの出荷業者と輸出業者は、少なくともドルとユーロに対する通貨安が販売量の減少を補ったことで救われた。

南アフリカ：厳しい季節

ある業者は、国内のアボカド価格は「ひどい」と言い、最近の全国的な閉鎖と祝日が市場の客足を減らしたと述べた。最初のグリーンスキンアボカドは第11週(3月中旬)に輸出され、最初のハスアボカドも同様であった。

現在、ヨハネスブルグ市場には6万箱(4kg/箱)がある。ある業者は荷が多すぎると言う。ハスの場合、15kgの袋詰めの価格は80～100ランド(4～5ユーロ)で、箱入りは60～80ランド(3～4ユーロ)/箱である。南アフリカでは従来からフェルテ品種の価格が高く、15kgの袋詰めが約100ランド(5ユーロ)である。

現在供給が市場の需要を上回っているため、平均価格は普通品で11ランド(0.55ユーロ)/kg、1級品で14.78ランド(0.74ユーロ)に低下した。雨がかなり降ったため、早い時期のハス品種の未熟果の問題があった。果実は通常より成熟するまでに時間がかかるが、今後数週間以内の収穫が期待される。

ある輸出業者は、市場には袋詰めのアボカドが多すぎる、おそらく段ボール箱のコストが原因だと指摘し、「箱代は莫大だが、袋詰めよりも詰め合わせの10kg箱の方が需要がある」という。一方、ある梱包施設の管理者は、「詰め合わせ箱は梱包に費用がかかり、採算がぎりぎりになる」と反論する。

大玉の果実にはプレミアムがあるが、小玉が多く、他の輸出国の場合も同様である。

ある輸出業者は、ペルーの物流問題と洪水による出荷の遅れでヨーロッパ市場での価格は依然として非常に良いようだと言及する。来週中に大量の入荷が予想され、この段階での見通しは良好だと言う業者もいる。

グリーンスキンのアボカドは、ロシア等に出荷されるが、保険会社が戦争以来ロシア向けの出荷をカバーしないため、一部の輸出業者はロシアから遠ざかっている。他の業者は主に東ヨーロッパに出荷している。

ペルーの困難は、シーズン序盤の南アフリカ産により多くの機会を生み出す可能性がある。

中国：消費が旺盛

中国のアボカドの消費が旺盛である。中国では国内市場のアボカド需要の高まりに対応するため、近年、特にメキシコ、ニュージーランド、チリ、ペルーからのアボカドの輸入が増えている。ケニア産とタンザニア産のアボカドはどちらも最近、中国市場へのアクセスを獲得した。中国政府のアフリカ局によると、ケニアは2023年に合計2万トンのアボカドを中国市場に供給する計画である。ケニアがその大仕事を完了することができれば、同国は市場でかなりの地位を占めることになるだろう。今シーズンの最初の荷は3月の初めに到着した。ケニアとタンザニア、そして将来的には南アフリカも、既存の輸出国から中国に向けたアボカド供給の現在の端境期を埋めるのに絶好の立場にある。

中国は国内でアボカドを生産している。アボカドは中国原産ではないが、中国は近年、独自のアボカド産業の育成に取り組んでいる。雲南省や広西チワン族自治区などの一部の中国の州では、アボカドの生産と出荷を積極的に推進している。広東省、四川省、福建省でも取り組みが進行中である。雲南省のあるアボカド生産者は、「現在、国内のアボカド出荷シーズンは10月中旬から3月末までだ。我々は早生品種を開発しており、近い将来公開する。現在、雲南省ではアボカド栽培が増加しており、ますます多くの業者が栽培を始めている。国際的には、アボカド栽培は大量の水を必要とし、環境に悪影響を与えると非難されている。しかし、雲南省は降雨量が豊富で、仮に雨が不足しても、近くの川から水を供給することができる。アボカドの落ち葉(土壌改良剤として使用されることがある)も環境に有益である。したがって、雲南省にアボカドを植えることは環境に良いことだ」と述べた。

北米：十分な供給

北米のアボカドの現在の出回り量は、昨年この時期と比較して十分であり、年末までその状態が続くと予想される。これは、さまざまな輸出国の出荷が重なった結果である。メキシコ、カリフォルニア州、ペルー、コロンビアからは十分な供給が見込まれる。現在、米国市場は出荷最盛期のメキシコ産果実が支配的である。メキシコでは、ハリスコ州が昨年米国市場へのアクセスを許可され、四半期ごとに多くの果樹園が追加で米国市場への出荷認定を取得している。ある出荷業者は、「その結果、ハリスコ州が今年米国に出荷するアボカドは、2022年に比べて25～30%多いものと予想される」と言う。

間もなく、コロンビアとドミニカ共和国からの出荷も米国への供給に加わる。カリフォルニア州の収穫は、最近の雨のため今のところ遅れている。別の生産・出荷業者は、「雨が収まればカリフォルニア州からの出荷量の増加が予想され、4月末までに最大で毎週600～800万ポンド(約2,700～3,600トン)に増加する」と言う。さらに、メキシコ産が十分入手できることも、カリフォルニア州産の入荷の遅れの一因となっている。

コロンビア産アボカドの出荷は5月に再開され、アボカドは暦年の終わりまで毎週北米に出荷される。

総合すると、特に1箱48玉入りまたはそれより大玉では、十分な供給が多くの販売促進機会に繋がるはずである。価格は昨年より約30～40%低くなっているが、カリフォルニア州とメキシコの両方から高品質の果実が入荷する4月から5月には上昇する可能性がある。

メキシコ：輸出は完全に米国市場に集中

メキシコでは現在、国内の総出荷量の90%以上を占めるミチョアカン州をはじめとする主要な産地で、アボカドの出荷の最盛期を迎えている。現時点では、輸出はメキシコのアボカドの最大の出荷先である米国市場に完全に的を絞っており、毎週約2万4千トンが出荷されている。ペルーは数週間前に出荷を開始したが、米国市場での販売量がメキシコの輸出業者と顕著に競合し始めるのは4月になる。ペルーは昨年、欧州市場

が好調ではなかったため、米国市場への出荷量を増やした。このため、今年もペルーの輸出業者は米国向けの出荷を増やすと予想される。米国経済はインフレによって打撃を受けているが、メキシコのある輸出業者によると、アボカドの需要は比較的低い価格が消費を高く保っているため影響を受けていない。需要は、それが非常に高まったスーパーボウルの後ではいくらかの不確実性があったが、これまでのところ良好な水準にとどまっている。

グアテマラ：米国市場へのアクセスは交渉中

グアテマラは今月初め、ヨーロッパと英国での需要と販売が好調であったアボカドの輸出シーズンを終了した。グアテマラのアボカドの輸出は、はるかに近い米国のアボカド市場へのアクセスがまだないため、ヨーロッパと中米諸国に焦点を当てている。ある出荷業者によると、グアテマラ農業省と米国農務省は、グアテマラ産のアボカドが最終的に約1～2年で米国市場に参入するための手順づくりに取り組んでいる。この国のアボカド栽培面積は6千ヘクタール未満であり、その多くは海拔1,200～2,000メートルに植えられている。

コロンビア：アボカド産業は急速に発展

コロンビアは、3月にアボカドの出荷と輸出の主要なシーズンを終えるのに忙しい。同国は通年の輸出国であるが、4月から9月は二次的なシーズンであり、10月から3月のピークと比較して、ハスアボカドの出荷量がやや少ない。コロンビアのアボカド産業は、米国市場へのアクセスを活用して急速に発展している。現在までに、コロンビアの17の産地の300以上の果樹園が米国への出荷を認められている。産地からは大西洋岸と太平洋岸の両方の港に簡単にアクセスでき、米国の東西両海岸へ鮮度の高い果実を迅速に出荷できる。

オーストラリア：インドへの市場アクセスを獲得

オーストラリアのアボカドシーズンは、2月～5月の時期の主要品種であるシェパード品種に移行した。ただし、同品種は出荷量のわずか20%を占めるに過ぎない。最近発表されたホートイノベーション社の園芸統計ハンドブックによると、2022年6月に終了した年度の出荷数量(12万2,197トン)は56%増加したにもかかわらず、出荷額(3億6,380万豪ドル)は26%減少した。輸出量は前年の3,155トンから1万1,611トンに大幅に増加し、輸出額も2,200万豪ドルから5,200万豪ドルに増加した。(1豪ドル=約93円(2022年平均))

オーストラリア産ハスアボカドは2週間前にインド市場へのアクセスも獲得したところだが、最終承認は10回の試験出荷の成功を条件としている。ある業界幹部は、オーストラリアのインド市場へのアクセス獲得は業界にとって「ゲームチェンジャー」であると考えており、「プロトコルの最終承認は、試験出荷の10回の成功に依存することを承知しており、それを達成できると確信している。オーストラリア政府は、オーストラリアのすべてのハスアボカド生産者が利用できる商業的に実行可能で実践可能な手順や手続とするために、懸命に、また業界と緊密に連携して取り組んできた。インドにはオーストラリア産アボカドにとっての大きなチャンスがあり、その市場は大きな成長の可能性があると信じている」と述べた。オーストラリア政府とインドとのハスアボカド市場アクセス合意は、アボカドの輸出を支援する研究への300万豪ドルの投資によって支えられている。

ある輸出業者は、「インドはアボカドの急成長市場であり、アボカドの魅力を知り始めたばかりなので、プレミアム品質のハスアボカドをインドの消費者に提供できることを嬉しく思う。この新しい市場アクセスは、輸出事業を拡大し、インドの消費者との関係を強化する絶好の機会であり、インドの取引先との長期的な関係を構築することを楽しみにしている」と述べた。

一方、ニュージーランドは、2023年4月2日から5日までオークランドで第10回世界アボカド会議を開催する準備をしている。会議には各国の基調講演者らが参加する3日間の学術的会合と現地視察が含まれる。2021-22年度には、合計4,350ヘクタールのアボカド園から5万8377トンのアボカドが出荷され、391万4千箱が輸出された。しかし、ニュージーランドのアボカド生産者にとっては順風満帆ではなく、1月には北島で洪水が発生し、その後サイクロンガブリエルはアボカドなどの園芸作物数百ヘクタールに被害をもたらし、果樹や園地は甚大な被害を受けた。

243. 中国 重慶からシンガポール向けネーブルオレンジを初空輸

iChongqing(重慶国際コミュニケーションセンター) 2023年3月25日

重慶 - 10トンの奉節^{フンジエ}ネーブルオレンジを積んだキャセイパシフィック航空のボーイング747型貨物機が3月22日、重慶江北国際空港からシンガポールに向けて飛び立った。奉節県産のネーブルオレンジが空輸されるのはこれが初めてである。

重慶の奉節県は、ネーブルオレンジの世界トップ8の特別産地の1つでもあり、中国の高品質ネーブルオレンジの中核的産地の1つである。

中国に於ける2千3百年以上の柑橘栽培の歴史を経て、奉節ネーブルオレンジは年間8か月間実を付けることができる。

2023年に5千トンの奉節ネーブルオレンジを輸出

JDテクノロジー(JDT)社と重慶空港グループ会社(重慶機場集団有限公司)が共同で立ち上げた奉節ネーブルオレンジの空輸プロジェクトは、世界最大の自由貿易地域であるRCEP諸国における地域特産品の自由な流通を促進することを目的としている。

奉節県のチャン・シファ副県長によると、昨年は1千トン以上の「中国三峡柑橘」(奉節ネーブルオレンジ)がシンガポール、ベトナムなどに輸出され、今年は5千トンの出荷が見込まれている。

初年度には、100トンのネーブルオレンジが重慶^{ウーシャン}巫山空港(奉節県)から空輸され、途中、重慶江北国際空港で積み替えられてシンガポールに向かう。

重慶空港グループの担当責任者は「重慶巫山空港と重慶江北国際空港の強力な連携により、奉節ネーブルオレンジは24時間以内にシンガポールや他のRCEP諸国に輸送できる。貨物輸送の適時性を向上させるだけでなく、ネーブルオレンジの品質も保証できる」と述べた。

奉節ネーブルオレンジの効率的な輸送を確保するため、重慶空港グループは「グリーンチャネル」を開発し、個別事案に合わせた計画の策定、専門の人員の派遣、空港内の特別区域の設定を行った。

マルチチャネルによる輸出の促進

奉節県はまた、三峡ダム地域で最大のネーブルオレンジ取引所である中国三峡柑橘(奉節ネーブルオレンジ)取引センターを設立した。

同取引センターは、販路のない農家からネーブルオレンジを買い取り、eコマース企業、スーパーマーケット、ファーマーズマーケットに販売することができる。

取引センターはまた、果実を輸出する企業が海外市場で県産のネーブルオレンジの販路を拡大するため、奉節県に拠点を設けるよう継続的な誘致を行うことができる。

政府の優遇措置、ライブストリーミングによる販売促進、及びeコマースによるマルチチャネル販売に支えられ、奉節県は世界での農産物販売の新しい機会を模索することができる。

執筆者: ユーティン・チェン

244. 南アフリカ ブドウの出荷が終わりに近づく

ASIAFRUIT 2023年3月27日

南アフリカ産ブドウの季節は終わりに近づいている。今年の出荷シーズンは2段式の市況となった。ドールフランス社のティモテ・ルヴェスク氏は、「最初に出荷を開始した北部地域とオレンジリバー地域は大幅な品不足であった。出荷シーズンの開始時の輸出量は例年の同時期よりも明らかに少なかった(約30%減)。これにより、出荷期間の最初の部分でフランスが南アフリカの優先的な出荷先でないにしても、特に種なし白ブドウについて、比較的高い価格での非常に引き締まった市場となった」と説明する。(以下「」は同氏の発言)

後半が前半を補った その後、ヘックスリバー地域が出荷を開始した時点ですべてが変わった。「十分な量と良好なサイズ、そして素晴らしい市況が、供給が限られた状況に取って代わった。たとえば、今年のピンク系の品種はかなり大玉で、フランス市場で非常に高く評価されている。全般的に、品質は素晴らしく、出荷開始時の供給不足により、後半の消費水準が向上した。品不足は結局、出荷期間全体を通してかなり好調な販売と記録的に高い価格を生み出した。」出荷シーズンの後半は、したがって遅いスタートを大幅に補った。

絶妙な産地の組み合わせ 今年はさまざまな産地がうまく組み合わせられており、特にシーズンの初めの南アフリカ産の品不足を補うことができた。「ペルー産はクリスマス直前に入荷した。レッドグローブと白ブドウ品種が長い間市場に出回り、それは南アフリカ産の当初の品不足を補った。ペルー産の供給期間は、ヘックスリバー地域の出荷開始とも重なった。」そして今、およそ10日後には南アフリカ産からチリ産に引き継がれる。

確認された傾向 2022/23年度シーズンには2つの傾向が確認された。「白ブドウ品種のオータムクリスピーがペルー産と南アフリカ産の両方を牽引し始めていることがよくわかる。それは今や主要品種であり、白ブドウの輸入量の中で重要な位置を占めている。また、世界の大部分の産地で栽培されているという利点もあり、年間を通じて入手できる。」第2に、古い種有り黒ブドウ品種が事実上姿を消した。「この傾向はすでに始まっていたが、今年は南アフリカの出荷シーズン全体を通して種有り黒ブドウがほとんどなかった。」

245. インド ブドウの欧州向け出荷量が予想を下回る

FreshPlaza 2023年3月27日

今シーズン最初のインド産白ブドウが、2月9日にオランダのルバフレッシュ(LuBaFresh)社に到着した。同社は現在、契約分以外にも取引を行える十分な量を確保している。同社のルシアン・ダ・ヴィット氏は、「市場は良好である。価格は少し高いかもしれないが、少なくとも売れている。弊社が入手したブドウは品質が良い。インドでは、特に出荷シーズンの初めにはブドウが厳しく管理され、ブリックスが14未満のブドウは出荷されない。しかし、一部の産地でのここ数週間の雨のため、現在供給が少なくなっている。出荷量は今年の予想や前年の実績と比べて20%少ない」と言う。(以下「」は同氏の発言)

「インド産ブドウの見通しは概ね素晴らしい。昨年はロシア向けのブドウがヨーロッパに送られたため、3月から4月上旬にかけて大量に入荷した。市場は混雑し、販売は遅延した。現在は入ってくるコンテナはすぐに売れ、市場にはほとんど在庫がない。代替品もほとんどない。南アフリカ産は今年、雨の多い天候のために多くの問題を抱えている。チリ産も品質の問題で苦労しており、ヨーロッパ向けのブドウは20~25%少なくなっている。結局、良質で手頃な価格の種なし白ブドウを手に入れるとなると、インド産に行き着くことになる。」

「品質にもよるが、パック入りのブドウは現在1.10~1.20ユーロ、4.5kgの紙袋入りは8.50~9.50ユーロで販売されている。出荷数が少ないことを考えると、価格はすぐにいくらか上昇すると思う。弊社は昨年は5月17日に最後のコンテナを受け取った。今年はおそらくもっと早くなり、3~4週間も早く出荷を終えるだろう。」

ホワイトトンプソン品種のブドウが同社のインド産ブドウの品揃えのほとんどを占めている。「インド産のブドウは4.5kgの紙袋で提供されている。ほとんどの輸出業者は、プラスチック製の容器を紙に替えた。弊社に関する限り、これは良いことだ。見た目が良くなり、売り上げの増加につながる。」

246. 南半球のリンゴと洋ナシの収穫予測は悪天候を受けて下方修正

世界リンゴ・ナシ協会(WAPA) 2023年3月28日

世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)は、南半球のいくつかの国が激しい天候の影響を受けたことから、南半球のリンゴと洋ナシの出荷量について改訂予測を発表した。元々の予測は、ベルリンで開催されたフルーツロジスティカ(今年2月の展示会)の際に開かれた同協会の直近の年次総会で発表したものであった。

アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、チリ、ニュージーランド及び南アフリカのデータを統合した改訂予測によると、リンゴの出荷量は前年比2.38%増の497万4,990トンに達すると予想され、洋ナシの出荷量は同1.25%減の131万9,601トンと予想される。

ベルリンのフルーツロジスティカの際に開催された直近の年次総会で、世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)は、来シーズンの南半球のリンゴと洋ナシの収穫予測を発表した。この年次報告書は、チリ果実輸出業者協会(ASOEX)、アルゼンチン果樹園芸産業協会(CAFI)、ブラジル・リンゴポストハーベスト協会(ABPM)、南アフリカ果樹農業協会(Hortgro)、オーストラリア・リンゴ・ナシ協会(APAL)及びニュージーランド・リンゴ・ナシ協会の支援を受けて編集されており、南半球のこれら主要6か国のデータを統合して提供している。

2023年シーズンの当初の予測では、南半球産のリンゴと洋ナシが2022年と比較してそれぞれ6%及び1%増加すると推定されていたが、南半球のいくつかの国が激しい天候の影響を受けたことを考慮して修正された。ニュージーランドと南アフリカのリンゴ出荷量予測は、当初予測よりそれぞれ77,902トン及び77,276トン下方修正された。ニュージーランドの洋ナシの出荷量予測も当初の予測からわずかながら323トン引き下げられ、南アフリカも28,726トン引き下げられた。

リンゴに関しては、改訂された南半球の2023年の収穫予測は、昨年(485万9,026トン)と比較して2%増の合計497万4,990トンとなることが示されている。ニュージーランド(45万7,675トン、前年比9%減)、オーストラリア(29万トン、8%減)、南アフリカ(114万2,880トン、5%減)では、リンゴの出荷量が減ると予想される。チリ(140万9,633トン、前年同)は依然として最大の生産国であり、現在ブラジル(115万トン、12%増)がそれに続いている。アルゼンチンのリンゴ出荷量は52万5千トン(24%増)に達すると見られる。

リンゴの輸出量は合計155万6,668トンに減少(前年比3%減)すると予測される。チリが依然として最大の輸出国(60万4千トン)であり、南アフリカ(50万9,158トン)がそれに続くが、後者の輸出量は前年比10%減の予測となっている。ニュージーランド(28万6,823トン)とオーストラリア(2,687トン)からの輸出も、それぞれ15%及び1%減少すると予想される。一方、ブラジル(7万トン)とアルゼンチン(8万4千トン)の輸出量は、輸出量が少なかった2022年から回復すると予想される。

出荷量184万3,130トンのガラ品種は、依然として群を抜いて最も人気のある品種であり、その出荷量は前年比4%増と予測される。

洋ナシに関しては、南半球の生産者らは131万9,601トンと出荷量の微減(-1%)を予想している。アルゼンチンとチリはそれぞれ4%及び2%出荷量を増やすと予想されるが、南アフリカ(6%減)、オーストラリア(16%減)、ニュージーランド(19%減)はすべて出荷量が減少すると予想される。

アルゼンチン(59万2千トン)は南半球で最大の洋ナシ生産国であり、南アフリカ(47万7,419トン)、チリ(17万トン)、オーストラリア(72,016トン)、ニュージーランド(8,120トン)がそれに続く。

品種では、パッカムズ トライアンフ(Packham's Triumph)品種(48万1,049トン、前年同)が依然として最も多く出荷され、ウィリアムズ ボン クレティン(Williams' bon chrétien(別名 Bartlett))品種(33万2,447トン)がそれに続く。輸出量は、アルゼンチンが12%増加し、南アフリカが13%減少することから、合計では横ばい(67万54トン)と予想される。

247. ペルー アジア向け生食用ブドウ輸出が減少

FreshPlaza 2023年3月28日

3月12日時点で中国市場、韓国市場への出荷はそれぞれ30%及び40%減少

ペルーの生食用ブドウ生産出荷業者協会(Provid)の事務局長であるアレハンドロ・カブレラ氏は、ペルーは3月12日までに6,890万箱(8.2kg/箱)の生食用ブドウを輸出したと述べた。これは前のシーズンに比べて13%の増加を予測した2022/23年度シーズンの2回目の予測から逸脱している。

同氏は、出荷シーズンが4月中旬頃に終了することを示唆しつつ、「現在、8.5%増の約7,000万~7,050万箱を輸出すると予想している。この推計は、現在の我々の取組みに基づいている。北部は収穫期の終盤にあり、南部からも一部の品種が出荷されている」と述べた。

出荷については、運送業者による11月の4日間のストライキによりピウラ県で特に影響を受け、12月と1月のデモと道路封鎖によりイカ県で大きな影響を受けた。

同氏は「さらに、出荷シーズンの初めに北部で寒かったため、出荷量の増加が少し遅れた。輸出用の生食用ブドウの収穫に影響を与えた出来事がいくつかあった」と言い、また最終的な輸出量の数値は出荷シーズンが終了した後で判明すると述べた。

アジアへの出荷が影響を受けた

カブレラ氏は、アジア諸国への出荷が最も影響を受けたと強調し、「アジア向け果実の輸送には時間がかかり、到着するのに30~31日かかる。イカ県の生産者は12日間にわたり、収穫することも、果実を梱包施設に送ることも、コンテナを港へ移動することもできず、これは果実の成熟度に影響を与えた。その結果、多くの出荷業者は、中南米または北米といったより近い国に輸出することを選択した」と述べた。

3月12日の時点で、中国向けと韓国向けの出荷はそれぞれ30%及び40%減少した。カブレラ氏は、アジア諸国が最高の収益を提供するため、このことは価格にも影響を及ぼしたと付け加えた。

日本市場への参入により出荷が多様化

3月22日、日本市場がペルーの生食用ブドウ輸出業者に開かれた。ただし、ペルーが日本向けに出荷を開始するのは2023/24年度の出荷シーズンになる可能性が非常に高い。

カブレラ氏は、「日本市場への参入により、ペルーからの出荷先は、米国、オランダ、中国など、輸出が集中している市場から一層多様化できる。それは収益性と価格の改善を可能にするだろう」と付け加えた。

出典: gestion.pe

248. ニューゼaland 国際市場に向かう今シーズンのリンゴ

FreshPlaza 2023年3月28日

ニューゼalandは今シーズンのリンゴの収穫期であり、T&Gグローバル(T&G Global)社のリンゴ品種の最初の荷がベトナム、香港、マレーシア、台湾、インドネシア、タイの消費者と取引先に輸出されている。

早生品種であるポップ(Poppi)™とロイヤルガラ(Royal Gala)に始まり、パシフィッククイーン(Pacific Queen)及びT&G社が権利を有するプレミアムブランドのJAZZ™、エンヴィー(Envy)™が続き、同社の果樹園チームと契約生産者らは、ホークスベイ、ギズボーン、ネルソン、セントラルオタゴの各地域のリンゴの収穫に忙しい。

T&G社の事業部長であるクレイグ・ベティ氏は、2月にサイクロンガブリエルが北島の一部に大きな影響を与えたにもかかわらず、樹上には多くの果実があると言う。同氏は「ホークスベイとギズボーンの一部の果樹園は影響を受けたが、それらの地域にも無傷の果樹園がある。すでに収穫してアジアの取引先に出荷した果実は大変良いようだ。3月から4月に収穫される残りの果実については、弊社のプレミアムブランドのリンゴが今後数週間で良好に色付き適度なサイズに育つのが楽しみだ」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

「サイクロンは南島を完全に迂回し、暑い夏の後、JAZZとEnvyのブランドリンゴが良好に成熟し、着色している。世界中のリンゴ好きが今シーズンの新しい収穫物を楽しみにしており、例年どおり、我々は最高のリンゴを作るために園芸の深い専門知識を適用し、丁寧な園地管理と収穫後管理を実施している。素晴らしい色付き、酸味または甘味、満足のいく食感、あるいは小さなスナック用や大きなギフト用のリンゴなど、人々が何を求めているにせよ、弊社のプレミアムブランドの品揃えの中から誰にでも何かを提供できる。」

「弊社はまもなく、ホークスベイに新しい最先端の自動化された梱包施設を立ち上げる。この南半球で最大級の梱包施設により、弊社は今シーズンも将来的にも、地域の収穫物から最高の品質を引き出し、国内と世界60以上の市場の消費者に、素晴らしい味わいの弊社のプレミアムリンゴを楽しんでもらうことができる。」

249. トルコ サクランボの収穫は少し早く始まる予想

FreshPlaza 2023年3月29日

トルコの輸出業者アークスーン社の販売部長であるアキン・ソイレン氏は、「ここ数年間、天候が常に変化しており、果実の出荷期間も変動している。今年も、過去数年間に比べて最も降水量が少ないので例外ではない。こうした気象条件のため、早生品種の収穫期が少し早くなるのが予想される。収穫が早まることにより、価格は通常より高い水準で始まると予想される。また、今シーズンは雨不足のため、果実のサイズが通常よりも小さくなるのが予想される」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

「サクランボに関するこのほかの新しい状況としては、トルコでは新しい品種のサクランボの栽培が増えており、収穫期間が長くなっている。これにより、出荷業者や輸出業者は果実を販売する期間が長くなる。その他の核果類の果実については、約1週間後に温室栽培の果実の出荷を開始する予定である。現在の天候は良好である。アンズのトリンティーナ(Trintina)品種とニンファ(Ninfa)品種から始まり、ドーナツピーチ(蟠桃)が続く。6月には、待望のシュガーアプリコット(アンズ)の出荷を開始する。」

「サクランボについては、今年は通常通りの作柄を予想している。しかし、果実のサイズが通常よりも小さくなるため、総重量の点では減少につながる。果実のサイズが小さいことに関連した一部の課題に対処できれば、全体として今シーズンの期待は高い。ただし、EU市場ではスペイン、極東市場ではカリフォルニア州などの競合相手の状況にもよる。それらの国の今シーズンの期待値を見ることが重要である。特に今年は壊滅的な嵐がカリフォルニア州を襲ったため、今シーズンの我々の期待値を決定するためには、カリフォルニア州の作柄がどのようになるかを見極める必要がある。」

ソイレン氏は、品質を犠牲にして出荷量の増加を追求するべきではないと考えている。「EUとアジアの常連の顧客向けの出荷計画に重点を置く予定である。我々の目標は、可能な限り多くの量を市場に供給することではなく、慎重に行動し、既存の顧客の期待を最大限に満たすことである。長年にわたる試行錯誤の結果、サクランボ市場における駆動要因は、我々が取り扱っている他の品目とは非常に異なることを理解した。そのため、顧客との約束をすべて履行するには一層の注力する必要がある。」(一部の重複した記述を省略しました。)

250. 米国 カリフォルニア州のサクランボ収穫の開始に遅れ

FreshPlaza 2023年3月29日

カリフォルニア州では毎年状況が異なる。同州では、昨冬までの3年間、記録上最も雨が少ない冬が続いた。この冬は雨が多かったが、それに加えてここ数週間、集中的な豪雨と降雪があった。今週、さらに多くの降雨を伴う別の嵐がカリフォルニア州を襲っている。

ミーナ (Meena) 農場のクリス・メデイロス氏は、「サクランボと雨は相性が悪いが、これまでの降雨は時期が十分に早いので多少の安心感をもたらしてくれた。これだけの降雨量は当農場の土壌が生き返るのに役立ち、それは当農場の果樹園にとって素晴らしいことであった」と述べた。(以下「」はメデイロス氏の発言)

さらに、貯水池と地下ダムのネットワーク等から成るカリフォルニア州の貯水計画は、将来に使用できる貯蔵量を積み上げることができた。

しかし、平均以上の降雨量と平年より涼しい天候がサクランボの収穫時期に影響を与えると予想される。ミーナ農場は昨年、4月15日にサクランボの収穫を開始した。今年はどうなるか? 「それが大きな問題だ。昨年ほど早くないことはわかっているが、今後2週間の天候がタイミングを決定する上で非常に重要だ。」

収穫開始日が遅いことに加えて、同氏は受粉も影響を受ける可能性があることを懸念している。「この涼しい時期にミツバチがうまく働いてくれているのかわからない。受粉が影響を受けた場合、収穫量が減少する可能性がある。」前向きな点としては、サクランボは雨による損傷を受けていないようである。同氏は、早い時期の園地を見て楽観的に感じているが、状況は今後数週間で進展する。

「評価するのが難しい年だ。このような冬は記憶にない。今年は常に寒くて湿っている。」通常、同農場では早生品種から中生品種への移行は円滑に行われるが、今年は早生と中生の間に短い期間の品切れがあると予想している。

海外の顧客

現在、ミーナ農場はサクランボの輸出市場に力を注いでいる。昨年は、運賃高騰とドル高のため、輸出にとっては困難な年であった。「為替レートのために、弊社のサクランボは海外のバイヤーにとっては価格が上がってしまった。」さらに、中国などの一部の市場では、コロナ関連の制限がまだ実施されており、需要を弱めた。より有利な為替とコロナ関連の制限の緩和を期待して、同氏はより多くの輸出バイヤーが市場に現れることを望んでいる。一般論としては、東南アジア、韓国、日本がカリフォルニア州産サクランボの主要な顧客である。

251. 南アフリカ 降雹がリンゴと洋ナシに打撃

FreshFruitProtal 2023年3月30日

南アフリカのリンゴと洋ナシの出荷シーズンは数週間前に始まったが、業界関係者にとっては多くの課題を抱えたシーズンとなるであろう。全体として見ると、南アフリカの仁果類(リンゴ、ナシ等)の生産は安定していると考えられており、多収性品種への改植によって、わずかながらも一定の成長が見られるが、2023年はそうではない可能性がある。

11月下旬から12月上旬に発生した降雹を伴う嵐により、リンゴと洋ナシ両方の2023年シーズンの輸出量が減るものと予想される。リンゴの輸出量は当初、5%減の4,310万箱、洋ナシの輸出量は6%減の1,980万箱と予測されていた。次の表に、リンゴと洋ナシの輸出予測を示す。

リンゴ輸出実績と推計値

品種名	2021	2022	2年平均	2023 推計	2022 検査実績対 2023 推計値	
GOLDEN DELICIOUS	9,396,259	9,431,367	9,413,813	8,706,262	-725,105	-8%
ROYAL GALA/GALA	10,413,390	10,262,231	10,337,811	9,509,565	-752,667	-7%
GRANNY SMITH	5,416,247	4,834,596	5,125,421	4,647,513	-187,083	-4%
FUJI	4,803,744	4,500,234	4,651,989	4,283,052	-217,182	-5%
PINK LADY®	3,883,652	4,580,273	4,231,962	4,609,224	28,951	1%
CRIPPS PINK	2,452,576	1,899,006	2,175,791	1,882,641	-16,365	-1%
TOPRED/STARKING	2,497,539	2,495,328	2,496,433	2,201,048	-294,280	-12%
BRAEBURN	1,389,873	1,407,170	1,398,522	1,264,247	-142,924	-10%
CRIPPS RED	2,903,379	3,495,929	3,199,654	3,667,744	171,815	5%
JOYA®	296,574	555,655	426,114	572,423	16,768	3%
BIGBUCKS	371,078	819,705	595,391	900,714	81,009	10%
KANZI	474,013	477,329	475,671	446,312	-31,017	-6%
OTHER	441,429	499,313	470,371	502,792	3,479	1%
合計	44,739,753	45,258,135	44,998,944	43,193,535	-2,064,600	-5%

洋ナシ輸出実績と推計値

品種名	2021	2022	2年平均	2023 推計	2022 検査実績対 2023 推計値	
PACKHAMS TRIUMPH	8,021,709	8,038,318	8,030,014	8,009,438	-28,880	0%
FORELLE	3,374,945	4,281,859	3,828,402	4,006,314	-275,545	-6%
WILLIAMS BON CHRETIEN	1,677,838	2,172,981	1,925,410	1,587,745	-585,236	-27%
VERMONT BEAUTY	1,738,614	2,231,929	1,985,272	2,021,759	-210,170	-9%
ABATE FETEL	1,168,716	1,723,031	1,445,874	1,596,968	-126,062	-7%
CHEEKY	538,464	737,078	637,771	770,790	33,711	5%
SEMPRE	491,999	518,927	505,463	507,992	-10,934	-2%
ROSEMARIE	499,227	592,127	545,677	482,973	-109,155	-18%
CELINA	148,886	248,769	198,827	280,075	31,306	13%
DOYENNE DU COMICE	83,977	66,350	75,164	59,709	-6,641	-10%
GOLDEN RUSSET BOSCH	154,886	132,521	143,704	121,533	-10,988	-8%
FLAMINGO	130,999	119,439	125,219	109,667	-9,771	-8%
BEURRE BOSCH	104,343	80,238	92,290	74,047	-6,191	-8%
BON ROUGE	79,124	71,888	75,506	68,659	-3,228	-4%
OTHER	148,529	181,352	164,940	167,254	-14,098	-8%
合計	18,362,256	21,196,807	19,779,531	19,864,923	-1,331,884	-6%

雹を伴う嵐の影響を最も受けたのは、セレス地域(西ケープ州)とラングクローフ地域(東ケープ州)であった。残念ながら、ラングクローフ地域はここ数週間にも雹を伴う嵐を複数回経験しており、その結果、これらの数値はさらに低下する。

南アフリカ果樹農業協会(Hortgro)は、「ラングクローフ地域での最近の雹を伴う嵐は、約1,500ヘクタールのリンゴと洋ナシの果樹園に影響を及ぼし、いくつかの農場でインフラを破壊した。輸出量の損失は合計120万箱のオーダーである。これは、ラングクローフ地域の通常の輸出量の20~25%に相当する」としている。

仁果類の収穫量の最新の報告では、昨シーズンと比較してリンゴが8%、洋ナシが13%減少すると見られ、これは業界にとって大きな打撃である。

輸出市場

欧州市場は堅調に推移しており、需要が高いため、供給不足になる可能性さえある。

しかし、アフリカ市場はさまざまな課題に直面している。ナイジェリアの通貨は変動しており、西アフリカ諸国ではドル不足に陥っている。インフレもアフリカ諸国の主要な懸念事項であり、ガーナでは54.1%の驚くべき率となっている。

しかしながら、アフリカ諸国は依然として南アフリカ産リンゴの重要な輸入国である。アフリカ諸国では、南アフリカで最も出荷量の多いリンゴ品種の1つであるゴールドデンデリシャスが特に人気がある。

コストの上昇

Hortgroの執行役員であるアントン・ラーベ氏は、南半球諸国からの輸出量が全般的に減少することで、今年の後半に国際市場向けのリンゴと洋ナシが不足する可能性が高いと指摘している。

同氏は、「投入コストの上昇と構造調整のため、果実の価格は上昇しなければならない。梱包資材費はさらに20%増加すると予想され、最低賃金は10%弱上昇した。肥料と農薬のコストは依然として非常に高い水準にある。電力負荷制限(計画停電)と国内の港での物流の問題もあり、生産出荷業者は投入/生産コストのさらなる増加を吸収することはできない」と述べた。

南アフリカの仁果類の当初見通しでは、計画停電が作物の生存に大きな影響を与えていることが指摘されている。

電力負荷制限の問題を概観すると、南アフリカでは2018年には5日間の計画停電しか経験しなかったが、2022年には51日に増加した。2023年には、計画停電が発生しなかった日は考えられず、ほとんどの日に4~6時間停電した。

この問題に加えて、ケープタウン港の強風のために同国では大幅な遅れに見舞われた。1月から2月にかけて、15日以上積み込みができなかった。これらの困難は、次のシーズンをも非常に難しくする。

収益に直接影響を与える多くの難しい決定がなされた。これらの決定の影響は、生産者から政府まで、そしてもちろん消費者も含めて誰もが感じることになるだろう。

252. 米国カリフォルニア州 ブドウ輸出プロモーションは小売重視

ASIAFRUIT 2023年3月30日

カリフォルニア州生食用ブドウ委員会は2023年の輸出販促活動の計画を発表した。今期の輸出販売促進で、小売が目立った扱いを受けるようだ。

販促活動は16のターゲット市場に焦点を当てる。これらの市場は、2022年度(6月～12月)のこの業界の輸出量の94.4%を占めた。エルサルバドル、香港、インドネシア、メキシコ、ニュージーランド、ベトナムへの2022年の輸出は、2021年と比較して量と金額の両方で増加した。

カリフォルニア州生食用ブドウ委員会のキャスリーン・ネイブ委員長は、「労働力と海運の問題、さらにインフレとドル高にもかかわらず、カリフォルニア州産の生食用ブドウは昨シーズンも輸出市場で成功を収めた。委員会はその成功を2023年に活かし、ターゲット輸出市場におけるカリフォルニア州産生食用ブドウの市場シェアを拡大する計画である」と述べた。

ネイブ氏は、小売業者向けの様々な優遇措置等による小売の活性化が、2023年の販促活動の基盤を成すと言う。オンライン小売販売の促進がすべてのターゲット輸出先国で計画されている一方、卸売段階の販促は一部の国で小規模な小売店を取り込む手段として計画されている。買い物アプリとソーシャルメディア上の広告はすべての国で計画されており、一部の国ではインフルエンサーを起用する。

ネイブ氏は「世界市場への輸出にはこれからもまだ課題があるかもしれないが、輸出市場における2023年の販促活動は、世界中でカリフォルニア州産生食用ブドウの需要を喚起するものだ」と述べた。

253. 米国ワシントン州 リンゴ輸出減少で戦略委員会を設置

Good Fruit Grower 2023年3月30日

輸出の減少に直面して、ワシントン州リンゴ委員会は将来に向けた計画策定を新しい委員会に課す

ワシントン州果実産業の輸出の減少

2022年のリンゴ収穫量の減少と輸出に関わる無数の課題 - 関税から複雑な世界規模の輸送まで - により、ワシントン州のリンゴ輸出は20年間で最低の水準となった。

このため、輸出市場で州産リンゴを宣伝する任務を負う業界団体であるワシントン州リンゴ委員会は、今後数年間の活動を計画するに際して一定の不確実性に直面している。同委員会の理事会は今週ウェナチャー市で会合し、将来の輸出に関する戦略とビジョンの策定に焦点を当てるとともに、そのビジョンをサポートするためにより多くの資金が必要かどうかを判断するための小委員会を設置することを決定した。

ステミルトグローブズの社長であり、新しい小委員会の委員の1人となるウェスト・マティソン氏は「業界として、我々は輸出を続けていく。現在我々の輸出は少ないが、状況は変わるだろう」と述べた。

ゲッバーズ果樹農園の社長であるキャス・ゲッバーズ氏は、作柄が通常に戻れば委員会の販促実施能力が高まるとしつつ、組織が将来に適応するために小委員会を設置するという考えを支持した。同氏は、「この仕事にはもう少し予算を使っても良いと思う」と言い、同委員会が連邦事業から受け取る販促のための資金に言及し、「委員会の資金を連邦の資金と合わせることで良い成果が得られる」と述べた。

2022-23年度の予算では、委員会は米国農務省の市場アクセス事業から560万ドルの資金(これには生産者(委員会)の自己負担が200万ドル必要である)と農業貿易促進事業の130万ドルの資金を受け取り、これらで委員会の1,070万ドルの運営予算の過半を占めている。残りの運営資金は、1箱当たり3.5セントに設定されている生産者の負担金によって手当てされており、これは2022年に収穫された1億箱の果実に関して約350万ドルと推定される。

執筆者: ケイト・プレングマン

海外果樹農業情報 刊行物一覧

No.	調査報告書名	発行年月
101	中国におけるポンカンの生産・流通実態調査報告書ー福建省及び浙江省を中心としてー	09. 11
102	米国におけるリンゴの加工品等実態調査報告書	10. 2
103	ロシアにおける日本産果実の販売可能性及び同国の果樹農業・政策基礎調査報告書	10. 7
104	米国連邦行政組織による果実消費拡大に向けた取組みに係る調査報告書	10. 8
105	台湾における日本産果実の流通・消費実態調査報告書	10. 8
106	グローバル化下での米国の果汁産業及び新たな生産流通システム実態調査報告書	10. 8
107	インドにおける日本産果実の販売可能性及びインド産ブドウの対日輸出可能性調査報告書	10. 10
108	カナダの果樹農業・政策実態調査報告書	11. 3
109	米国カリフォルニア州におけるオウトウの生産・流通事情調査報告書	11. 6
110	台湾における果実の生産・流通・消費等実態調査報告書	11. 6
111	中東における日本産果実の販売可能性調査	11. 8
112	ブラジルにおけるオレンジ及びオレンジ果汁を中心とした生産・流通事情調査報告書	11. 9
113	中国の主要都市における日本産果実の販売可能性及び中国のオウトウ産地調査報告書	11. 10
114	世界の主要果実の生産・貿易概況 2012 年版	12. 3
115	台湾における日本産果実の流通状況等実態調査報告書	12. 6
116	中国におけるブドウの生産・流通・消費調査報告書	12. 10
117	韓国の対米国 FTA 締結による韓国果樹産業への影響等調査報告書	12. 11
118	台湾における東日本大震災後の日本産果実等流通状況実態調査報告書	13. 3
119	中国におけるモモの生産・流通・消費調査報告書	13. 3
120	世界の主要果実の生産概況 2013 年版	13. 10
121	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入に関連する規制等に係る調査報告書	14. 3
122	世界の主要果実の貿易概況 2013 年版	14. 3
123	世界の主要果実の生産概況 2014 年版	14. 10
124	世界の主要果実の生産概況 2015 年版	15. 3
125	台湾における日本産果実の流通及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	15. 3
126	ニュージーランドの果樹農業及び香港の日本食品・果実事情調査報告書	15. 8
127	海外の果樹産業ニュース 2015 年度版	16. 3
128	台湾における日本産食品の輸入規制強化にともなう日本産果実の流通への影響に係る調査報告書	16. 3
129	海外の果樹産業ニュース 2016 年度上期版	16. 10
130	世界の主要果実の生産概況 2016 年版	17. 2
131	海外の果樹産業ニュース 2016 年度下期版	17. 3
132	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	17. 3
133	海外の果樹産業ニュース 2017 年度上期版	17. 9
134	世界の主要果実の生産概況 2017 年版	18. 2
135	世界の果樹産業ニュース 2017 年度下期版	18. 3
136	台湾における日本産果実の流通・消費の状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	18. 3
137	海外の果樹産業ニュース 2018 年度上期版	18. 10
138	世界の主要果実の生産概況 2018 年版	19. 2
139	海外の果樹産業ニュース 2018 年度下期版	19. 3
140	米国ワシントン州のりんご生産の現状と省力・機械化技術に関する調査報告書	19. 3
141	海外の果樹産業ニュース 2019 年度上期版	19. 10
142	欧州及びイタリアの果樹農業の現状とスマート農業に関する調査報告書	20. 3
143	海外の果樹産業ニュース 2019 年度下期版	20. 3
144	世界の主要果実の生産概況 2019 年版	20. 3
145	海外の果樹産業ニュース 2020 年度上期版	20. 9
146	世界の主要果実の生産概況 2020 年版	21. 3
147	海外の果樹産業ニュース 2020 年度下期版	21. 3
148	世界の醸造用ぶどう栽培の動向 気候変動対応と持続可能性の取組	21. 3
149	世界の主要果実の貿易概況 2021 年版	21. 5
150	海外の果樹産業ニュース 2021 年度上期版	21. 9
151	世界の主要果実の生産概況 2021 年版	22. 3
152	海外の果樹産業ニュース 2021 年度下期版	22. 3
153	世界の生食用ぶどう産業 品種動向と栽培流通技術	22. 3
154	世界の主要果実の貿易概況 2022 年版	22. 5
155	海外の果樹産業ニュース 2022 年度上期版	22. 9
156	海外の果樹産業ニュース 2022 年度下期版	23. 3
157	世界のもも産業 生産・消費動向と栽培流通技術	23. 3
158	世界の主要果実の生産・貿易概況 2022 年版	23. 3
159	日本の果実の貿易概況 2022 年版	23. 3

